

秋 田 市

秋田新都市開発整備事業関係  
埋蔵文化財発掘調査報告書

地方遺跡

台B遺跡

1987.3 秋田市教育委員会

## 序

秋田新都市開発整備事業に係る御所野丘陵部の埋蔵文化財につきましては昭和56年度から対処し、すでに22ヶ所の遺跡の調査を終了し、本年度は2ヶ所の遺跡の発掘調査を実施いたしました。

今回の調査におきましては、地方遺跡より縄文時代晩期の土塙墓が560基も検出され、墓の中からは勾玉、小玉、腕輪などの服飾品が多数出土し、当時の葬制を解明する上で重要な資料と思われます。

調査の実施にあたっては、県・関係機関の指導をはじめ、地元関係者等多くの方々の積極的なご協力をいただき深く感謝申し上げる次第です。

本報告書が文化財保護のため、さらには研究資料として広く活用されれば幸甚に存じます。

昭和62年3月

秋田市教育委員会

教育長 高 泉 宏 作

## 例　　言

1. 本報告書は秋田市上北手猿田字堤ノ沢（地方遺跡）、上北手猿田字寺ノ沢（台B遺跡）に所在する各遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書は調査員及び調査補佐員の協力を得て石野岡誠一が編集したものである。
3. 本報告書の執筆は地方遺跡—石野岡誠一、西谷隆、台B遺跡—石野岡誠一、西谷隆が担当し、菅原が補筆した。前記以外は菅原が担当した。
4. 発掘調査、整理作業の過程で下記の各氏より指導、助言を賜わった。

小林 達雄（國學院大學）、林 謙作（北海道大学）、宮権 泰時（秋田県文化課）、高橋龍三郎（早稲田大学）

5. 各遺跡の平面図、土壟断面図中のPは土器（片）、Sは石（礫）を示し、石器実測図の石鎌、石匙等の外形図にはアスファルト付着物の箇所を示した。
6. 発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

## 目 次

序

例言

調査の概要..... 1

調査に至るまでの経過..... 1

調査期間と体制..... 1

調査の方法と経過..... 2

遺跡の位置と地形・地質..... 9

地方遺跡

遺跡の概説..... 14

遺構と遺物..... 14

縄文時代中期..... 14

縄文時代晚期..... 43

まとめ..... 276

台日遺跡

遺跡の概説..... 283

遺構と遺物..... 285

まとめ..... 288

## 調査の概要

### 調査に至るまでの経過

秋田市南東部地域は、昭和56年6月の秋田空港の開港、東北横断自動車道秋田線秋田インターチェンジ開設予定等、空陸両面の交通の要衝に位置する所である。このような状況の中で南東部地域における御所野地区については特に広大な台地であることから、いち早く開発可能性等についての各調査が実施され、県市総合計画においても産業・住宅団地が一体となった総合的ニュータウン＝臨空港新都市として具体的に位置づけられた。

昭和55年に御所野台地全体の分布調査を実施し、約30カ所の遺物散布地を確認した。昭和56年度は開発計画地内に西部工業団地造成に先立ち、下堤D遺跡（秋田市「下堤D遺跡発掘調査報告書」1982年3月、秋田市教育委員会）の発掘調査を行った。昭和57年度は今後の開発計画に対応するため55年の分布調査に基づき、3ヶ月間で遺跡の範囲確認調査を実施し、その結果、台地上に24カ所の遺跡を確認したのである。開発計画地内の3カ所の未確認地区を加えると27カ所の遺跡（下堤A、B、C、D遺跡、坂ノ上A、B遺跡を除く）が存在している（第1図 御所野丘陵部における遺跡及び周辺遺跡）。範囲確認調査の結果に基づき関係機関と協議を重ね、引き続き年度別に計画的な発掘調査を実施することとし、昭和57年度は下堤G遺跡、野畠遺跡、湯ノ沢B遺跡、坂ノ上C、D遺跡（秋田市「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1983年3月、秋田市教育委員会）、昭和58年度は坂ノ上E遺跡、湯ノ沢A遺跡、湯ノ沢C遺跡、湯ノ沢F遺跡、湯ノ沢G遺跡、湯ノ沢H遺跡、野形遺跡（秋田市「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1984年3月、秋田市教育委員会）、昭和59年度は下堤E遺跡、下堤F遺跡、坂ノ上F遺跡、狸崎A遺跡、湯ノ沢D遺跡、深田沢遺跡（秋田市「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1985年3月、秋田市教育委員会）、昭和60年度は地蔵田B遺跡、台A遺跡、湯ノ沢I遺跡、58年度に調査した湯ノ沢F遺跡の北西部（秋田市「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1986年3月、秋田市教育委員会）の発掘調査を行った。

昭和61年度は地方遺跡、台B遺跡と下堤C遺跡の一部の発掘調査を実施した。

### 調査期間と体制

調査期間 昭和61年4月24日～12月9日

調査主体者 地域振興整備公團

調査担当者 秋田市・秋田市教育委員会

調査員 萩原俊行、石鄉岡誠一、西谷 隆、安山忠市（秋田市教育委員会文化振興課）

派遣調査員 谷地 煙（秋田県埋蔵文化財センター）

調査補佐員 船木佳久子、佐々木久和

調査協力員 五十嵐芳郎（秋田考古学协会会员）、石川恵美子（明治大学大学院）

調査作業員 鈴木銀一、鈴木長治、鈴木末藏、鈴木一美、三浦竹治、三浦 騎、三浦吉男、秋本与

次郎、堀井藤男、水野金光、佐々木多治郎、鈴木茂治、伊藤金二、加賀谷新之助、加賀谷金一郎、鈴木銀三郎、堀野健一、佐々木東吉、鈴木藤一、嵯峨隆二、渡部兼治、佐々木小一郎、藤沢将治、渡部金次郎、鈴木慶子、鈴木ツヤ、鈴木タメノ鈴木鈴子、鈴木博子、三浦千枝子、三浦初枝、三浦トミエ、三浦タキ、三浦ナツ、三浦トキ子、佐々木フミ、佐々木久子、工藤キクエ、熊谷文子、宮田トキ子、高島綾子伊藤ヒメ子、伊藤ツギ、長谷部ヤエ子、会場京子、渡部アイ子、渡部ヤネ子、渡部ヨリ、渡辺ミ、佐々木ヨシ、佐々木縫子、高橋ヨシ子、高橋ミエ、堀野京子、矢倉アキ、加賀谷ヒデ、杉沢フミ、杉沢チエ子、藤沢ミサ子、藤沢トクエ、鹿子沢ミサ、安藤ナツ、鈴木ヒデ子、鈴木カネ子、持主チエ、嵯峨キミ、鍛田ツヤ、小玉菜子、佐藤アツ子、鈴木シワ、伊藤礼子、堀野フタヨ、藤沢フサ

整理作業員 三浦秋子、堀井律子、堀井幸子、伊藤秀子、佐々木信子、岡千恵子、鈴木弘子、竹田加寿子、渡辺真実、米原由紀子、佐々木勝子、和田正己、今野歩、後藤進栄、麻生博英

事務員 伊藤茂子、奥村典子、信太 緑

### 調査の方法と経過

調査区は各遺跡ごとに任意の原点を決めて東西南北(磁北)に基準線を作り、調査区全体に大グリッド(40m×40m)を設定し、さらにその中に小グリッド(4m×4m)を設定し、単位グリッドとした。大グリッドは(1~n)、小グリッドは東西(X軸)に数字(1~10)、南北(Y軸)にアルファベット(A~J)を配し、その組み合せで遺跡番号、大グリッド番号、小グリッドの順に呼称することとした。

発掘調査は、地方遺跡(5%~%)、台B遺跡(5%~%)、下堤C遺跡(5%~%)の日程で実施した。

地方遺跡は小阿地(板ノ上A、B遺跡)とともに昔から土器、石器の採集できる所として知られ<sup>(註1)</sup>、堀野日久米蔵氏によって収集されている。これらによると縄文時代晚期全般の遺物が見られ、遺跡の広さ等から集落の存在も予想された。調査結果は縄文時代晩期の他に中期末葉の集落、晩期の土坑墓群が検出された。

台B遺跡は未範囲確認地域内(佐々木造園、中北手地区)にあった遺跡で、この地区は広範囲であったが遺跡はこの台B遺跡のみの確認で、遺跡の規模も小さく、沢を隔てた向い側の地方遺跡の縄文時代中期末葉と同時期の住居跡が検出された。

下堤C遺跡は昭和47年7月、下堤遺跡では初めて検出された平安時代の住居跡を確認した地区であり、この住居跡を中心にA地区(下堤A遺跡)の隣接地まで表土除去作業を行い、本調査は来年の4月から実施することにしたものである。

(註)「堀野日久米蔵コレクション図録」考古図録第2集 1977年1月 秋田県立博物館

## 昭和61年度來跡來所者（順不同、敬称略）

按田 隆、児玉 準(秋田県埋蔵文化財センター)、富樫泰時(秋田県文化課)、榎 清(秋田市議会議員)、安斎正人(東京大学)、熊谷太郎(秋田市立商業高校)、高塚秀治(東京工業大学)、鶴丸俊明(札幌学院大学)、山口義伸、成田滋彦(青森県埋蔵文化財調査センター)、上山春平(京都国立博物館)、八賀 晋(三重大学)、永嶋正春、阿部義平(国立歴史民俗博物館)、長崎潤一(早稲田大学)、菅谷文則、蘇 哲(奈良県立橿原考古学研究所)、根山林繼、小林達雄(国学院大学)、羽賀憲二、上野秀一(札幌市教育委員会)、船野 孝(東京都埋蔵文化財センター)、本田薫之(法政大学)、高島芳弘(八戸市博物館)、清藤一順(市原市文化財センター)、高谷好一(京都大学)、横山英介(北海道大学)、福田孝司(岡山大学)、進藤秋輝(多賀城跡調査研究所)、佐藤庄一(山形県文化課)、加藤 稔(山形県立博物館)、安藤政雄(明治大学)、佐藤由美(浜松市)、小野忠一(秋田市立四ヶ小屋小学校)、杉沢文治(秋田姓氏家系研究会)、歴史を学ぶ会(東部公民館)、家庭婦人学級(南部公民館)、港婦人学級(十崎公民館)、御野場婦人会、秋田市文化財保護協会、秋田考古学協会



遺跡の位置

1000m 0 1000 2000



图 1-1 鹰阳镇丘陵地带综合规划图(局部)。圈出的范围是拟建环岛路及环岛道路。

御所野丘陵部 遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	範囲確認調査			発掘調査		遺跡名
			時代	面積 m <sup>2</sup>	項目	調査年度	調査面積 m <sup>2</sup>	
1	下堀 E	秋田市四ツ小屋小阿地字下堀	縄文	5,625	畠	5 9	3,340	縄文(中期)集落
2	下堀 F	" "	"	14,375	"	5 9	2,950	縄文(前、中期)集落
3	下堀 G	" "	旧石器、縄文(中)	5,000	山林原野	5 7	1,550	旧石器、縄文(前、中期)集落
4	坂ノ上 C	四ツ小屋小阿地字坂ノ上	縄文	6,000	"	5 7	1,000	縄文(中、後期)
5	坂ノ上 D	" "	"	14,060	"	5 7	1,500	縄文(中、後期)
6	坂ノ上 E	" "	"	15,000	"	5 8	5,000	縄文(中期)集落、9~10c 製鉄炉
7	坂ノ上 F	" "	"	37,810	"	5 9	18,800	縄文(中期)集落、弥生住居跡
8	狸崎 A	四ツ小屋小阿地字狸崎	縄文(後)	13,750	畠、山林原野	5 9	1,910	縄文(前、後期)土塁墓、弥生住居跡
9	狸崎 B	" "	縄文	11,250	原野			
10	地蔵田 A	四ツ小屋末戸松本字地蔵田	旧石器、縄文、平安	30,000	畠			
11	地蔵田 B	" "	縄文(中後)、弥生	25,000	山林原野	6 0	12,000	旧石器、縄文(中期)集落、弥生集落櫛木跡
12	湯ノ沢 A	四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	縄文	21,555	"	5 8	3,000	縄文(中期)弥生住居跡
13	湯ノ沢 B	" "	縄文(前、中)	5,000	"	5 7	2,340	縄文(中期)集落、平安住居跡
14	湯ノ沢 C	" "	縄文(中後)弥生	11,565	"	5 8	4,100	縄文(中期)集落
15	湯ノ沢 D	" "	縄文(中)	35,000	畠	5 9	3,220	縄文(中期)集落
16	湯ノ沢 E	" "	縄文	7,500	"	5 8	1,920	縄文(後期)
17	湯ノ沢 F	" "	縄文、土師、須恵	5,310	"	5 8+6 0	4,400	弥生、土広、平安墓(40基)
18	湯ノ沢 G	" "	縄文(後)	1,300	原野	5 8	400	縄文(後期)
19	湯ノ沢 H	" "	縄文	5,940	畠	5 8	720	縄文(前、中、後期)住居跡
20	野畠	上北手御所野字野畠	縄文(中)	1,875	山林	5 7	640	縄文(中期)集落
21	野形	" "	土師、須恵	5,940	山林原野	5 8	980	平安住居跡、空跡
22	漢田沢	上北手古野字深田沢	縄文、平安	6,875	畠	5 9	3,320	平安建物跡、住居跡
23	台 A	上北手古野字台	"	8,440	"	6 0	2,000	縄文(中期)集落
24	地方	上北手鹽田字堤ノ沢	縄文(後)	54,670	畠、原野	6 1	11,500	縄文(中期)集落、(後期)土塁墓
25	湯ノ沢 I	四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢			苗圃	6 0	5,700	弥生
26	秋大農場	四ツ小屋小阿地字狸崎			畠、原野			
27	台 B	上北手鹽田字寺ノ沢			山林原野	6 1	1,150	縄文(中期)

## 遺跡の位置と地形・地質

### 位 置

秋田市街から国道13号線を南下し、仁井田、横山を過ぎ、坂を登ると標高約40m 前後の広大な台地が開ける。これは奥羽本線四ツ小屋駅方面からもよく見える平坦な台地であり、御所野台地、末戸台と呼ばれている。この台地が秋田新都市開発整備事業計画地域である。

各遺跡の位置については第1図、「御所野丘陵部発掘調査遺跡、範囲確認調査遺跡及び周辺遺跡」を参照されたい。

### 地形・地質

遺跡の存在する地形は、大別して和田丘陵と末戸台台地に分けられる。和田丘陵は平坦面をあまり持たない。しかし、定高性を持った標高60~150m のかなり開拓を受けた老年期地形を示し、地形は第3系鮮新統に属する青色砂質シルト岩(笠岡層)と青灰色塊状泥岩(天徳寺層)、それに中新統に属する暗灰色泥岩(船川層)などからなっている。末戸台台地は標高25~50m 強で、その表面は大変平坦である。この台地は和田丘陵と接して数段の段丘を識別できる。これらは内藤の区分からすると、上位から標高45~50m 強の椿台段丘、標高40m 強の上野台段丘Ⅰ、標高35m 強の上野台段丘Ⅱ、標高25m 強の宝竜崎段丘の4段階に分けられる。(第2図)

### 椿台段丘

岩見沢右岸末戸台台地では45~50m 強の座高をもつ、いわゆる椿台面をその堆積面とする椿台層が厚い疊(最大径10cm前後)、砂、粘土の互層で構成されている。ただ基底高度はわからない。岩相は最上部に1~2m 褐色の粘土質火山灰層があり、次に疊、砂、粘土の互層で、砂疊の部分でしばしばクロス・ラミナ(斜交葉理)がみられ、砂土あるいはシルトは水平な細かい層理をなすことが多い。層厚をみると、疊層はうすく、砂、粘土層が厚い。その下部は第3系の泥岩(船川層)や砂質シルト(笠岡層)となっている。内藤はこの椿台面を関東の下末吉面に対比している。地方遺跡は、この椿台段丘に位置する。

### 上野台段丘Ⅰ

末戸台台地で椿台段丘の南側に標高40m 強でついている段丘が上野台段丘Ⅰと呼ばれている。表層の1~2m の粘土質火山灰層を除くと、段丘堆積物は最大径20~30cmの疊層であり、厚さは5m 程度で、その下部は第3系となっている。台B 遺跡は、この上野台段丘Ⅰに位置する。

### 上野台段丘Ⅱ

末戸台台地では上野台段丘Ⅰとの比高が5m 強である。段丘堆積物の岩相は、上野台段丘Ⅰとはほぼ同様で、層厚は5m 前後である。内藤によれば、厚い疊層の下部は椿台層に当るとしている。

段丘堆積物の特徴は、上野台Ⅰ・Ⅱ面では最大径30cm前後の円錐を主体とする。ほぼ一様な疊層をもち、河川堆積物で、厚さも加味すると岩見沢などによる河成の浸食段丘面と考えられる。椿台、上野台Ⅰ・Ⅱ面の各面をおおっている層厚1~2m のシルト分を含んだ粘土質火山灰層は、男

鹿半島の寒風山が起源と一応考えられている。この粘土質火山灰層の表面細粒物質の風化状態をみると、<sup>註2)</sup> 横台、上野台Ⅰ、Ⅱ面では黒色土の下の細粒物質のうち、上部50~100cmが明褐色を呈し、下部は灰色で、境は漸移する。また、土壤面を見ると、横台、上野台Ⅰ、Ⅱ面をおおう土壤はいわゆる高岡2統に属していると考えられ、比較的大きい円礫を混入していて、黒色土層を厚く堆積させている。この層中には火山ガラスを混入しており、火山灰が関係しているものと推定される。

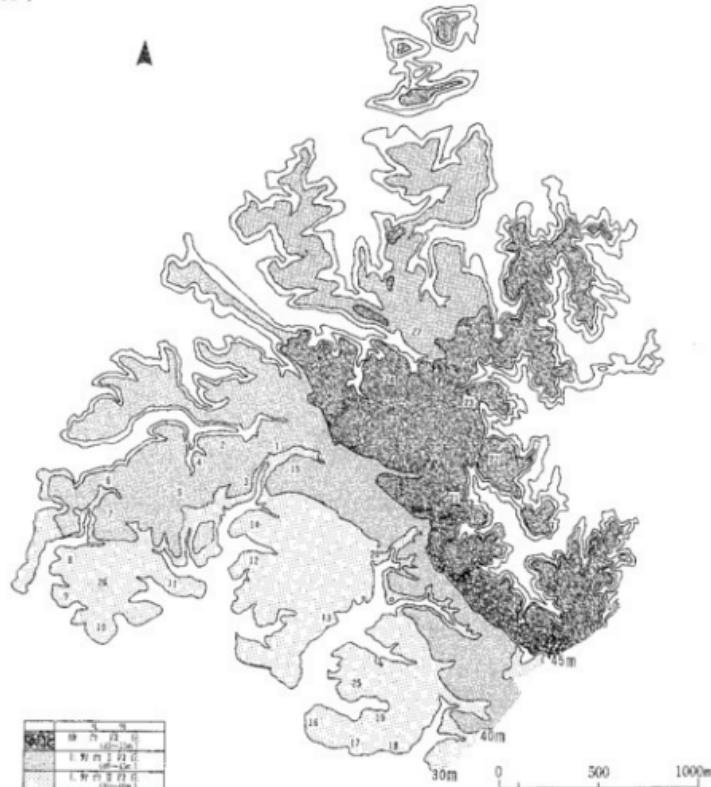
(註1) 「秋田県岩見川流域およびその周辺の段丘について」 内藤博夫 1965年 第4紀研究第4卷第1号

(註2) 「地形、表層地質・土壤、秋田」 経済企画庁土地分類基本調査 1966年

「八郎潟の研究」 秋田県教育委員会 1965年

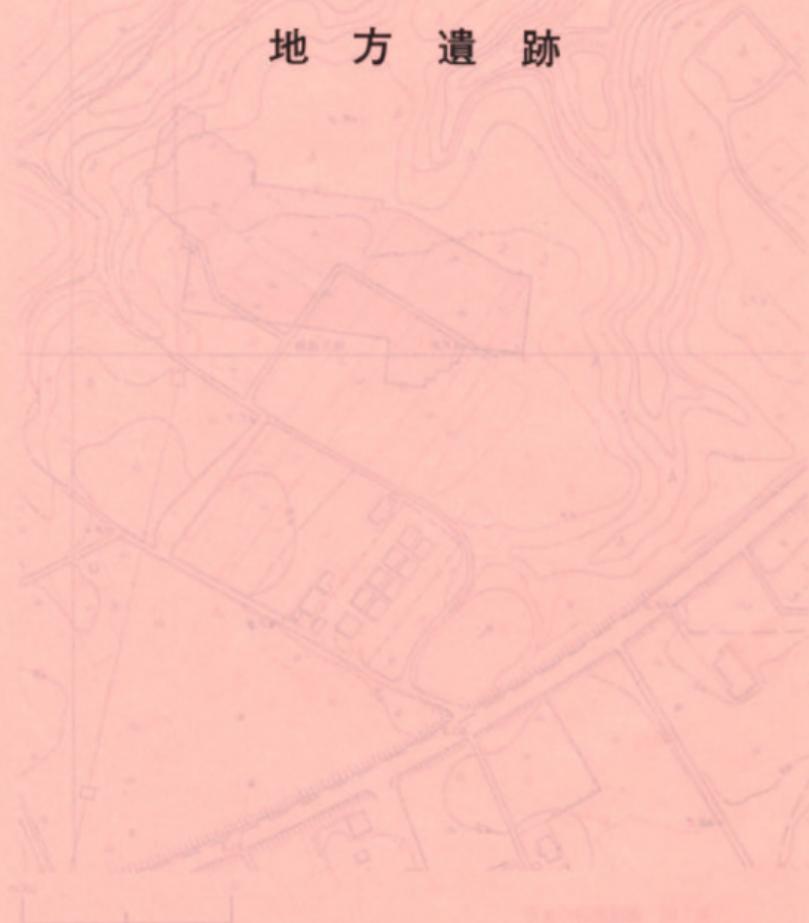
「火山活動と地形」 村山馨 大明堂

「秋田県男鹿半島一の目潟の火山拠出物について」 林 宏 地質学雑誌第61巻第717号  
1955年



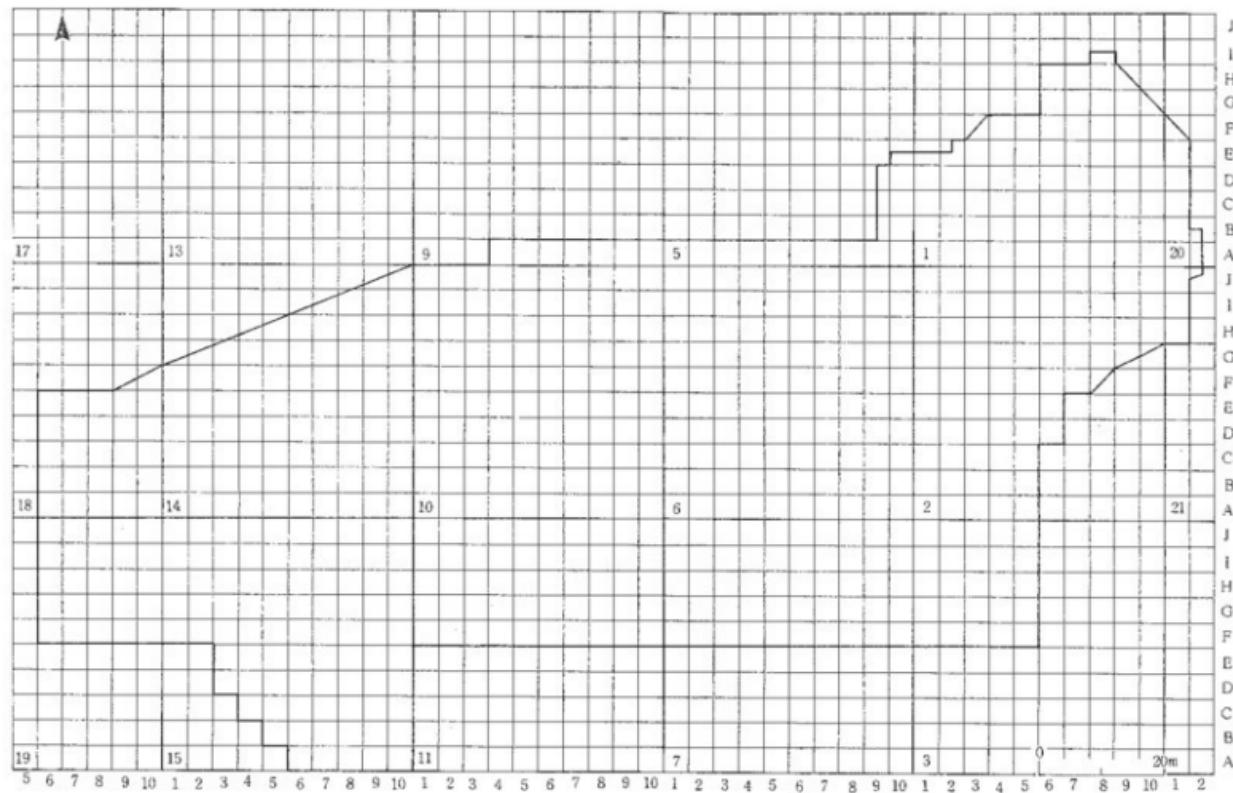
第2図 段丘及び遺跡の位置

地 方 遺 跡





第1図 通跡周辺の地形



第2図 ブリッジ配置図

## 遺跡の概観

遺跡は、国道13号線を大曲方向に南下し、御所野三叉路から500m進んだ東側に位置する。遺跡の立地する台地は、標高46m程の広大な台地で、北からは大きな沢が2本入り込んでいる。

調査の結果、縄文時代中期の堅穴住居跡、晩期の堅穴住居跡、土塙墓などが検出された。また主な出土遺物には、土器・石器の他に土偶・土面などの土製品、勾玉・小玉などの石製品がある。

遺跡の東約400mの所には、縄文時代中期の台A遺跡がある。

## 遺構と遺物

### 縄文時代中期

#### 1号住居跡（第3図）

調査区の東端北側で検出された。

プランは長軸6.0m、短軸5.5mの橢円形を呈する。確認面からの深さは10cmで、壁は斜めに立ち上がる。西側はゆるく傾斜しており、北西の壁は削平され検出できなかった。ピットは19個検出されており、主柱穴は住居内を周る深さ21cm以上のピットである。炉は南西側に位置しており、新旧二時期認められた。Ⅰ期～Ⅱ期の炉を作るときに全て壊され埋設土器の抜き取り痕跡だけが下部から検出された。Ⅱ期一石窓い土器埋設部、石組掘り込み部、掘り込み部からなる。石窓い土器埋設部には深鉢形土器を正立して据えており、周辺および石組掘り込み部は熱を受けて赤変している。掘り込みは壁に接しており荷側にピットがみられる。Ⅱ期の埋設土器は、Ⅰ期よりも位置を外側に替えており、同時に炉も拡張され、それに伴い住居を一回り大きくしたと思われる。床面は堅く良好である。

### 出土遺物

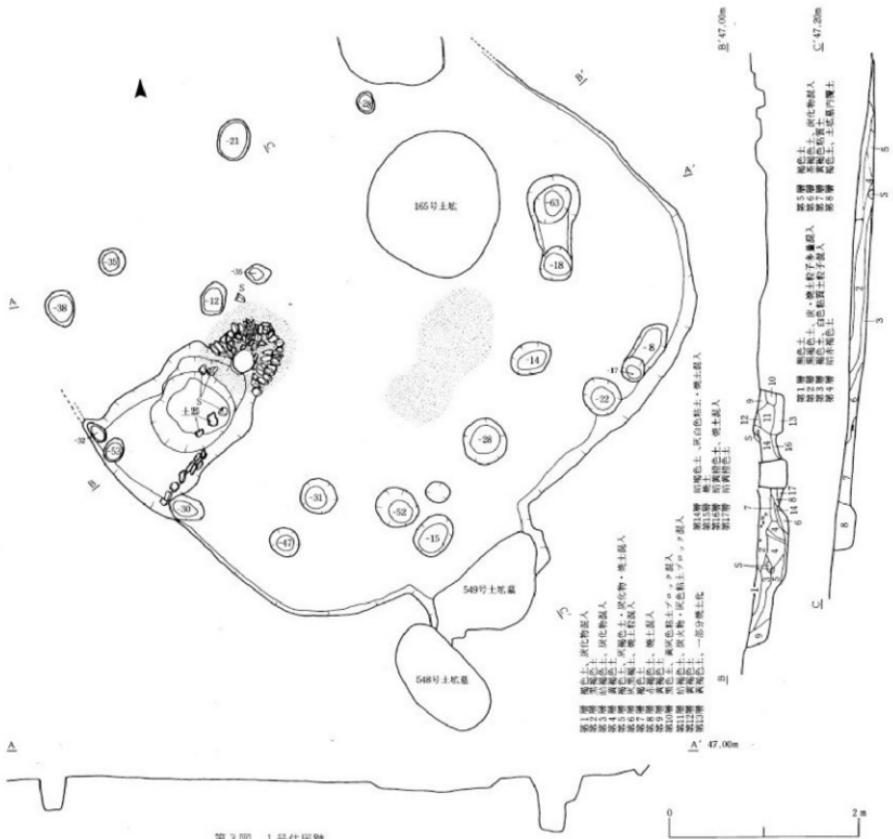
#### 土器（第17・20・21図）

1・2はⅡ期炉の埋設土器である。胴部が膨らむ深鉢形土器で口縁下に沈線区画による磨消し帯によってJ字状に文様が展開する。15～42は崖土から出土した。沈線区画の磨消し帯によって文様が施され、区画内に刺突を有するものもある。32は波状口縁で頂部に耳状の突起がある。口縁に沿って隆線が付され、下方は沈線と円形刺突文で文様が描かれる。

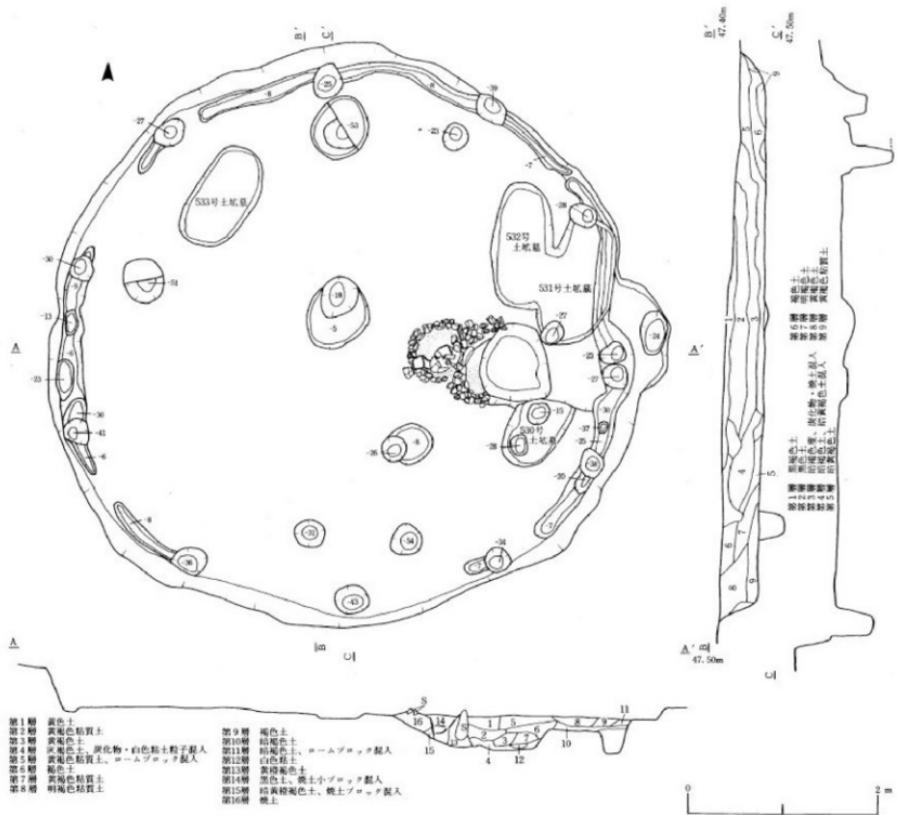
#### 2号住居跡（第4図）

調査区の東端で検出された。

プランは径6.1mの円形を呈する。確認面からの深さは43cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。横直Fには幅30cm、深さ40～50cmの周溝が認められる。ピットは大小29個検出されており、周溝上に深さ23cm以上の柱穴が等間隔に並び、主柱穴は床面上の深さ27cm以上のピット4個が考えられ、四角形に配置されている。炉は東側に位置しており、新旧二時期認められた。Ⅰ期～Ⅱ期の炉を作るときに壊され、埋設土器の抜き取り痕跡だけが下部から検出された。Ⅱ期一Ⅰ期と同位置にあるが埋設土器の位置を東に若干替えている。石窓い土器埋設部、石組掘り込み部、掘り込み部からなり、



第3图 1号住宅区



第4図 2号住居跡

石開い土器埋設部には深鉢形土器を正立して据えており、周辺および石組掘り込み部は熱を受け赤変している。特に石組掘り込み部は堅く、焼け面を形成している。掘り込み部は東壁下の周溝に接している。床面は平坦で堅く良好である。

本住居跡は、Ⅱ期炉の拡張に伴い一回り大きく拡張したものと思われる。床面の一部は晩期の土塙基によって壊されている。

#### 出土遺物

##### 土器（第17・21図）

3はⅡ期が<sup>3</sup>の埋設土器である。口縁部、底部は欠損し、器表面は剥落が著しく、二次火熱を受け赤変している。地文はR Lの単節斜縄文（継回転）である。43～46は覆土から出土した。43・44は細い隆帯で区画した中に刺突文が施される。45はヘラ状工具による細い沈線で文様が描かれる。

##### 石器（第23・24図）

1は縦型石匙、2は削器、6は側縁部に加工が施された刀状の石器である。7は磨石、8は石皿である。

##### 3号住居跡（第5図）

調査区の東側で検出された。

プランは底3.3mの円形を呈する。確認面からの深さは15cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは13個検出されているが主柱穴については不明である。炉は新旧三期の作り替えがみとめられる。Ⅰ期一中央やや北にあり最も古い。土器埋設部と掘り込み部からなる。深鉢形土器を正立に据えており、周辺は火熱を受け赤変している。Ⅱ期一南側に位置し、土器埋設部と掘り込み部からなる。深鉢形土器を正立に据えているが、Ⅲ期の埋設土器に半分壊されている。周辺および掘り込み部は火熱を受け赤変している。Ⅲ期一Ⅱ期が<sup>3</sup>と基本的に同じであるが、埋設土器を北西に移行している。床面は平坦で堅く良好である。住居跡北壁は晩期の土塙基に壊されている。

#### 出土遺物

##### 土器（第17・18・21図）

4～6は炉埋設土器である。4はR Lの単節斜縄文（継回転）である。5は沈線区画の磨消し帶を有し、地文はL Rの単節斜縄文（継回転）である。6は口縁部が外反し胴部が膨らむ深鉢形土器である。沈線区画の磨消し帶で文様を描き、地文はL Rの単節斜縄文（継回転）である。47・48は覆土から出土した。48は縦に「S」字状結節が走る。

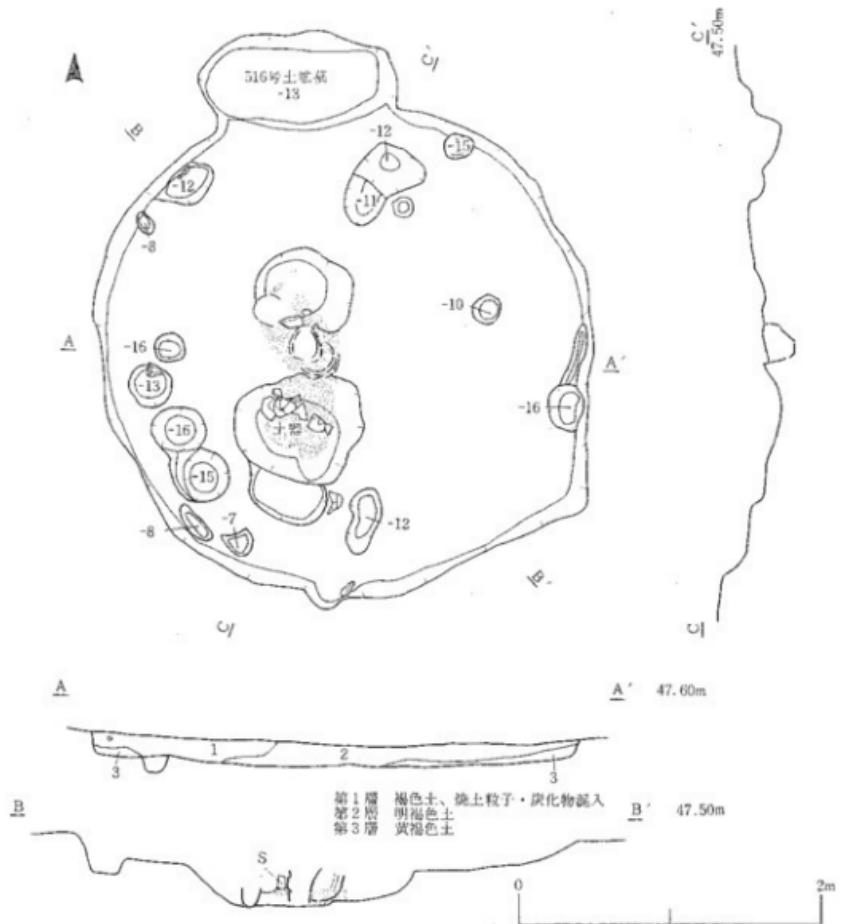
##### 石器（第23・24図）

3は磨製石斧、9は石皿片である。

##### 4号住居跡（第6図）

調査区の東側で検出された。

プランは長軸2.5m、短軸2.2mの梢円形を呈する。確認面からの深さは14cmで、壁はほぼ垂直に



第5図 3号住居跡

立ち上がる。ピットは13個検出されているが主柱穴は不明である。炉は新旧二期認められた。Ⅰ期一中央東側に作られた古い炉である。土器埋設部と掘り込み部からなる。廃棄後に貼り床されている。Ⅱ期一南側に作られている。上器埋設部と掘り込み部からなるが、埋設上器は抜き取られており認められない。周辺は火熱を受け赤変している。床面は平坦で良好である。

#### 出土遺物

##### 土器（第21図）

49は小破片である。竹管状工具による刺突文が施されている。

##### 5号住居跡（第7図）

調査区東側で検出された。

プランは長軸3.5m、短軸3.2mの梢円形を呈する。確認面からの深さは4cmであるが、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面積の半分近くは晩期の土埴輪に壊されており、ピット数・かの形態等の詳細は不明である。把握できるピットは13個認められるが、主柱穴は不明である。かは右回りかと思われる。埋設土器は認められなかった。周辺は火熱で赤変している。床面は平坦である。

#### 出土遺物

##### 土器（第21図）

50・51は覆土から出土した。沈線区画の磨り消し帯を有する土器片である。

##### 石器（第24図）

10は磨石である。

##### 6号住居跡（第8図）

調査区東側で検出された。

プランは長軸2.6m、短軸2.4mの梢円形を呈する。確認面からの深さは14cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは壁沿いに9個検出され

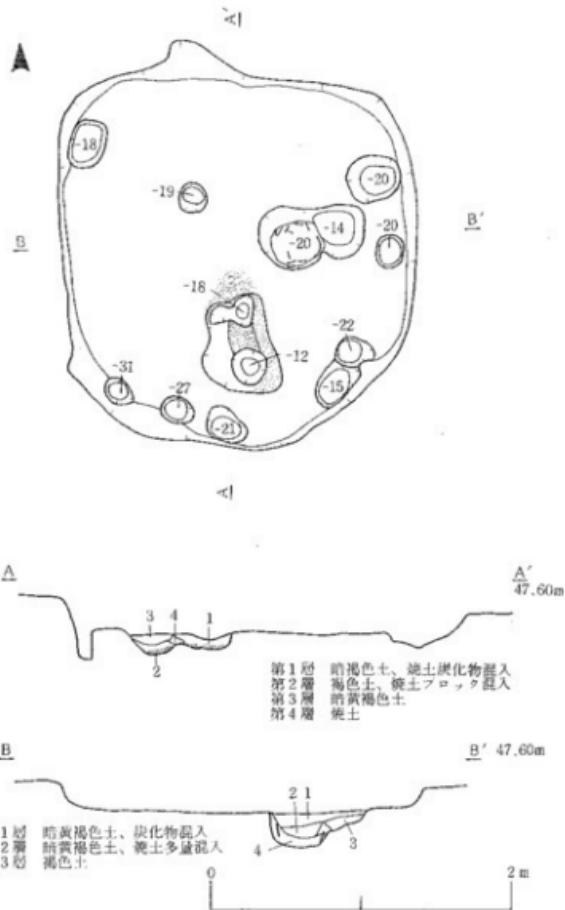
ているが、主柱穴については不明である。かは中央西側に作られており、土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器を正立に据えており、周辺および掘り込み部は火熱を受け赤変している。床面は平坦で堅く、良好である。

#### 出土遺物

##### 土器（第18・21図）

7は炉埋設土器で、口縁部が外反し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。口縁部は磨消し無文帶で脚部には沈線区画の磨消し帯でJ字状の文様が展開される。地文はR Lの単節斜繩文（綱回転）である。52～58は覆土から出土した。口縁部は磨消し無文帶で、沈線で区画されている。

##### 7号住居跡（第9図）



第6図 4号住居跡

調査区東側で検出された。風倒木痕、晩期の土塙基によって一部壊されている。

現存するプランは、長軸7.9m、短軸6.0mの梢円形を呈する。確認面からの深さは1～2cmと非常に浅い。ピットは6個検出されているが主柱穴は不明である。炉は北側に作られており、土器埋設部と掘り込み部からなり、間には礫が組まれている。周辺は火熱で赤変している。土器埋設部には深鉢形土器が正立に据えられている。床面は平坦で良好である。

#### 出土遺物

##### 石器（第24図）

11は磨石、12はくぼみ石である。

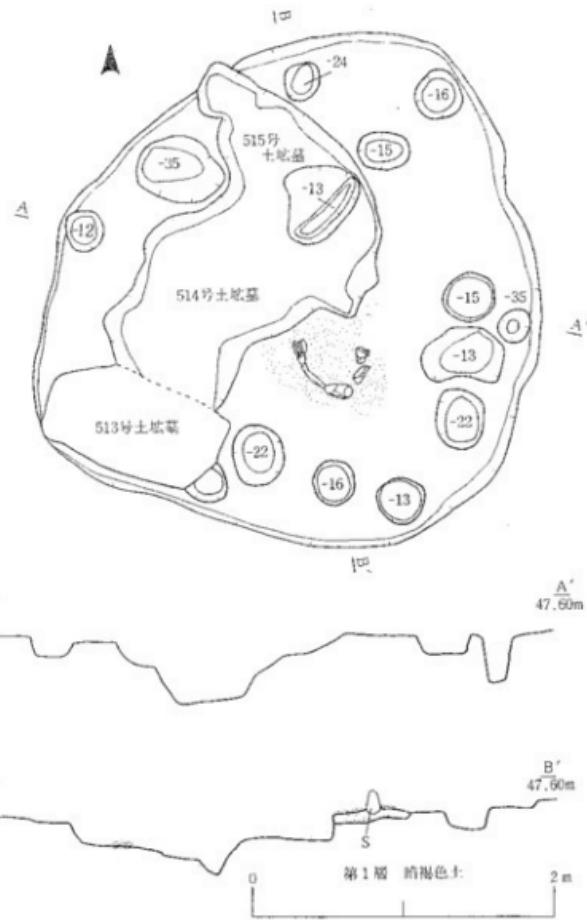
##### 8号住居跡（第10図）

調査区の東側で検出された。プランは長軸3.3m、短軸2.5mの梢円形を呈する。北部は晩期の土塙基によって壊されている。確認面からの深さは16cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは9個検出されており、四隅にある深さ25cm以上のものが主柱穴と思われる。炉は南側に作られており、石圓い土器埋設部と掘り込み部からなる。深鉢形土器が正立に据えられており、周辺は火熱で赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

#### 出土遺物

##### 土器（第18・22図）

8は口縁部が外反し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。隆線と磨消し帶で文様を横方向に展開させる。地文はしRの単節斜縞文（縦回転）である。59～80は覆土から出土した。沈線区画の磨消し帶を有するが、中には刺突文の施されるものもある。



第7図 5号住居跡

### 石器（第23図）

4は縦型の石匙、5は削器である。<sup>A</sup>

### 土製品（第25図）

1は三角形上製品、2は双口の土製品である。

### 9号住居跡（第11図）

調査区東側で検出された。

プランは長軸2.8m、短軸2.5mの橢円形を呈する。東南・北西部は晩期の土塙墓によって壊されている。<sup>B</sup>

確認面からの深さは2cmと浅く、大部分削平されている。ピットは7個検出されているが主柱穴は不明である。炉は北側に作られており、土器埋設部と掘り込み部からなる。掘り込み部は北壁に接している。埋設土器は抜き取られており認められなかつた。周辺は火熱を受け赤変している。床面は平坦で堅く良好である。

### 10号住居跡（第12図）

調査区東側で検出された。

壁は晩期の土塙墓、削平によって壊されておりプラン、規模は不明である。ピット・炉が検出されており、その配置から推定すると径約3.7mの円形を呈すると思われる。ピットは6個検出されている。炉は中央よりやや東南に作られており、土器埋設部と、掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器を正立に据えている。周辺は火熱を受け赤変している。

### 出土遺物

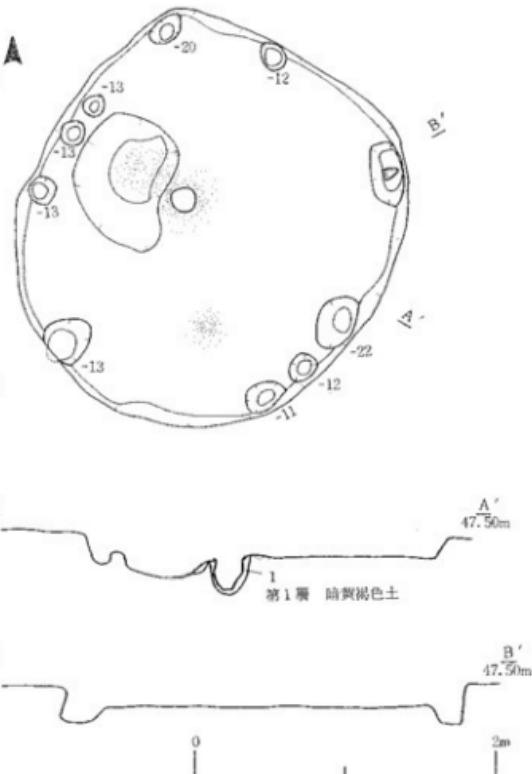
#### 土器（第18図）

9は炉埋設土器である。深鉢形土器の胴部であり、熱を受け赤変している。地文はR Lの単節斜罫文（縦回転）である。

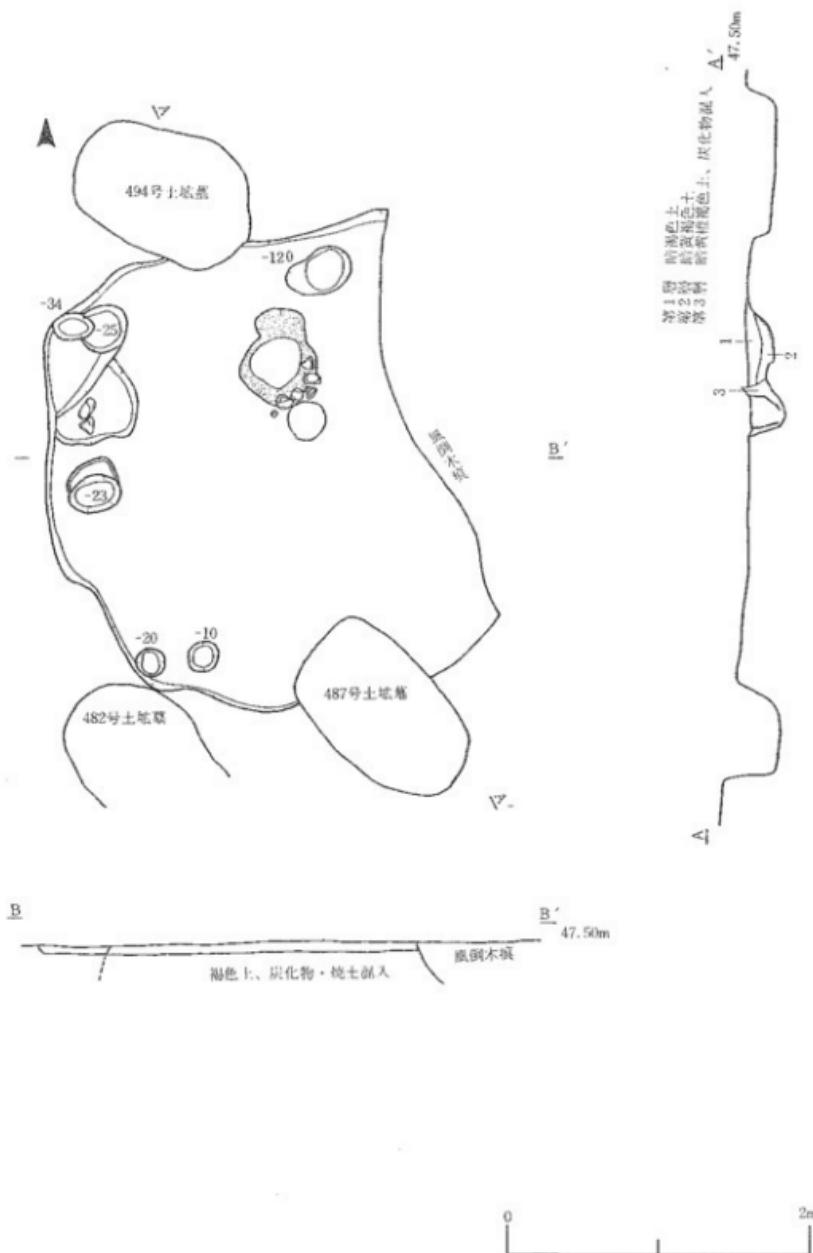
#### 11号住居跡（第16図）

調査区東側で検出された。

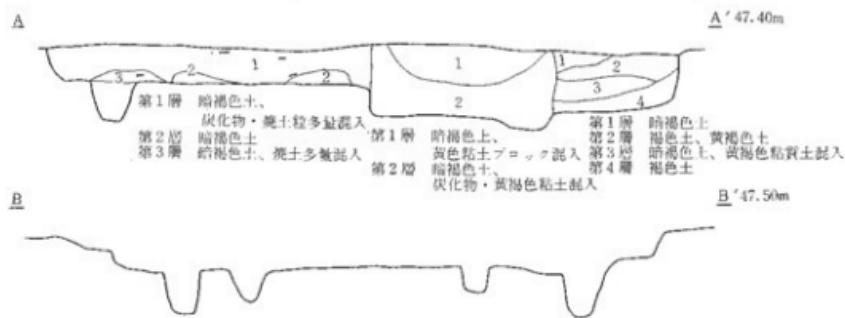
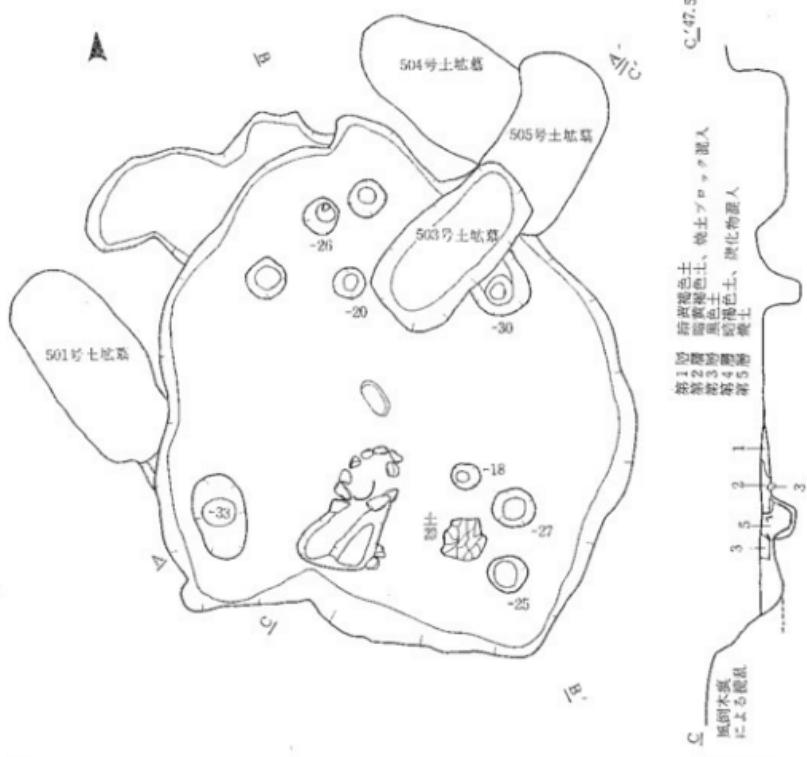
晩期の土塙墓、削平によって壊されており、プラン、規模は不明である。ピット、炉が検出されており、その配置から推定すると径約2.9mの円形を呈すると思われる。ピットは5個検出されて



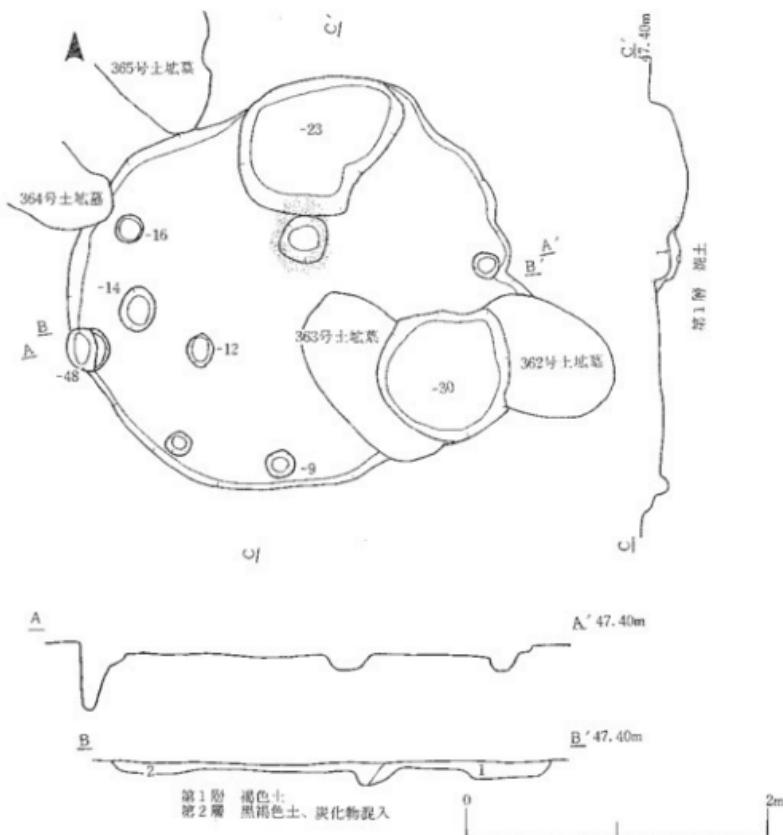
第8図 6号住居跡



第9図 7号住居跡



第10図 8号住居跡



第11図 9号住居跡

いる。炉は土器埋設部と掘り込み部からなるが、土器埋設部は上埴墓によって壊されている。

#### 12号住居跡（第13図）

調査区の東側で検出された。

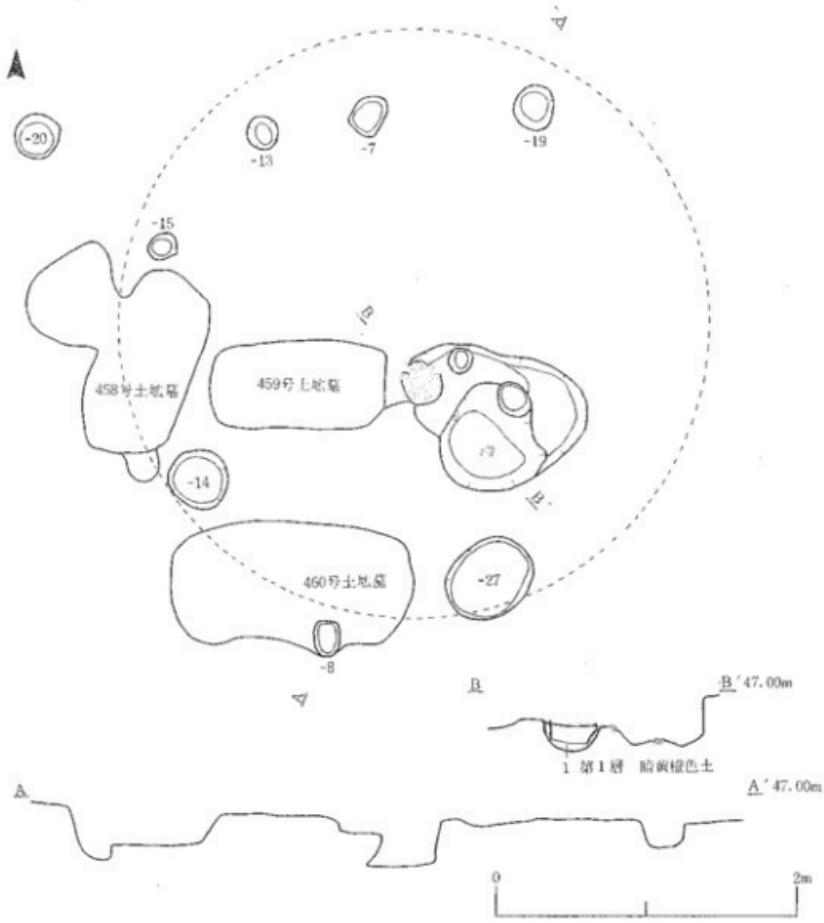
晩期の土埴墓、削平により壊されており、プラン、規模は不明である。わずかに住居跡にともなうピット3個とがが検出された。炉は土器埋設部と小さな掘り込み部からなる。上器埋設部には小形の深鉢形上器の破片が認められた。

#### 13号住居跡（第14図）

調査区の東側で検出された。

晩期の土埴墓によって壁、床面は大部分壊されている。

プランは径3.3mの円形を呈する。確認面からの深さは6cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは9個検出されており壁沿いに用いるものが多い。主柱穴は不明である。がは中央より北側に作ら



第12図 10号住居跡

れており、石突い土器埋設部と掘り込み部からなる。土器埋設部には深鉢形土器を正立に据えている。周辺、および掘り込み部は火熱を受け亦変している。床面は平坦で堅く良好である。

#### 出土遺物

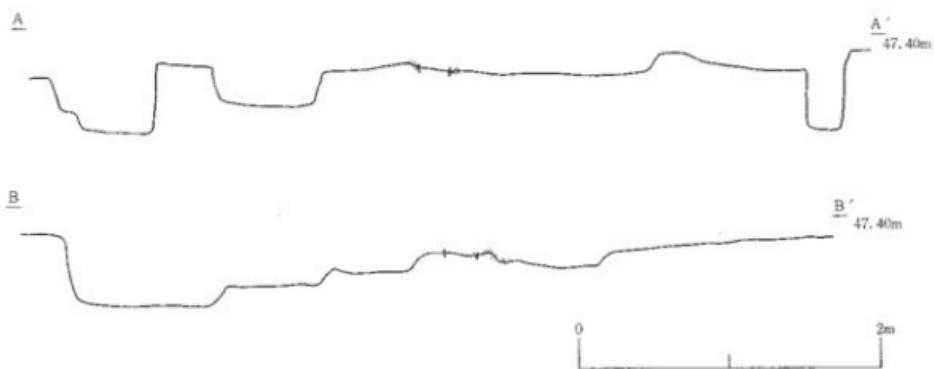
##### 土器（第18図）

11は炉埋設土器である。波状口縁をなし、口縁部が外反し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。沈線区画の廢消し帯をJ字状に展開させる。地文はR Lの単節斜繩文（縦回転）である。

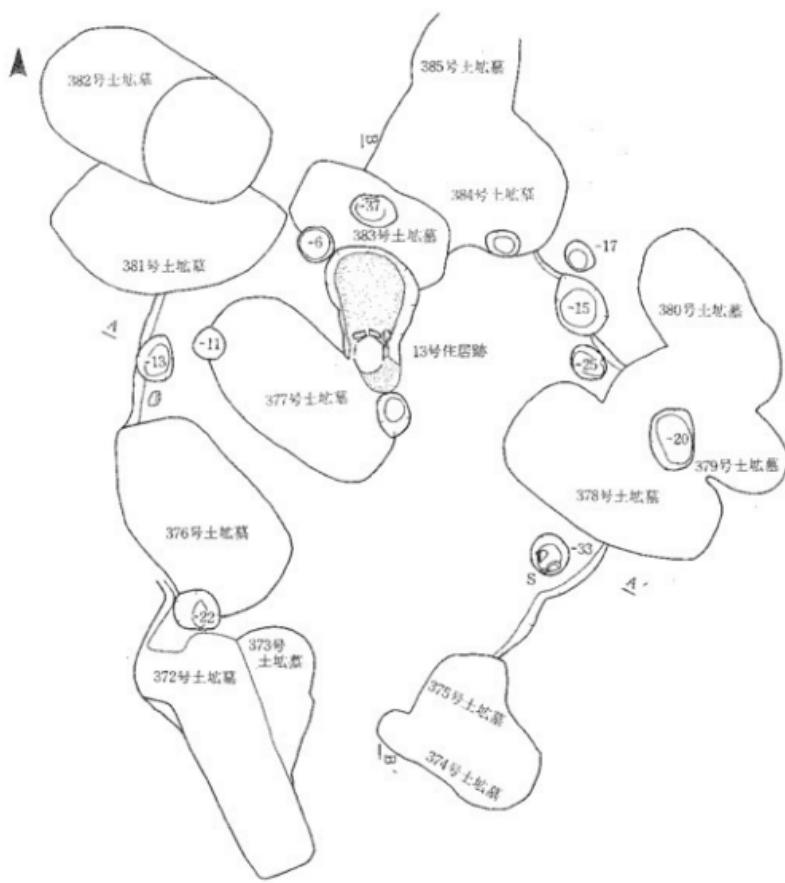
##### 石器（第24図）

13はくぼみ石である。

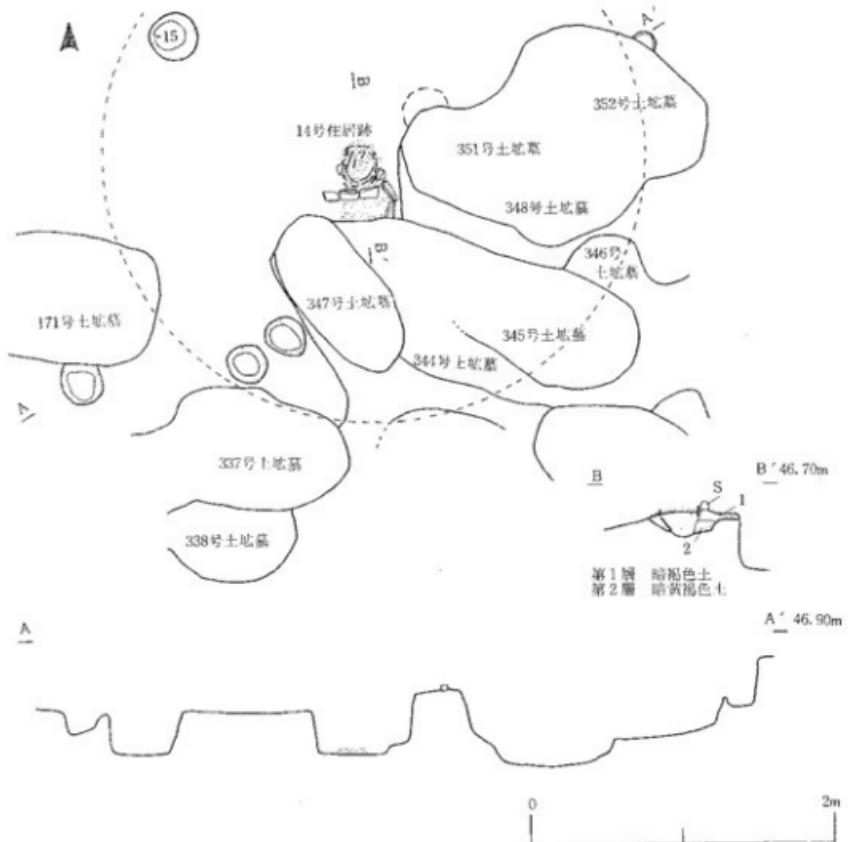
##### 14号住居跡（第15図）



第13図 12号住居跡



第14図 13号住居跡



第15図 14号住居跡

調査区の東側で検出された。

晩期の土壙墓、削平によって壊されており炉の一部と住居跡に伴うピット 3 個が認められた。プラン、規模は不明である。炉は二期検出されているが新旧関係については不明である。Ⅰ期一北東部に位置する。埋設土器と焼土が認められるが、埋設上器は深鉢形土器を正立に据えている。Ⅱ期一中央部に位置する。石圓い土器埋設部と石組部からなる。埋設土器は壊れており破片が多い。

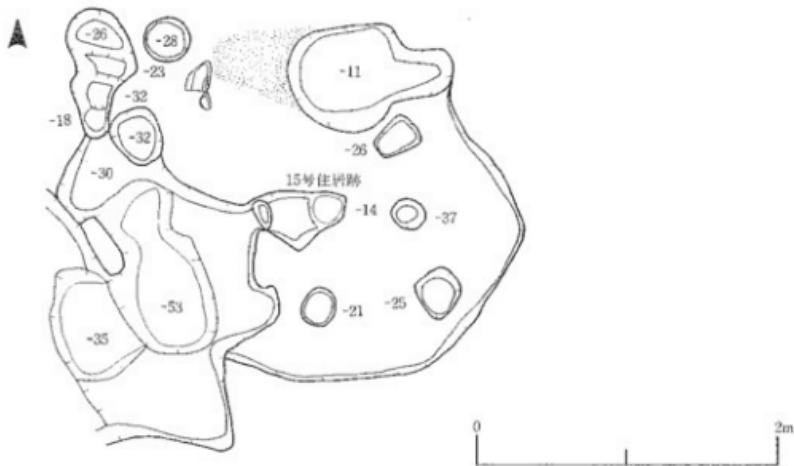
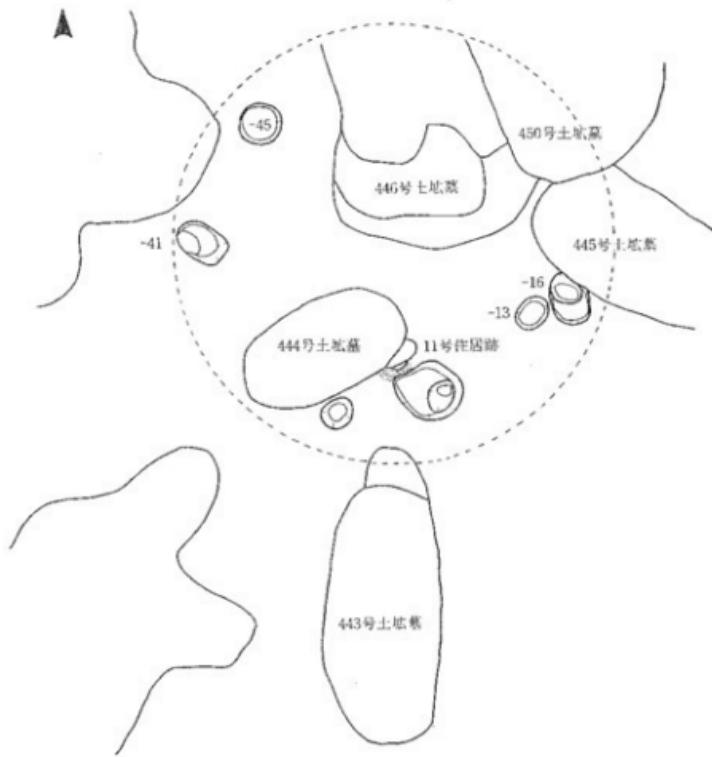
#### 出土遺物

##### 土器（第18図）

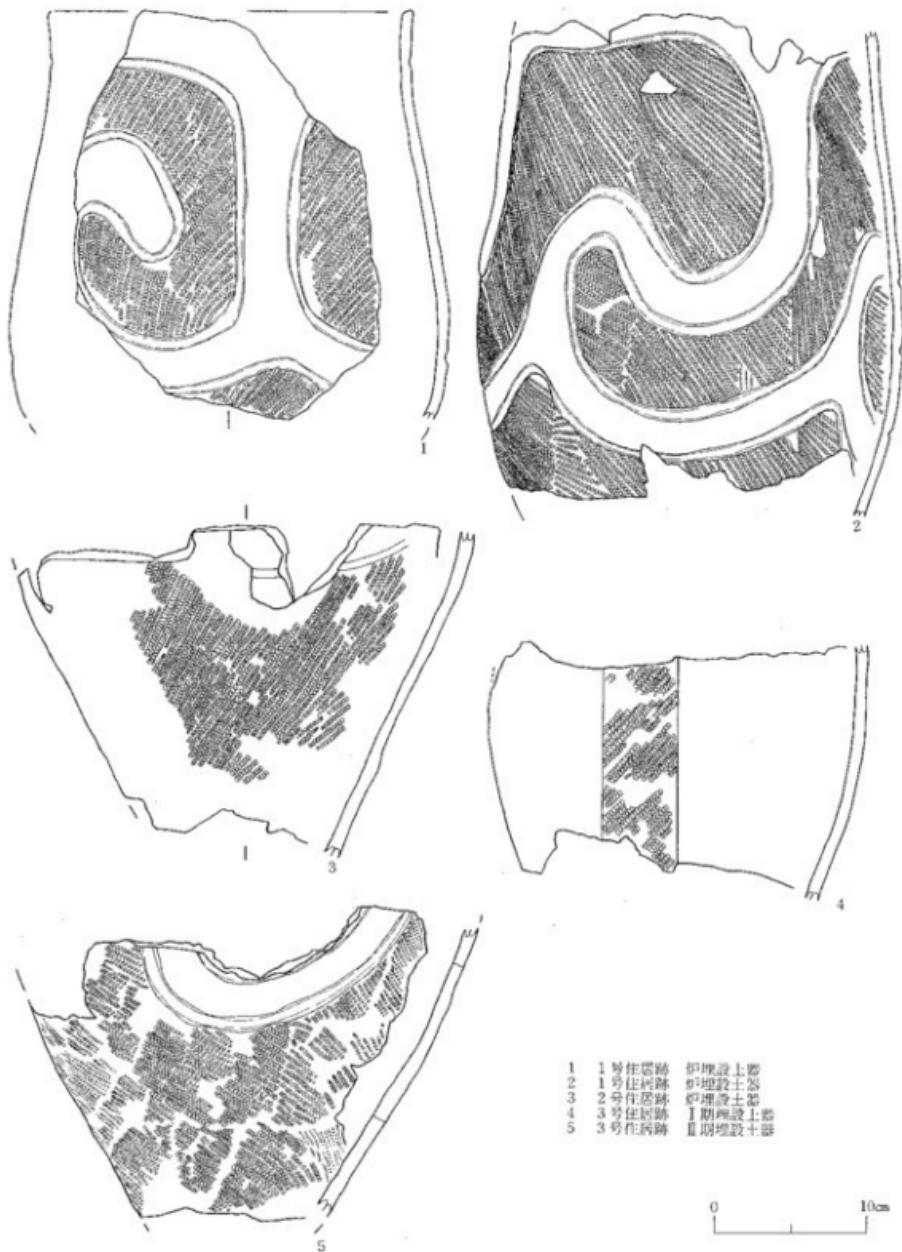
10はⅠ期炉の埋設土器である。深鉢形土器の胸部であり、沈線区画の磨消し帯で文様を横に展開させている。

##### 15号住居跡（第16図）

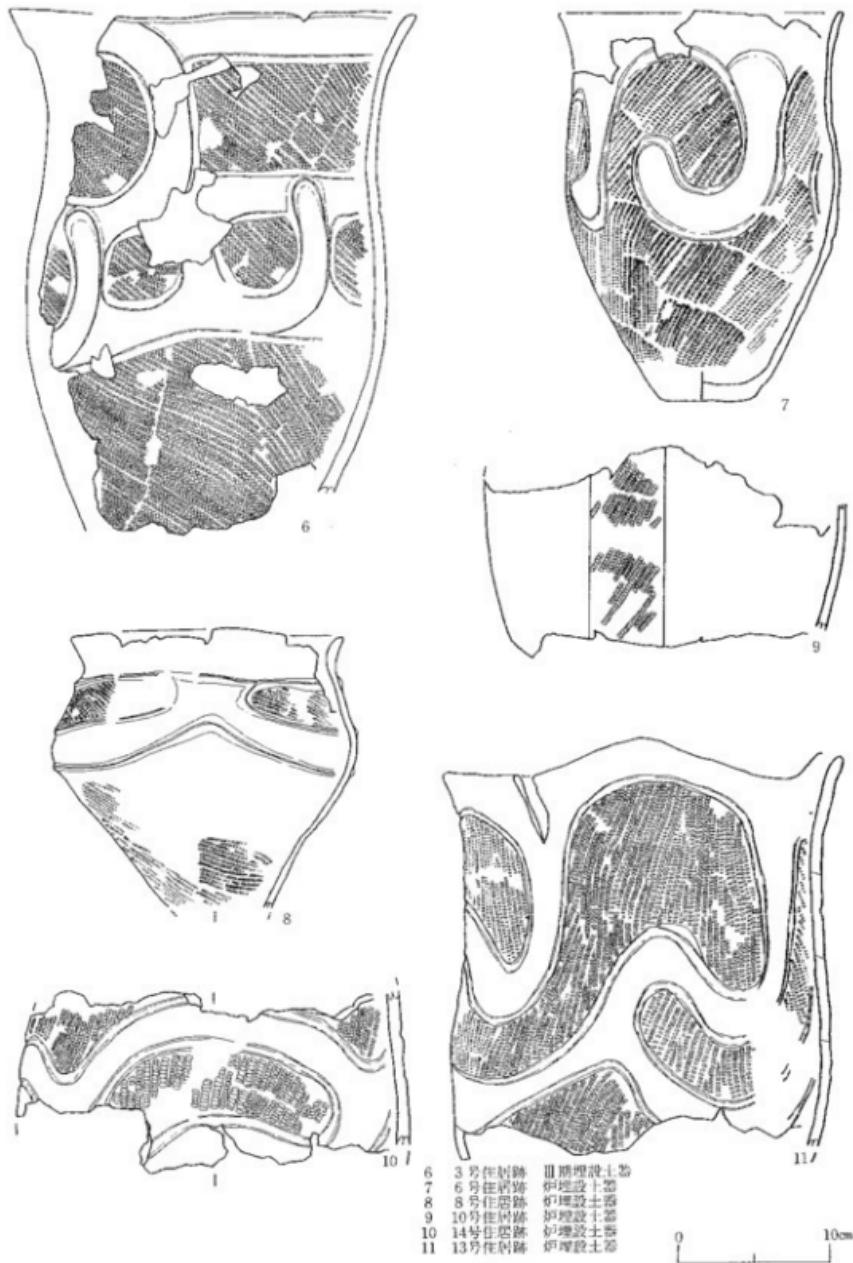
調査区東側で検出された。攪乱によって大部分壊されている。



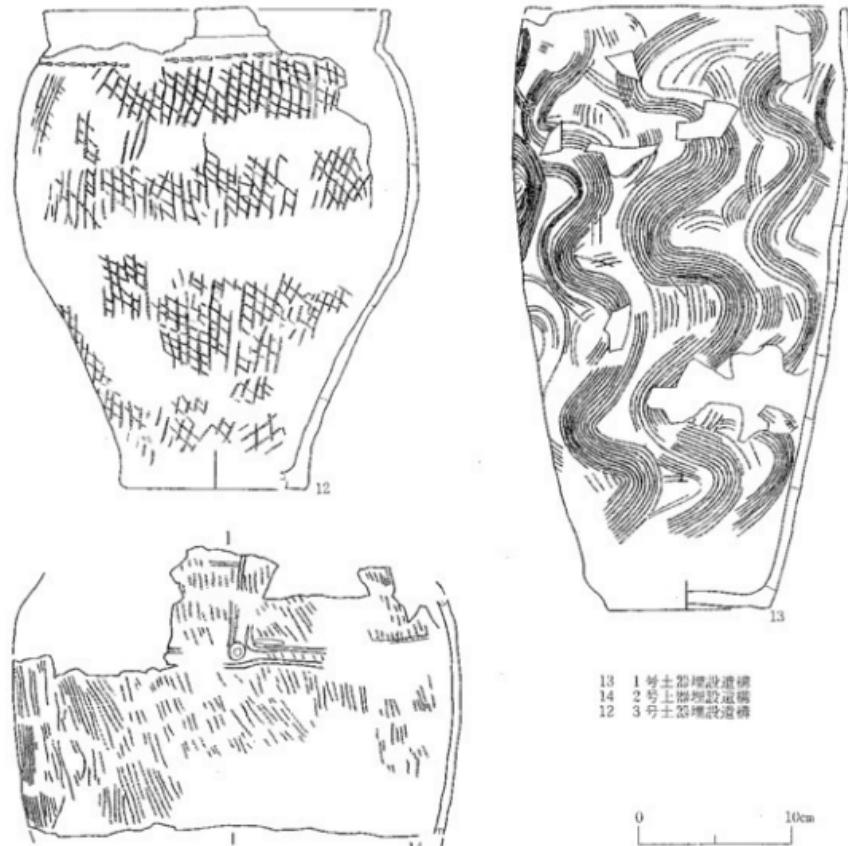
第16図 11号、15号住居跡



第17図 遺構内出土土器



第18図 遺構内出土土器



第19図 遺構内出土土器

プランは長軸2.9m、短軸2.3mの椭円形を呈する。北側に焼土が認められるが炉かどうか不明である。床面は凹凸があり、軟弱で不良である。

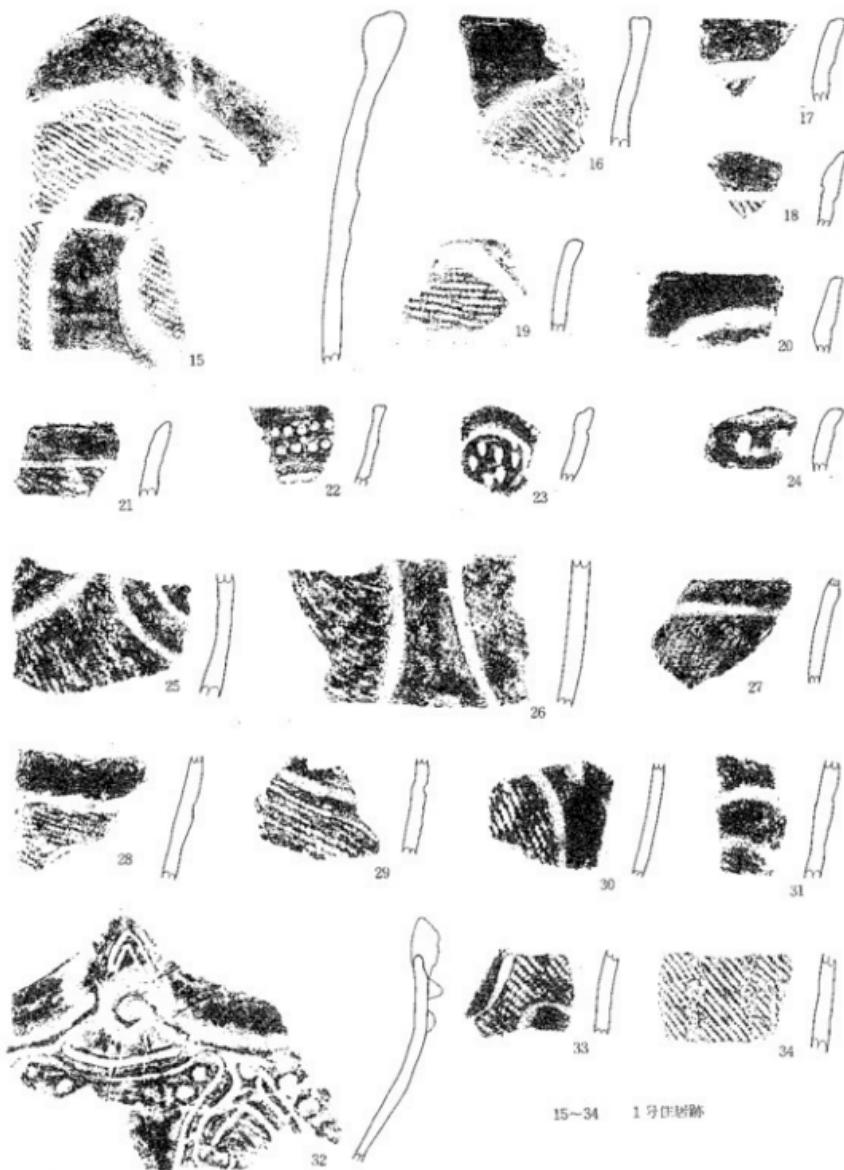
#### 土器埋設遺構

##### 1号土器埋設遺構

調査区東側の2-10-1グリッドの地山ローム面で検出された。掘り方平面形は椭円形を呈し、長径34cmを計り、深さは34cm程掘り込まれている。13は埋設土器で、口径26cm、器高40cmを計る深鉢形土器である。平縁で、口縁部がわずかに内反する。櫛目状工具により流水文が施されている。

##### 2号土器埋設遺構

調査区東側の2-6-Fグリッドの地山ローム面で検出された。掘り方平面形は、円形を呈し、径26cmを計る。14は埋設土器で、深鉢土器の胴部である。中央部に円形の貼り付文を有し、沈線で区画される。地文は撚糸文である。

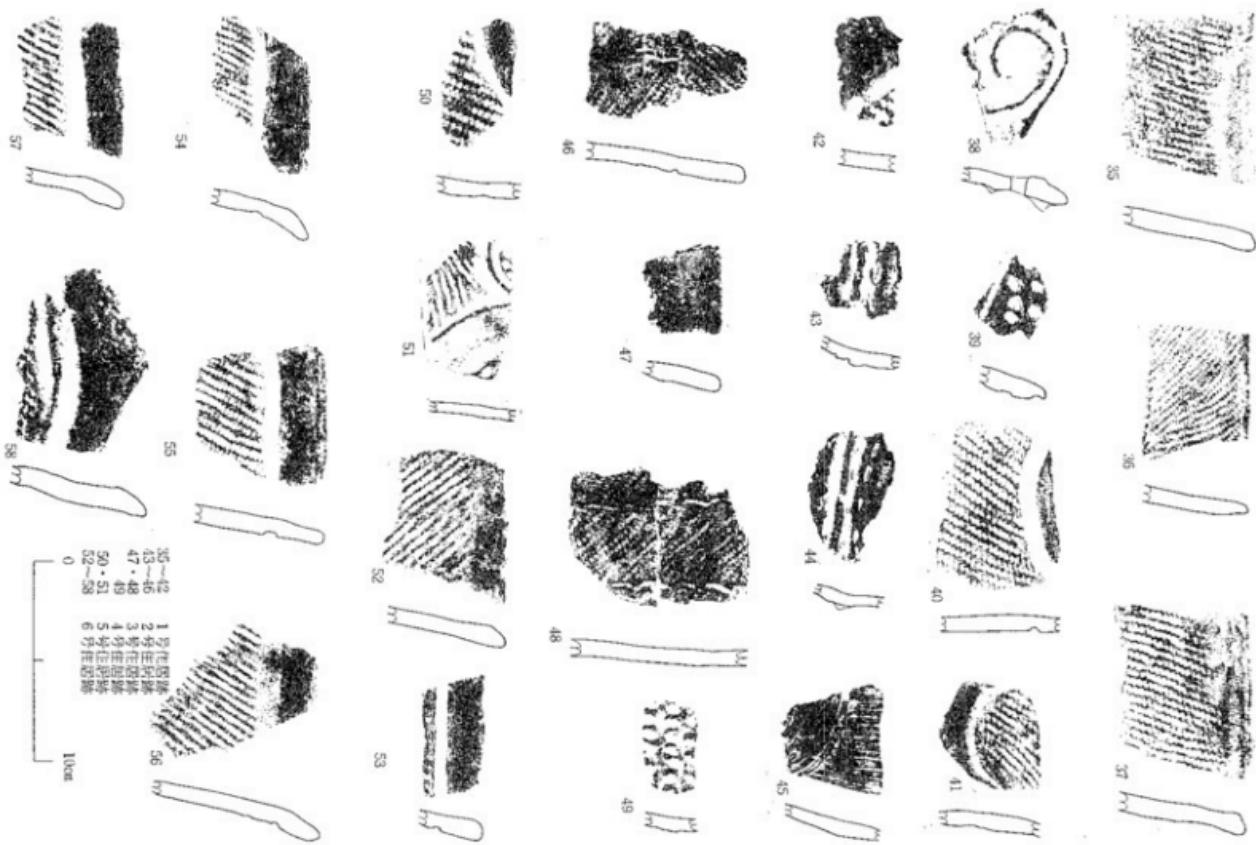


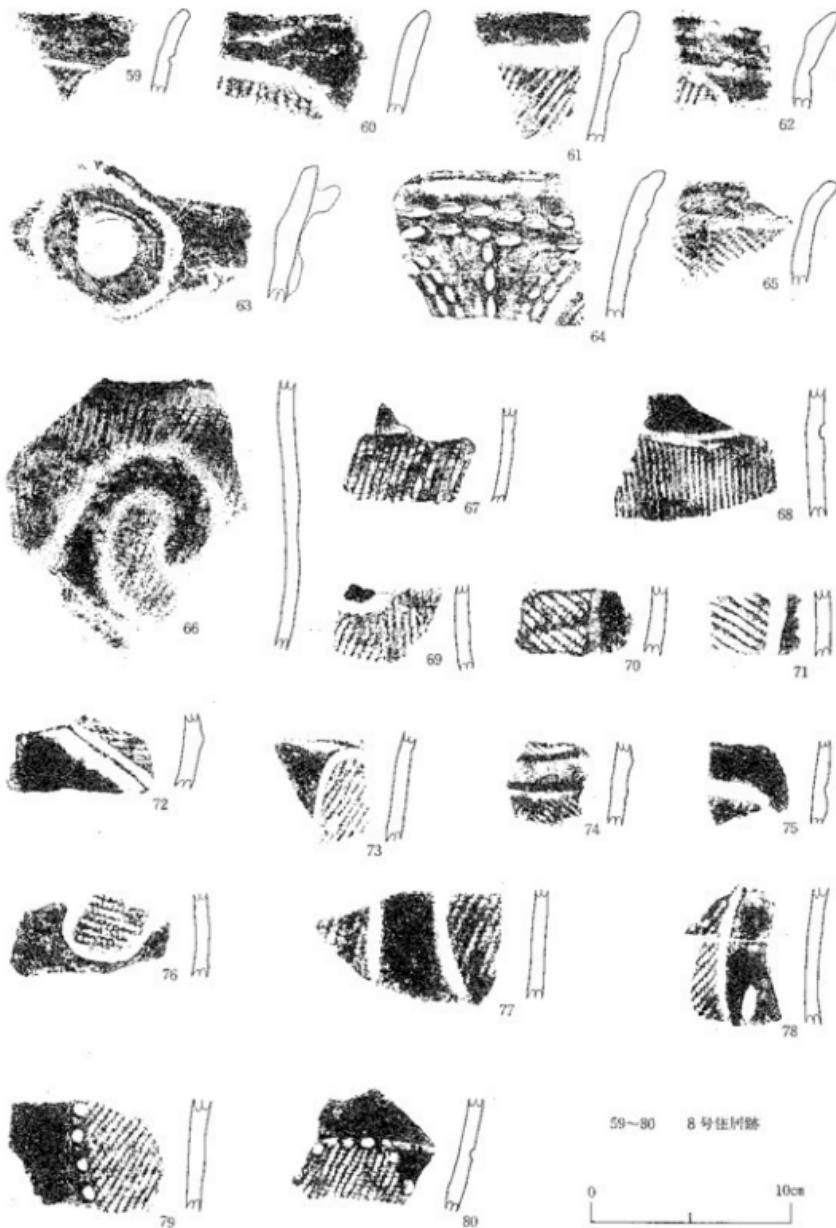
15~34 1号住跡



第20図 遺構内出土土器

第21圖 遺構內出土土器





第22図 遺構内出土土器

### 3号土器埋設遺構

調査区東側の2-6-1Fグリッドの地山ローム面で検出された。2号上器埋設遺構に隣接している。掘り方平面形は、径26cmのほぼ円形を呈する。12は埋設土器で、推定口径23cm、器高32cmを計る深鉢形土器である。平縁で、口縁部が「く」の字状に外反し、胴部が膨らむ。頸部に刺突文を施し、体部には網目状撚糸文が施されている。

### 出土土器

遺構内外出土の土器は中期末葉～後期初頭のもので、I群土器を中期末葉、II群土器を後期初頭とし、器形、文様から類別した。

#### 1群土器（第17・18・20～22・27図）

中期末葉の土器を一括した。磨消し縞文が主体をなし、列点文、刺突文などもみられる。深鉢形土器がほとんどである。

#### 1類土器（1～3・5～7・10・11・15～21・25～31・33・40～42・50～63・65～78・81～87・90・91）

沈線区画の磨消し帯によって、曲線的な文様を施す土器群である。「J」・逆「C」字状文などが展開される。

#### 2類土器（8・38）

隆線と磨消し帯によって、曲線的な文様を施しており、さらに沈線に刺突文が施される土器群である。

#### 4類土器（43・44・49）

隆線と磨消し帯によって文様を構成し、隆線に沿って、竹管状工具によって刺突文を施す土器群である。

#### 5類土器（45）

ヘラ状工具により、細い集合沈線が施されている土器である。

#### 6類土器（46・48）

地文の縄文に横・縱の「S」字状結節が施される土器群である。

#### II群土器（第19・20図）

後期初頭と思われる土器を本群とした。

#### 1類土器（12）

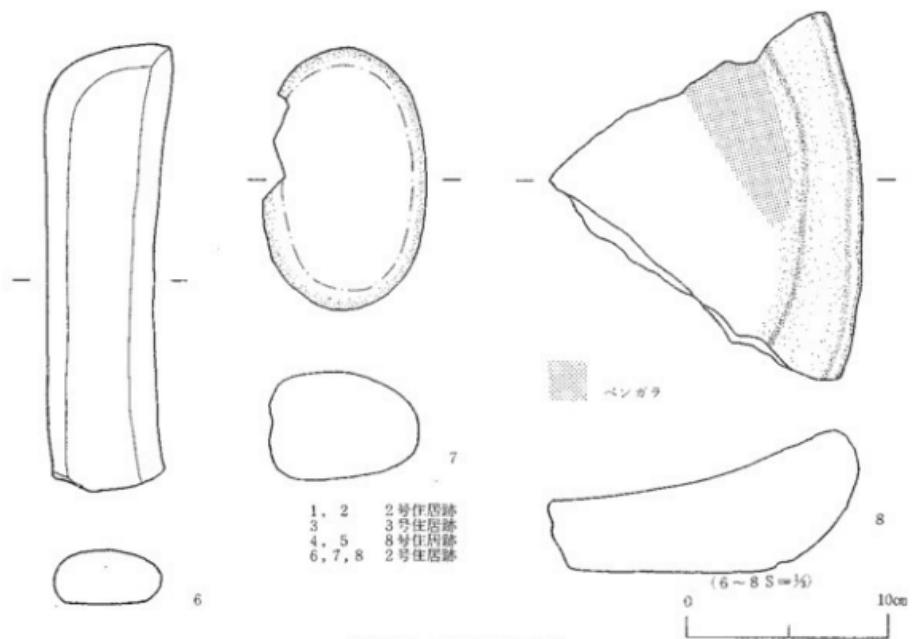
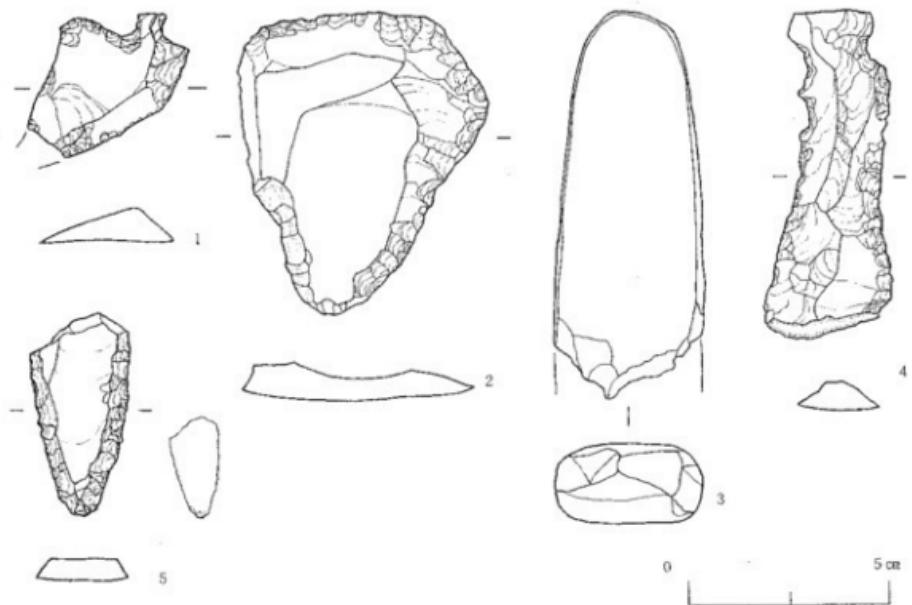
頸部に刺突文を施し、体部には網目状撚糸文が施される土器である。

#### 2類土器（13）

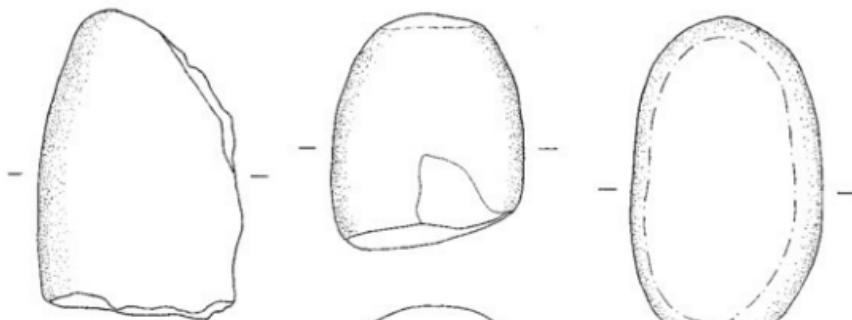
櫛状工具により、器全面に流水文が施される土器である。

#### 3類土器（14）

胸部上半中央部に円形の貼り付け文を施し、そこを中心に沈線文で区画されている。地文は撚糸



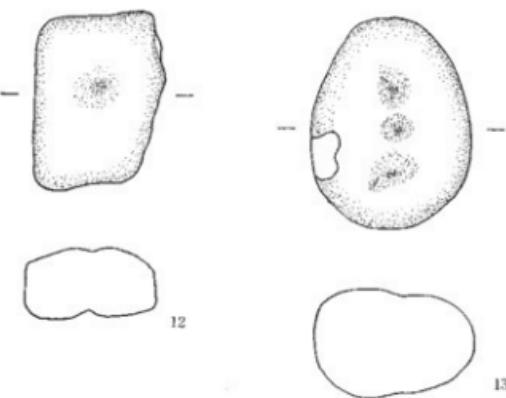
第23図 遺構内出土石器



9

10

11



12

13

9            3号住居跡  
 10        5号住居跡  
 11・12    7号住居跡  
 13        13号住居跡

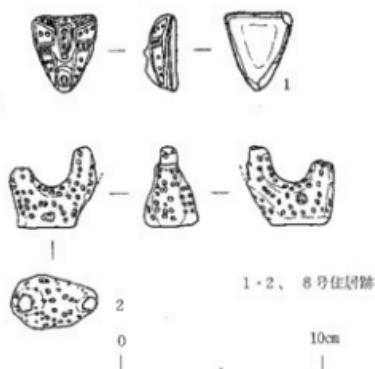


第24図 遺構内出土石器

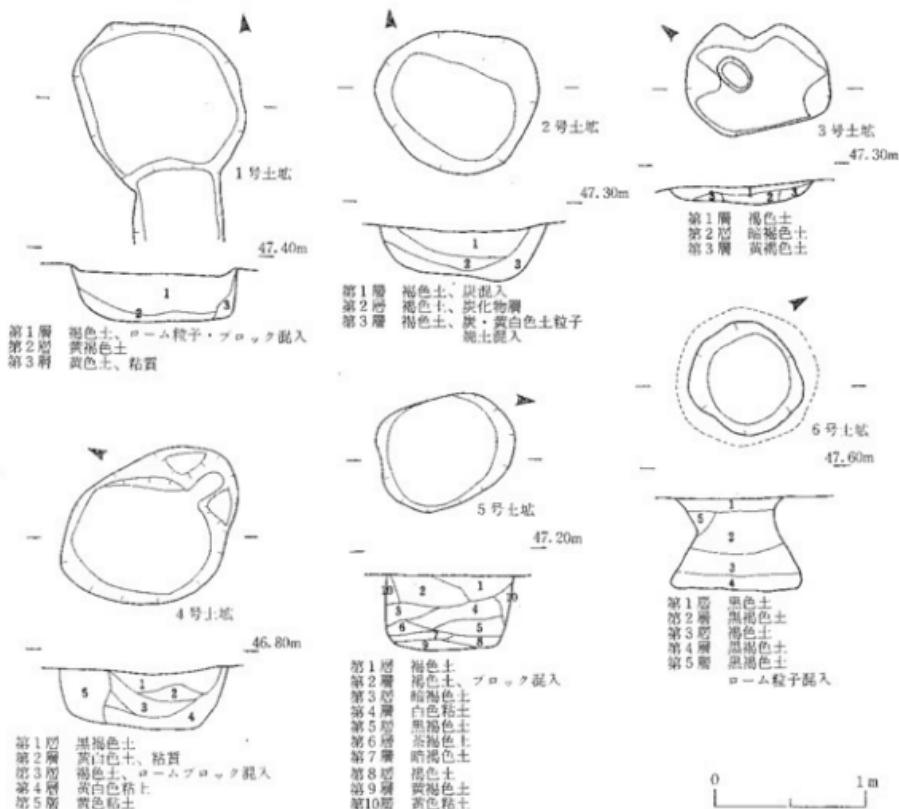
文である。

#### 4 類土器 (32)

波状口縁をなし、口縁に沿って隆線が施され、下部に細い沈線と円形刺突文で文様が施されている。



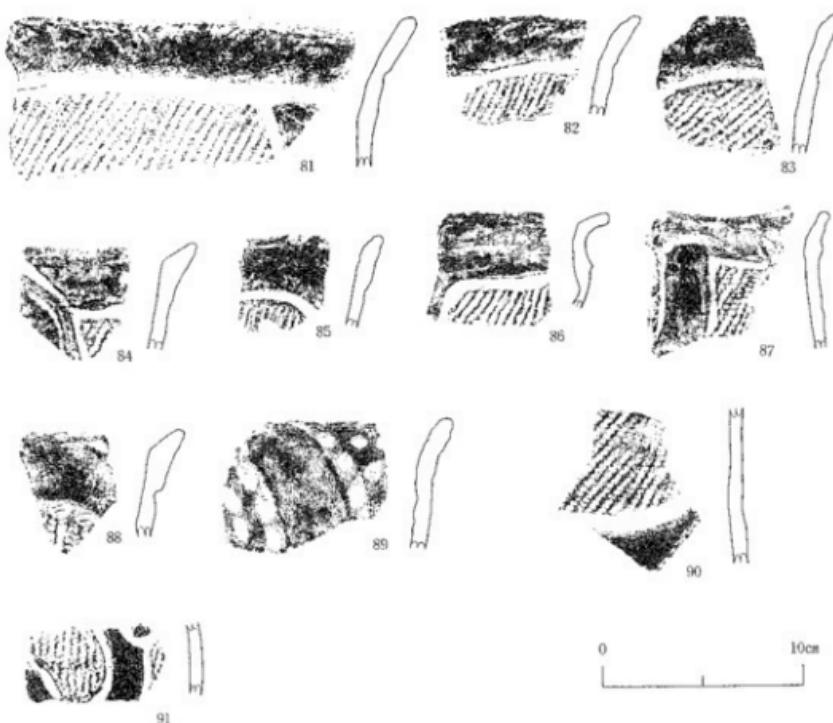
第25図 遺構内出土土製品



第26図 土塙

縄文時代中期土塙一覧表

番号	規模(cm)			平面形	断面形	出土遺物	備考
	長軸	短軸	深さ				
1号土塙	104	92	32	橢円形	鍋底状		晩期土塙墓に切られている
2号土塙	102	96	30	橢円形	鍋底状		
3号土塙	99	61	10	橢円形	皿状		
4号土塙	128	98	38	橢円形	鍋底状		
5号土塙	90	72	50	橢円形	ピーカー状		
6号土塙	径70	—	60	円形	フ拉斯コ状	中期末、大木10式、土器片	



第27図 造構外出土土器

## 縄文時代晩期

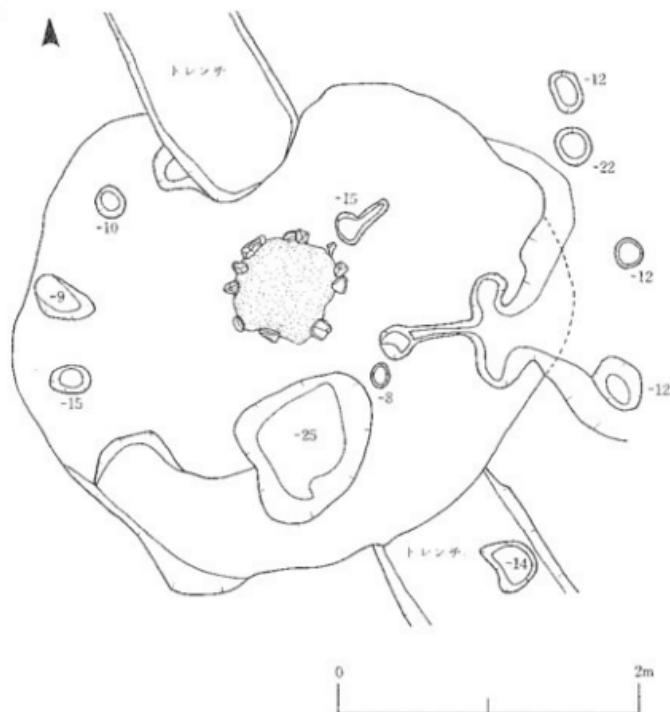
### 1号住居跡（第28図）

調査区の西側で検出された。北西・南東部は範囲確認調査トレンチによって壊されている。

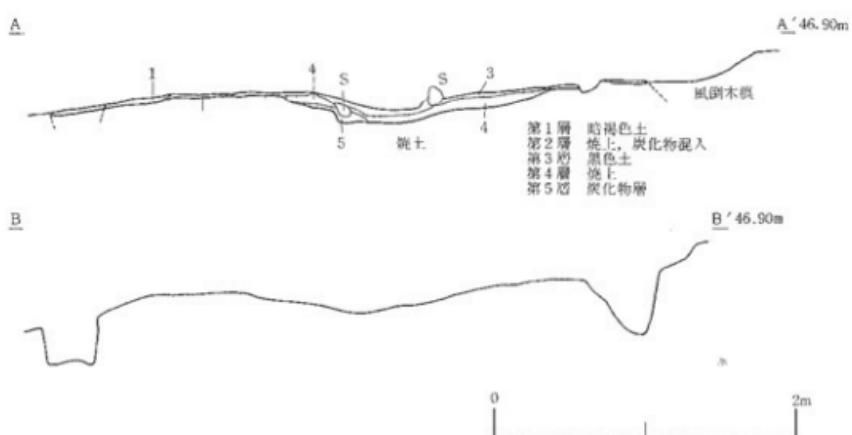
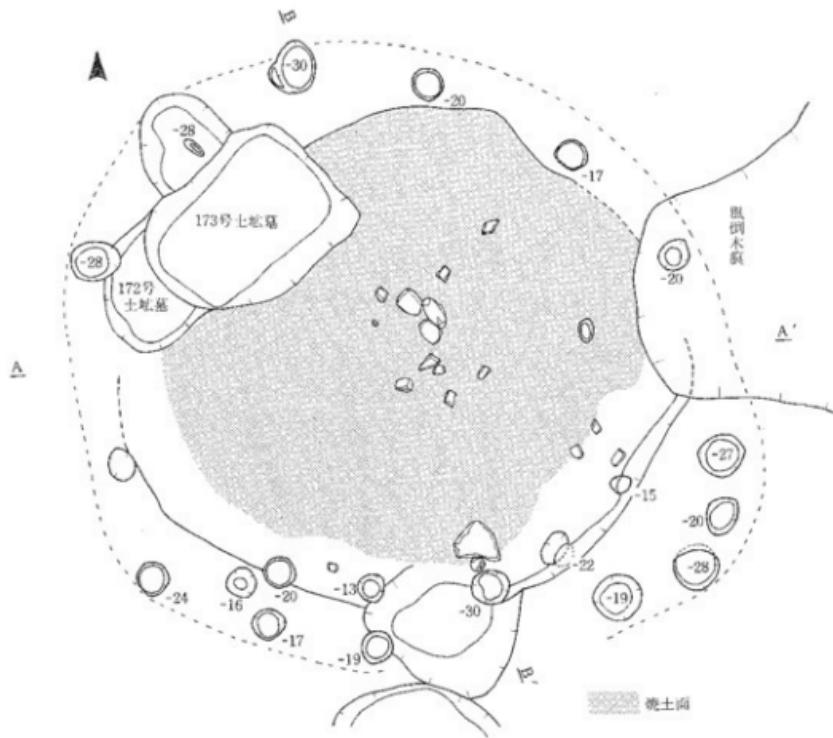
プランは径約3.5mの円形を呈する。黒土上に作られており、壁は削平されており不明である。ピットは6個検出されているが、柱穴は不明である。炉は中央部に位置にした石囲い炉で、埋設土器はない。炉内は火熱を受け赤変している。床面は全体に厚さ5cm程に粘土で貼り床されており、平坦で堅くしまり良好である。

### 2号住居跡（第29図）

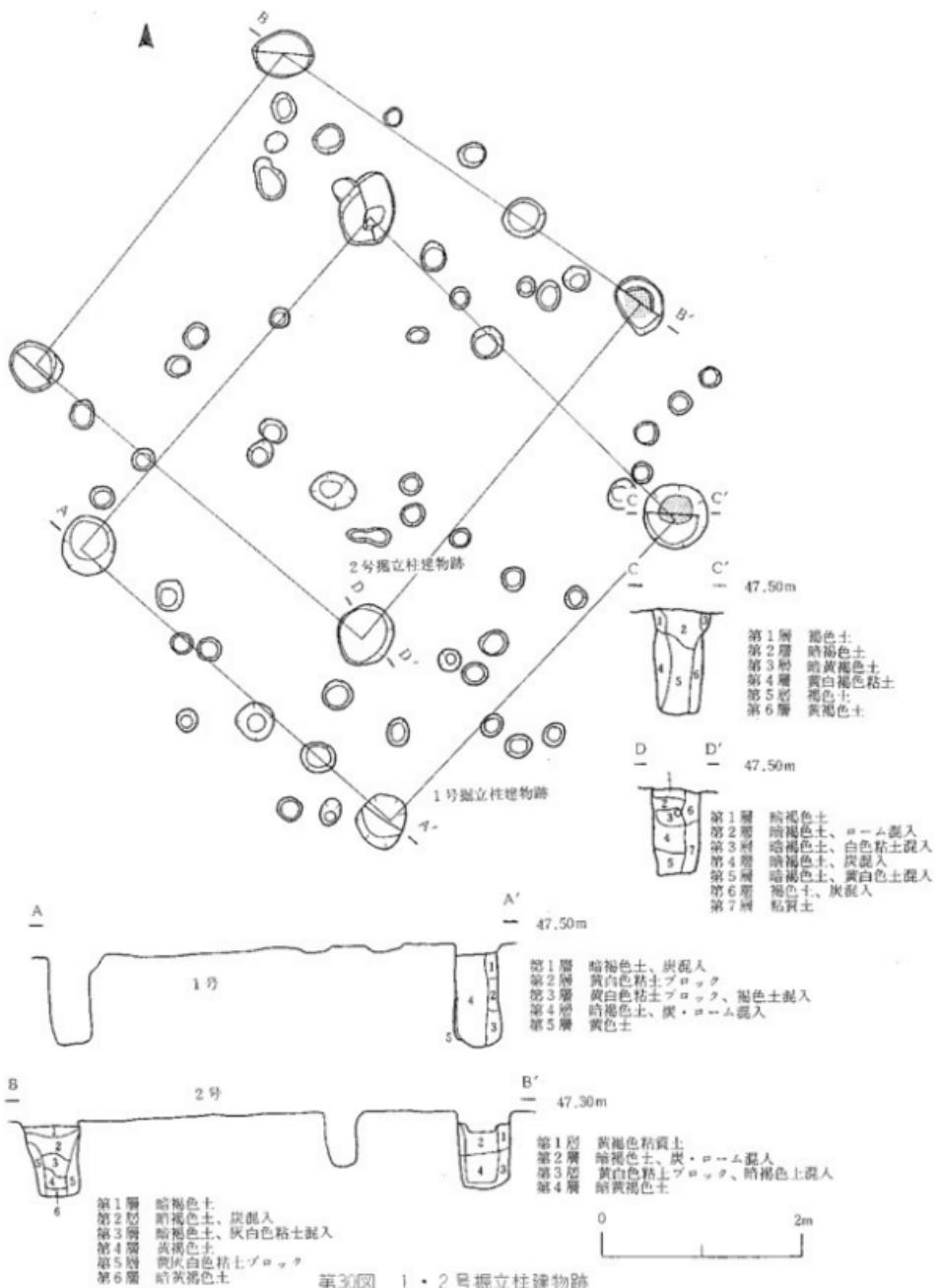
調査区の東側、北西部で検出された。東側は風倒木痕、北西部は土塙墓によって壊されている。プランは径約4.1mの円形を呈する。壁は大部分が西に傾斜する斜面のため削平を受け検出できなかった。ピットは19個検出されており、深さ17cm以上の柱穴が周っている。東南側は二列に周っている。（柱穴の配列からみると拡張があったように思える。）床面は中央部に貼り床をしており、全体的に焼けているが、中央部には広範圍に赤黒色の焼土がサンドイッチ状に堆積し、堅く焼面を形成している。炉は中央部に位置する石囲い炉であるが、礫は二次的に移動しており不規則である。炉付近は若干落ち込んでおり、下部に住居跡よりも古い土塙が検出された。南東部で柱穴が二列に周ることや、焼面がサンドイッチ状に堆積することなどを考えると、本住居跡は同位置での作り替えが行われ、拡張されたものと考えられる。



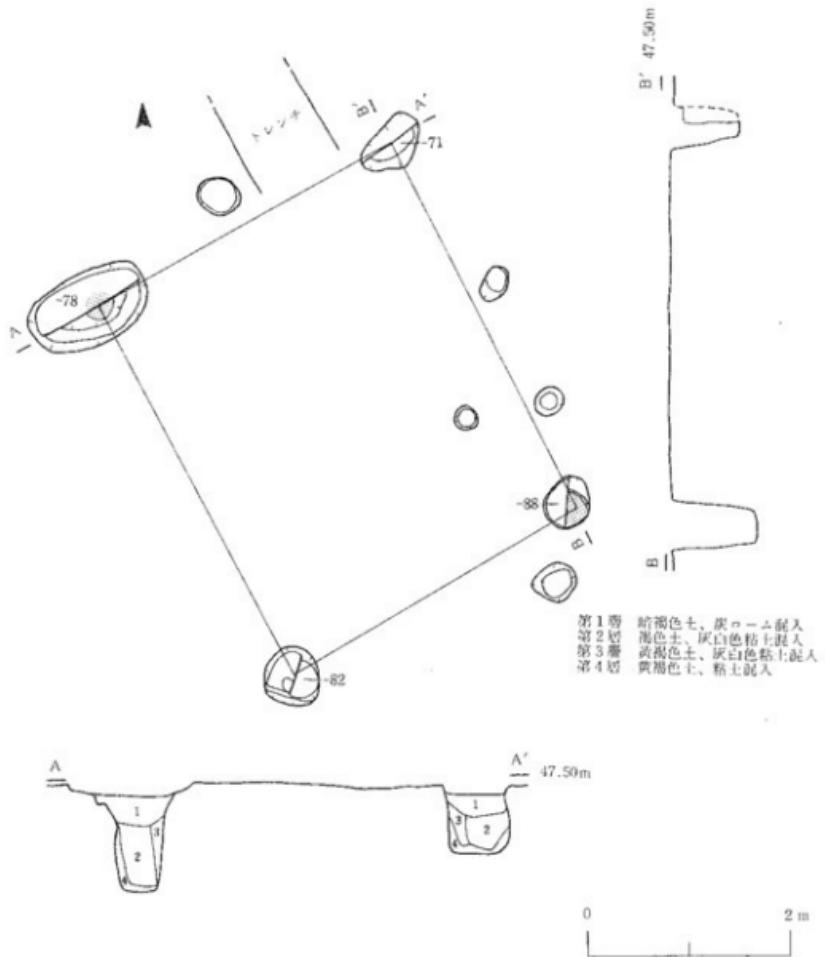
第28図 1号住居跡



第29図 2号住居跡



第30図 1・2号掘立柱建物跡



第31図 3号掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物跡（30号跡）

調査区の西側で検出された。地山ロームまで削平されており、確認面はロームである。東西1間(4.3m)×南北1間(4.2m)の掘立柱建物跡である。建物方向は北で39° 東に偏している。柱穴の掘り方規模は約48~64cmで、深さ1.0~1.1mである。東の掘り方には明瞭に、幅25cmの柱痕跡が、また北側の掘り方上面には根固め用の礫が認められる。2号掘立柱建物跡と重複関係にあるが新旧関係は不明である。

#### 2号掘立柱建物跡（30号跡）

調査区の西側で検出された。地山ロームまで削平がおよび、確認面はロームである。1間(4.3m)×1間(4.1m)の掘立柱建物跡である。建物方向は北で30° 東に偏している。柱穴の掘り方規模は

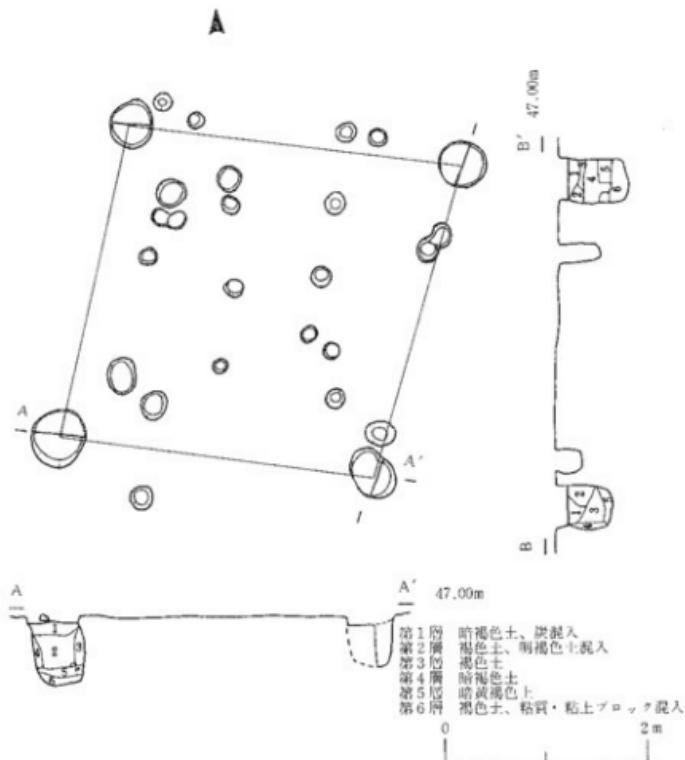
径54~60cmの円形で深さは80~90cmである。北・東の柱穴には径25~30cmの柱痕跡が明瞭に認められる。1号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係については不明である。

#### 3号掘立柱建物跡（第31図）

調査区の西側で検出された。地山ローム面で確認された。東西1間（3.3m）×南北1間（4.1m）の掘立柱建物跡である。建物方向は北で60° 東に偏している。柱穴の掘り方規模は、北西の掘り方が長径62cmと大きいが他は平均して長径22~36cmの梢円形を呈し、深さは70~110cmである。北西・南東の柱穴には径約32cmの柱痕跡が認められる。

#### 4号掘立柱建物跡（第32図）

調査区の西北部で検出された。地山ローム面まで削平されており、確認面はロームである。東西1間（3.3m）×南北1間（4.1m）の掘立柱建物跡である。建物方向は北で16° 東に偏している。柱穴の掘り方規模は径42~50cmの円形を呈し、深さは58~70cmである。南西の柱穴には径30cmの柱痕跡が認められる。



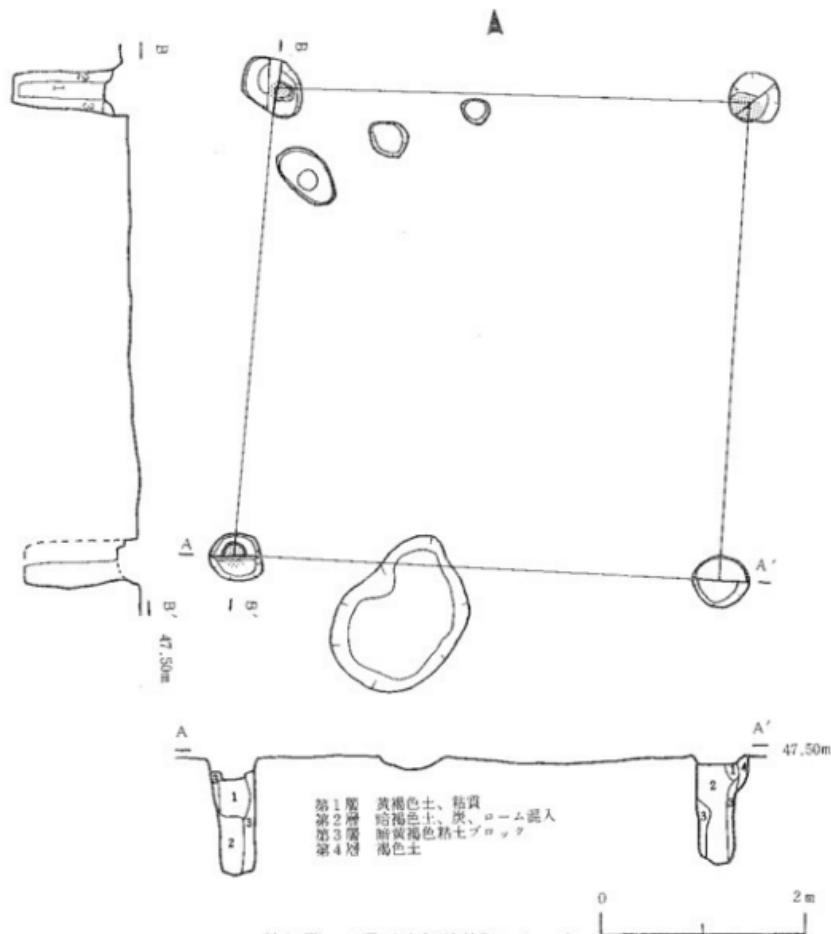
第32図 4号掘立柱建物跡

### 5号掘立柱建物跡（第33図）

調査区の西側で検出された。畑の耕作による擾乱で削平されており、確認面はロームである。東西1間（4.7m）×南北1間（4.7m）の掘立柱建物跡である。建物方向は北で $3^{\circ}30'$ 東に偏している。柱穴の掘り方規模は径50~55cmの円形を呈し、深さは1.1mである。それぞれの柱穴には径約25cmの柱痕跡が認められる。

#### 1号炉（図版11）

調査区中央よりやや東寄りの6-6-Eグリッドで検出した。確認面はⅢ層の褐色土である。径44cm程で、こぶし大の礫を粗んだがりである。炉内は焼土が厚く堆積している。



第33図 5号掘立柱建物跡・1・2

## 2号炉（図版11）

調査区中央より東側、6—7—Fグリッドで検出した。確認面はⅢ層の褐色土である。径64cm程度で、こぶし大の礫を組んだ炉である。北東部の礫は攪乱のためみられない。炉内には焼土が厚く堆積している。

## 3号炉（図版12）

調査区中央付近の6—4—Fグリッドで検出した。確認面はⅢ層下部の褐色土である。径48cm程度で、こぶし大の礫を組んだ炉である。北・南の礫は攪乱のためみられない。炉内には焼土が厚く堆積している。

## 1号土器埋設遺構（第81図）

調査区中央付近6—3—Fグリッドで検出した。確認面はローム直上の茶褐色土である。径40cm深さ48cmの掘り方を掘り、土器を埋設している。埋設されている土器は小型壺形土器と、蓋として使用された鉢形土器で、合せ口になっている。小型壺形土器は口径4.6cm、器高13.8cmを計る。全面に赤色顔料が喰布されている。3単位の土器で底部の4ヶ所には突起状の足がつく。頸部に2条の隆線がまわり、その3ヶ所に「8」の字状の突起がつき、間には連續刻目文が施される。鉢形土器は、口径12.8cm、器高12cmを計る。小波状口縁をなし口縁部には羊齒状文が残り、咬み合う部分は曲線的な形状となり連続する。

この土器埋設遺構は、明確な掘り方を掘り埋納されていることや、土器が合せ口になっていることなどからいわゆる土器棺墓と思われる。

## 土塙墓（第34～79図）

調査区の西・東側で総数559基の土塙墓を検出した。ほとんどが複雑に重複しており、特に東側では密集して検出されている。詳細については表としてまとめた。

## 土塙墓出土遺物

### 9号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：10は鉢形土器、11～13は浅鉢形土器である。いずれも覆土から出土した。10～12は口縁部に平行沈線文がまわる。11には連續刻目文がみられる。13は体部破片で磨消し細文が施される。また「X」字状文が展開する。

### 13号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：1は円盤状石製品である。扁平な礫を打ち欠いて円形に加工している。

### 15号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：2は有茎の石鏃である。基部の両面にアスファルトが付着している。

### 17号土塙墓出土遺物（第85図）

石製品：1は両面から穿孔された勾玉、2は半分欠損する小玉である。

### 18号土塙墓出土遺物（第93図）

# 土 塚 墓 一 覧 表

土地番 番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
1	132	62	118	50	15	不整形			N-35° E		
2	145	75	132	59	26	橢円形			N-82° W		
3	136	△ 45	124	△ 42	15	橢円形			N-46° W		
4	120	45	105	36	12	橢円形			N-19° E		
5	120	52	110	48	23	橢円形			N-43° W		
6	130	105	116	92	10	不整形			N-31° E		
7	120	70	112	51	13	橢円形			N-3° E		
8	125	89	117	73	12	不整形			N-37° E		
9	134	75	125	62	16	橢円形			N-35.5° W	第82図10~13	
10	142	△ 65	131	△ 44	31	橢円形			N-43° W		
11	130	68	116	55	25	橢円形	北西部	西	N-69° W		
12	167	79	100.5	52	40	橢円形			N-69° W		
13	120	64	95	54	24	橢円形			N-24° W	第93図1	
14	120	75	103	56	28	橢円形			N-76° W		
15	130	49	112	37	20	橢円形			N-82° W	第93図2	
16	97	57	64	46	30	橢円形			N-57° W		
17	150	△ 60	128	△ 40	13	橢円形			N-77.5° W	第85図1・2	
18	110	67	91	43	56	橢円形			N-31° E	第93図3	
19	184	△ 85	167	△ 65	31	橢円形			N-57° W	第85図3	
20	117	55	113	42	44	橢円形			N-89° W		
21	△ 120	87	△ 115	64	17	橢円形			N-42° E		
22	184	79	163	68	36	馬蹄形	北部	北	N-4° W		
23	111	△ 42	104	42	15	橢円形			N-19° E		
24	113	64	94	50	27	橢円形			N-6° W		
25	△ 70	55	△ 65	52	18	円形			N-58° W		
26	163	100	120	63	25	橢円形			N-38° W		
27	148	75	125	57	25	橢円形			N-46° W	第82図14	
28	132	52	123	43	8	橢円形			N-55° W	第93図4	
29	130	62	120	52	15	橢円形			N-39° W		
30	140	△ 55	130	△ 50	22	橢円形	北西部	西	N-78° W		
31	124	55	120	36	28	橢円形	南西部	西	N-112° W	第82図15・16	
32	149	68	135	56	25	橢円形			N-64° W		
33											擾乱で削平のため詳細不明

△ 推定の“規模”もしくは“以上”を示す

土器番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
34											擾乱で削平のため詳細不明
35	180	117	159	90	35	椭円形	北西部	西北	N-45.5°-W		
36	180△	95	165△	75	11	椭円形	北西部 中央寄り	西	N-73°-W		
37	155	80	128	61	28	椭円形			N-85.5°-W	第93図8	
38	117	62	97	44	21	椭円形			N-47°-W		
39	110	73	98	65	5	楕円長方形			N-46°-W		
40	150	82	140	78	8	椭円形			N-36°-W	第93図5~7	
41	172	84	158	60	35	椭円形			N-62°-W	第80図1	
42	113	74	80	47	34	椭円形			N-50°-E	第85図4~5	
43	143	78	118	63	17	椭円形			N-57°-W		
44	98	45	92	39	10	椭円形			N-81°-E		
45	128	72	96	32	28	椭円形			N-72°-W		
46	147	72	137	64	9	椭円形			N-58°-E	第82図17	
47	135	73	116	63	15	椭円形			N-64°-E	第82図18~19	
48	106	74	98	60	10	椭円形			N-72°-E		
49	160	75	150	68	10	楕円長方形			N-61°-W		
50	125	75	116	67	16	椭円形			N-57°-E		
51	120	60	117	55	24	椭円形			N-68°-W		
52	128	87	115	65	18	椭円形	北西部	西北	N-57°-W		
53	122	88	110	63	12	椭円形			N-56°-W		
54	160	70	150	55	27	椭円形			N-50.5°-W		
55	△118	60	95	40	23	椭円形	南西部	西	N-102.5°-W		
56	132	50	115	40	18	楕円長方形			N-47°-W		
57	150	50	130	42	25	椭円形	北東部		N-48°-E		
58	115	68	100	53	21	椭円形			N-18.5°-E		
59	125	72	115	62	9	椭円形			N-1°-W		
60	95	60	80	55	8	椭円形			N-10°-W		
61	△125	75	△110	63	8	椭円形			N-10°-E		
62	128	83	112	72	16	椭円形			N-30°-W		
63	75	53	58	43	19	椭円形			N-71°-W		
64	147	67	122	48	14	椭円形			N-39°-W		
65	144	83	119	76	20	椭円形			N-36.5°-W	第85図6~22	
66	105	70	92	39	30	椭円形			N-87°-W	第85図23~25	

土地番号	地口部(cm)		地底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
67	100	47	86	36	4	橢円形			N-32.5°-W		
68	86	45	75	39	18	橢円形	北西～中火部	西北	N-38°-W		
69	98	55	89	47	5	橢円形					
70	108	53	100	38	25	橢円形	北西部	東北	N-54°-E		
71	157	74	140	57	20	橢円形			N-103°-W (N-77°-E)		
72	100	62	92	50	13	橢円形			N-82°-E		
73	124	89	116	68	41	橢円形	北西部		N-51°-E		
74	△140	△50	△130	△50	14	橢円形			N-43°-W	第85図26	
75	143	62	122	47	60	橢円形	西部(やや 中火寄り)	西	N-82°-W		
76	78	65	61	53	25	橢円形			N-70°-W		
77	177	95	150	74	23	橢円形			N-56°-W		
78	167	92	137	68	33	橢円形			N-48°-W		
79	164	110	138	67	55	橢円形	北西部	北西	N-42°-W	第80図2 第85図27・28	
80	124	58	112	50	6	橢円形			N-58.5°-E	第82図20	79号土地、轟よ り新しい。
81	107	45	98	38	9	橢円形			N-44°-W		
82	125	67	114	60	9	橢円形			N-59°-W		
83	116	75	105	65	24	橢円形			N-61°-W		
84	150	84	135	74	37	橢円形			N-56°-W		
85	140	70	130	65	5	不整形			N-88°-E		
86	171	87	145	60	47	橢円形	北西部	北	N-11°-W	第80図3、 第82図 21～29、 第83図9	
87	147	84	108	46	43	橢円形			N-28°-W		
88	137	70	110	45	22	橢円形			N-40.5°-W		
89	135	83	98	43	29	橢円形			N-40°-W		
90	155	73	143	65	37	橢円形	西部	西	N-80.5°-W	第80図4 第82図29～34	
91	140	90	112	48	33	橢円形			N-32.5°-W		
92	137	57	126	52	14	橢円形			N-73°-E		
93	140	64	130	56	20	橢円形			N-22°-E		
94	138	83	125	66	12	橢円形			N-48°-E		
95	125	60	115	51	13	橢円形			N-42°-W	第82図35～37	
96	172	83	155	60	20	橢円形			N-75°-W	第83図38	
97	170	77	162	70	9	橢円形			N-34°-W		
98	145	73	137	65	10	橢円形			N-50°-W		
99	135	75	122	60	25	橢円形			N-90°-W		

七塁墓 番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
100	134	67	96	48	50	椭円形			N-13.5°-E	第83図39~41	
101	135	70	102	60	35	椭円形			N-80°-W		
102	70	60	63	50	20	不整形			N-36°-W		
103	163	△72	147	△70	13	不整形			N	第83図42~44	東側擾乱
104	128	60	108	45	25	椭円形	中央部	西北	N-62°-W		
105	93	60	80	47	33	椭円形			N-63.5°-W	第95図36	
106	134	63	125	48	19	椭円形			N-73°-W	第83図45、 第85図29	
107	149	64	115	35	25	椭円形			N-47°-W		
108	170	95	155	77	45	椭円形			N-55°-W		
109	△80	47	△80	35	25	椭円形			N-19°-W		
110	150	△75	127	60	25	椭円形			N-61°-W		
111	120	57	100	40	42	椭円形			N-15°-E		
112	110	50	95	38	40	椭円形			N-66°-W		113号墓を切っ ている
113	△95	△67	△90	△55	15	椭円形			N-68°-W	第85図30	
114	△70	△60	△62	△50	21	椭円形	南部	南西	N-153°-W		
115	139	65	130	55	40	椭円形	南西部	南西	N-134°-W		
116	△43	75	△50	62	50	椭円形			N-46°-W		108号墓に切ら れている。
117	△70	△40	△70	△40	38	椭円形			N-22°-E		
118	△110	70	△110	60	18	椭円形			N-50°-W		
119	△80	△63	△85	△58	38	椭円形			N-69°-W		
120	△122	75	92	50	46	椭円形			N-50°-E		121号墓を切っ ている。
121	△165	110	△145	100	39	椭円形			N-51°-E		122号墓を切っ ている。
122	100	70	80	50	23	椭円形			N-82°-E		
123	146	68	135	50	30	椭円形			N-47°-W		
124	137	83	125	62	27	椭円形	北西～ 中央部	西北	N-60°-W		
125	△120	75	△100	63	15	椭円形			N-47°-W		旧→新 Ⅳ→Ⅲ→Ⅱ
126	112	68	95	53	43	椭円形	北部	北	N-0.5°-E		
127	△50	△50	△40	43	17	椭円形			N-57°-W		
128	114	53	107	34	54	椭円形			N-62.5°-W		
129	146	73	127	64	54	椭円形			N-69°-W		
130	120	70	113	60	56	椭円形	北西部	西北	N-49°-W	第86図31~33	
131	△120	60	△110	50	30	椭円形	北西部	北西	N-46°-W		130号墓に切ら れている。
132	127	57	102	35	30	椭円形			N-76°-W		

土地番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
133	110	61	94	56	14	楕円形			N-67°-W		
134	142	62	△55	△53	16	楕円形			N-35°-E		135号墓に切 られている。
135	143	78	74	53	27	楕円形	北西部	西北	N-50°-W	第86図34~42	
136	△80	60	73	50	26	楕円形			N-12°-E		135号墓に切 られている。
137	104	55	85	42	23	楕円形			N-72°-W		
138	142	61	80	35	44	楕円形			N-58°-W	第93図10	
139	98	51	80	31	27	楕円形			N-49°-E		
140	133	79	108	45	35	楕円形	北西部	西北	N-57.5°-W		
141	134	76	117	68	38	楕円形	西部	西	N-78.5°-W		
142	100	74	△80	69	11	楕円形			N-90°-E		旧→新
143	82	61	73	40	23	楕円形			N-81°-W		144~143~142
144	118	60	108	53	8	楕円形			N-1.5°-W		
145	105	△50	87	△38	18	楕円形			N-30°-W	第86図43	旧→新
146	△40	63	△35	50	18	楕円形			N-3°-W		148~147
147	155	63	140	40	25	楕円形	北西部	西北	N-61.5°-W	第86図44~45	146~145
148	△53	△60	△43	50	20	楕円形			N-31°-E		
149	188	86	159	66	39	楕円形			N-67°-W	第86図46	
150	80	73	75	45	31	楕円形			N-96°-W		(N-84°-E)
151	△100	△47	△90	△42	8	楕円形			N-61°-W	第86図47~53	旧 151
152	△75	66	△69	53	15	楕円形			N-78°-W	第86図54~57	↓ 153 ↓ 152 ↓ 新 154
153	165	74	142	52	27	楕円形	北部	北	N-11°-W		
154	△125	55	120	42	25	楕円形	北西部	西	N-77°-W		
155	△107	55	△113	43	10	楕円形	東部	東	N-97°-E		
156	△120	70	△120	55	7	楕円形			N-17°-W		
157	120	50	107	42	15	楕円形			N-73.5°-W		
158	113	67	103	54	32	楕円形			N-20°-W		
159	116	60	106	50	25	楕円形			N-46.5°-W	第93図11	
160	△75	65	65	60	32	円形			N-32°-W		161号墓を切 っている。
161	△130	75	△110	65	30	楕円形	北西部	北	N-21°-W	第80図5	
162	△130	△85	△125	75	18				N-150°-W	第86図58~64、 第87図65~78	旧 166 ↓ 163 ↓ 164 ↓ 162 ↓ 新 165
163	△120	△35	△115	△28	14	楕円形	北部	北	N-14.5°-W		
164	163	△70	132	75	30	楕円形			N-15°-W	第83図46、第87 図79、第93図12	
165	86	△45	70	△35	25	楕円形			N-29°-W		

上地墓 番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
166	△ 64	65	△ 58	49	38	橢円形			N-4°-W		
167	145	80	142	68	45	圓丸 長方形	北西部	西北	N-46°-W		
168	△ 123	98	△ 110	88	37	橢円形	北東部	北	N-34°-E		
169	△ 135	82	115	67	25	圓丸 長方形			N-64.5°-W		
170	115	55	92	△ 40	29	橢円形			N-12°-W		
171	130	86	112	68	29	橢円形			N-80°-W		
172	△ 47	73	△ 40	60	12	橢円形			N-51°-E		
173	127	100	115	68	63	圓丸 長方形			N-43°-E		
174	158	74	138	57	18	橢円形			N-94°-W		
175	127	72	114	65	12	橢円形			N-4°-E		
176	94	△ 60	82	△ 50	14	橢円形			N-63°-W		
177	133	△ 65	95	57	20	橢円形	北西部	西北	N-51.5°-W	第93図13	
178	△ 24	59	△ 15	48	10	橢円形			N-51.5°-W		
179	106	65	932	46	21	橢円形			N-10°-W		
180	△ 90	60	△ 80	44	18	橢円形			N-69°-W		
181	130	100	86	60	31	橢円形			N-18°-E		
182	128	56	105	45	23	橢円形			N-78.5°-W		
183	119	53	92	37	26	橢円形			N-52°-W		
184	△ 143	70	△ 135	60	15	橢円形			N-51.5°-W	第83図47	
185	115	53	43	27	27	橢円形			N-81°-W		
186	△ 93	57	△ 75	50	11	橢円形	北西部	西北	N-47°-W	第87図80~82	
187	163	64	135	51	22	橢円形			N-78.5°-W		
188	△ 78	△ 50	△ 70	△ 43	13	橢円形			N-41°-W		
189	150	70	135	58	33	橢円形			N-34°-W		
190	150	75	140	64	17	橢円形			N-51°-W		
191	140	65	125	54	14	橢円形			N-82°-W		
192	△ 130	75	△ 110	60	16	橢円形			N-41°-W		
193	85	60	73	49	35	橢円形	中央部	北	N-22.5°-W	第87図83	
194	148	58	130	35	21	橢円形			N-51°-W		
195	125	△ 60	115	△ 60	18	橢円形	南西部	西	N-112.5°-W		
196	△ 130	△ 60	△ 120	△ 55	21	橢円形	北西部	西北	N-57°-W	第83図48	
197	113	95	100	65	45	橢円形			N-38°-W		
198	125	△ 55	105	△ 50	12	橢円形			N-63°-W		

↓  
184 186 188  
↓↓↓↓  
183 185 187  
↓  
新 189

↓  
196号墓に切  
れている。

土地番 番号	埴上部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
199	120	60	110	52	15	椭円形			N-69°-W	第93図14・15	
200	△ 45	65	△ 40	38	45	椭円形				第83図49・50	197号墓に切 られている。
201	△ 120	83	△ 127	75	40	楕円長方形					
202	148	93	139	88	45	椭円形	北西部	西北	N-66°-W	第93図16	
203	180	△ 70	160	△ 60	27	椭円形	北西部	西北	N-50.5°-W	第93図17	
204	△ 73	75	△ 66	55	20	椭円形			N-47.5°-W	第93図18	205号墓に切 られている。
205	133	66	112	50	44	椭円形			N-525°-W		
206	△ 100	75	△ 93	60	23	椭円形			N-65°-W		
207	98	82	87	55	32	楕丸方形			N-48°-W	第87図84~86	
208	107	58	93	43	14	椭円形			N-80°-W		
209	125	65	106	55	12	椭円形			N-92°-W (N-88°-E)		
210	148	65	130	51	20	椭円形			N-58°-W	第94図19	
211	141	43	106	37	12	椭円形			N-78°-W		
212	97	66	80	50	16	椭円形			N-70°-W	第87図87	
213	△ 130	80	115	50	42	椭円形			N-19°-E		
214	160	△ 70	140	△ 65	54	椭円形	南東部	東	N-108°-E		
215	138	75	122	55	29	椭円形			N-40°-W	第87図88・89	
216	△ 140	45	△ 130	30	41	楕丸長方形			N-41°-W	第87図90	
217	173	△ 67	165	△ 60	43	椭円形			N-45.5°-W	第87図91	
218	137	△ 60	130	60	32	椭円形			N-45°-W		
219	140	65	125	45	50	椭円形			N-100°-W (N-80°-E)		
220	145	△ 75	125	△ 70	28	椭円形			N-79°-W		
221	△ 100	△ 61	△ 100	△ 58	28	椭円形			N-108°-W (N-72°-E)		
222		53		47	28				N-70°-W		
223	115	50	90	△ 45	45	椭円形			N-57°-E		
224	147	65	114	50	31	椭円形			N-44°-W		
225	△ 100	△ 60	△ 100	△ 50	13	椭円形			N-86°-E (N-94°-W)		
226	155	△ 60	142	△ 60	40	椭円形	北東部	北東	N-49°-E		227号墓に切 られている。
227	150	73	125	70	40	椭円形			N-56°-E	第83図51・52	
228	△ 55	△ 60	△ 50	△ 45	20	椭円形			N-43°-E		
229	205	85	180	73	48	椭円形	中央部	北西	N-49°-W		上部構造に 石積の可能性
230	120	63	95	△ 40	35	椭円形			N-57°-E		
231	△ 90	45	82	30	25	椭円形			N-48°-E	第83図53	

土地番号	埴生部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
232	123	50	117	38	8	橢円形			N-62°-W	第94図20	
233	△120	55	△113	40	19	橢円形			N-46°-E		
234	△100	△60	△100	△50	30	橢円形			N-30°-E		
235	130	△70	115	△65	30	橢円形	北西部	西北	N-58°-W		
236	△115	62	△110	43	50	橢円形	南西部	南西	N-155°-W		
237	190	73	175	60	45	橢円形			N-58°-W	第88図、第89図 120~126	234・235号墓を を切っている。
238	△65	55	△65	42	37	橢円形			N-1°-W		II 239 ↓ ↓ 238 240 ↓ 新 237
239	115	62	100	50	45	橢円形	北西部	西北	N-68.5°-W		
240	135	△60	115	△50	30	橢円形			N-28°-W		
241	△98	△65	△95	△60	10	橢円形			N-29°-W	第89図127~129	
242	123	80	104	67	54	橢円形			N-18°-W		
243	145	60	130	43	7	橢円形	北西部	北西	N-28°-W		
244	193	90	182	78	53	橢円形	北西部	西北	N-66°-W		
245	125	△60	97	△45	20	橢円形			N-68°-W		
246	153	72	137	60	41	橢円形	北西部	北西	N-23.5°-W		
247	△155	△50	△150	△50	18	橢円形			N-66°-W	第94図21	
248	125	77	103	53	34	橢円形	北西部	西	N-84.5°-W		
249	△65	65	△50	45	25	橢円形			N-65°-W		
250	138	85	120	56	37	橢円形	西部	西	N-90°-W		
251	118	74	102	60	32	橢円形	中尖~ 北西端	西北	N-68°-W		旧→新 252~251 253
252	130	△70	110	△40	25	橢円形			N-64°-W		
253	145	△40	15	△30	25	橢円形			N-70°-W		
254	△100	75	△98	57	35	橢円形			N-74°-W	第89図130	
255	159	72	138	45	25	橢円形	北西部	北西	N-50°-W		
256	139	67	130	58	38	橢円形	中央部	西北	N-70°-W		
257	130	50	117	35	40	橢円形			N-72°-W		
258	130	65	115	52	34	橢円形			N-86.5°-W		
259	180	78	125	53	40	楕円形 長方形			N-86.5°-W		
260	107	95	90	73	37	橢円形			N		
261	146	60	127	48	45	橢円形			N-91°-W		
262	△105	△50	△100	△40	36	橢円形	西部	西	N-82.5°-W		
263	110	65	83	40	40	橢円形			N-107°-W		
264	△120	75	△105	60	40	橢円形	西部	西	N-105°-W		

土地基番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
265	115	△ 45	85	△ 40	55	楕円形			N-22.5°-W		
266	124	△ 60	106	45	57	楕円形	北西部	北西	N-30.5°-W		
267	△ 80	△ 80	△ 80	△ 65	43	楕円形			N-42°-E		
268	100	60	68	47	50	楕円形			N-36°-W		
269	△ 70	55	55	47	47	楕円形			N-35°-W		
270	△ 195	△ 80	△ 185	△ 75	50	楕円形	北西部	西北	N-69°-W		
271		68		52	45	楕円形			N-22°-W		
272	105	△ 60	95	△ 65	44	楕円形			N-28°-W		
273	80	△ 30	65	△ 25	24	楕円形	西部	西北	N-78°-W		
274	108	△ 65	100	△ 55	42	楕円形			N-60°-E		
275	140	80	135	60	55	楕円形	西部	西	N-81°-W		
276	158	90	135	75	55	楕円形			N-24°-W		
277	△ 182	77	△ 175	62	△ 45	楕円形			N-68°-W	第80図6-7	
278	120	△ 50	115	△ 45	8	楕円形			N-69°-W		
279	△ 140	60	△ 130	50	20	楕円形	北西部	西北	N-68.5°-W		
280	△ 130	△ 55	△ 125	△ 40	20	楕円形			N-10°-E	第89図131	283・284号墓に切られていた。
281	110	58	100	45	30	楕円形			N-32°-W		
282	100	△ 50	70	△ 40	40	楕円形			N-45°-E		
283	△ 50		△ 45			楕円形			N-28°-W		
284		63		50	28				N-54°-E		
285	134	63	117	46	28	楕円形			N-37°-W	第83図54~58	
286	115	△ 45	96	△ 37	33	楕円形			N-98°-W		287号墓に切られていた。
287	100	70	82	42	51	楕円形			N-82°-W		
288											
289	136	73	122	64	13	楕円形			N-16°-W	第83図59	
290	△ 85	70	△ 70	45	41	楕円形			N-1°-W		
291	145	70	120	45	47	楕円形	西部	西	N-91°-W		
292		80		55	30				N-75°-W		
293	106	85	80	65	35	楕円形			N-10°-W		
294	△ 100	△ 85	△ 85	△ 70	42	円形			N-31°-W		
295	156	△ 70	124	△ 60	30	楕円形	中央部	北西	N-32°-W		
296	103	62			38	楕円形			N-29°-W		
297	90	△ 54	75	△ 50	27	楕円形			N-65°-W		

七式番 号	坡口部(cm)		坡底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
298	135	78	115	67	50	橢円形	北西部	北西	N-34°-W		
299	130	△ 60	110	△ 50	36	橢円形	北西部	西北	N-54°-W		
300	122	72	114	50	59	橢円形	北西部	北西	N-37°-W	第89図132勾玉	
301	160	△ 60	120	△ 60	39	橢円形	中央部	西北	N-59°-W		
302											
303	△ 80	△ 35	△ 75	△ 20	14	橢円形	北西部	北	N-20°-W	第89図134	
304	143	74	116	60	50	橢円形	北部	北	N-5°-E		303、305を切っ ている。
305	155	△ 110	137	103	27	橢円形			N-92°-W		304に切られて いる。
306	130	58	115	42	37	橢円形	北西部	西北	N-62°-W		
307	110	85	88	68	35	橢円形			N-27°-E		308に切られて いる。
308	126	56	109	42	37	橢円形			N-58°-E		
309	120	△ 90	100	△ 80	35	橢円形			N-64°-E		
310	130	△ 36	115	△ 27	30	橢円形			N-64°-W		311に切られて いる。
311	△ 110	90	△ 90	67	40	橢円形	中央～ 西部	西北	N-46°-W		309を切ってい る。
312	132	57	118	△ 30	30	橢円形			N-26°-E		310を切ってい る。
313	170	70	160	45	38	橢円形			N-52.5°-W		
314	128	△ 55	113	△ 50	50	橢円形	北西部	北	N-38°-W		
315	△ 85	73	△ 80	50	46	橢円形			N-48°-W		
316	92	60	75	38	46	橢円形			N-48°-W	第94図22	
317	105	68	80	45	35	橢円形			N-40°-W		
318	△ 100	63	△ 80	45	40	橢円形	北東部	北	N-24°-E	第89図135	
319	134	73	120	55	45	橢円形	北西部	西	N-63°-W		
320	△ 100	60	△ 95	50	14	橢円形			N-13.5°-E		
321	△ 116	54	△ 95	45	30	橢円形			N-65°-W		
322	102	58	84	50	27	橢円形	南西部	西	N-117°-W	第89図137	
323	143	△ 60	125	△ 55	33	橢円形			N-70°-E		
324	103	45	95	37	55	橢円形	北東部	北	N-38°-W		
325	△ 17	△ 72	△ 10	△ 63	39	橢円形			N-95°-W		
326	△ 70	80	△ 70	66	22				N-87°-W	第83図60・61	
327	130	67	120	48	50	橢円形			N-114°-W	第89図138～140	
328	130	67	120	54	24				N-24°-W	第83図62	
329	115	△ 55	100	△ 40	50	橢円形	北西部	北	N-12°-W	第95図37	
330	△ 70	68	△ 75	50	51	橢円形	西部	西	N-89°-W	第89図141	329が330を切っ ている。

土地番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
331	155	75	125	60	59	楕円形			N-31°-W	第83図63~65	
332	△ 60	68	△ 55	45	49	楕円形			N-89°-W	第94図26	
333	150	△ 50	115	△ 35	59	楕円形			N-30°-E		
334	130	80	115	60	32	楕円形			N-64°-W	第83図66	
335	△ 80	△ 55	△ 75	42	25	楕円形			N-74°-W		
336	120	60	105	45	45	楕円形			N-82°-W		335、337を切っている。
337	120	76	105	50	30	楕円形	北西部	西	N-73.5°-W		335を切っている。
338	175	△ 80	153	△ 74	45	楕円形			N-22°-E		
339	△ 50	60	△ 40	42	△ 10	楕円形			N-79°-W		
340	163		145		49	楕円形			N-35°-E		
341	135		115		52	楕円形			N-30°-W		
342	160		155			楕円形	西部	西	N-82°-W		
343	110	△ 80	100	△ 70	59	楕円形	北西部	西北	N-63°-W		
344	△ 100	△ 20	△ 100	△ 15	28		北西部	西北	N-57.5°-W	腕輪	
345	194	68	180	53	40	楕円形			N-63°-W	腕輪	
346	△ 100	△ 60	△ 85	△ 40		楕円形			N-3°-W		
347	115	53	98	40	40	楕円形	北西部	北	N-35°-W		
348	157	△ 80	130	△ 80	50	楕円形			N-6°-E		
349	160	△ 65	145	△ 65	38	楕円形			N-75°-W		
350	165		153	△ 20	△ 20	楕円形			N-83°-W		
351	140	62	135	45	50	楕円形			N-90°-W		
352	135	△ 50	117	△ 50	42	楕円形			N-51°-W		
353	153	97	140	75	34	楕円形			N-23°-E	第90図142~145	
354	130	76	117	65	45	楕円形			N-67°-W		
355	140	△ 60	123	△ 55	30	楕円形			N-53°-W		
356	105	70	87	50	31	楕円形			N-48°-E		
357	△ 80	△ 50	△ 65	△ 45	22						
358	120	63	112	58	27	楕円形			N-4°-E		
359	△ 70	70	△ 60	58	20	楕円形	北東部	北	N-11°-E		358に切られている。
360	132	69	118	58	10	楕円形			N-67°-W	第90図146~151	
361	043	63	132	55	14	楕円形			N-54°-W		
362	103	75	92	65	17	楕円形			N-64°-W		
363	125	72	116	64	20	楕円形			N-61°-W		

土壇墓 番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頸位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
364	110	55	90	38	12	椭円形			N-51°-W		
365	145	78	134	65	13	椭円形			N-27°-W		
366	173	82	157	68	22	椭円形	北部	北	N-3.5°-E		
367	122	78	102	60	23	椭円形			N-2°-W	小玉6点	368を切って いる。
368	109	67	95	52	18	椭円形			N-60°-W		
369	△110	80	△105	65	34	椭円形			N-39°-W		
370	△110	70	△95	50	36	椭円形	北西部	北西	N-33°-W	第94図23	
371	125	70	105	50	20	椭円形			N-41°-W		
372	163	47	155	37	17	楕円方形			N-26°-W		373号墓を 切っている。
373	△50	△45	△50	△45	20	椭円形			N-21°-E		
374	98	65	84	48	16	椭円形			N-45°-W		
375	88	55	74	32	22				N-34°-E		
376	141	85	130	65	12	椭円形			N-35°-W		
377	158	79	137	68	11	椭円形			N-47°-W		
378	154	78	140	60	14	椭円形			N-56°-W		379を切って いる。
379	126	△55	110	△55	12	椭円形			N-50°-W		
380	131	65	116	50	25	椭円形			N-32°-W		379を切って いる。
381	158	△70	143	△65	20	椭円形			N-92°-W		382に切られ ている。
382	160	87	145	72	41	椭円形			N-61°-W	第84図67~70	
383	112	△65	106	△55	13	椭円形			N-59°-W		
384	133	△85	120	△85	14	椭円形	北西部	西北	N-51°-W	第90図152~155 齊天状	
385	△90	70	△80	63	14	椭円形			N-12°-E		
386	122	65	112	55	12	椭円形			N-60°-W		
387	116	58	108	45	20	椭円形			N-31°-W		
388	96	65	77	50	34	椭円形			N-62.5°-W		
389	125	74	112	60	20	椭円形			N-29°-W		
390	115	88	105	80	15	椭円形			N-28°-W	第99図156~161 小口	
391	133	52	115	35	30	椭円形	北西部	西北	N-52.5°-W		
392	115	△65	105	△60	30	楕円長方形			N-47°-W		
393	△150	75	△150	55	35	椭円形	北西部	西北	N-63°-W	第90図162	394を切って いる。
394	△110	△80	△100	△70	28				N-47°-E		
395	122	104	100	60	40	椭円形			N-39°-W		397、394を 切っている。 小口状の掘り 込み有り
396	△110	80	△110	63	53	椭円形	中央部	西北	N-57°-W		

上塙番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
397	△ 120	85	120	70	52	橢円形			N-59°-W	第90図163	小口状の掘り込み有り
398	173	58	145	44	25	橢円形			N-53°-E		399を切っている。
399	110	73	93	60	28	橢円形			N-60°-W		
400	137	60	109	45	30	橢円形			N-58°-W	第84図71	
401	132	90	125	60	31	橢円形			N-106°-W		
402	136	86	121	65	14	橢円形			N-48°-W	第84図72	
403	173	60	150	43	45	橢円形			N-60°-W		404に切られている。
404	△ 100	70	△ 75	50	20	橢円形			N-35°-E		
405	△ 115	80	△ 106	67	15	橢円形			N-23°-W	第84図73	406に切られている。
406	143	68	125	50	34	橢円形			N-67°-W		407に切られている。
407	△ 70	70	△ 58	45	30	橢円形			N-9°-E		408に切られている。
408	135	103	118	98	10	橢円形			N-55°-W		
409	154	100	144	83	27	橢円形			N-0.5°-E		410に切られている。
410	107	80	83	68	20	橢円形			N-43°-E		
411	123	118	97	105	50	円形			N-43°-W	第90図164・165 第94図24・25	411に切られている。
412	△ 95	△ 50	△ 90	△ 50	13	橢円形			N-22°-E		414を切っている。
413	120	80	116	67	25	橢円形			N-82°-E		415に切られている。
414	150	90	140	80	15	橢円形			N-67°-E		415に切られている。
415	91	62	77	52	40	橢円形			N-3°-E	第84図74	
416						北西部					
417	151	84	139	60	40	橢円形			N-56°-W		417か419、418を切っている。
418											
419	140	△ 33	124	△ 25	35	橢円形			N-38°-W		
420	△ 95	64	85	45	28	橢円形			N-37°-E		
421	140	80	130	48	19	橢円形			N-65°-W		420を切っている。
422	△ 80	75	△ 80	60	17	橢円形			N-12°-E		新 423-421-422
423	△ 140	65	△ 125	45	10	橢円形			N-72°-W		
424	90	66	80	43	14	橢円形			N-32°-E	第91図170	
425	113	75	91	45	43	橢円形			N-16°-W		
426	△ 70	△ 65	△ 60	△ 60	24				N-18.5°-W		
427	139	97	116	86	24	橢円形			N-108°-W		
428	150	60	130	46	35	橢円形	南西部	西南	N-126.5°-W	第91図171~173	
429	135	65	125	52	14	橢円形			N-83°-W		430を切っている。

土壤番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
430	113	72	98	54	33	橢円形			N-90°-E		
431	△ 80	50 △ 70	37	10	10	橢円形			N-9°-W		
432	125	80	103	68	18	橢円形			N-42°-W		432が433を切っている。
433	140	68	118	57	37	橢円形			N-50°-E		
434	100	55	80	37	9	橢円形			N-111°-W	第91図174	
435	192	76	180	53	15	橢円形			N-82°-E (N-108°-W)		
436	106	87	88	74	16	橢円形			N-75°-E (N-115°-W)		
437	128	60	119	43	25	橢円形			N-85°-E	第91図175	
438	113	65	95	47	20	橢円形			N-47°-W		
439	167	75	140	60	25	橢円形			N-31°-W		
440	△ 40	80 △ 20	45	25	橢円形				N-59°-W		
441	167	96	160	68	33	橢円形	南西部	西南	N-123.5°-W		
442	△ 95	62 △ 90	45	25	橢円形				N-39°-W		
443	170	75	150	59	12	橢円形			N-1°-E		
444	113	62	100	52	30	橢円形			N-64°-E		
445	138	80	116	55	15	橢円形	北西部	西北	N-58°-W		
446	100	62	85	50	23	橢円形			N-83°-W	第91図176・177	
447	△ 120	47 △ 110	30	25	橢円形				N-12°-W		
448	130	62	100	40	27	橢円形			N-77°-W		
449	△ 140	60 △ 130	48	12	橢円形	北西部	北西		N-28°-W		
450	135	93	107	72	25	橢円形			N-33°-E	第91図178	
451	138	75	133	65	24	橢円形			N-47°-W		
452	△ 50	65 △ 50	50	5	橢円形				N-56°-W		451に切られている。
453	△ 134	68 △ 128	62	12	橢円形				N-63°-E	第84図75・76	
454	132	△ 60	120	△ 50	34	橢円形			N-32°-E		
455	135		115		34	橢円形			N-67°-E		
456	175	85	165	65	15	橢円形			N-59°-W		
457	△ 50	82 △ 45	74	28	橢円形				N-32°-E		
458	115	65	110	45	42	橢円形			N-22.5°-E		
459	118	58	110	50	18	橢円形			N-90°-W		
460	160	80	152	70	25	橢円形	西部	西	N-88°-W	第89図136、第91図179・180	
461	88	80	75	60	30	橢円形			N-88°-W		
462	97	65	90	55	18	橢円形			N-87°-W		

土壇墓 番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
463	126	85	112	76	36	楕円形			N-60°-E		
464	140	100	123	92	41	楕円形	中央・北 寄り	西北	N-68°-W		
465	140	70	125	50	30	楕円形			N-45°-W		
466	172	67	140	50	20	楕円形			N-32.5°-W		467を切ってい る。
467	△ 105	58	△ 100	43	30	楕円形			N-59°-E		
468	137	60	123	37	42	楕円形			N-84°-E		
469	120	57	102	45	26	楕円形	北部	北東	N-44°-E		468に切られて いる。
470	140	65	123	45	25	楕円形			N-84.5°-E		
471	148	80	124	70	18	楕円形			N-35°-W	第94図30、 腕輪	
472	130	65	109	42	33	楕円形			N-46°-W		
473	△ 75	65	△ 70	53	37	楕円形			N-68°-E		472に切られて いる。
474	150	72	138	70	25	楕円形			N-67°-W		
475	124	△ 65	114	△ 65	20	楕円形			N-52°-W		474によって切 られている。
476	95	47	84	32	32	楕円形			N-67°-W		
477	117	35	104	23	10	楕円形			N-64°-E		
478	85	50	75	36	10	楕円形			N-64°-E		
479	105	50	90	35	20	楕円形			N-63°-W	第94図31 第95図38	
480	102	70	94	65	10	楕円形			N-41°-E		
481	118	△ 60	106	△ 50	30	楕円形			N-59°-W	第91図181	
482	153	60	135	57	27	楕円形			N-49°-W		479を切ってい る。
483	143	70	124	45	35	楕円形			N-43°-W		
484	△ 93	△ 25	△ 75	△ 20	30	楕円形			N-40°-W		486に切られて いる。
485									N-39°-W		486に切られて いる。
486	135	90	115	68	32	楕円形			N-77°-W		
487	128	77	114	68	35	楕円形	北西部	北西	N-46°-W		
488	102	55	90	42	15	楕円形			N-43°-W		
489	△ 57	53	△ 40	40	8	楕円形			N-43°-W		
490	105	67	88	25	36	楕円形			N-47°-E		489を切ってい る。
491	120	67	112	45	38	楕円形	北西部	西北	N-52°-W		
492	115	45	105	37	7	楕円形			N-57.5°-W	第91図182	
493	140	100	127	85	38	楕円形	北西部	北西	N-41.5°-W		
494	125	81	110	70	20	楕円形			N-65°-W		
495	115	65	107	50	24	楕円形			N-99°-W		

土地番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ(cm)	平面形	ベンガラの有無と散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
496	164	64	142	54	37	橢円形	北西部	西北	N-61.5°-W		
197	120	78	100	66	28	橢円形			N-61°-E	第94図32	
498	98	46	93	35	13	橢円形			N-46°-W		
499	97	74	80	60	23	橢円形			N-56°-W		
500	130	60	110	45	34	橢円形	北西部	西北	N-55°-W		
501	142	65	118	40	27	橢円形	北西部	北西	N-36.5°-W		
502	133	70	124	55	20	橢円形			N-61°-E		
503	122	60	108	48	50	橢円形			N-44°-E		
504	△ 110	72	△ 100	53	23	橢円形			N-48°-W		新 511→510→509
505	△ 85	63	△ 70	40	40	橢円形			N-29°-E		
506	△ 80	△ 55	△ 75	△ 45	10	橢円形			N-23°-W		507によって切 られている。
507	110	63	92	50	31	橢円形			N-42°-W	第91図183	
508	111	65	94	43	25	橢円形			N-73°-E		
509	128	80	100	55	25	橢円形			N-22°-W		
510	92	△ 55	80	△ 45	9	橢円形			N-80°-E		509に切られて いる。
511	137	63	117	45	26	橢円形			N-63°-W	第84図77	
512	128	66	110	40	38	橢円形			N-104°-W	第91図184～188	
513	120	66	93	41	66	橢円形			N-75°-W		
514	△ 100	55	△ 90	35	30	橢円形			N-48°-E		
515	135	65	130	48	20	橢円形			N-38°-W		
516	136	62	114	50	13	橢円形			N-92°-W (N-88°-E)		
517	127	53	111	35	21	橢円形			N-40°-W		
518	△ 120	△ 60	△ 110	△ 55	22	橢円形	北西部	西北	N-74°-W		
519	△ 55	△ 75	△ 55	△ 61	22	橢円形			N-10°-W		
520	112	75	99	39	33	橢円形			N-54°-E		
521	132	60	103	35	27	橢円形			N-77°-W		
522	139	72	130	59	10	橢円形			N-71W		
523	82	66	66	42	30	橢円形			N-70°-W		
524	161	△ 70	135	△ 65	22	橢円形			N-4°-E	第91図189	
525	162	60	160	56	60	橢円形			N-83°-W	第91図190	底面に7～10cm の凹溝が検出
526	△ 30	△ 65	△ 25	△ 60	16				N-29°-E		525に切られて いる。
527	66	63	155	50	13	橢円形			N-65.5°-W		519に切られて いる。
528	106	60	90	52	34	橢円形			N-80°-W		

上地島 番号	埴口部(cm)		埴底部(cm)		深さ (cm)	平面形	ベンガラ の有無と 散布場所	頭位	長軸方向	出土遺物	備考等
	長軸	短軸	長軸	短軸							
529	△ 140	58	△ 125	48	16	橢円形			N-1°-E		
530	100	57	91	45	13	橢円形			N-30°-E		
531	139	72	130	65	18	橢円形			N-12°-E		
532	133	64	120	50	17	橢円形			N		
533	117	61	107	53	8	橢円形			N-32°-E		
534	108	70	97	60	8	橢円形			N-60°-W	535に切りれて いる。	
535	150	57	137	43	15	橢円形			N-18°-E	第92図191・192	
536	124	90	100	68	20	橢円形			N-66°-W		
537	176	75	160	65	15	橢円形			N-36°-W		
538	△ 50	57	△ 40	51	17	橢円形			N-90°-W	537に切られて いる。	
539	124	82	112	72	23	橢円形			N-73°-W	第92図193~201	
540	99	52	91	45	20	橢円形			N-49°-W		
541	110	70	90	42	60	橢円形			N-18°-E		
542	111	56	95	33	7	橢円形			N-62°-E	第95図39	
543	130	60	100	50	46	橢円形			N-65°-E	542に切られて いる。	
544	105	65	90	55	19	橢円形			N-59°-E	第94図29	
545	98	60	93	49	8	橢円形			N-37°-E		
546	150	67	142	58	16	橢円形			N-44°-W		
547	112	65	104	55	14	橢円形			N-50°-W		
548	123	67	110	48	30	橢円形			N-40°-W		
549	133	80	116	67	20	橢円形			N-50°-E		
550	160	75	140	63	35	橢円形	南西部		N-109°-W		
551											
552	108	△ 50	70	△ 50	20	橢円形			N-68°-W		
553	△ 40	60	△ 40	42	10	橢円形	北西部	西北	N-52°-W		
554	122	△ 75	110	△ 65	19	橢円形	北東部	北東	N-21°-E		
555	140	50	132	35	12	橢円形			N-46°-E	496によって切 られている。	
556	△ 90								N-30°-W		
557	120	△ 80	97	78	26	橢円形	北西部	西北	N-71°-W	第92図202、203	
558	△ 93	△ 60	△ 85	△ 50	35	橢円形	中央部	北西	N-29°-W	第92図204、第94 図32・33	
559	100	△ 35	75	△ 45	35	橢円形			N-34°-W	317に切られて いる。	
560											
561											

石器：3は有茎の石鏃である。基部の先端は欠損する。

19号土塙墓出土遺物（第85図）

石製品：底部から出土した。3は長さ4cm、幅1.9cmの勾玉状の石製品で、両面からの穿孔である。

27号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：覆土から出土した鉢形土器片である。小波状口縁をなし2条の平行沈線文がまわる。

28号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：4は覆土から出土した、有茎の石鏃である。

31号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：15・16は覆土から出土した鉢形土器片である。16は2～3条の平行沈線文がまわる。

37号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：8は覆土から出土した円盤状石製品である。扁平な碟を両面から打ち欠いて作っている。

40号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：5～7は覆土から出土した。有茎の石鏃で、5は片面、7は両面にアスファルトが付着している。

41号土塙墓出土遺物（第80図）

土器：1は深鉢形土器である。口縁部に2個一対の突起を有し、小波状口縁を呈する。連續刻目文がみられ、下方に細い沈線文がまわっている。

42号土塙墓出土遺物（第85図）

石製品：4・5は底部から出土した小玉である。

46号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：17は覆土から出土した浅鉢形土器片である。口縁部に貼り付を施し、小波状口縁をなす。1条の沈線がまわり、体部には雲形文が施されている。

47号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：18・19は覆土から出土した浅鉢形土器片である。18は平行沈線文がまわっている。

65号土塙墓出土遺物（第85図）

石製品：6～22は径7～8mm程の小玉である。

66号土塙墓出土遺物（第85図）

石製品：23は勾玉、24・25は小玉である。

74号土塙墓出土遺物（第85図）

土製品：26は径1.9cmの鼓状を呈する耳飾りである。全面にベンガラが塗布されている。

79号土塙墓出土遺物（第80・85図）

土器：2は口径19.2cm、器高22.8cmを計る深鉢形土器である。地文の縞文はL R（横回転）の単

節斜縄文である。

土製品：27・28は径12～13cmの鼓状を呈する耳飾りである。

80号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：20は鉢形土器片である。口縁部に2条の沈線がまわる。

86号土塙墓出土遺物（第80・82・93図）

土器：3は壺形土器である。頸部は磨消し無文帶である。体部にはR L（縦回転）の単節斜縄文が施されている。21～28は覆土から出土した。小波状、平縁口綫をなす土器で、平行沈線文、連続刻目文が施されている。

石器：9は細長い有茎の石鎌である。基部先端は欠損する。

90号土塙墓出土遺物（第80・82図）

土器：4は深鉢形土器である。地文は結束のない羽状縄文で、L R・R L（横回転）である。29～34は覆土から出土した土器片である。平行沈線間に連続刻目文のみられるものや、体部に雲形文を施すものがある。

95号土塙墓出土遺物（第82図）

土器：覆土から出土した土器片である。35は平行沈線文が主体である。36・37は沈線間に連続刻目文を施している。

96号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：38は覆土から出土した浅鉢形土器片である。口縁部に刺突文を施し、体部に沈線・三叉文などがみられる。

100号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：39・41は覆土から出土した浅鉢形土器片である。沈線間に連続刻目文を施すものや、沈線と雲形文のものがある。

102号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：42・44は覆土から出土した。42は口縁部に末端の咬み合う平歯状文が施される鉢形土器である。43・44は小波状口縁をなし、沈線文を主体に文様が構成される。

105号土塙墓出土遺物（第95図）

石器：扁平な河原石を利用した両面利用のくぼみ石である。

106号土塙墓出土遺物（第83・85図）

土器：45は覆土から出土した鉢形土器片である。

石製品：29は径9.5mmの両面から穿孔した小玉である。

113号土塙墓出土遺物（第85図）

土製品：30は径1.4mmの鼓状を呈する耳飾りである。全面にベンガラが塗布されている。

130号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：31～33は径 8 ～ 9 mmの小玉である。

135号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：34～42は径 7 mm～1.1cmの小玉である。

138号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：10は覆土から出土した無茎の石鏃である。

145号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：43は径 7.5mmの小玉である。

147号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：45は径 9 mm～ 1 cmの小玉である。

149号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：46は径 1.7cmの小玉である。

151号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：47は長さ 2 cmの勾玉、48～53は 9 mm～ 1 cmの小玉である。

142号土塙墓出土遺物（第86図）

石製品：54～57は 8 mm～ 1 cmの小玉である。

159号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：11は莖部の先端が欠損する有茎石鏃である。

161号土塙墓出土遺物（第80図）

土器：5は口径7.4cmの深鉢形土器である。地文はR L（横回転）の単節刻縦文である。

162号土塙墓出土遺物（第86・87図）

石製品：58～78は径 6 ～ 8 mmの小玉である。

164号土塙墓出土遺物（第83・87・93図）

土器：46は鉢形土器片である。口縁部に 2 条の平行沈線文がまわる。

石製品：79は長さ 2.3cmの勾玉である。両面から穿孔されている。

石器：12は両面にきれいに剝離を施した四脚状の石器である。

177号土塙墓出土遺物（第93図）

石器：長さ 28cmの小形の有莖石鏃である。

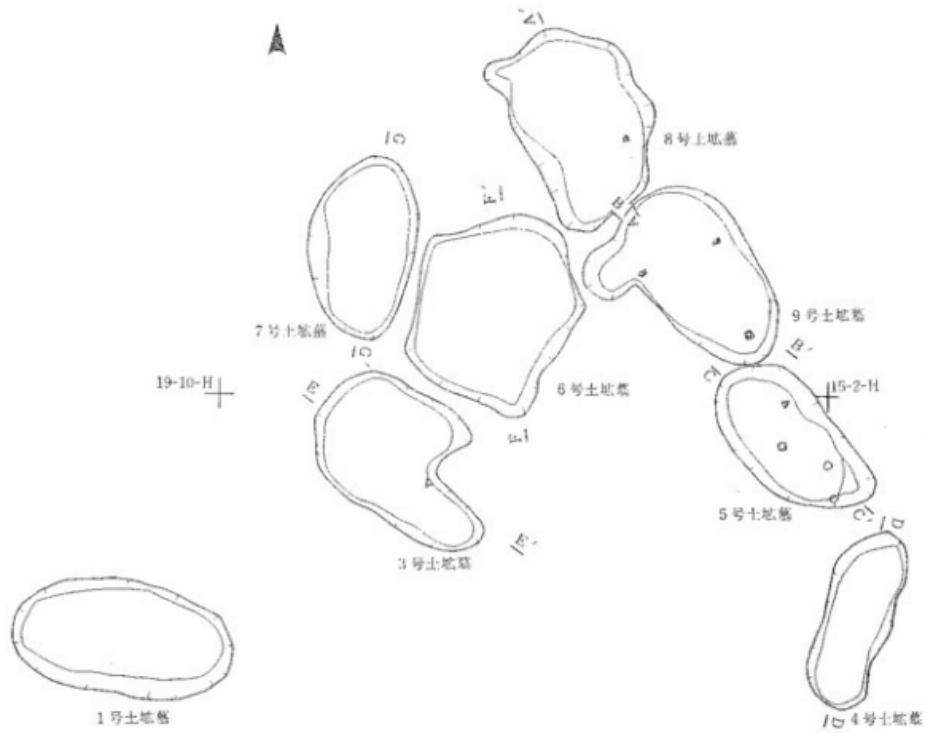
184号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：47は浅鉢形土器片である。口縁部に 2 条の平行沈線文をまわし、体部には雲形文を施している。

186号土塙墓出土遺物（第87図）

石製品：80～82は径 8 mm前後の小玉である。

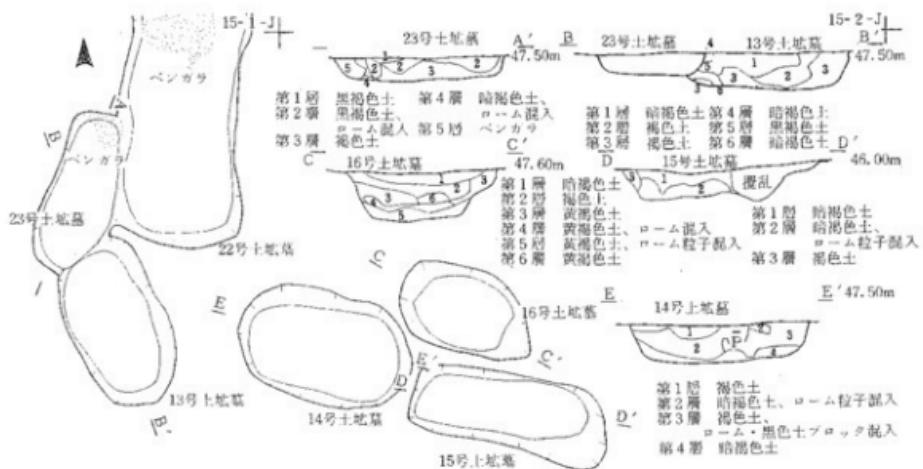
193号土塙墓出土遺物（第87図）



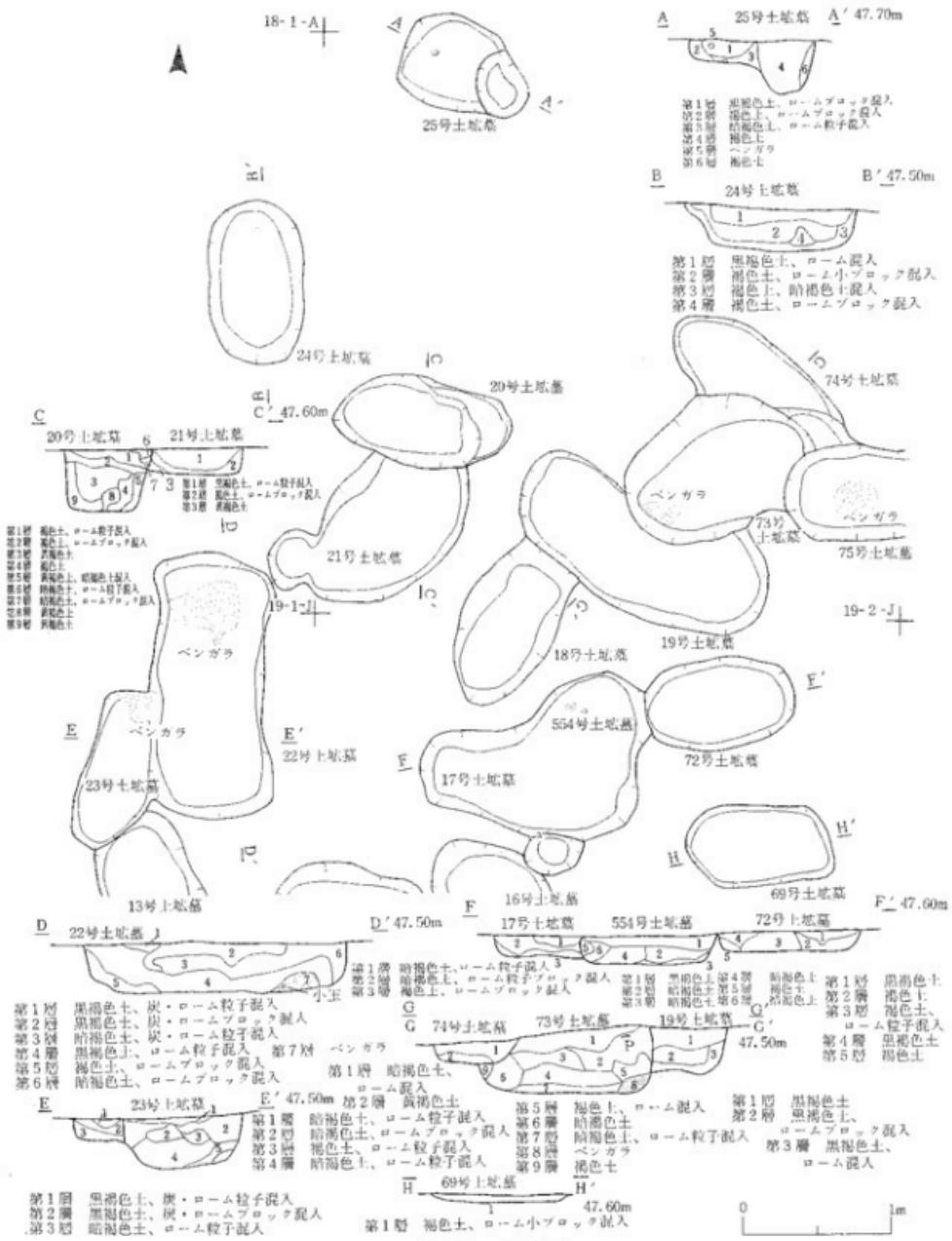
1号土塚墓



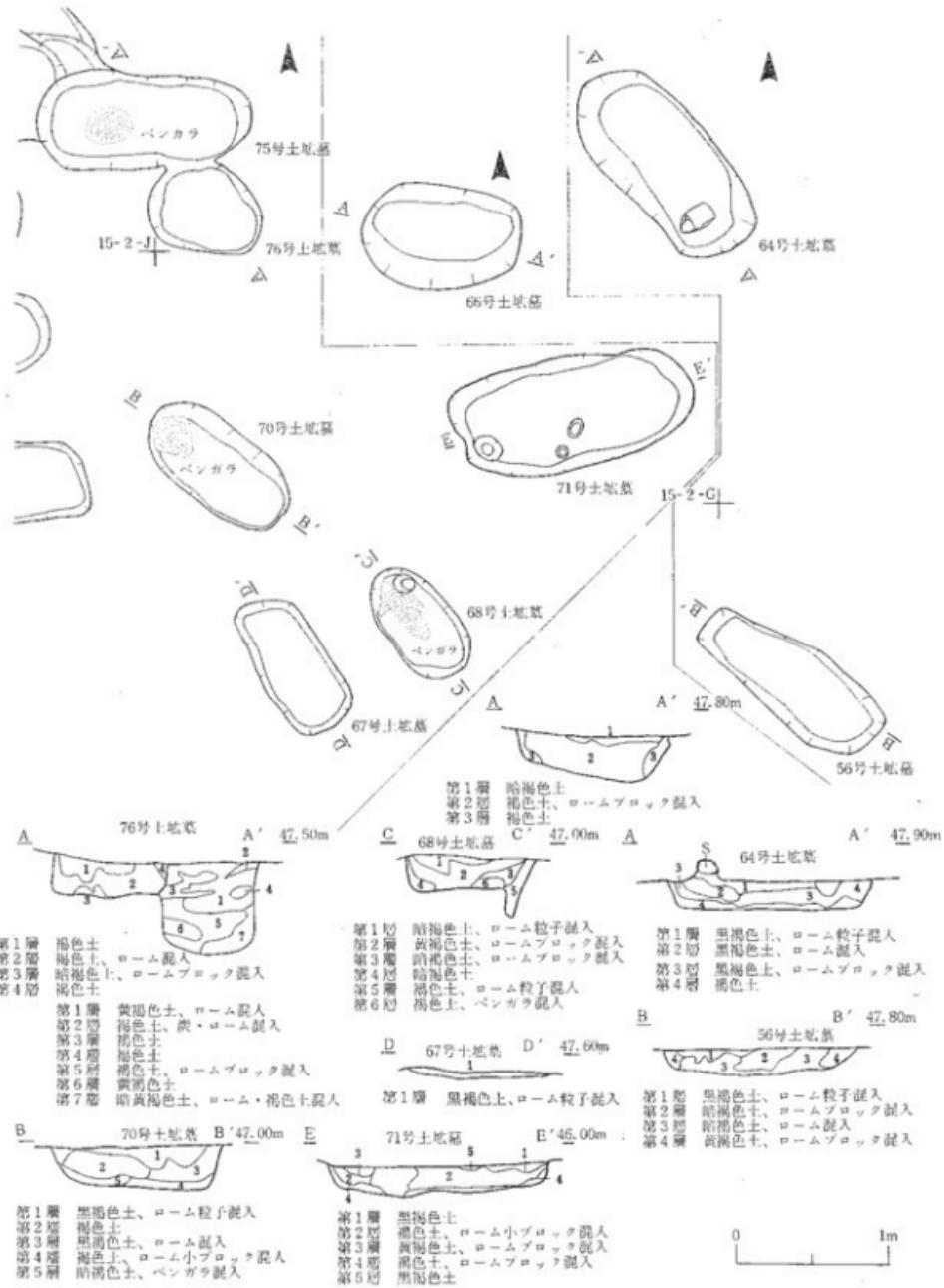
第34図 土塚墓



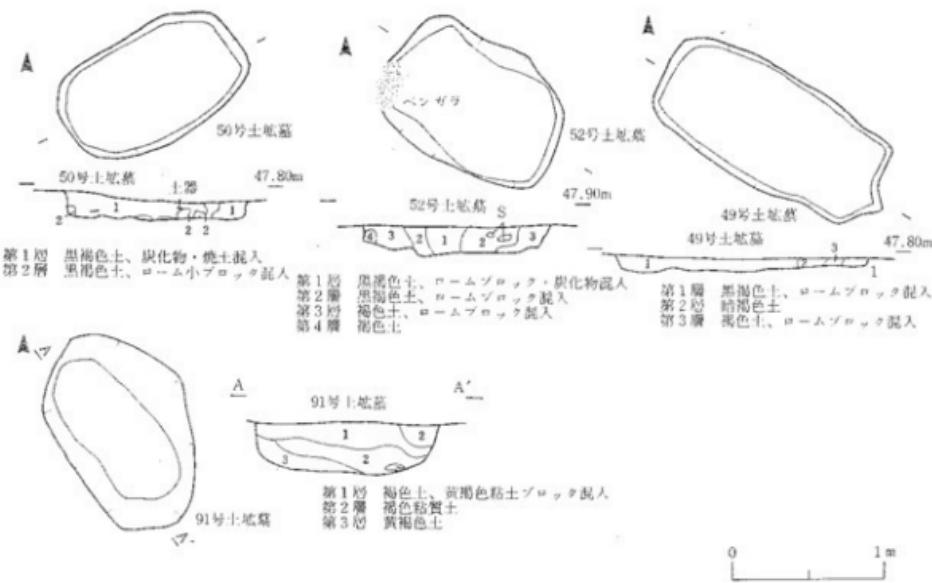
第35図 土壌基



第36図 土塚墓



第37図 土塙墓



第38図 土塚墓

石製品：83は径 7 mmの小玉である。

196号土塚墓出土遺物（第83図）

土器：48は浅鉢形土器片である。頸部に幅の広い沈線がまわり、他は無文である。

199号土塚墓出土遺物（第93図）

石器：14・15は有茎の石鏃である。14は基部先端が欠損する。

200号土塚墓出土遺物（第83図）

土器：49・50は鉢形土器片である。口縁部に2条の沈線がまわっている。

202号土塚墓出土遺物（第93図）

石器：16は基部先端が欠損する石鏃と思われる。二段からなる特異な石器である。

203号土塚墓出土遺物（第93図）

石器：17は基部先端が欠損する有茎石鏃である。基部にアスファルトが付着している。

204号土塚墓出土遺物（第93図）

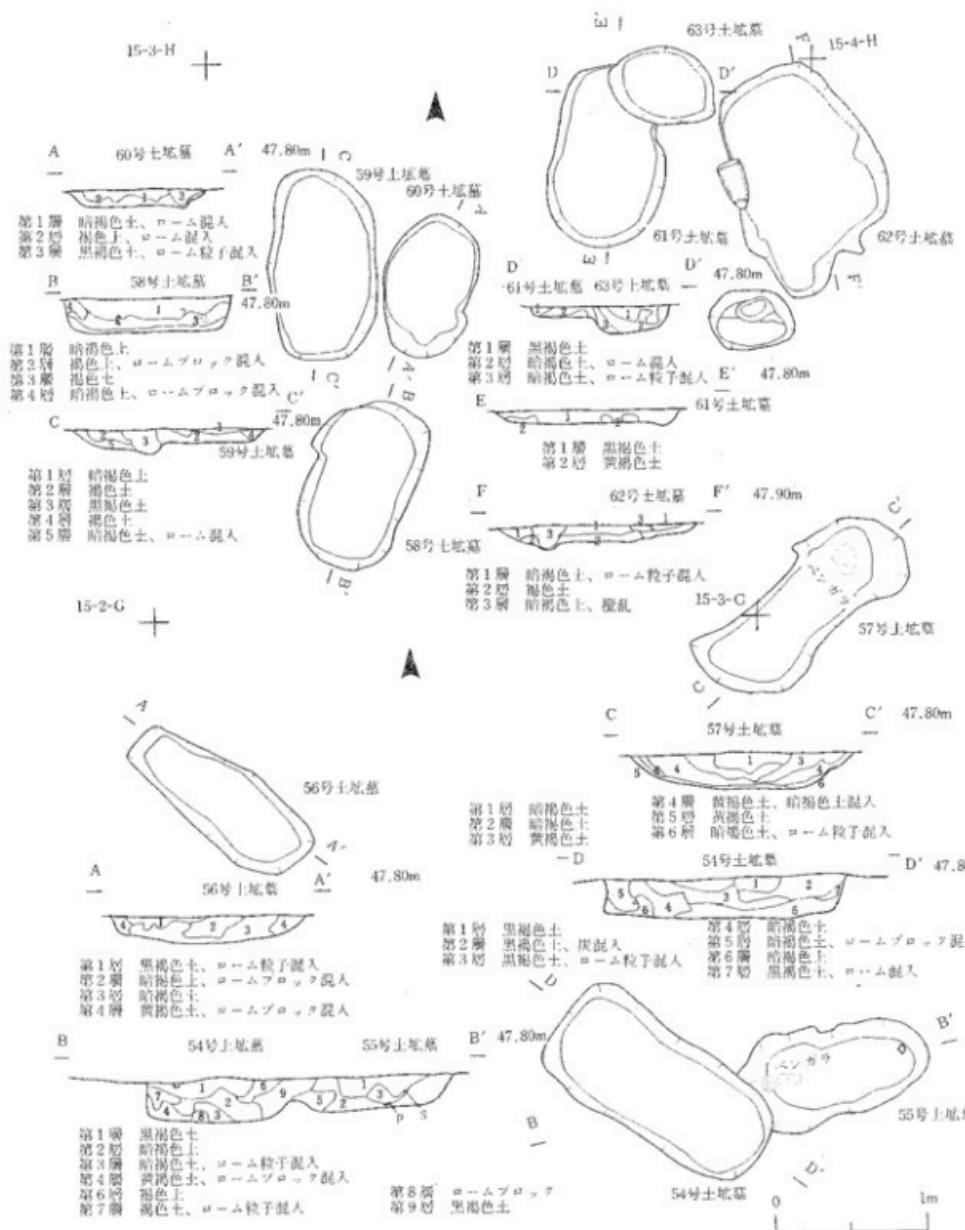
石器：18は長さ 3 cmの小形の有茎石鏃である。

207号土塚墓出土遺物（第87図）

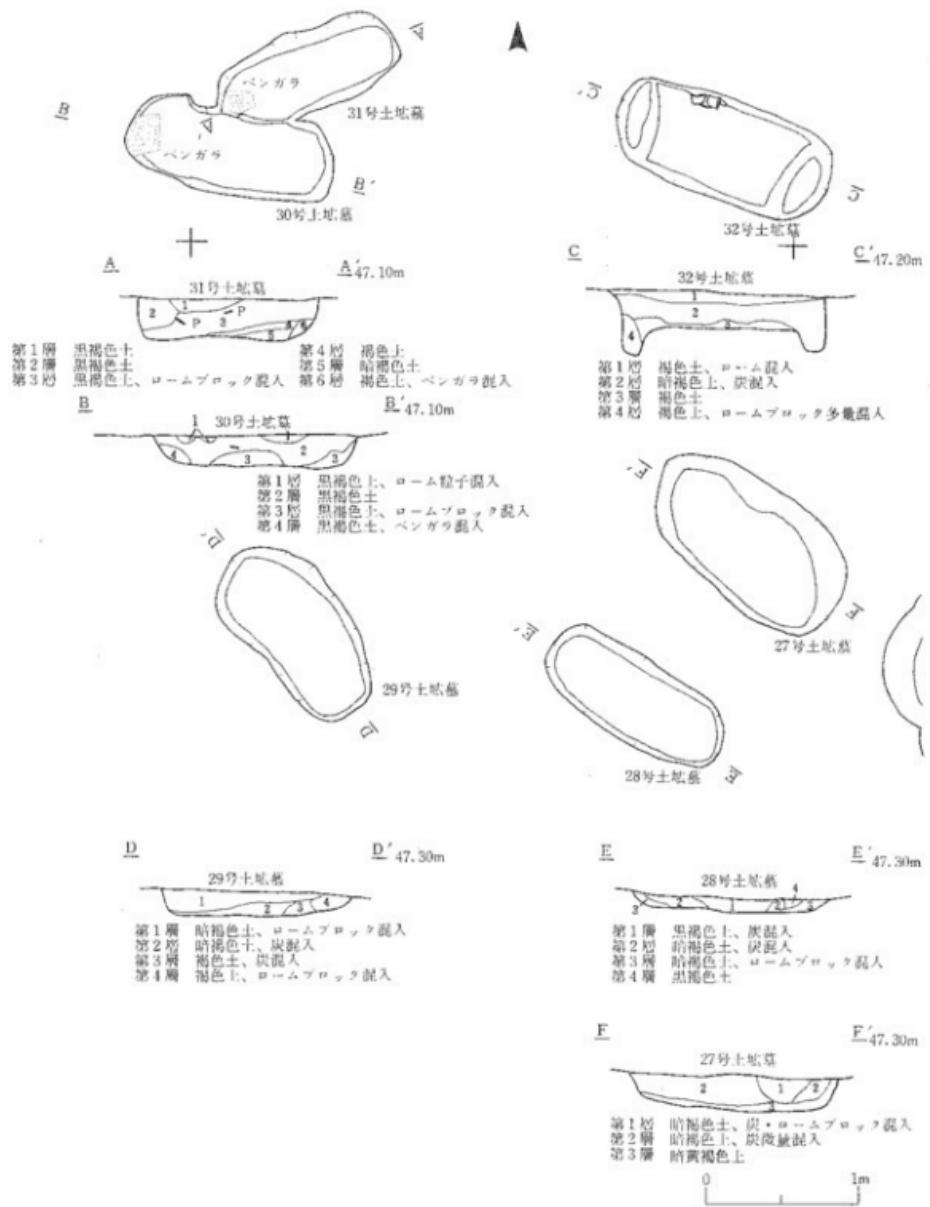
石製品：84～86は径1.1cm～1.3cmの小玉である。

210号土塚墓出土遺物（第94図）

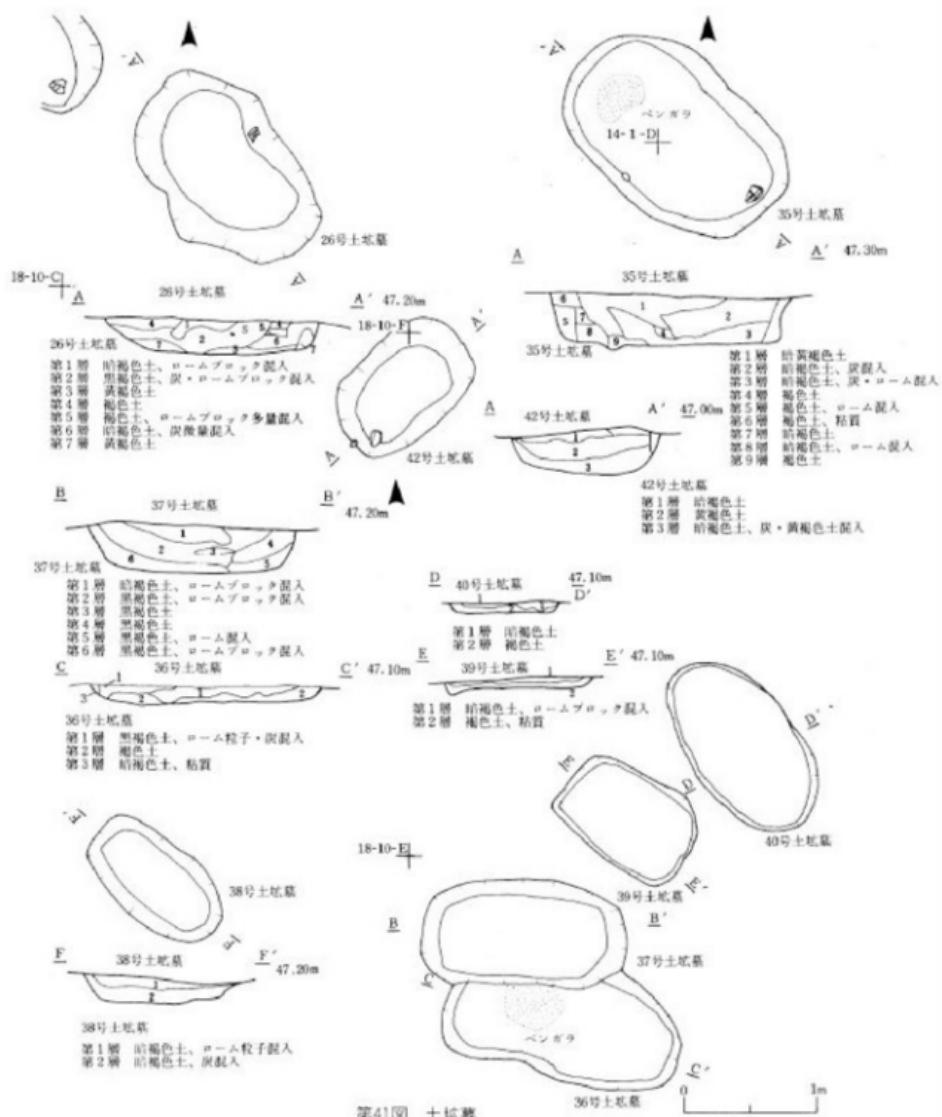
石器：19は長さ 4.9cmの有茎の石鏃である。先端部がわずかに欠損する。



第39図 土堆基

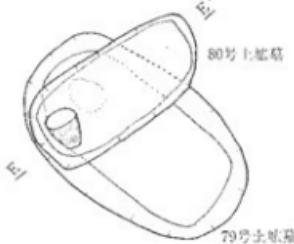
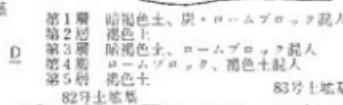


第40図 土塚墓



第41図 土壌基

14-2-G



第1層 暗褐色土、ローム小ブロック混入  
第2層 暗褐色土、灰混入

B

78号土堆墓

B'

47.20m



第1層 暗褐色土、灰・△粒子混入  
第2層 暗褐色土  
第3層 褐色土、ローム粒子混入  
第4層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第5層 暗褐色土  
第6層 暗褐色土  
第7層 暗褐色土、ローム粒子混入

18-10-D

+ -

41号土堆墓

41号土堆墓

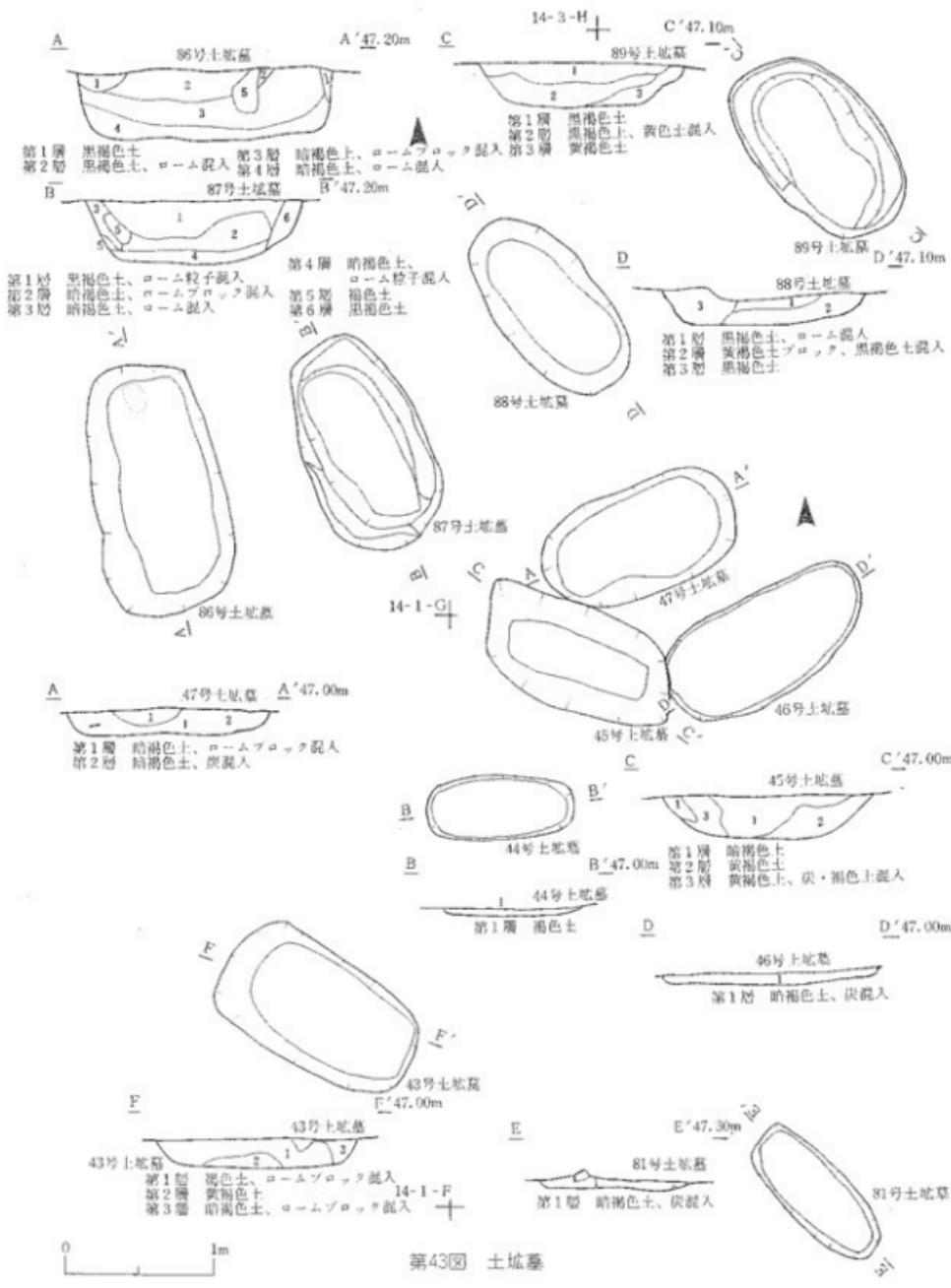
A A' 47.10m

第1層 暗褐色土、ローム粒子混入  
第2層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第3層 黑褐色土、灰・ローム粒子混入  
第4層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第5層 暗褐色土、ローム多孔混入  
第6層 暗褐色土、ローム・粘土混入  
第7層 褐色土、ローム・粘土混入

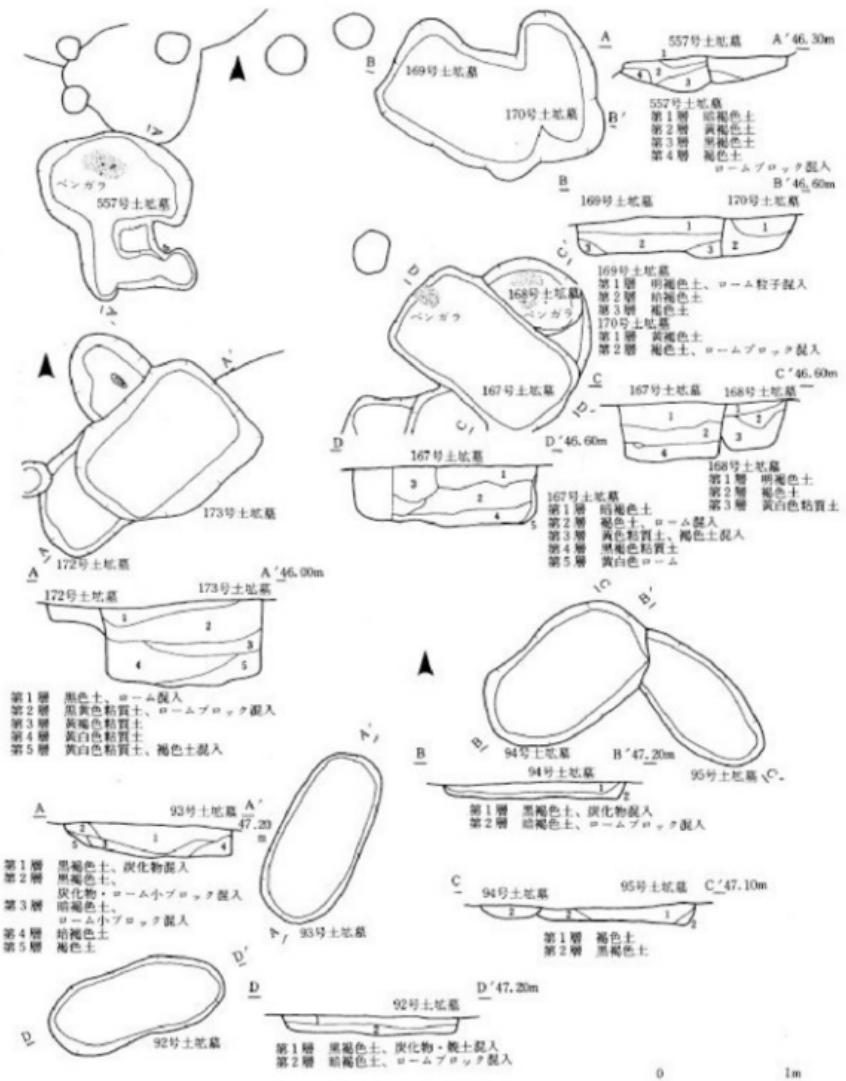


第1層 褐色土  
第2層 暗褐色土、灰混入  
第3層 暗褐色土、灰混入  
第4層 暗褐色土、ローム粒子多孔混入  
第5層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第6層 暗褐色土  
第7層 暗褐色土

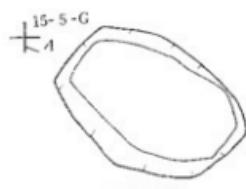
第42図 土堆墓



第43図 土塙基



第44図 土塚墓



53号土塚墓



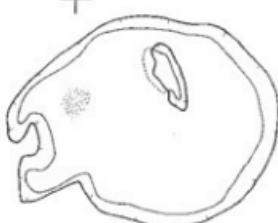
3号土塚



51号土塚墓



48号土塚墓



A 53号土塚墓 A' 48.00m

第1層 赤褐色土、炭化物・ローム小粒子混入  
第2層 黄褐色土、ロームブロック多量混入  
第3層 黑褐色土、ローム粒子・炭化物混入  
第4層 黑褐色土

B 51号土塚墓 B' 48.80m

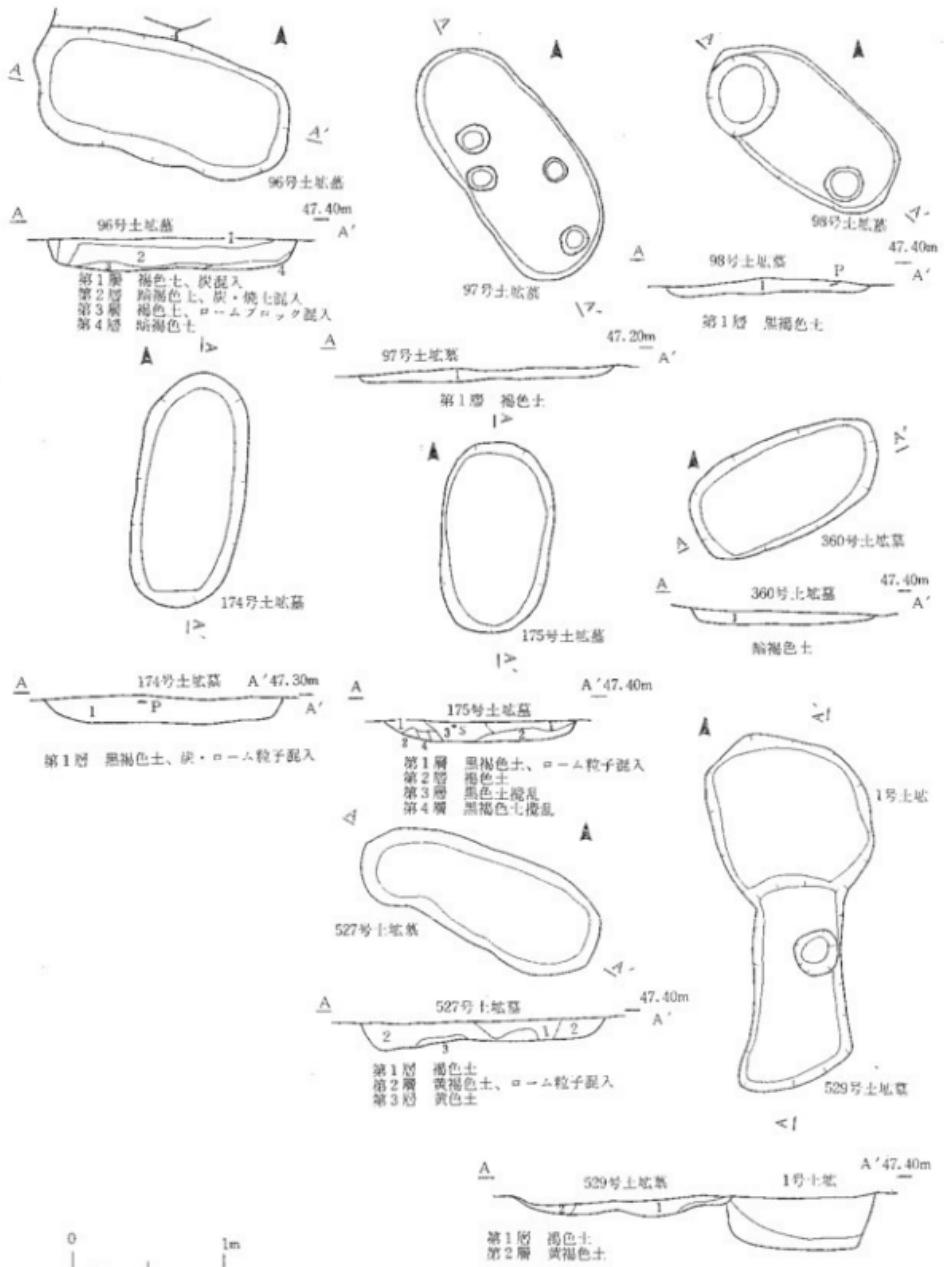
第1層 黑褐色土、ローム小ブロック多量混入  
第2層 黑褐色土、ローム細粒混入  
第3層 黑褐色土、ローム小粒混入  
第4層 黑褐色土、木根等による搅乱土  
第5層 黑褐色土、ロームブロック多量混入

C 48号土塚墓 C' 47.80m

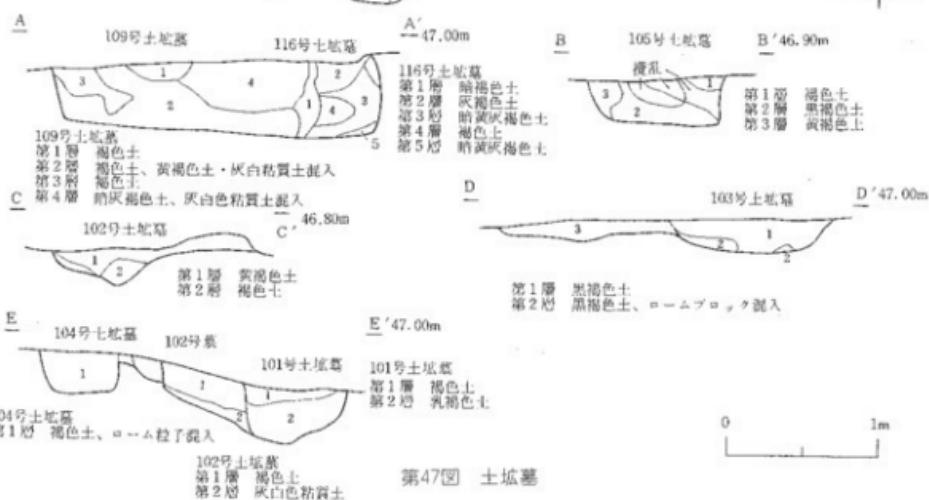
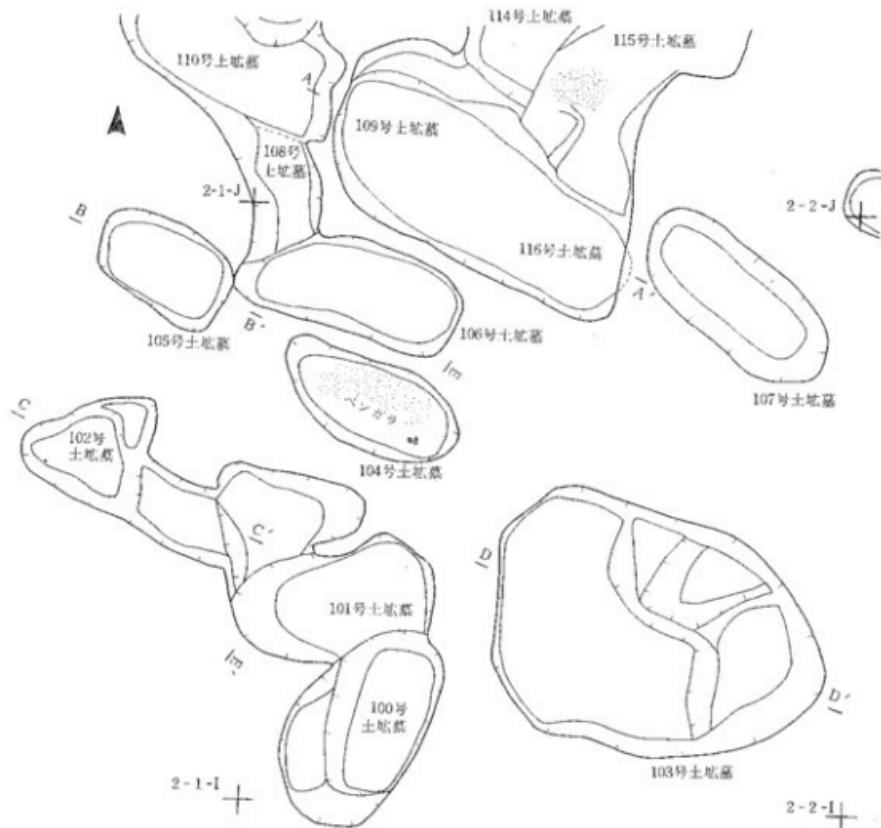
第1層 黑褐色土  
第2層 赤褐色土、ロームブロック多量混入



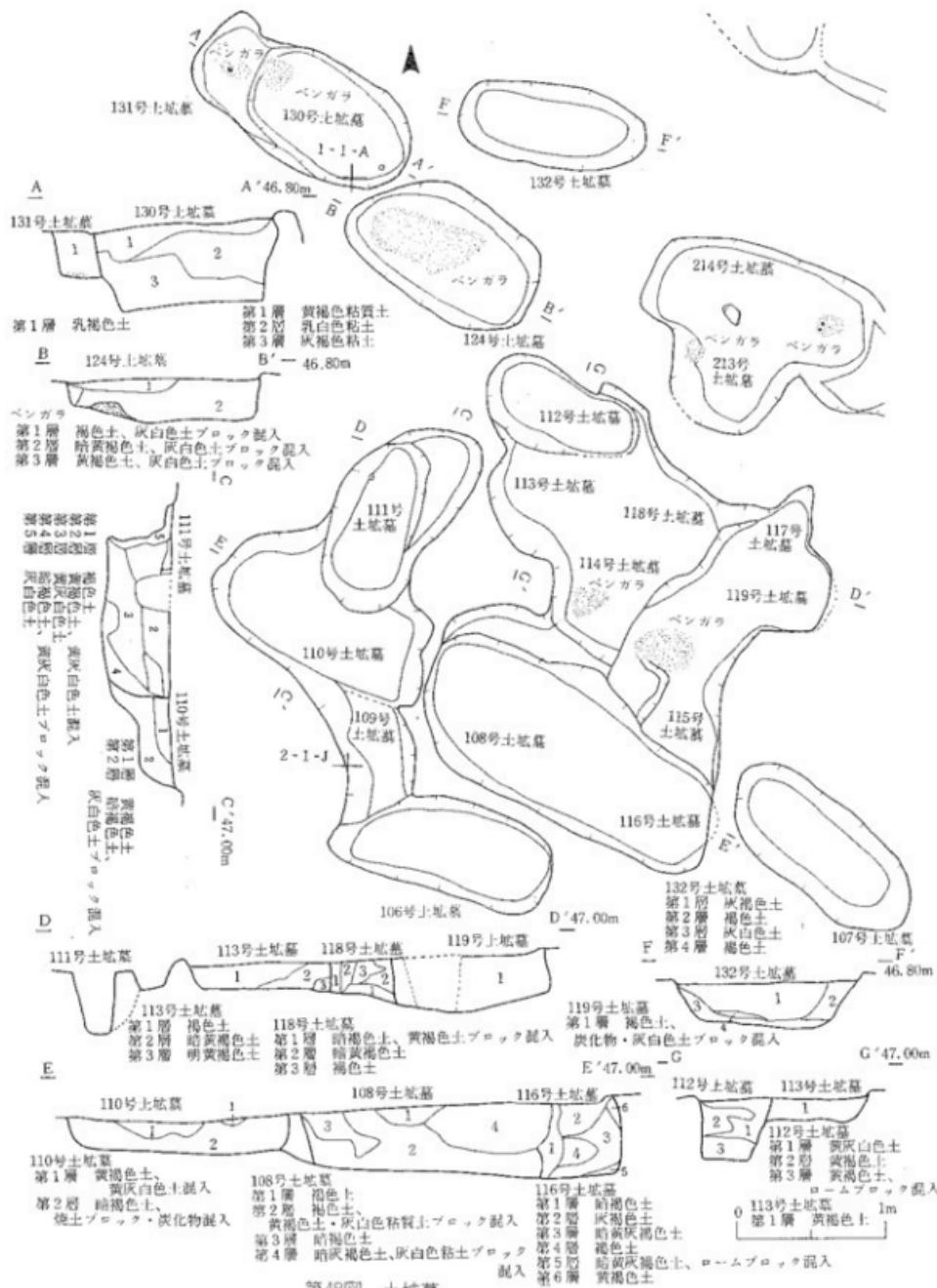
第45図 土塚墓



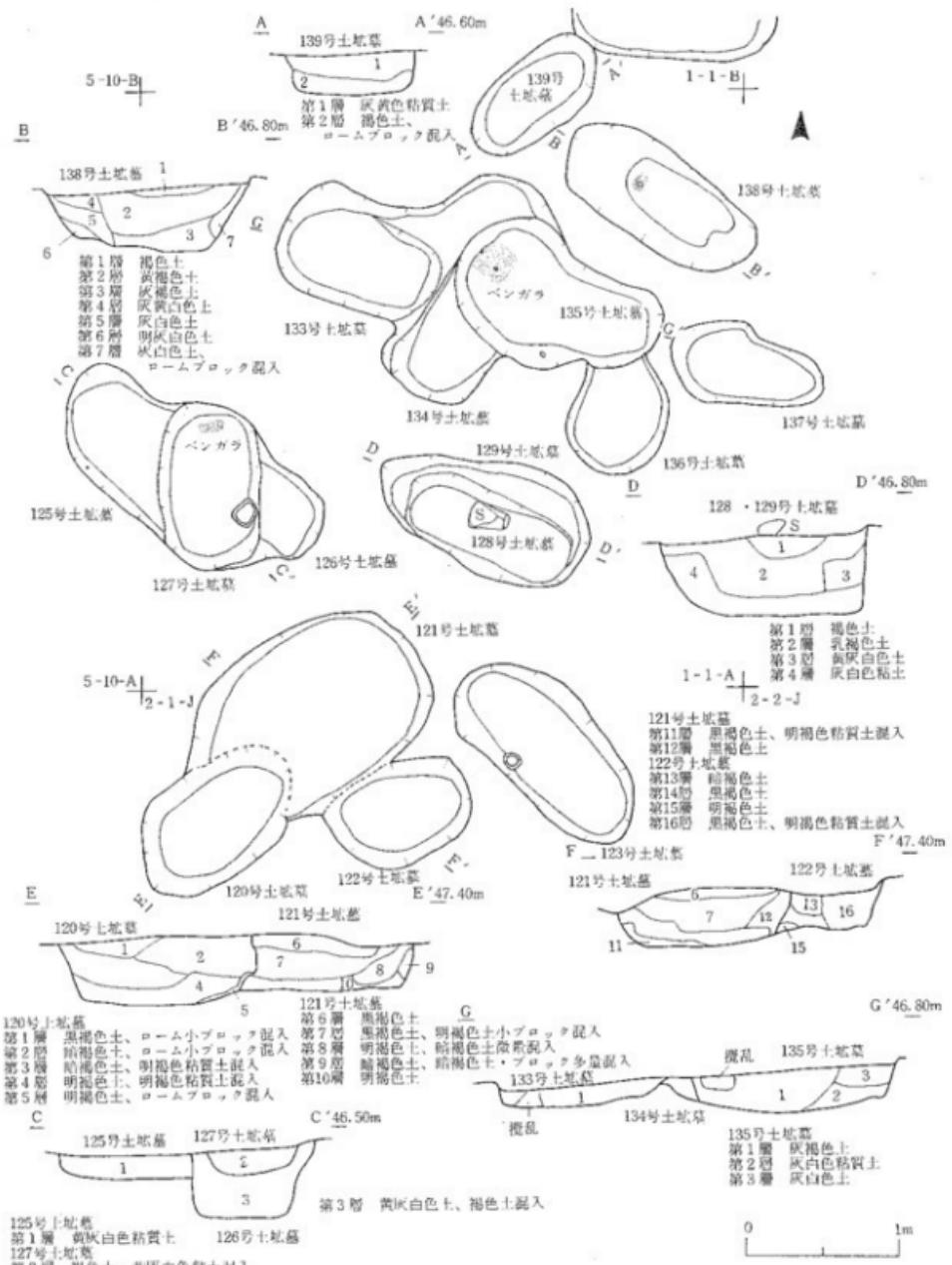
第46図 土塚墓



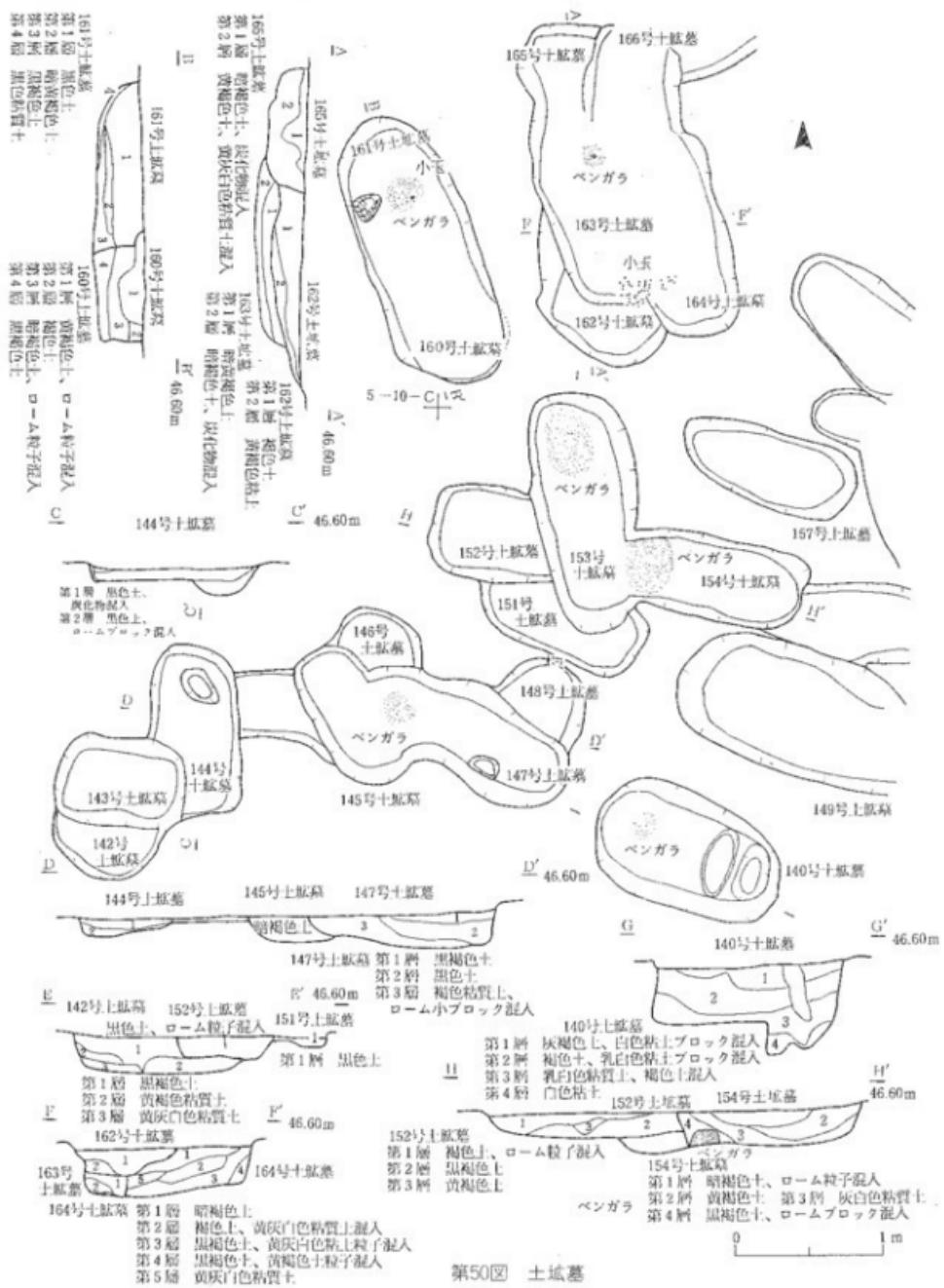
第47図 土塙墓



第48図 土塚墓



第49図 土塙基



第50図 土塙基

212号土塙墓出土遺物（第87図）

石製品：87は長さ4.1cmの勾玉である。両面から穿孔されている。

215号土塙墓出土遺物（第87図）

石製品：88・89は径9mm前後の小玉である。

216号土塙墓出土遺物（第87図）

石製品：90は径8mmの小玉である。

217号土塙墓出土遺物（第87図）

石製品：91は長さ1.8cmの勾玉である。片面からの穿孔である。

227号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：51は鉢形、52は浅鉢形土器片である。沈線文が主体である。

231号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：53は鉢形土器片である。山形口縁をなし、口縁部は無文帯である。体部には平行沈線文がまわる。

232号土塙墓出土遺物（第94図）

石器：20は基部が欠損する有茎の石鏃である。

237号土塙墓出土遺物（第88・89図）

石製品：92～126は9mm～1.4cmの小玉である。

241号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：127～129は8mm～1cmの小玉である。

247号土塙墓出土遺物（第94図）

石器：21は全長10.3cmの石槍である。

254号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：130は長さ2.4cmの勾玉である。両面から穿孔されている。

277号土塙墓出土遺物（第80図）

土器：6・7は深鉢形土器である。6は2個一対の突起が波状にめぐる。口縁部は平行沈線文がまわり、沈線間に連続刻目文が施される。7は小波状口縁をなし、口縁部に4条の平行沈線がまわる。

280号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：131は長さ1.6cmの小玉である。

285号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：54～58は浅鉢形土器片である。平行沈線文が主体をなし、56・57は体部に雲形文が施される。

289号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：59は鉢形土器片である。口縁部に2条の平行沈線文がまわる。

300号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：長さ2.7cmの勾玉である。両面から穿孔されている。

301号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：133は径1.7cmの小玉である。

303号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：134は径7mmの小玉である。

316号土塙墓出土遺物（第94図）

石器：22は長さ7.8cmの磨製石斧である。

318号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：135は径9mmの小玉である。

322号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：137は長さ2.6cmの玉である。

326号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：60は鉢形、61は浅鉢形土器片である。61は沈線により文様が施されている。

327号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：138～140は径8mm前後の小玉である。

328号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：62は深鉢形土器片である。単節斜彎文である。

329号土塙墓出土遺物（第95図）

石器：37は磨石である。

330号土塙墓出土遺物（第89図）

石製品：141は長さ2cmの勾玉である。

331号土塙墓出土遺物（第83図）

土器：63は瓶形、64・65は鉢形土器片である。63は頸部、64は口縁部に平行沈線がまわる。65は口縁部に刺突文が施され、体部は沈線によって文様が施されてる。

332号土塙墓出土遺物（第94図）

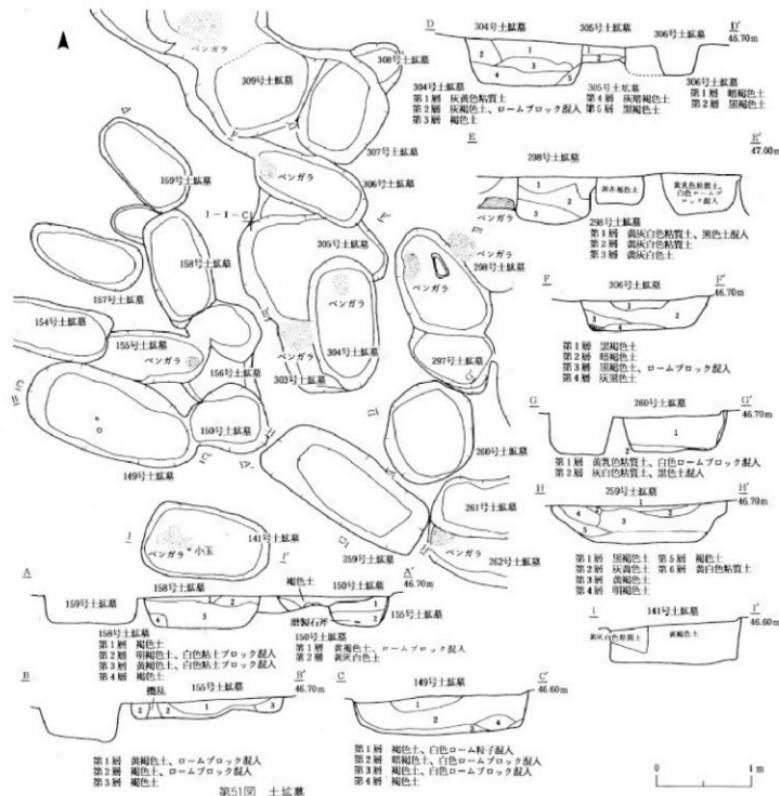
石器：26は綱型の石匙である。ツマミ部の一部にアスファルトが付着している。

334号土塙墓出土遺物（第83図）

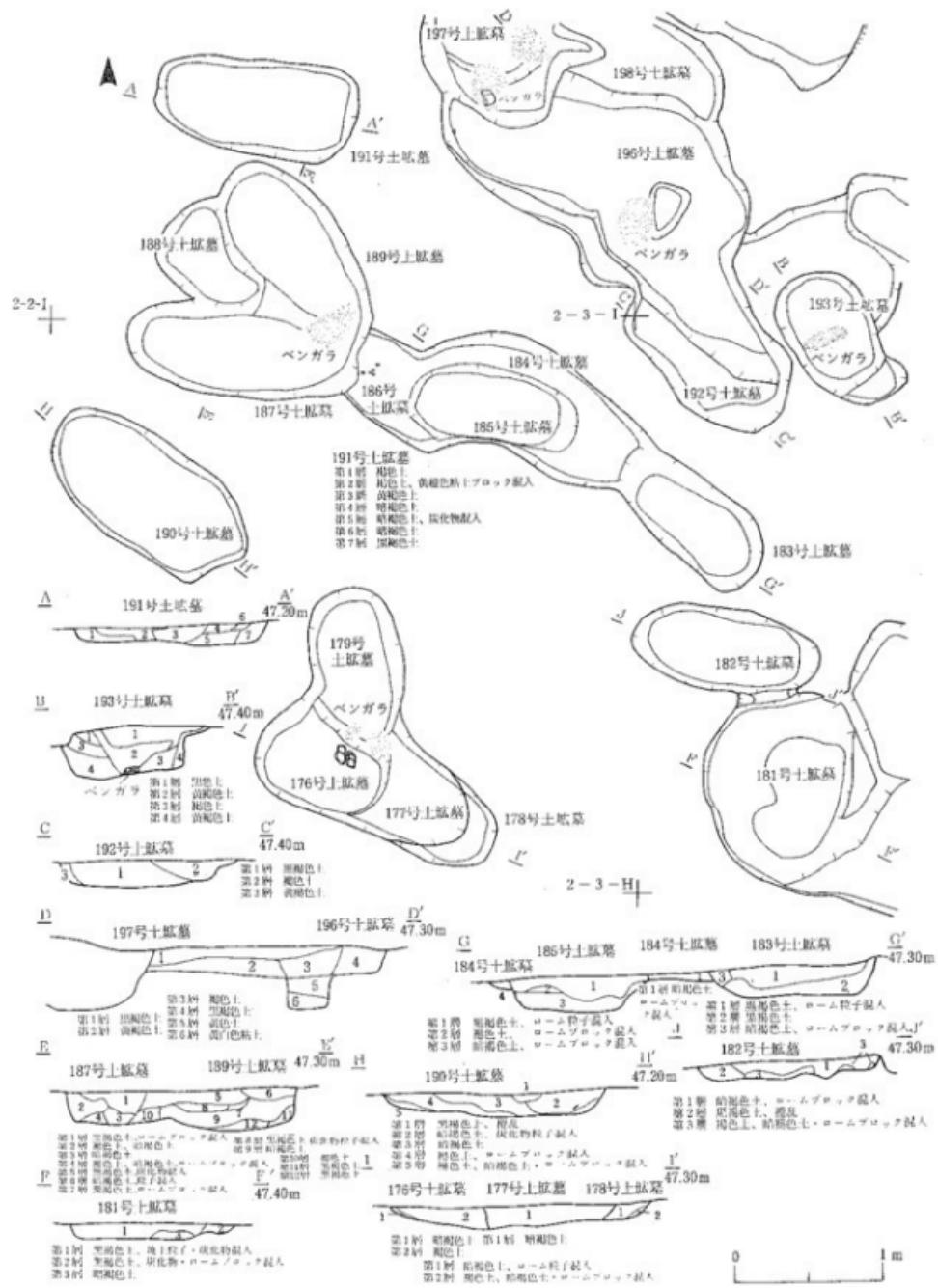
土器：66は鉢形土器片である。小波状口線をなし、口縁部と体部に2条の平行沈線がまわり、その間に矢羽根状の沈線が施される。

344・345号土塙墓出土遺物（図版39）

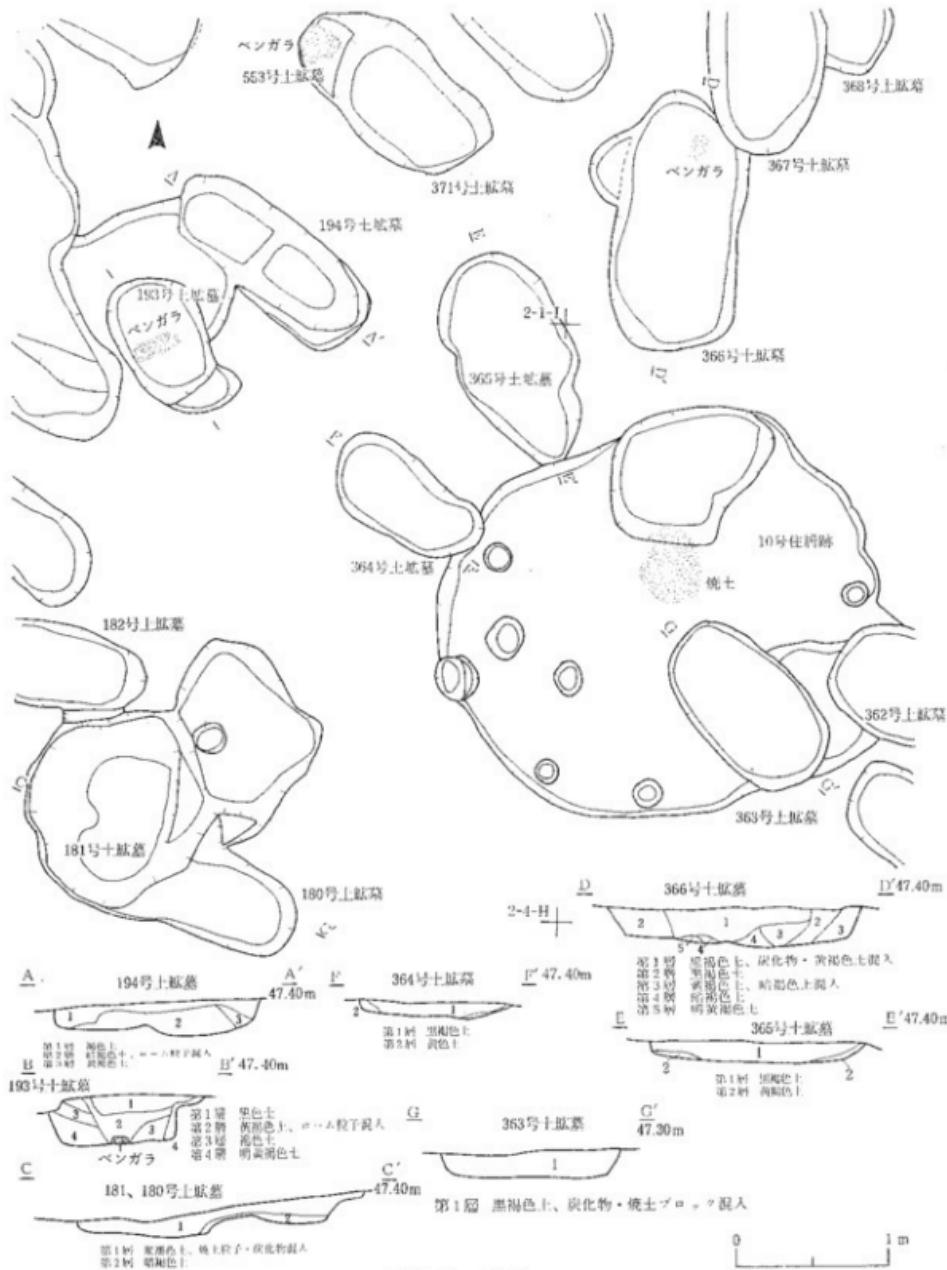
木製品：木製の梢円形を呈する腕輪である。全面に赤色顔料が塗布されている。



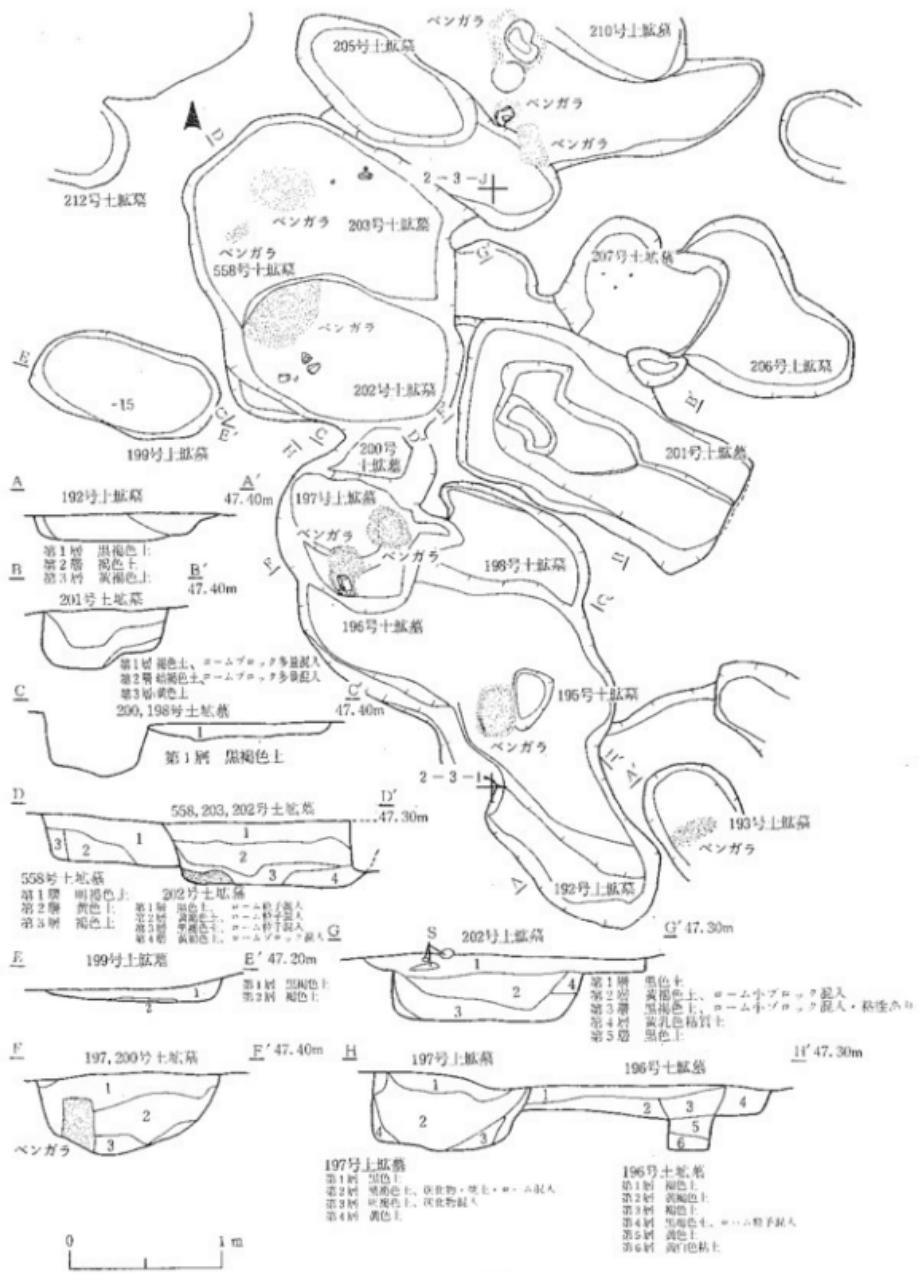
第51回 土城尊



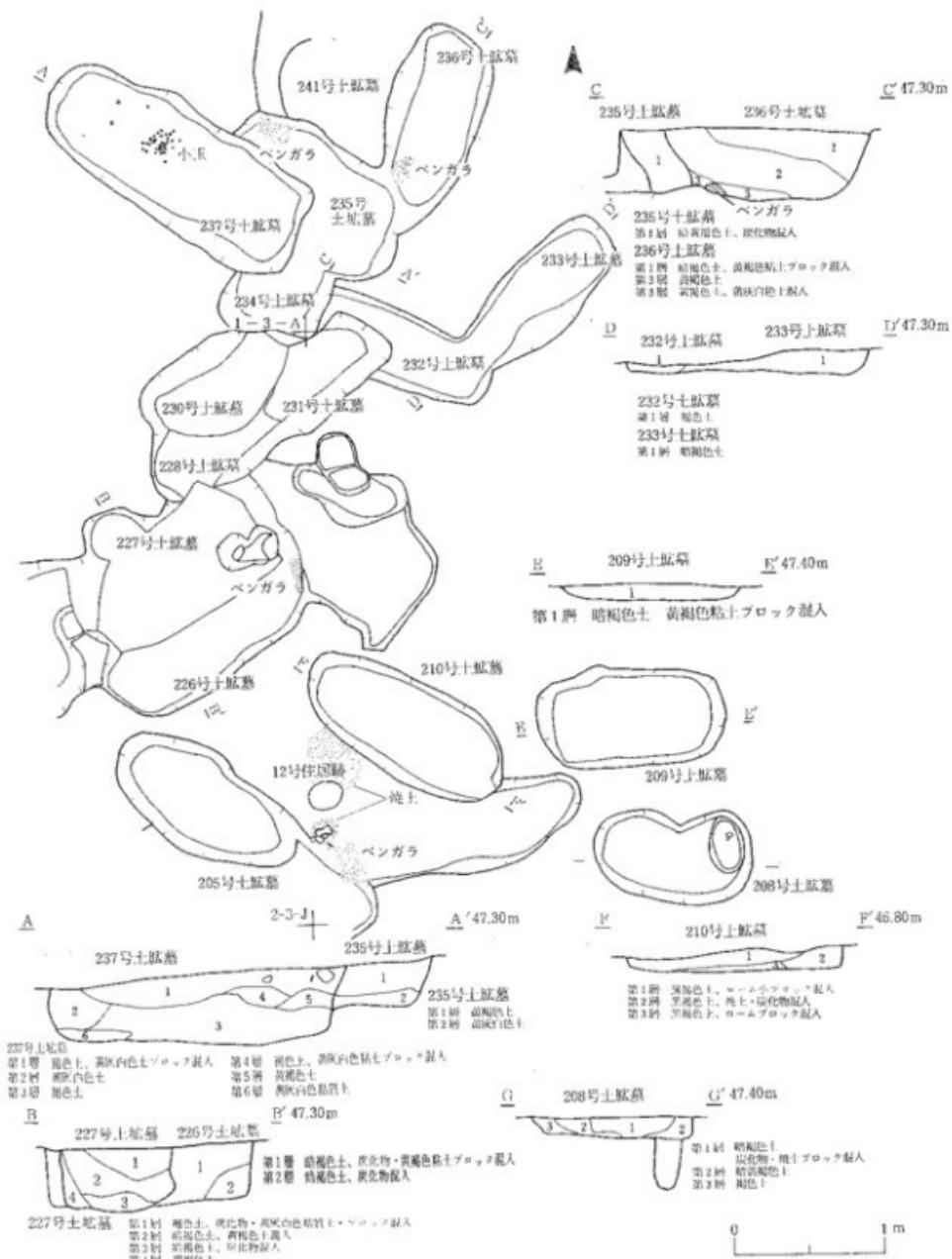
第52図 土塙基



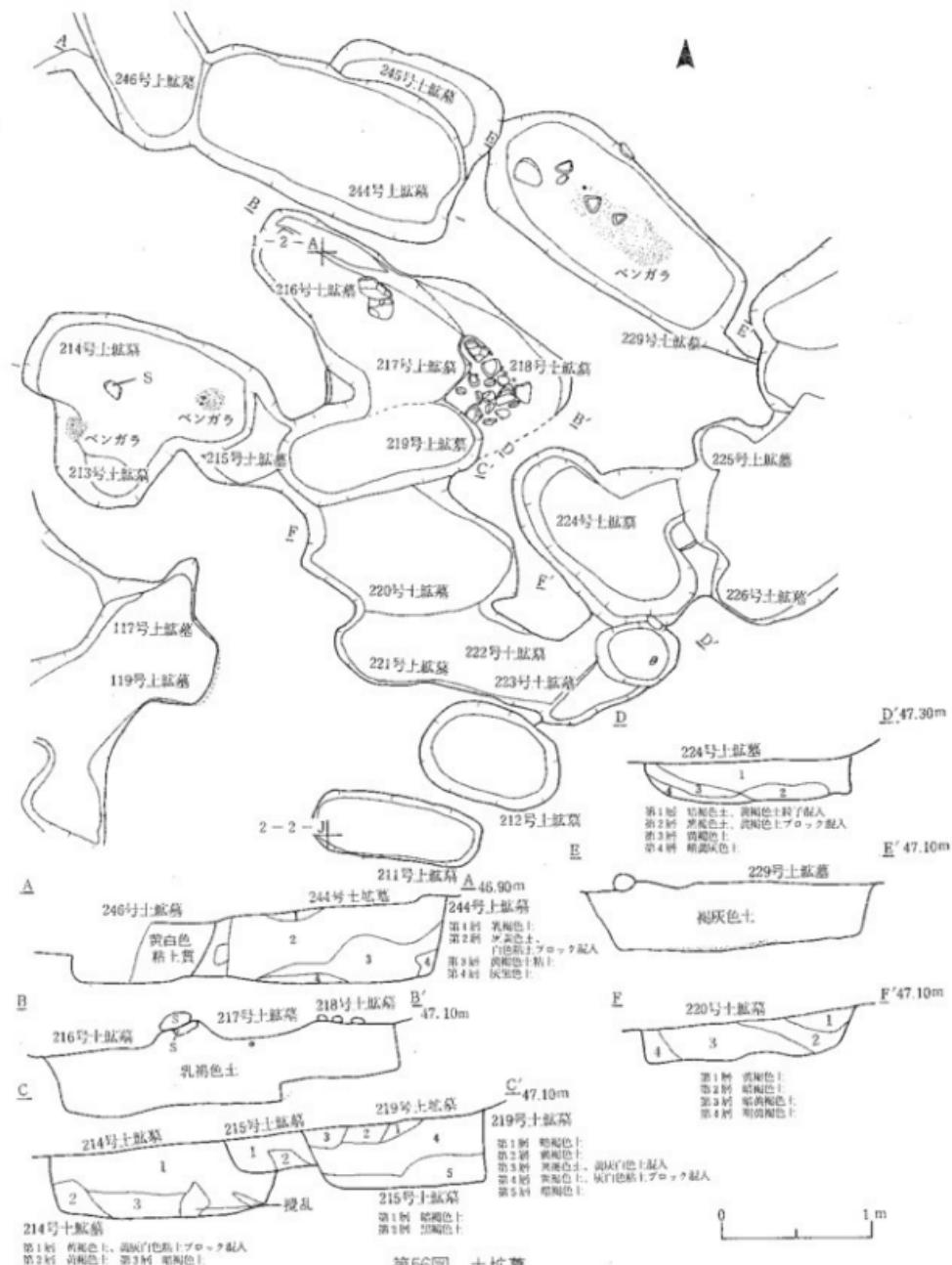
第53図 土域基



第54図 土塙基



第55図 土塙墓



第56回 土塚墓

353号土塙墓出土遺物（第90図）

石製品：142～145は径9mm～1cmの小玉である。

360号土塙墓出土遺物（第90図）

石製品：146～151は径8mm～1.1cmの小玉である。

367号土塙墓出土遺物

石製品：破片であり図示できないが、小玉6点が出土している。

370号土塙墓出土遺物（第94図）

石器：23は刃部が欠損する磨製石斧である。

382号土塙墓出土遺物（第84図）

土器：67～70は鉢形土器片である。口縁部に平行沈線が施される。70は小波状口縁をなし、体部には羊齒状文がみられる。

384号土塙墓出土遺物（第90図）

石製品：152～155は長径9mm、長さ1.4cmの管玉状の玉である。

390号土塙墓出土遺物（第90図）

石製品：156～161は径6mm～1.1cmの小玉である。

393号土塙墓出土遺物（第90図）

石製品：162は長さ1.7cmの勾玉である。

397号土塙墓出土遺物（第90図）

石製品：163は長さ3.2cmの勾玉である。

400号土塙墓出土遺物（第84図）

土器：71は浅鉢形土器片である。口縁部は磨消し無文帶である。

402号土塙墓出土遺物（第84図）

土器：72は浅鉢形土器片である。口縁部に2条の平行沈線がまわり、体部も沈線で文様が施されている。

405号土塙墓出土遺物（第84図）

土器：73は鉢形土器である。小波状口縁をなし、体部に突起を付し、それに連絡するようにして4条づつ平行沈線文がまわっている。

411号土塙墓出土遺物（第90・94図）

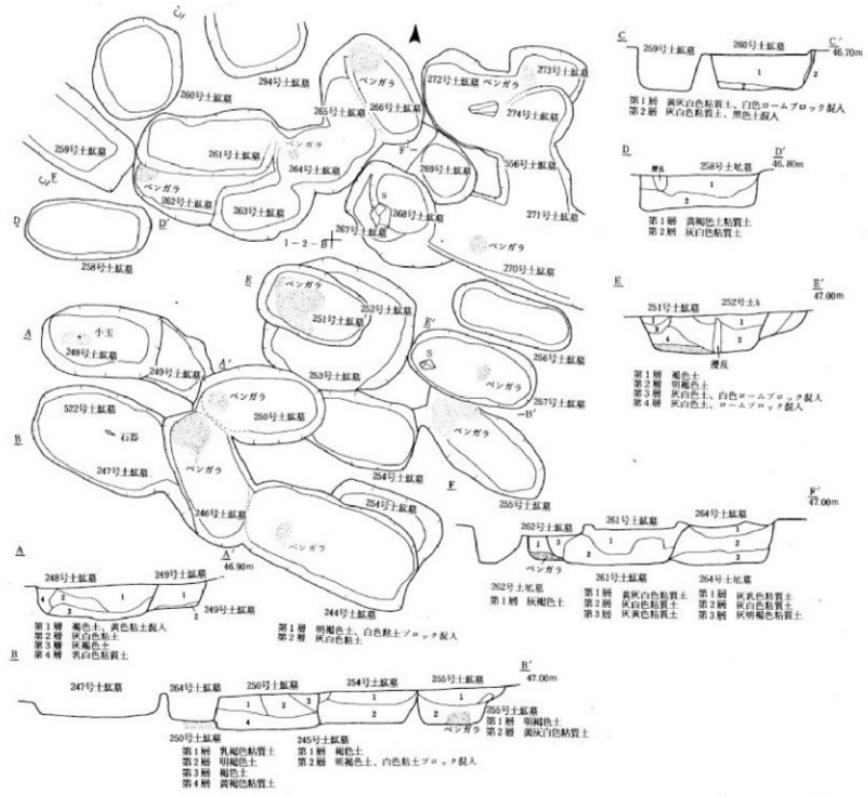
石製品：164・165は9mm～1cmの小玉である。

石器：24・25是有茎の石鏃である。25は基部先端が欠損している。

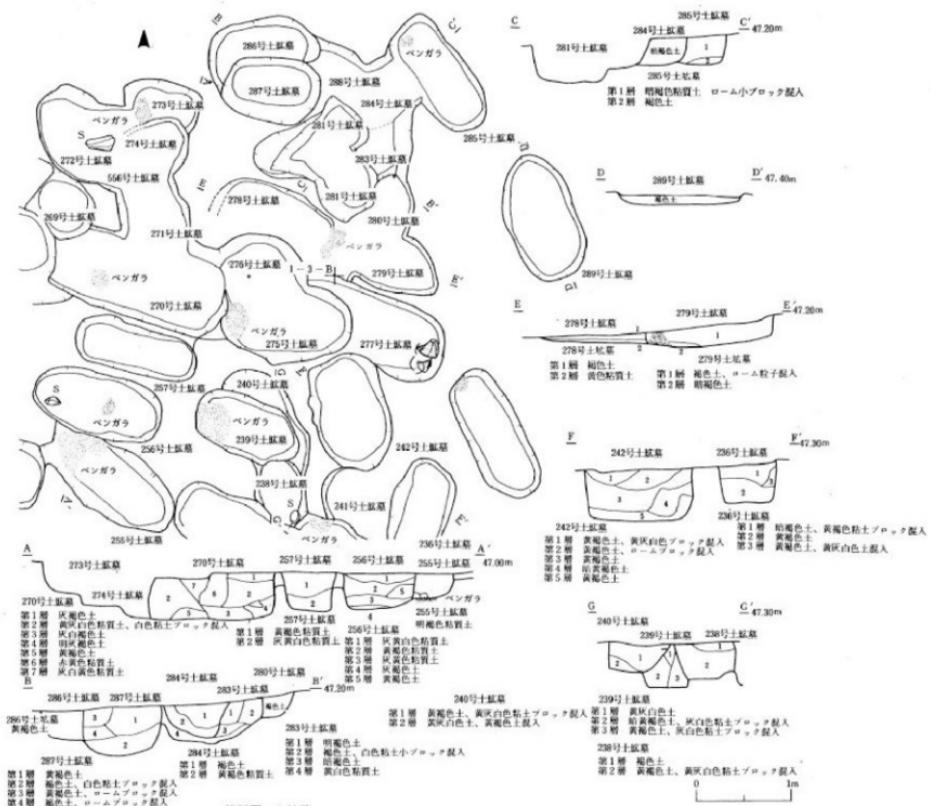
415号土塙墓出土遺物（第84図）

土器：74は浅鉢形土器片である。口縁部の沈線間に連続刻目文が施されている。

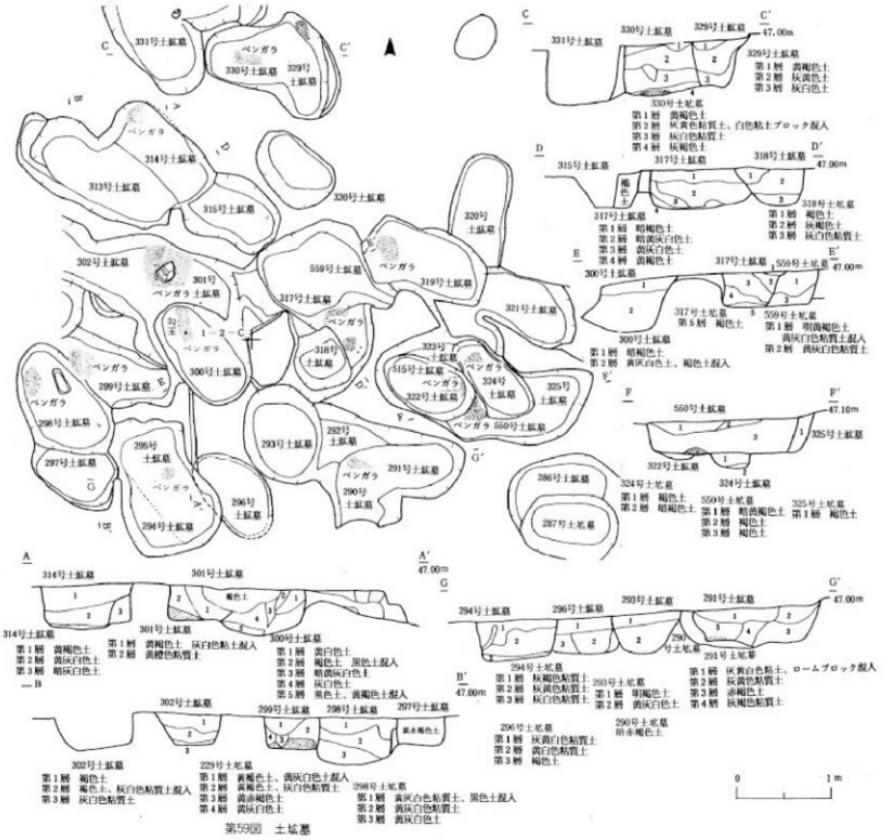
418号土塙墓出土遺物（第90図）



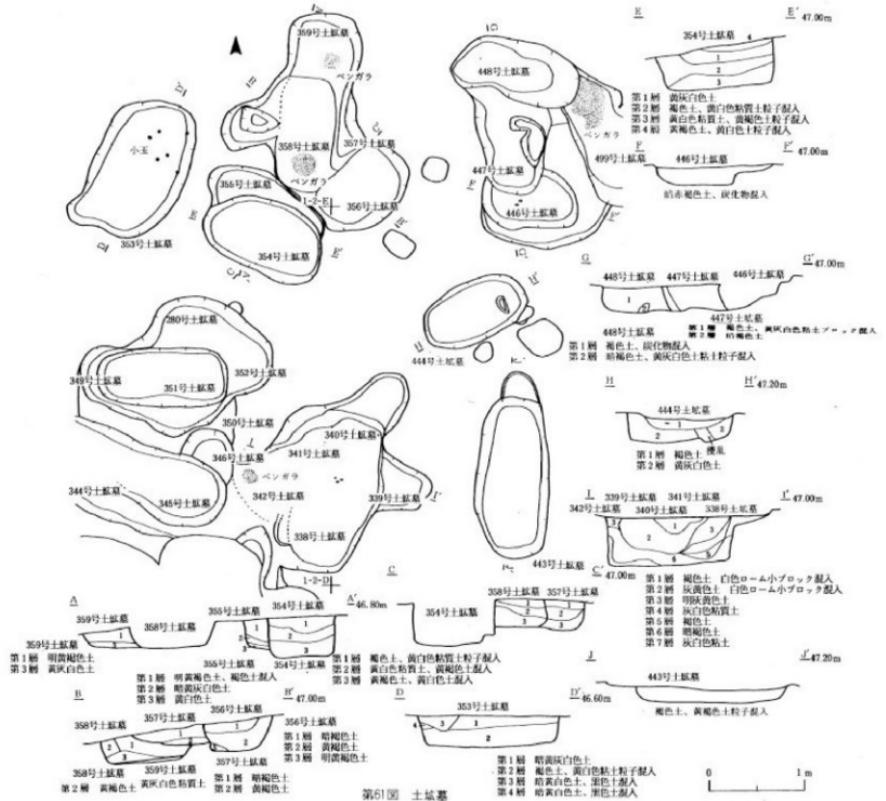
第57図 土塗基

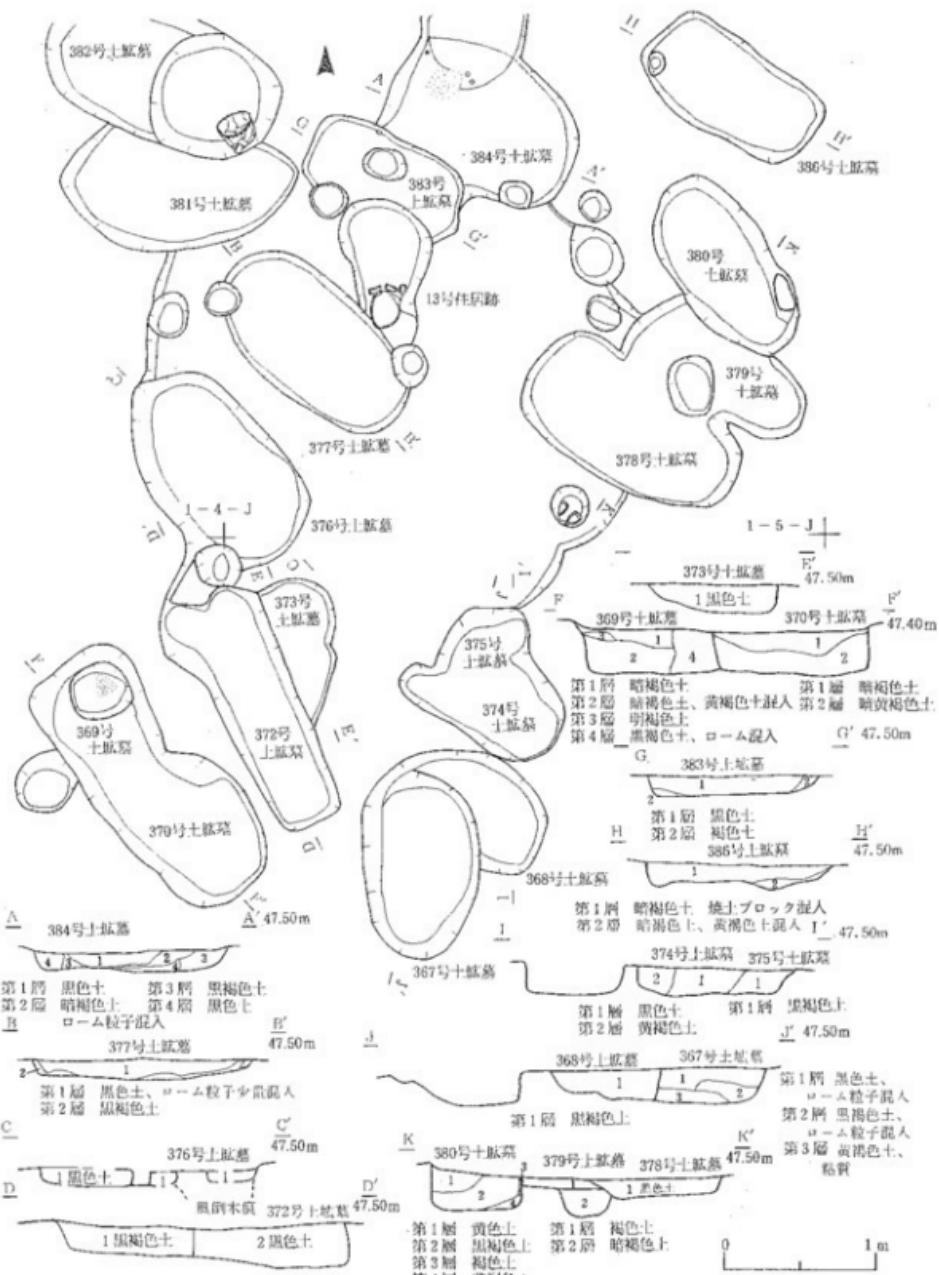


第58図 土試験









第62図 土塚墓

石製品：166～169は8mm前後の小玉である。

424号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：170は径1.6cmの小玉である。

428号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：171は長さ2.3cmの勾玉である。172・173は径8mmの小玉である。

434号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：174は径8mmの小玉である。

437号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：175は径8mmの小玉である。

446号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：176・177は径9mm～1cmの小玉である。

450号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：178は径9mmの小玉である。

453号土塙墓出土遺物（第84図）

土器：75・76は浅鉢形土器である。沈線を主体に文様を施している。

460号土塙墓出土遺物（第89・91図）

石製品：136は長さ1.9cm、179は長さ3cmの勾玉である。180は径9mmの小玉である。

471号土塙墓出土遺物（図版47）

木製品：木製の楕円形の腕輪であり赤色顔料が塗布されている。

石器：30は基部の欠損する磨製石斧である。

479号土塙墓出土遺物（第94・95図）

石器：31は基部の欠損する磨製石斧、38は両面使用のくぼみ石である。

481号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：181は径1.1cmの小玉である。

492号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：182は長さ2.6cmの勾玉である。

497号土塙墓出土遺物（第94図）

石器：32は有茎の石鏃である。基部先端が欠損する。

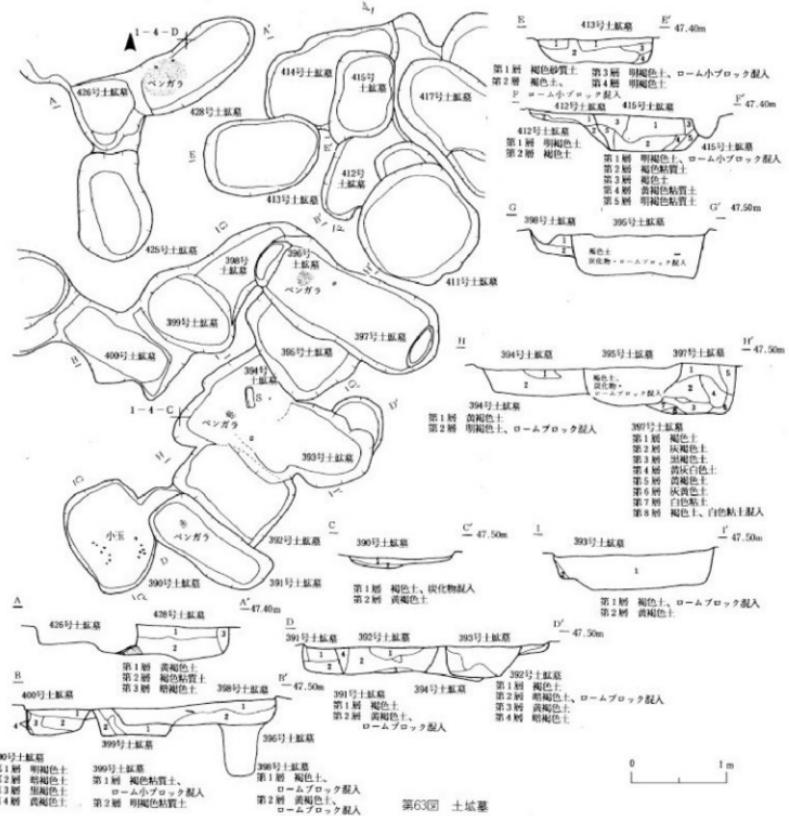
507号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：183は長さ1.9cmの勾玉である。

511号土塙墓出土遺物（第84図）

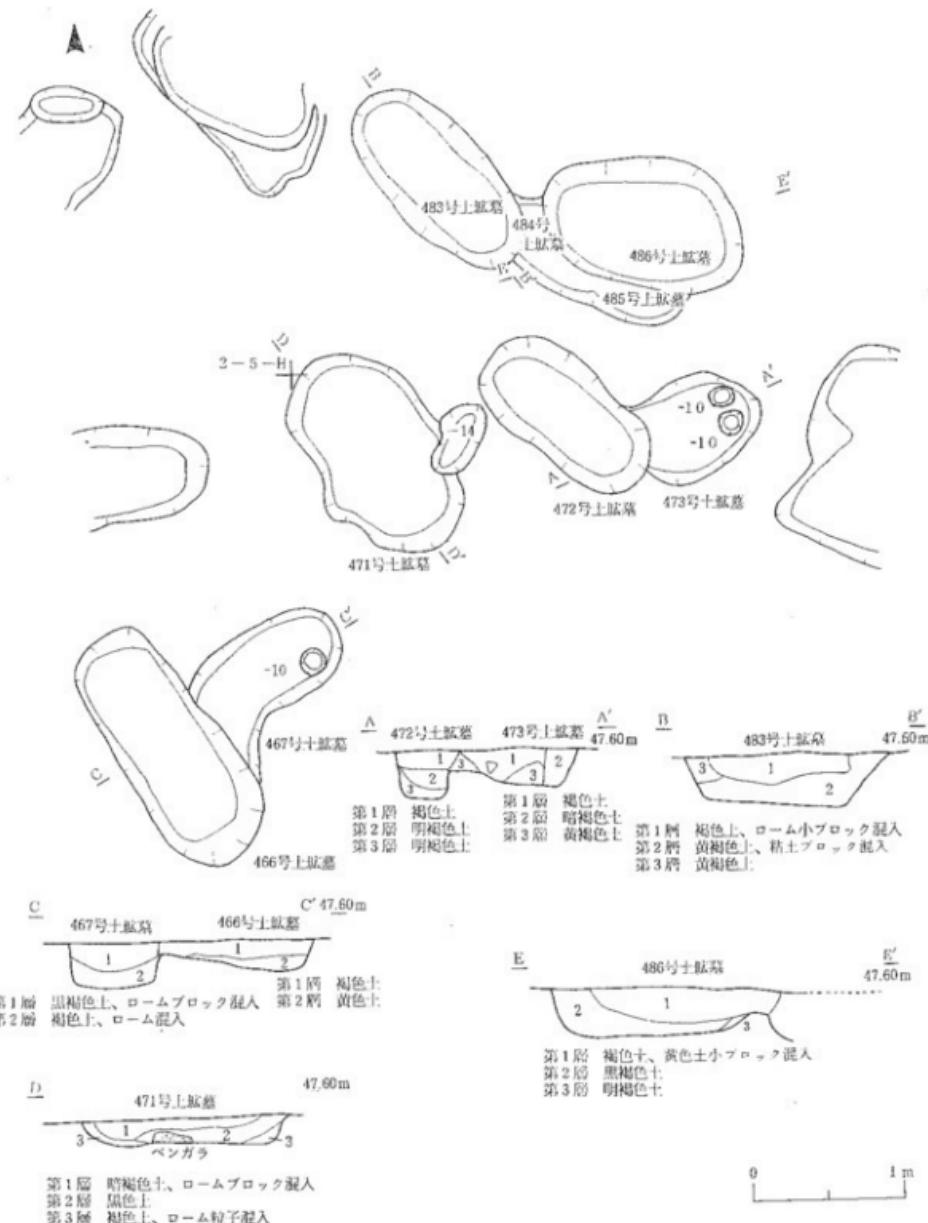
土器：77は鉢形土器である。口縁部に3条の平行沈線がある。

512号土塙墓出土遺物（第91図）

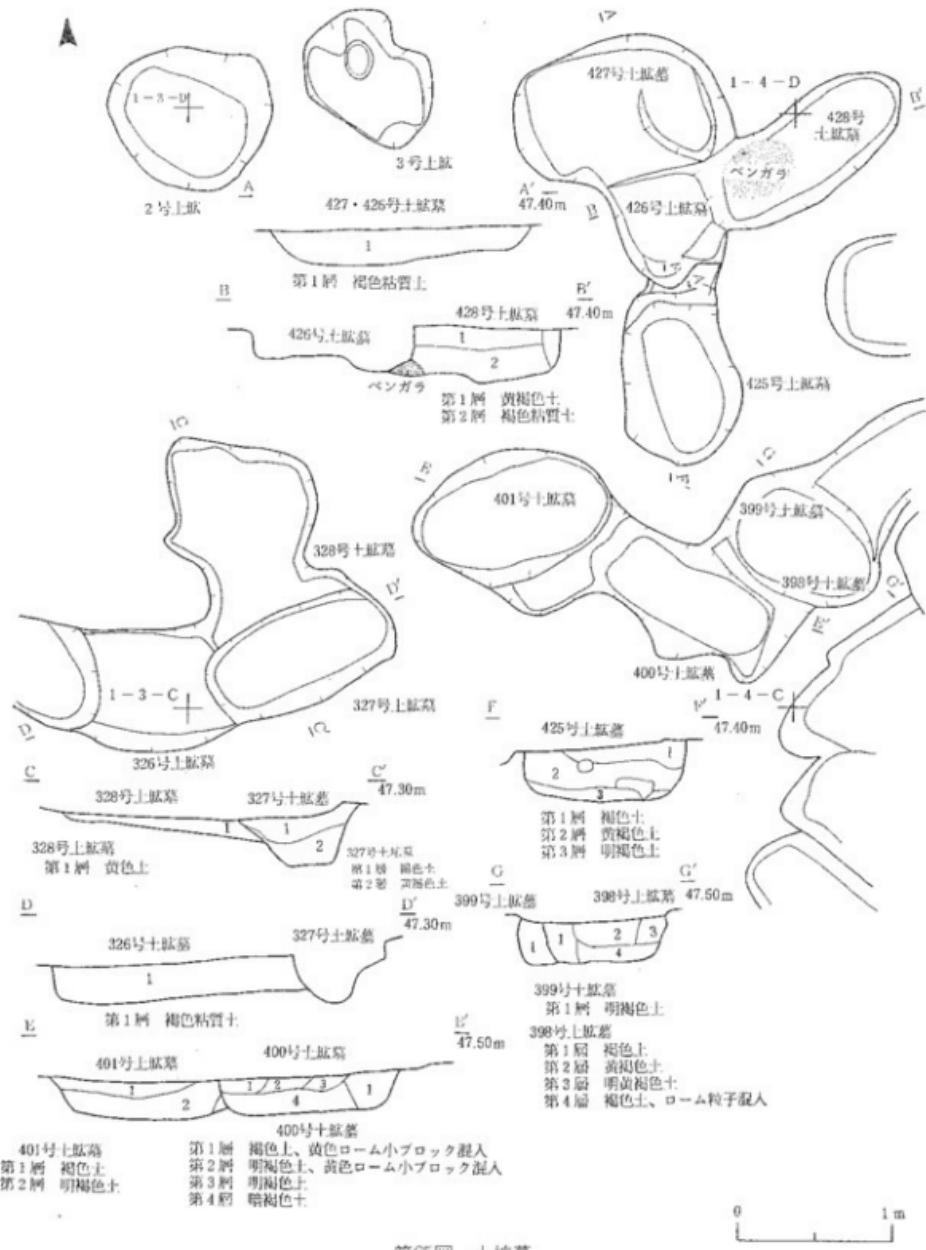


第63回 土塙墓

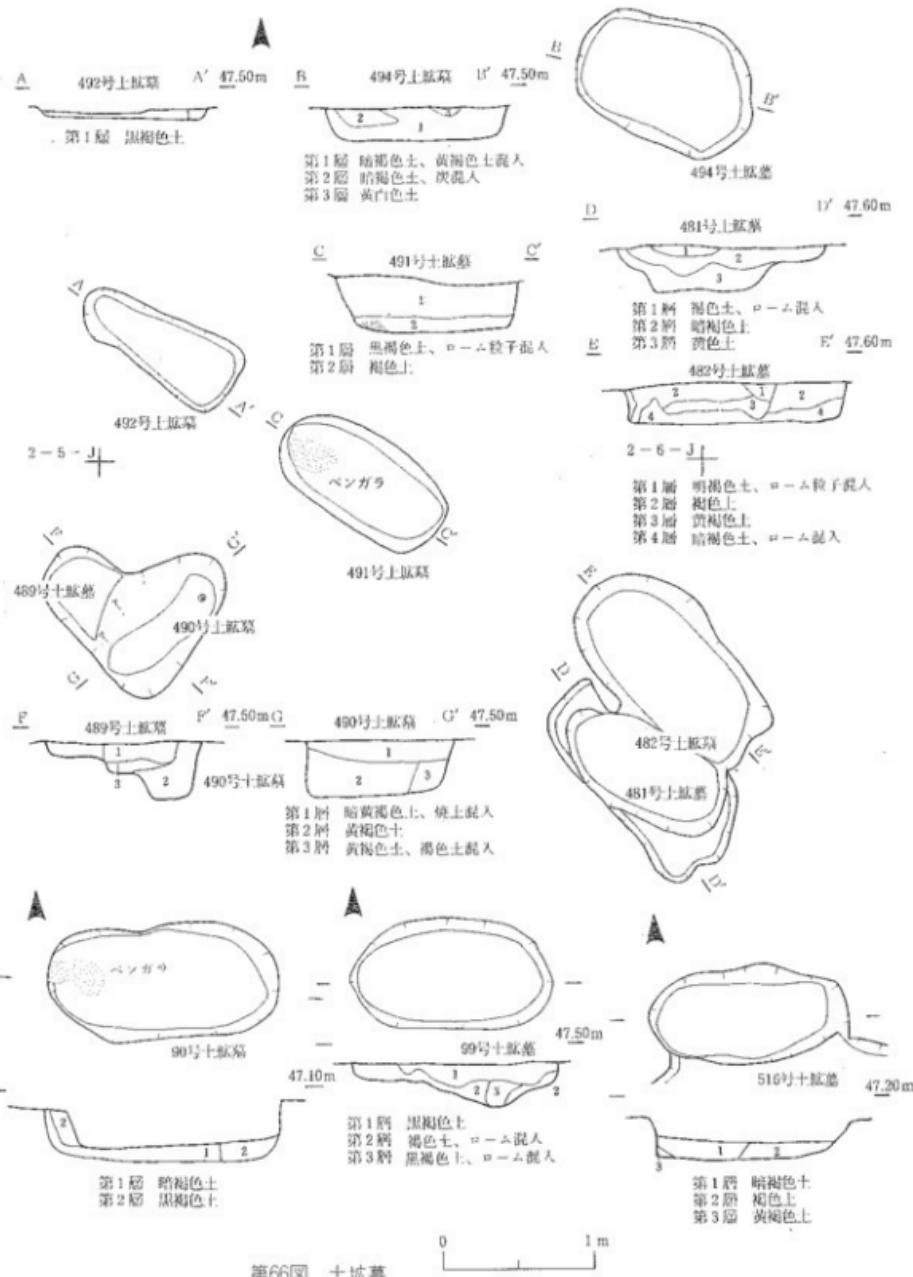
0 1m



第64図 土塚墓



第65図 土壌基



第66図 土塙基

石製品：184～188は径 9 mm～1.1cmの小玉である。

524号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：189は長さ1.8cmの勾玉である。

525号土塙墓出土遺物（第91図）

石製品：190は長さ2.1cmの勾玉である。

535号土塙墓出土遺物（第92図）

石製品：191・192は経1.2cmの小玉である。

539号土塙墓出土遺物（第92図）

石製品：193～201は径 6 mm～9 mmの小玉である。

542号土塙墓出土遺物（第95図）

石器：39は石皿の破片である。

544号土塙墓出土遺物（第94図）

石器：29は有茎の石鎌である。基部先端が欠損する。

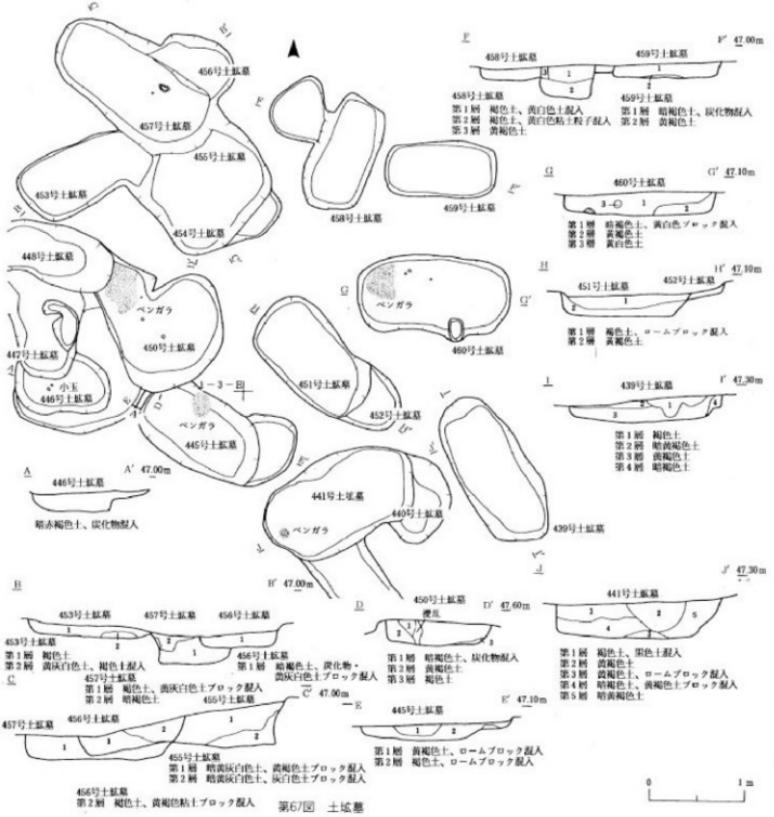
557号土塙墓出土遺物（第92図）

石製品：202は長さ2.8cm、203は長さ2.1cmを計る勾玉である。

558号土塙墓出土遺物（第92図）

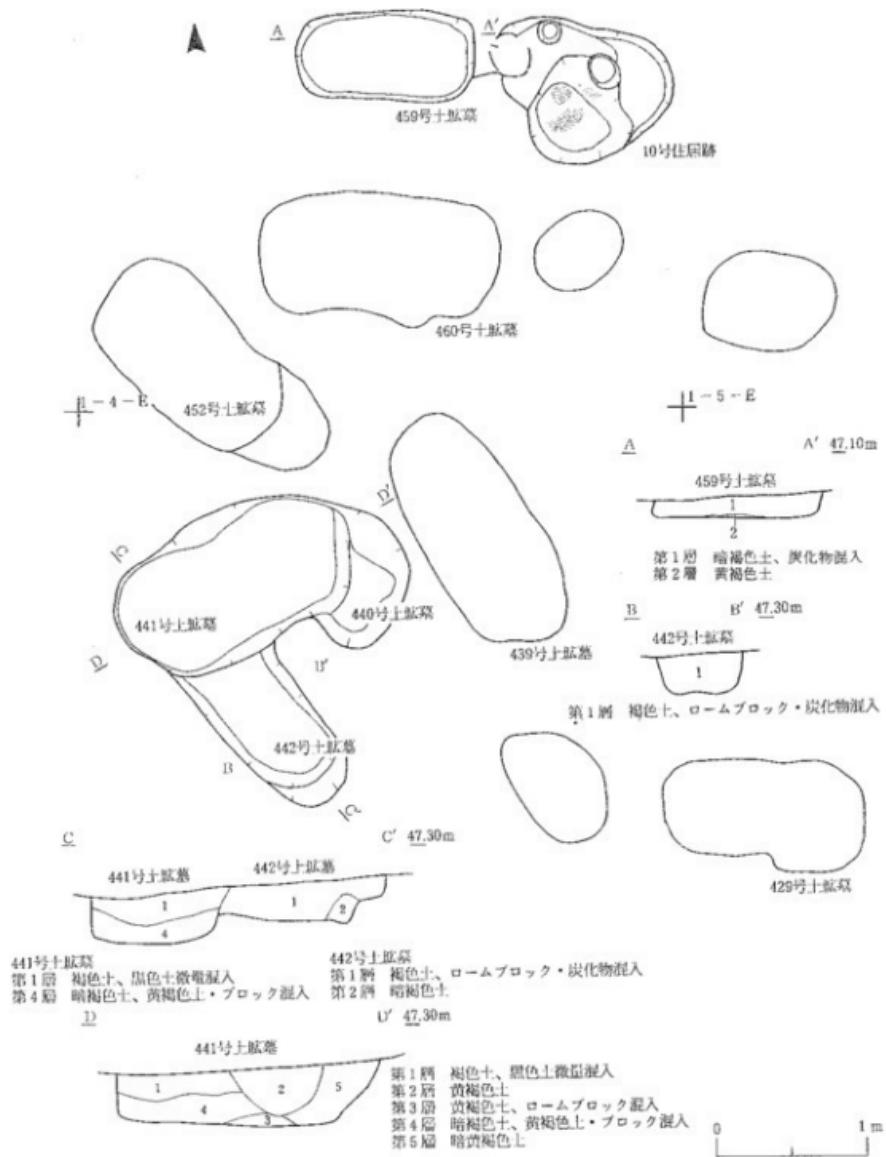
石製品：204は長さ2.1cmの勾玉である。

石器：32・33は有茎の石鎌である。32は両端部、33は基部が欠損している。

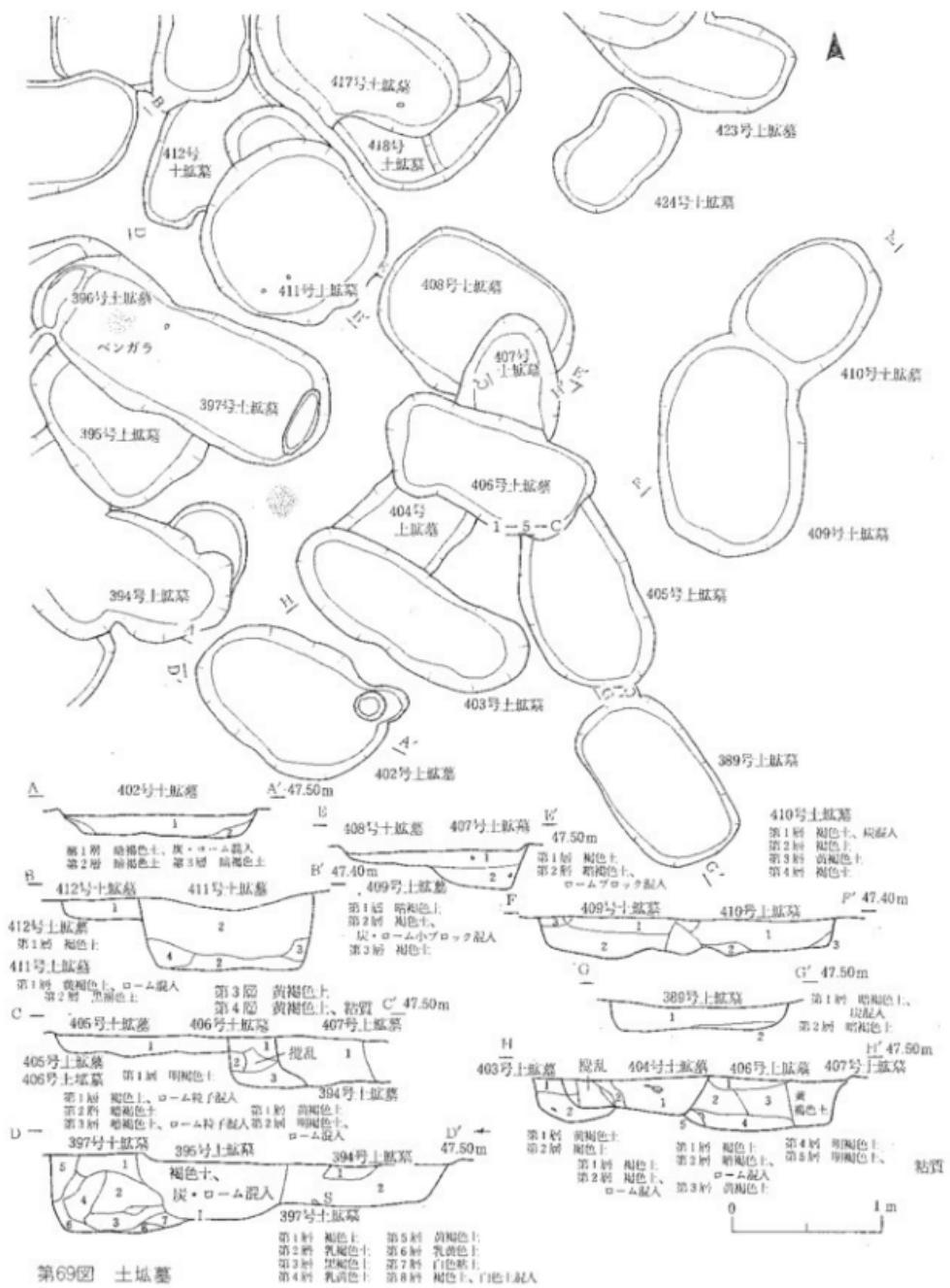


第67図 土試験

0 1 m



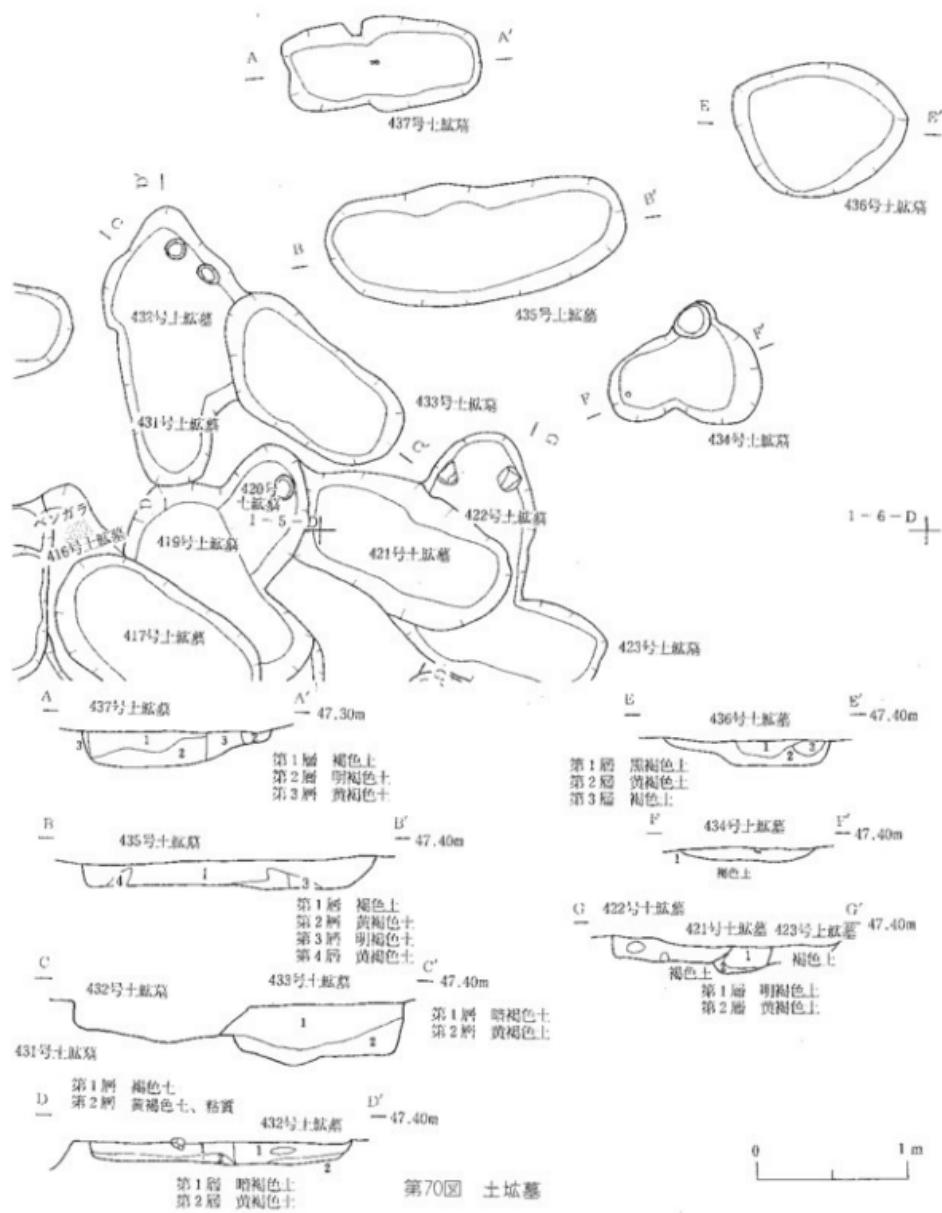
第68図 土塚墓



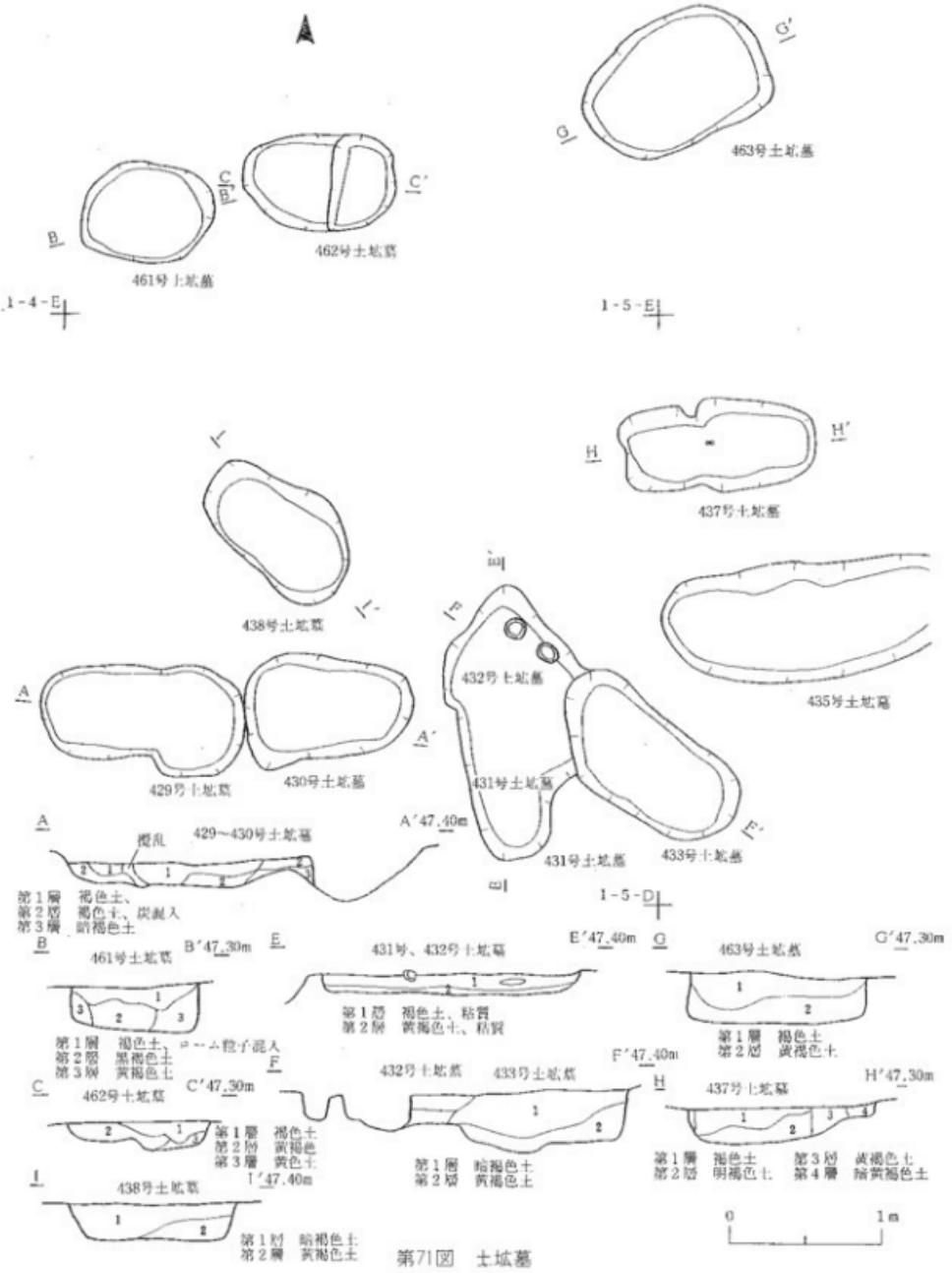
第69図 土塚基

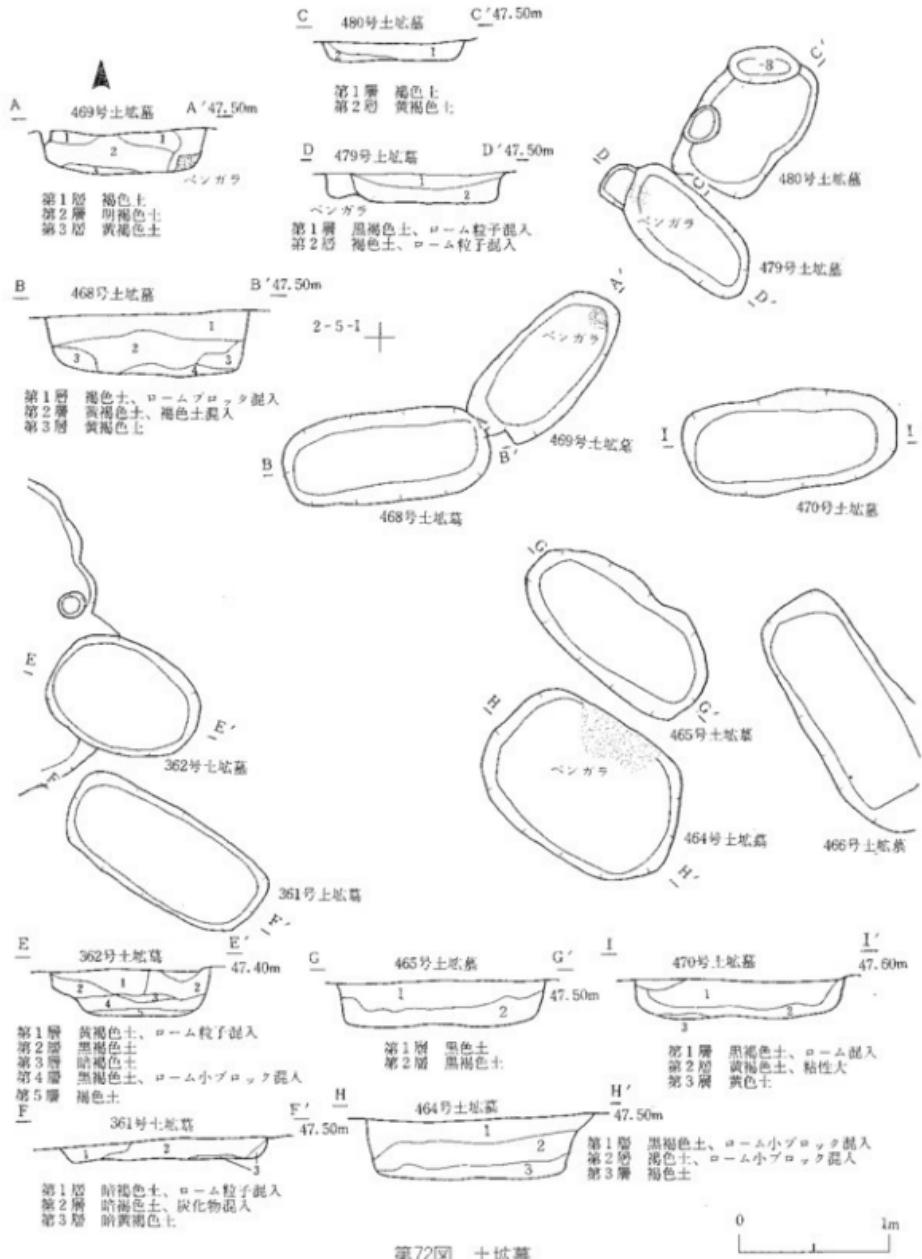
1-5-E

1-6-E

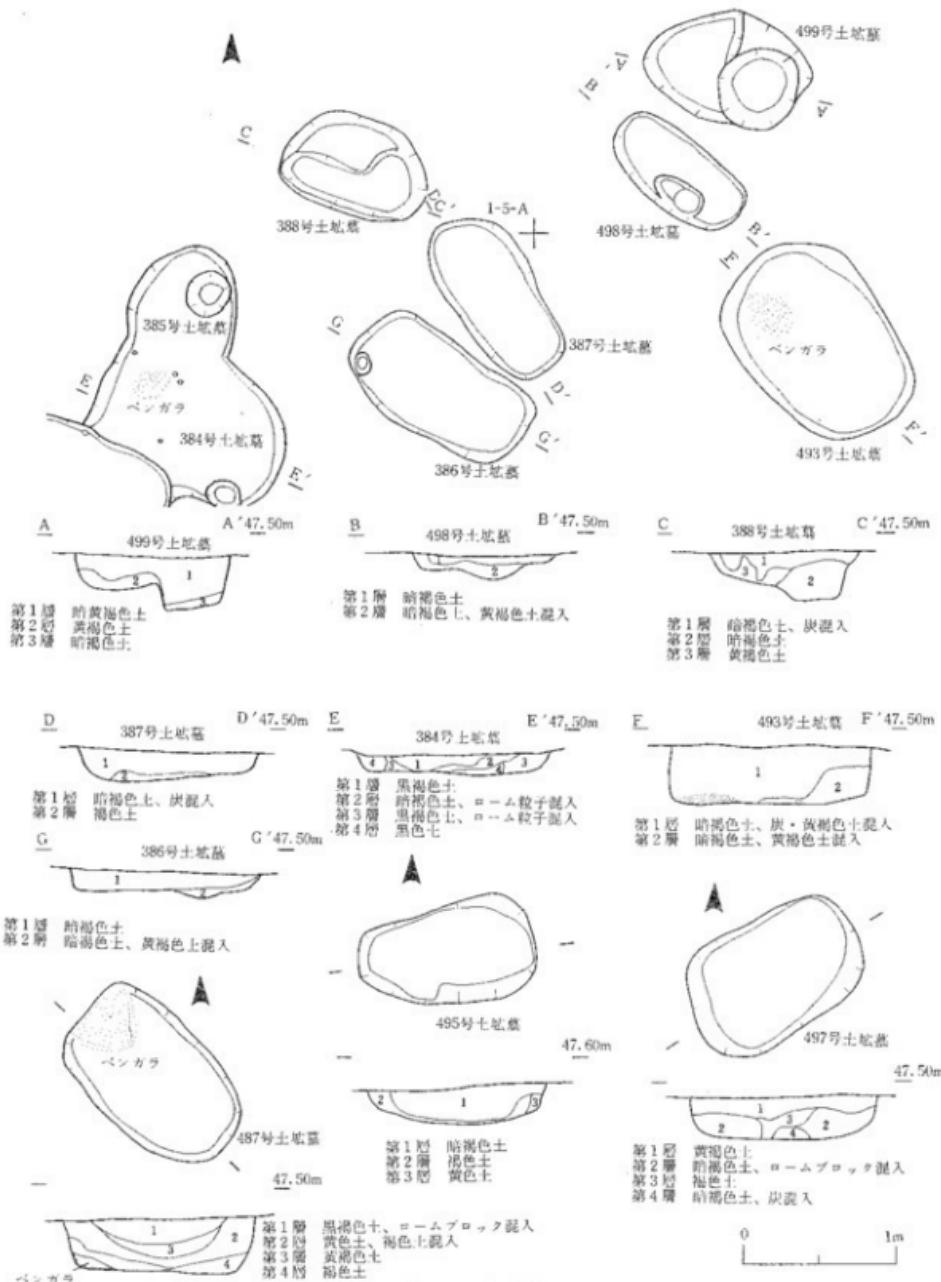


第70図 土塚墓

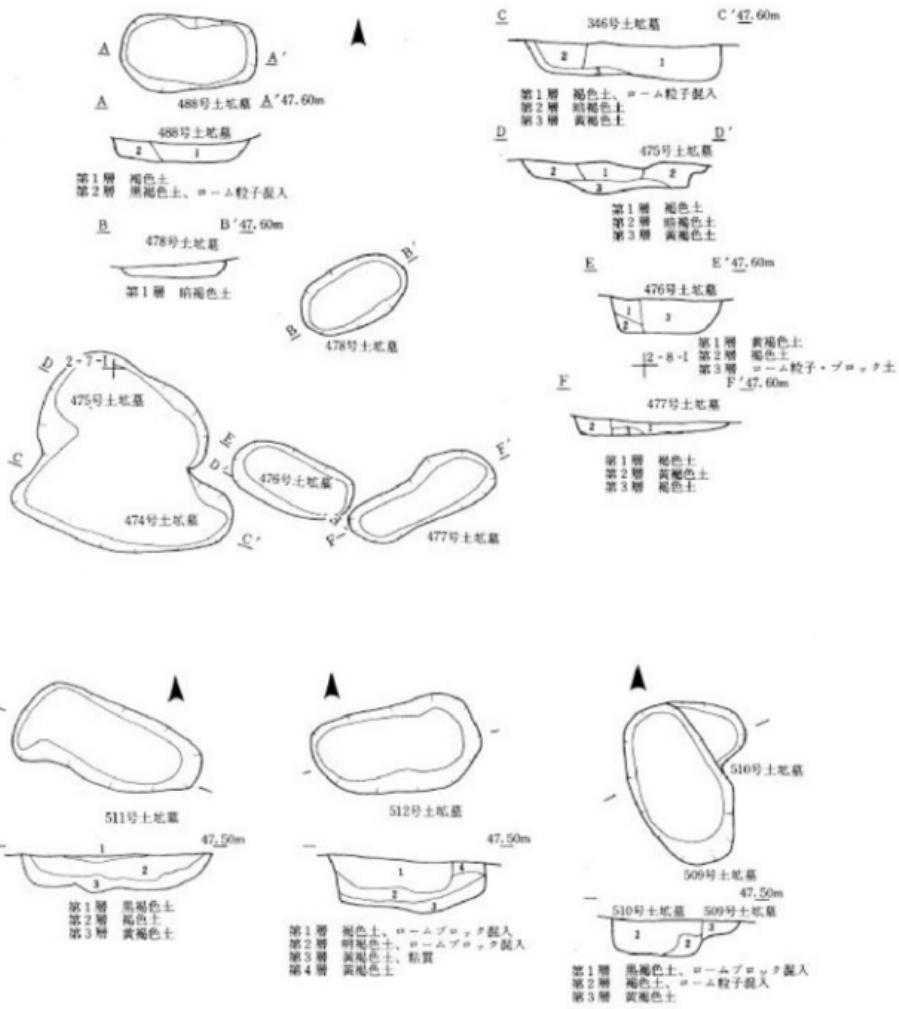




第72図 土塙墓

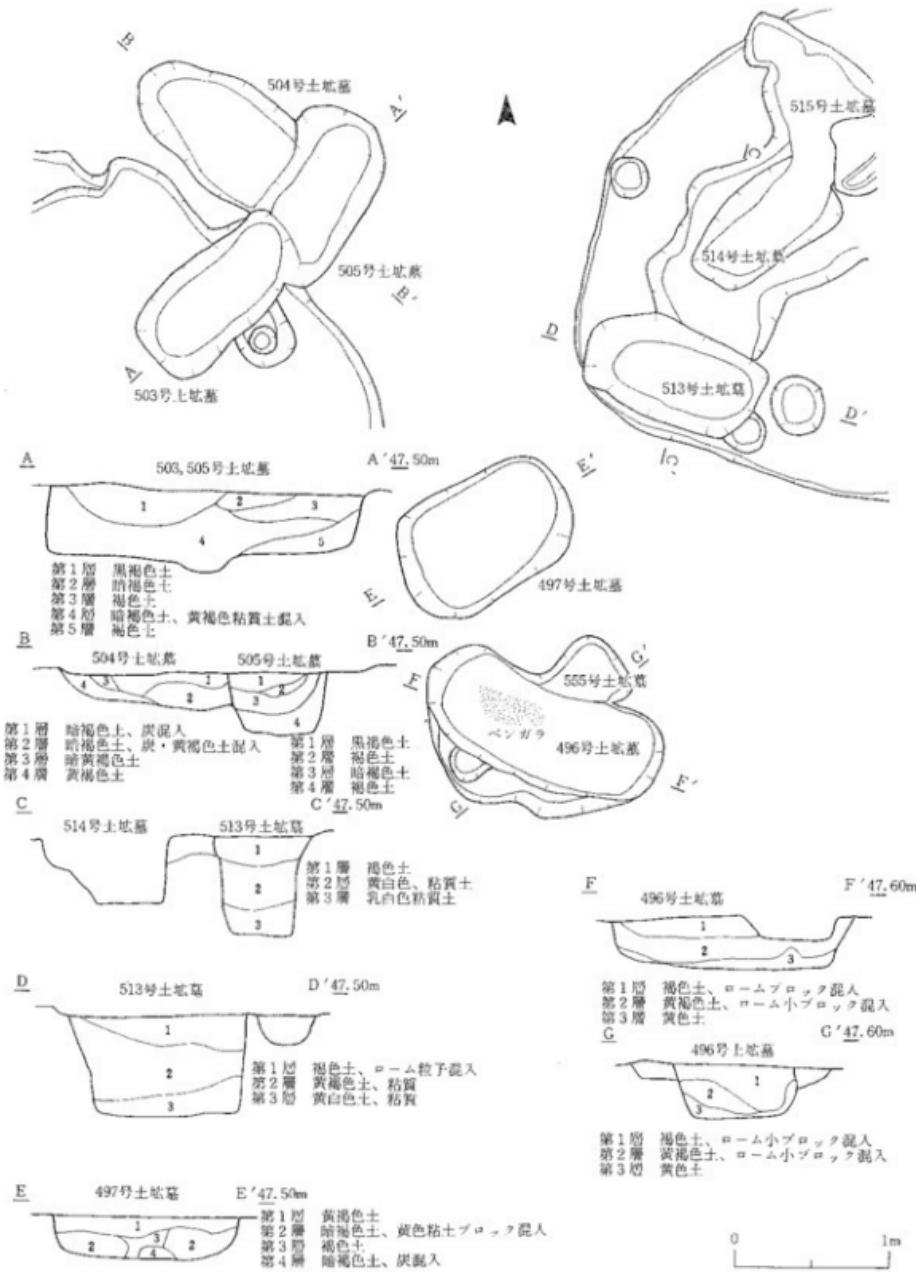


第73図 土塚墓

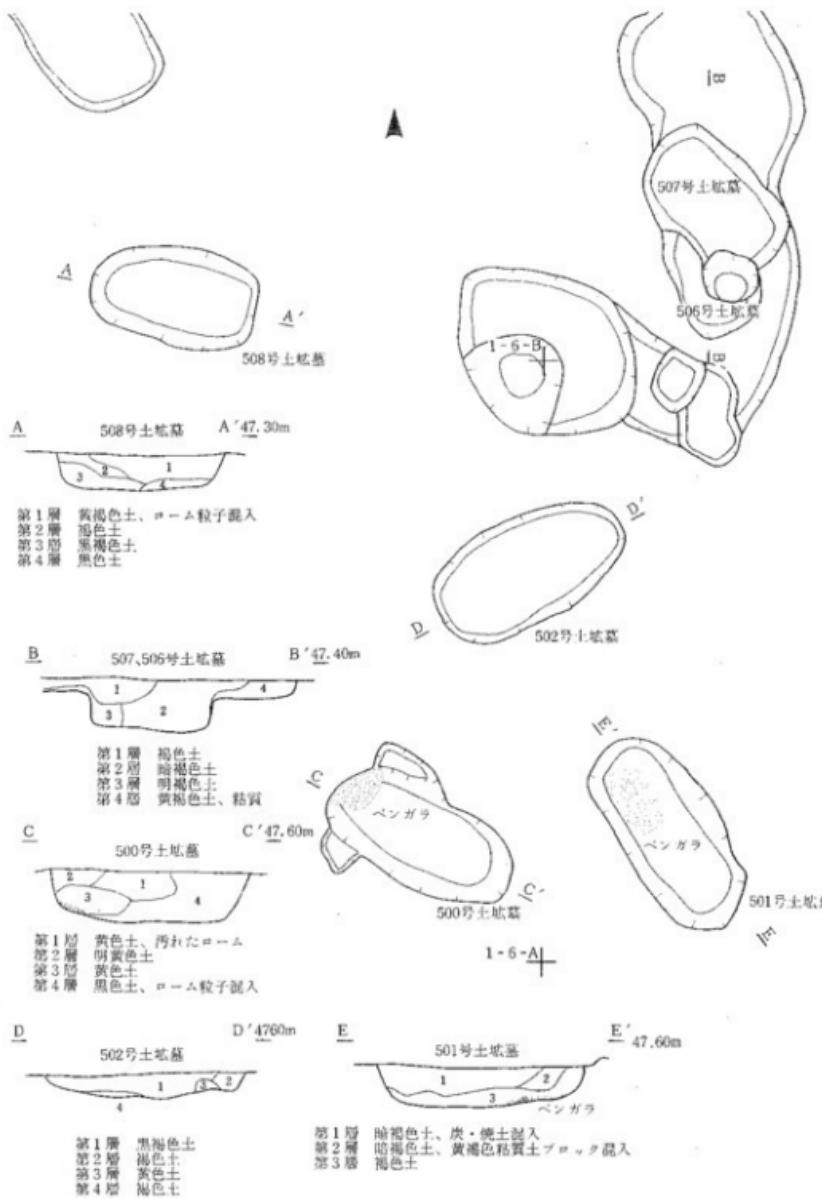


第74図 土坑墓

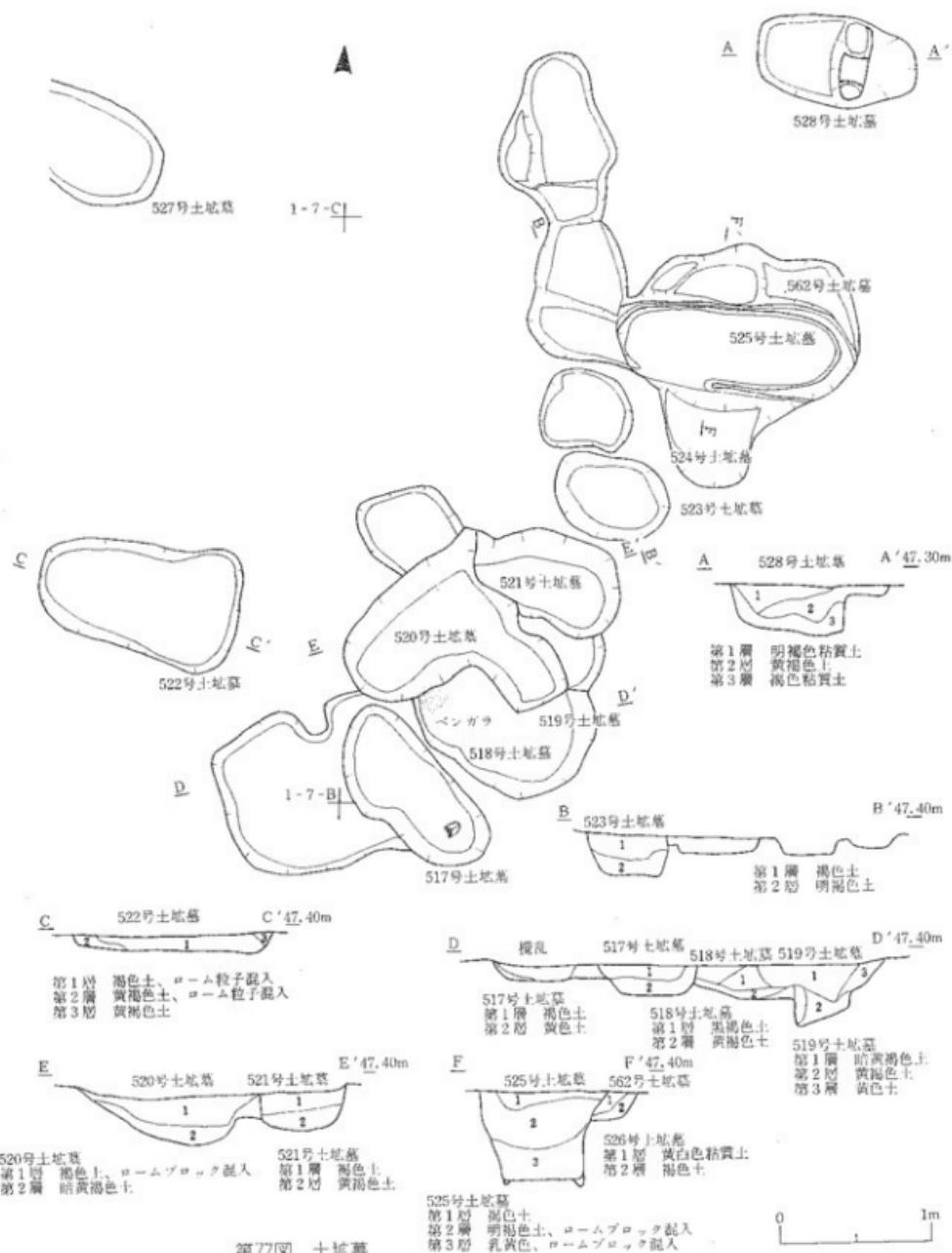




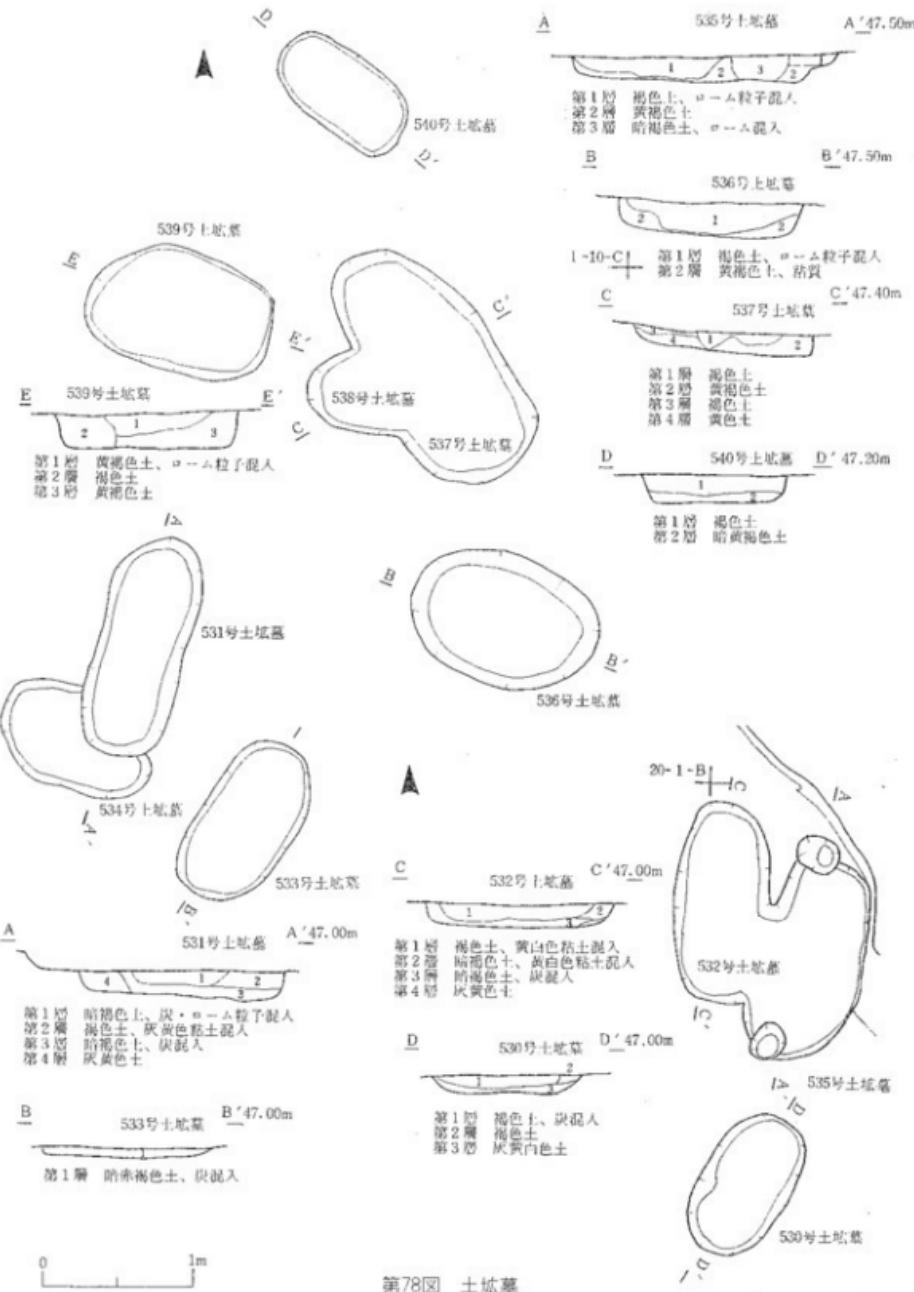
第75図 土塚墓



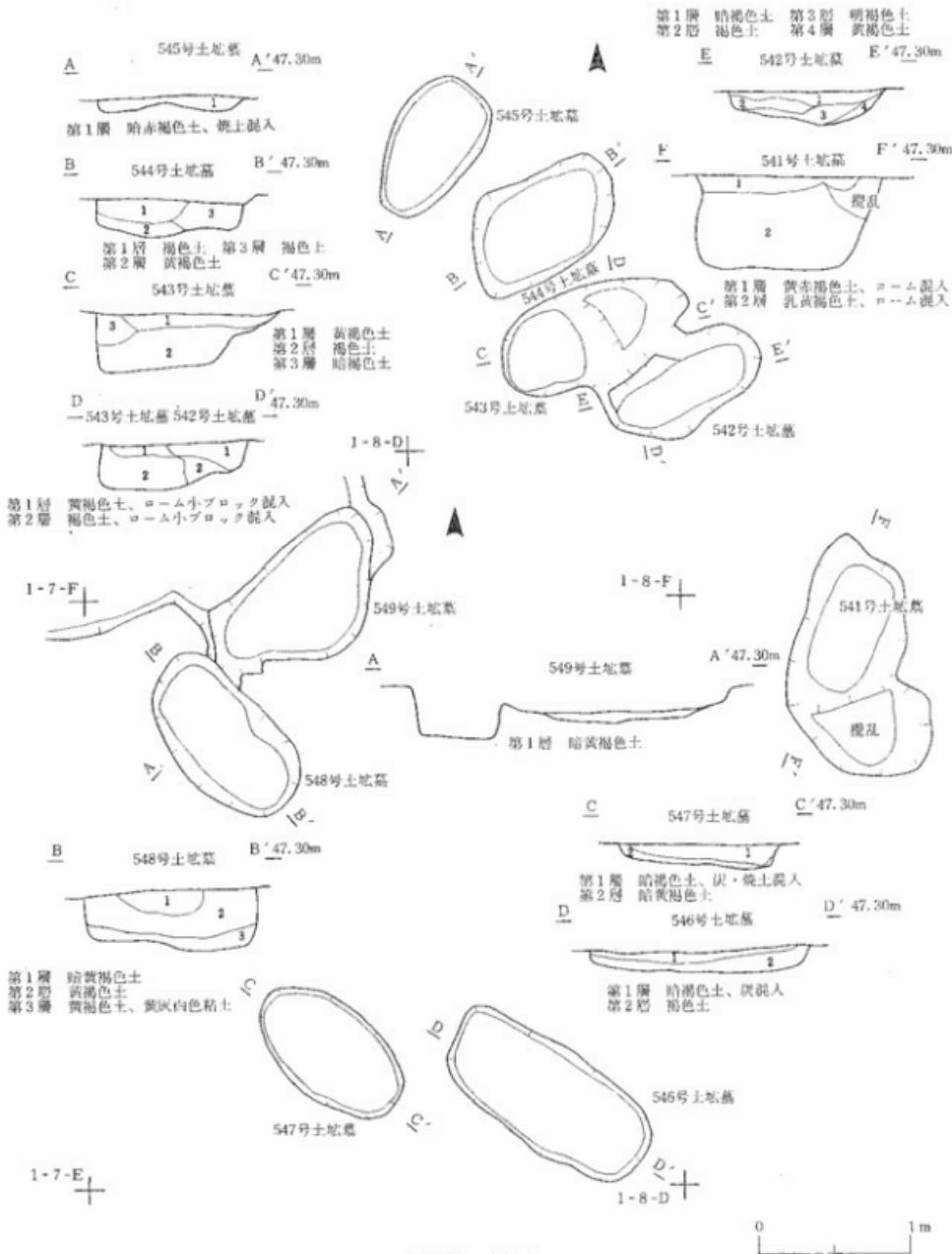
第76図 土塚墓



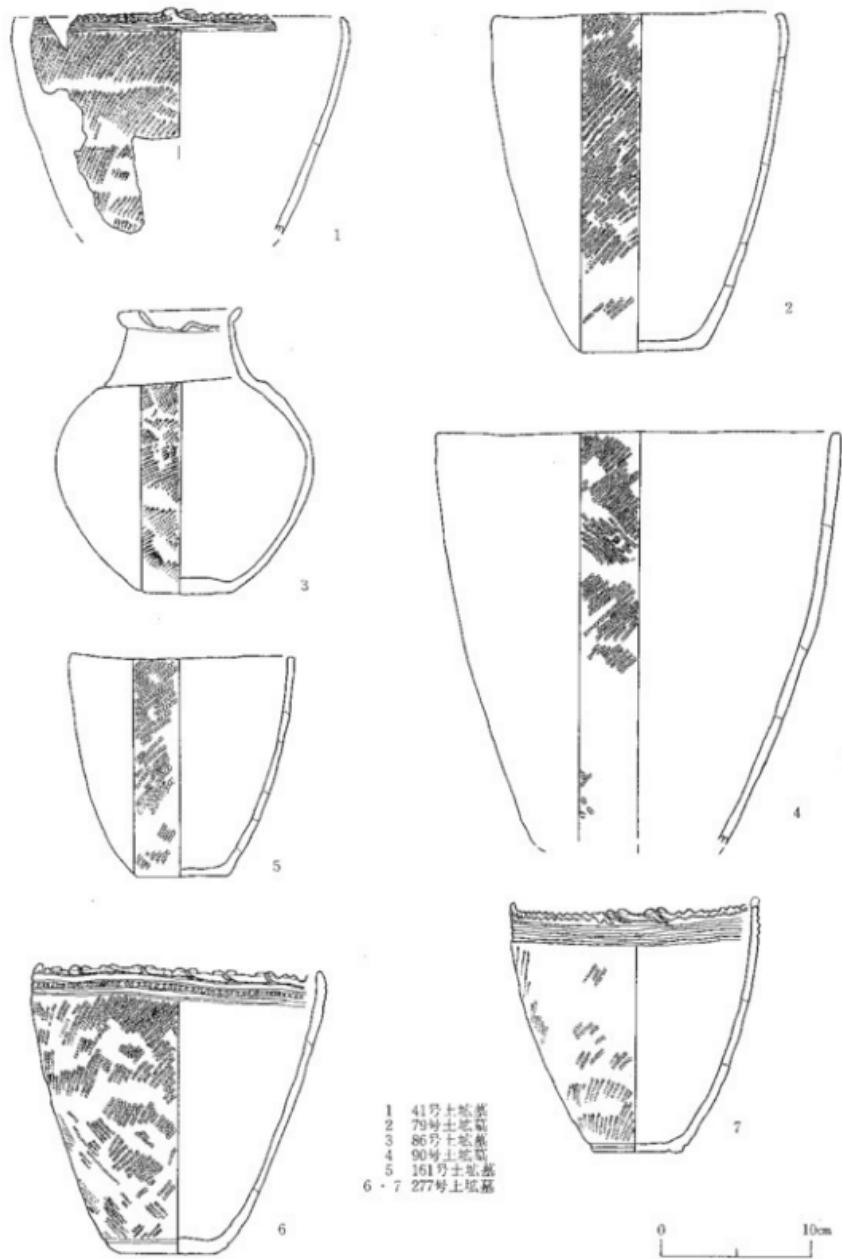
第77図 土塙基



第78図 土塁墓



第79図 土塙基



第80図 遺構内出土土器

## 土塙（第96～114図）

土塙は調査区域全域で検出された。ここでは攪乱穴、規模、掘り方の不明瞭なものを除き、1号～168号までを図示した。詳細については表としてまとめた。

### 土塙出土遺物

#### 28号土塙出土遺物（第120図）

石器：40は先端・基部が欠損する石鏃である。石質は頁岩である。

#### 30号土塙出土遺物（第120図）

石器：41は有茎の石鏃である。石質は頁岩である。

#### 37号土塙出土遺物（第115・120図）

土器：78～88は覆土から出土した。78～80・83は深鉢形土器、その他は浅鉢形土器である。78・83は小波状口縁、79・80は口縁部に2個一対の突起がみられ、体部には沈線文を施している。81・82は口縁部に連続刻目文がある。84～88は口縁部に1～2条の沈線を施している。80～88の体部には雲形文が施される。

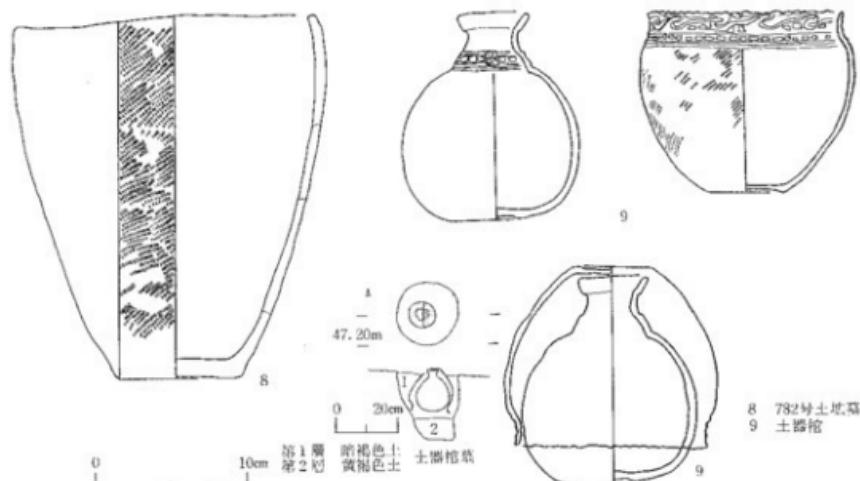
石器：42・43は有茎の石鏃である。石質は頁岩である。44は磨石である。

#### 40号土塙出土遺物（第115図）

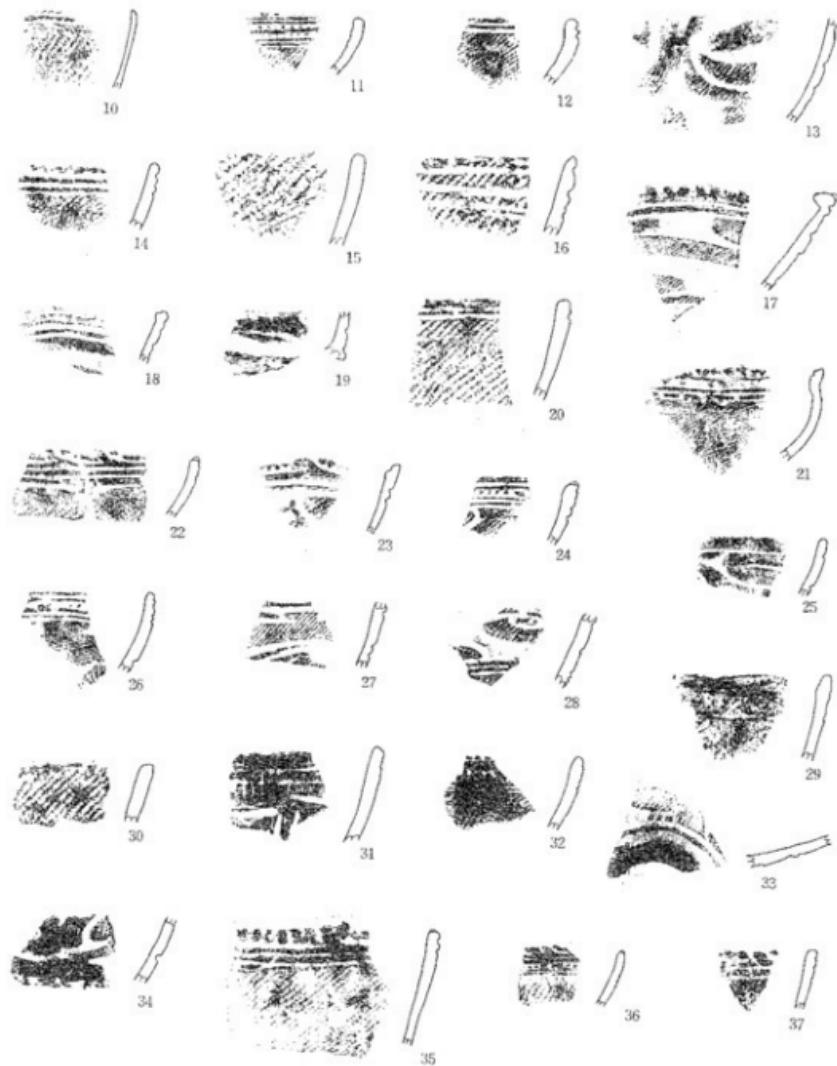
土器：89・90は壺形土器の破片である。

#### 47号土塙出土遺物（第115図）

土器：91は地文が縄文だけの深鉢形土器片である。



第81図 遺構内出土土器 (模式図)



10~13 9号土灰陶

14 27号土灰陶

15、16 31号土灰陶

17 46号土灰陶

18、19 47号土灰陶

20 80号土灰陶

21~28 86号土灰陶

29~34 90号土灰陶

35~37 95号土灰陶

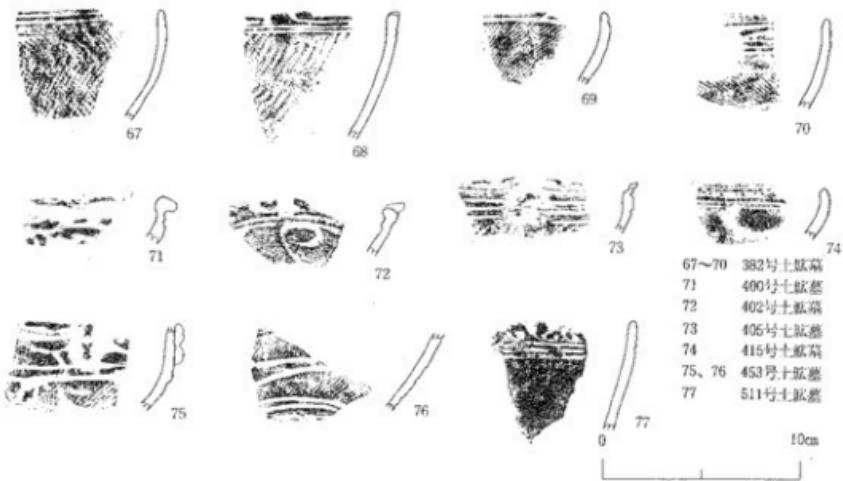
0

10cm

第82図 遺構内出土器



第83図 遺構内出土土器



第84図 遺構内出土器

48号土塙出土遺物（第115・120図）

土器：100は鉢形土器である。口縁に突起を付し、頸部に連続刻目文がまわる。その下に2条の沈線を施している。101・102は浅鉢形土器である。口縁部・体部に2～3条の沈線をめぐらし、その間に磨消し手法を用いた雲形文が施されている。

石器：45は大形扁平打製石斧である。基部に対して直角に刃部を作り出し、刃部は半円状を呈する。

56号土塙出土遺物（第115図）

土器：104は浅鉢形土器の体部破片である。細い2条の沈線間に雲形文が施される。

57号土塙出土遺物（第115図）

土器：104は鉢形土器である。小波状口縁をなし、2条の沈線がめぐっている。

58号土塙出土遺物（第115図）

土器：105・106は深鉢形土器である。口縁部は磨消し無文帯で、105は口縁に2個一対の小突起がつく。107は瘦形土器である。3条の隆線文がめぐっている。沈線間に末端の咬み合わない羊齒状文が退化し、平行線化した形のものが施されている。

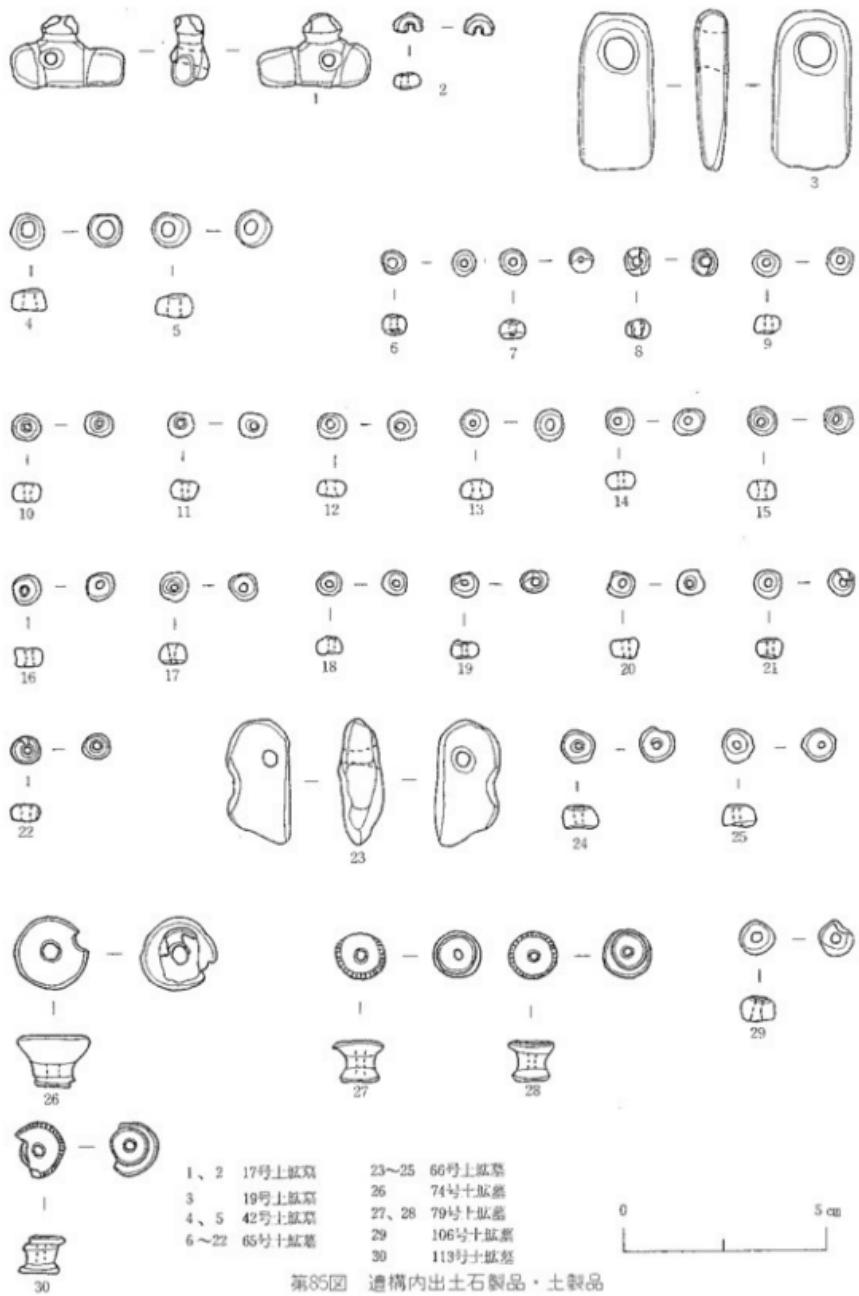
73号土塙出土遺物（第116図）

土器：110～113は鉢形土器である。平行沈線文、連続刻目文などがみられる。114～116は浅鉢形土器である。2～3条の平行沈線文を施し、間に刻目、雲形文、三文文を施している。

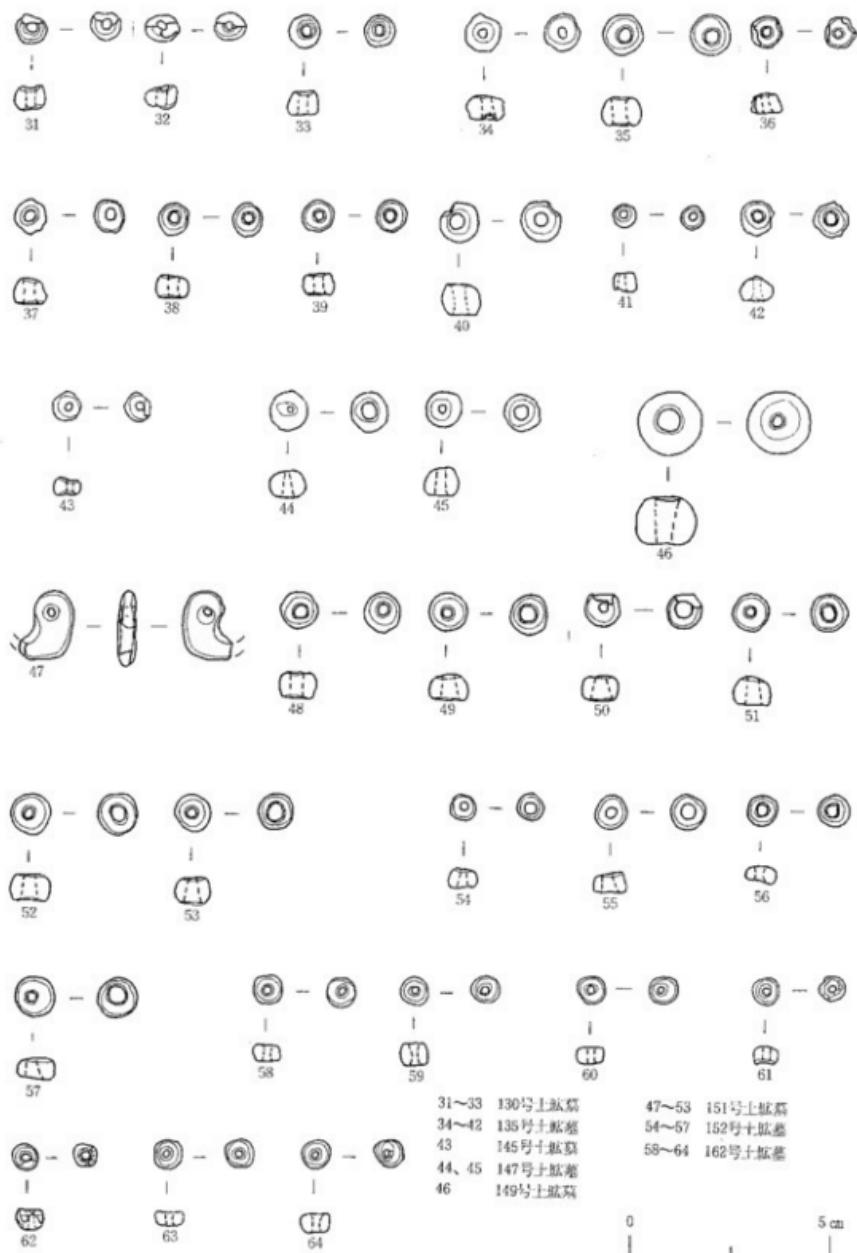
75号土塙出土遺物（第116図）

土器：117・118は浅鉢形土器である。沈線間に連続刻目文がめぐっている。

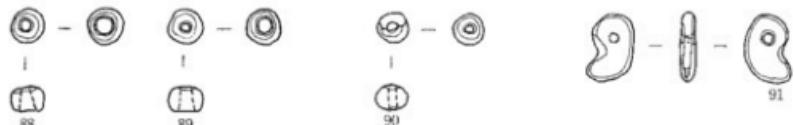
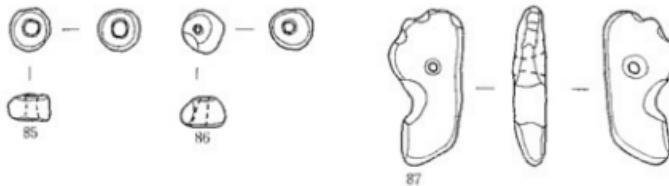
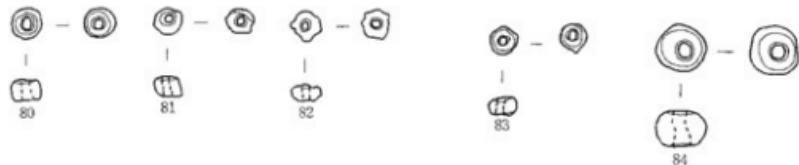
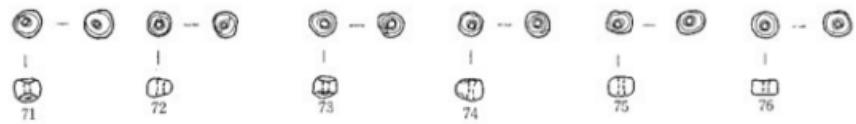
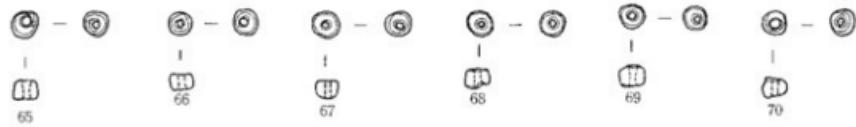
77号土塙出土遺物（第120図）



第85図 造構内出土石製品・土製品



第86図 遺構内土石製品

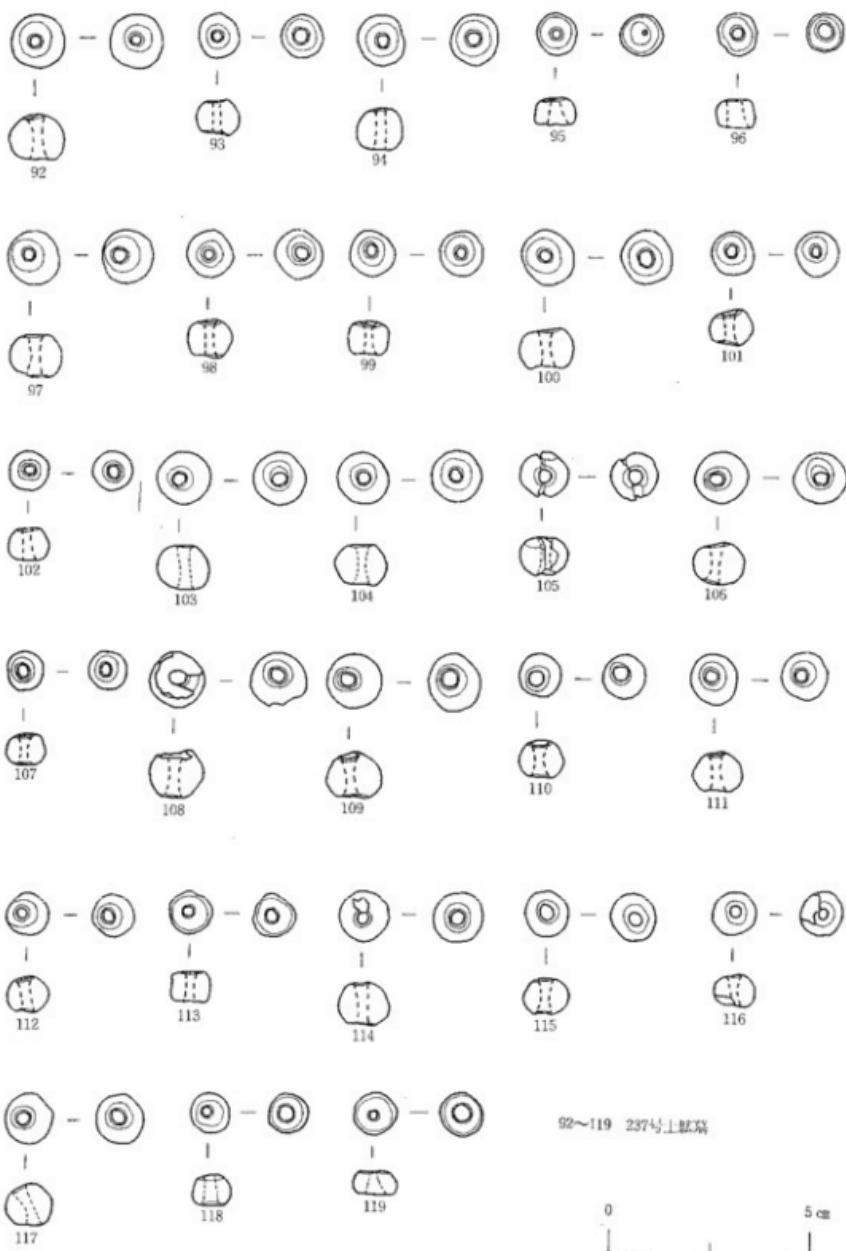


65~78 162号土器  
 79 164号土器  
 80~82 186号土器  
 83 193号土器

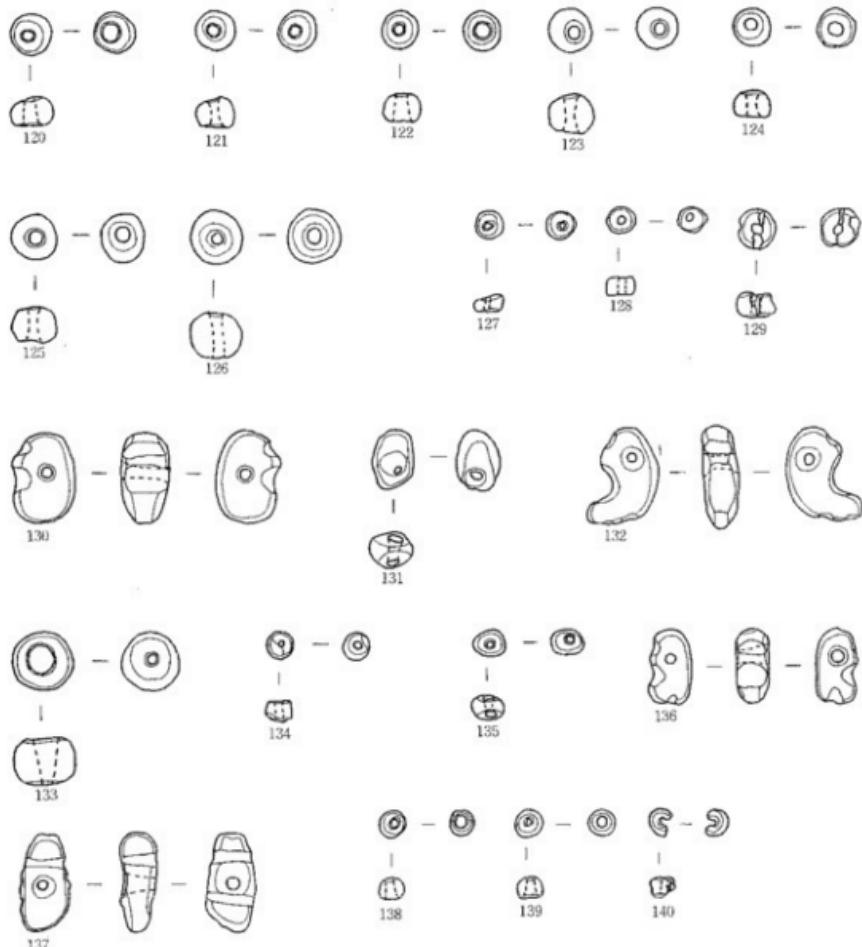
84~86 207号土器  
 87 212号土器  
 88, 89 215号土器  
 90 216号土器  
 91 217号土器



第87図 遺構内出土石製品



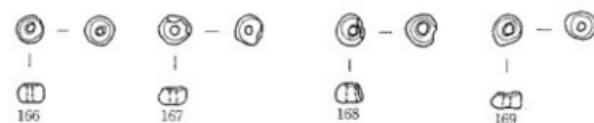
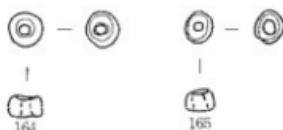
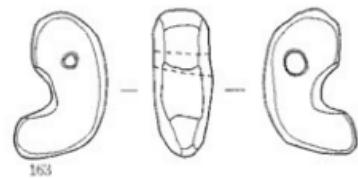
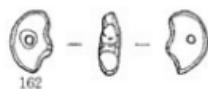
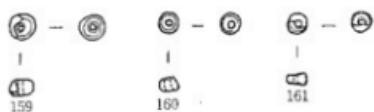
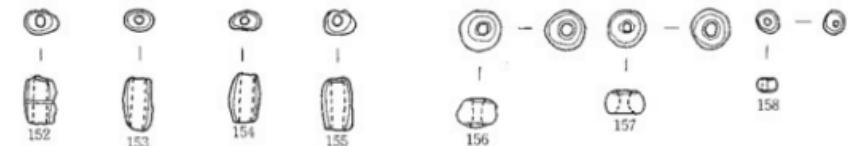
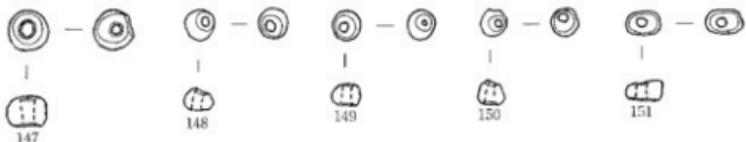
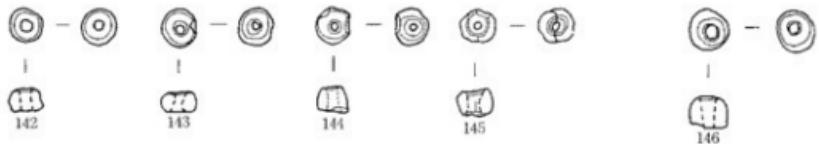
第88図 遺構内土石製品



- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 120~126 | 237号土砾器 | 138~140 | 327号土砾器 |
| 127~129 | 241号土砾器 | 141     | 336号土砾器 |
| 130     | 254号土砾器 |         |         |
| 131     | 280号土砾器 |         |         |
| 132     | 300号土砾器 |         |         |
| 133     | 301号土砾器 |         |         |
| 134     | 303号土砾器 |         |         |
| 135     | 318号土砾器 |         |         |
| 136     | 460号土砾器 |         |         |
| 137     | 322号土砾器 |         |         |



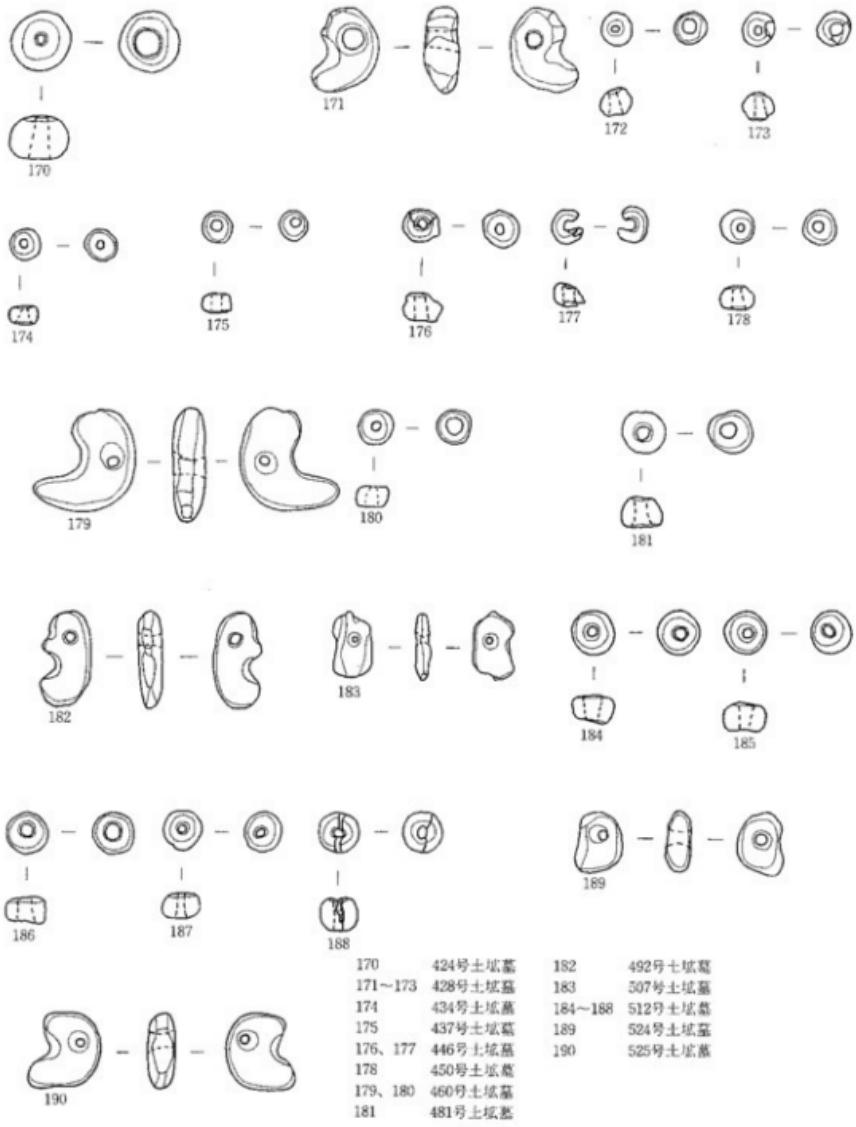
第89回 遺構内出土石製品



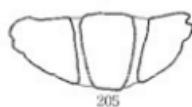
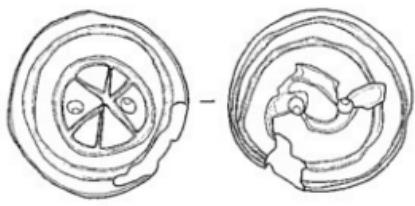
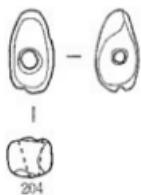
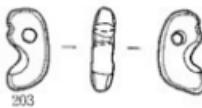
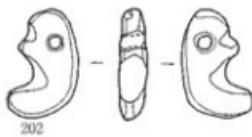
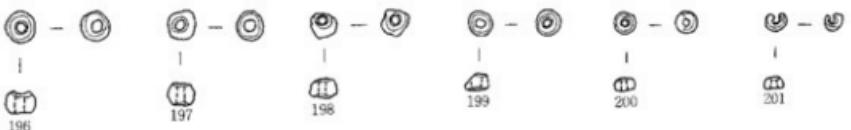
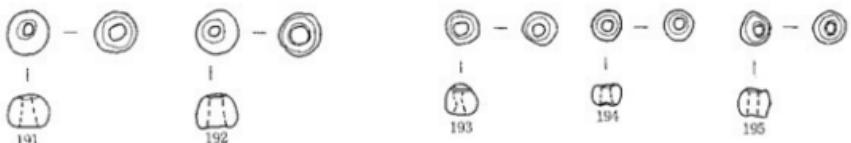
142～145 353号土瓶  
 146～151 360号土瓶  
 152～155 384号土瓶  
 156～161 390号土瓶  
 162 393号土瓶  
 163 397号土瓶  
 164～165 411号土瓶  
 166～169 418号土瓶



第90図 遺構内土石製品



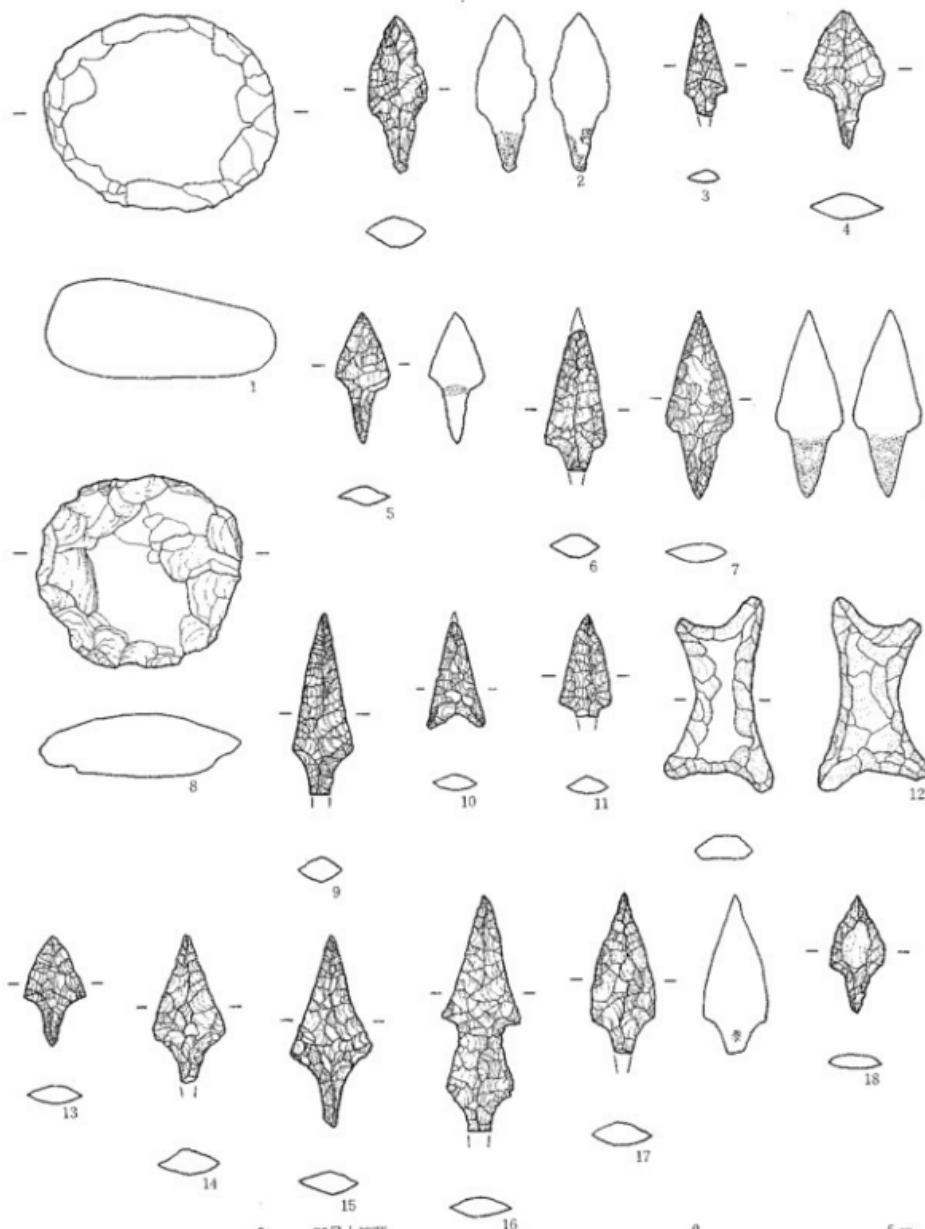
第91図 遺構内出土石製品



191、192 535号土器  
193～201 539号土器  
202、203 557号土器  
204 558号土器  
205 58号土器



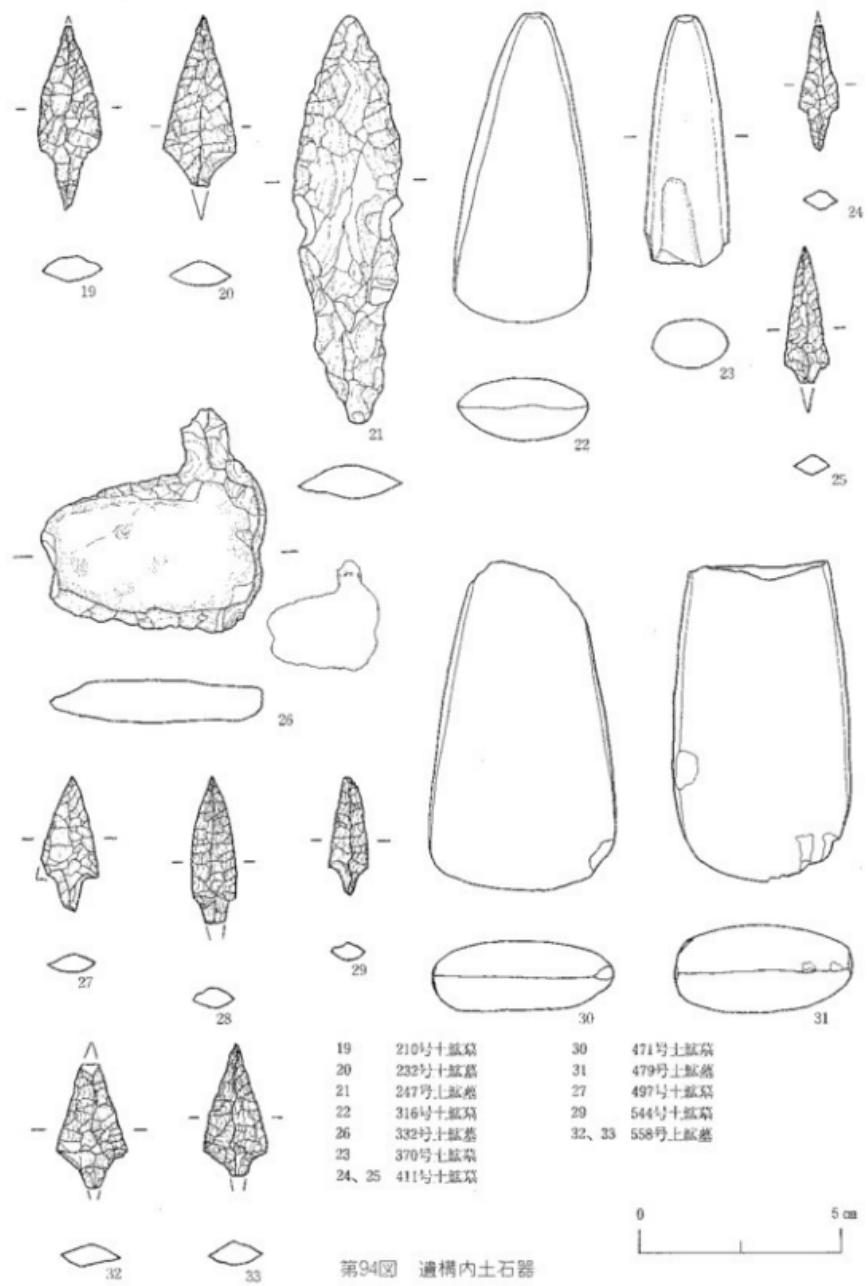
第92図 遺構内土石製品



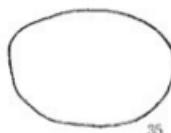
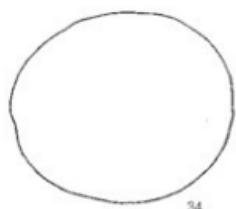
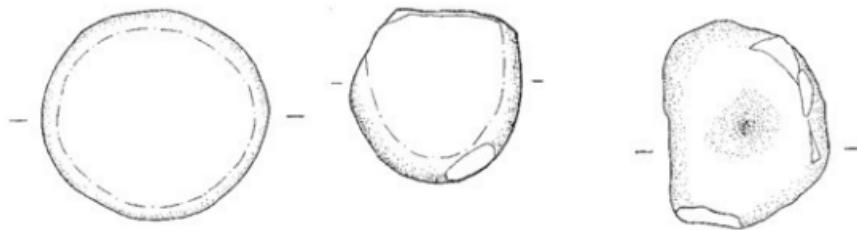
- |     |        |       |         |
|-----|--------|-------|---------|
| 1   | 13号上砾石 | 9     | 86号上砾石  |
| 2   | 15号上砾石 | 10    | 138号上砾石 |
| 3   | 18号上砾石 | 11    | 159号上砾石 |
| 4   | 28号上砾石 | 12    | 164号上砾石 |
| 8   | 37号上砾石 | 13    | 177号上砾石 |
| 5~7 | 40号上砾石 | 14、15 | 199号上砾石 |
|     |        | 16    | 202号上砾石 |
|     |        | 17    | 203号上砾石 |
|     |        | 18    | 204号上砾石 |

第93図 遺構内出土石器





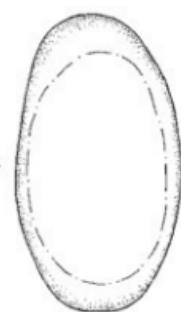
第94図 遺構内土石器



35

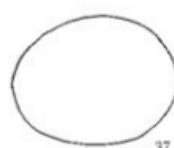
34

36



38

39



37

- 34、35 2号件石器  
 36 105号十砾器  
 37 329号上砾器  
 38 479号十砾器  
 39 542号土砾器



第95回 遺構内出土石器

土 坪 一 覧 表

番号	規 模 (cm)			平面形	断面形	出 土 遺 物	備 考
	長軸	短軸	深さ				
1	70	52	5	椭円形	皿 状		第96図
2	56		14	円 形	鍋 状		第97図
3	52		12		洗面器状		第96図
4	100	74	12	椭円形	洗面器状		第96図
5	96		16	円 形	洗面器状		第96図、ピット有
6	114	103	32	椭円形	鍋 状		第96図
7	82		12	円 形	皿 状		第96図
8	100	48	18	不 整 形	鍋 状		第96図
9	116	94	16	椭円形	皿 状		第100図、溝有
10	104	93	23	椭円形	洗面器状		第100図
11	86	82	17	椭円形	洗面器状		第100図
12	108	96	28	椭円形	鍋 状		第101図
13	110	75	10	椭円形	皿 状		第101図
14	112		27	円 形	鍋 状		第101図
15	106		28	円 形	鍋 状		第96図
16	80		9	円 形	皿 状		第101図
17	148	108	14	椭円形	皿 状		第108図
18	80	62	22	椭円形	鍋 状		第96図
19	118	82	20	椭円形	鍋 状		第114図
20	88		36	円 形	鍋 状		第114図
21	66	60	10	椭円形	皿 状		第99図
22	96	82	10	椭円形	皿 状		第99図、ピット有
23	80	72	10	椭円形	皿 状		第98図
24	110		32	円 形	鍋 状		第98図
25	106		18	円 形	鍋 状		第98図、ピット有
26	118		30	円 形	洗面器状		第99図、ピット有
27	70		7	円 形	皿 状		第99図
28	172	152	32	椭円形	洗面器状	第120図40	第99図
29	124	116	17	隅丸方形	鍋 状		第101図、ピット有
30	106	98	17	不 整 形	皿 状	第120図41	第101図
31	104		28	円 形	鍋 状		第114図
32	85		14	円 形	洗面器状		第103図
33	110	70	17	椭円形	皿 状		第103図、ピット有
34	66	58	18	不 整 形	鍋 状		第98図、ピット有
35	106	98	28	椭円形	鍋 状		第98図

番号	規 模 (cm)			平面形	断面形	出 土 遺 物	備 考
	長軸	短軸	深さ				
36[A]	130		54	円 形	鍋 状		第98図、BがAを切っている。
			46				
37	172		39	円 形	鍋 状	第115図78~88、第120図42~44	第98図
38	132		48	円 形	鍋 状		第97図
39	172	116	8	精 円 形	皿 状		第97図、38号土坑に切られている。
40	140		33	円 形	鍋 状	第115図89・90	第99図
41	68		38	円 形	鍋 状		第101図
42	88	62	8	精 円 形	皿 状		第101図
43	56	46	9	精 円 形	皿 状		第101図
44	73		12	円 形	鍋 状		第103図
45	66		13	円 形	皿 状		第101図、ビット有
46	69		14	円 形	鍋 状		第103図、ビット有
47	88		26	円 形	鍋 状	第115図91	第101図
48	103		52	円 形	ビーカー状	第115図92~99	第101図
49	55		9	円 形	皿 状		第102図
50	70	65	4	精 円 形	皿 状		第102図、ビット有
51	84		38	円 形	鍋 状	第115図100~103、第120図45	第103図
52	120	74	30	精 円 形	鍋 状		第104図
53	70	68	15	不 整 形	鍋 状		第104図
54	58		46	円 形	袋 状		第104図
55	80	72	43	精 円 形	鍋 状		第103図
56	332	52	10	不 整 形	皿 状	第115図104	第104図、ビット有
57	122	52	11	精 円 形	皿 状		第104図、ビット有
58	240	210	43	精 円 形	鍋 状	第115図105~109	第97図
59	60		5	円 形	皿 状		第99図
60	98		15	円 形	皿 状		第99図
61	95	88	23	精 円 形	鍋 状		第99図
62	128		40	円 形	鍋 状		第99図
63	92		30	円 形	鍋 状		第100図
64	82		26	円 形	鍋 状		第100図
65	100		14	円 形	鍋 状		第100図
66	96		28	円 形	鍋 状		第100図
67	50		12	円 形	鍋 状		第100図
68	78	70	14	精 円 形	鍋 状		第100図
69	62		17	円 形	鍋 状		第100図
70	114		44	円 形	ビーカー状		第103図

番号	規 模 (cm)			平面形	断面形	出土 遺 物	備 考
	長軸	短軸	深さ				
71	78	68	22	椭 圆 形	鍋 状		第100図
72	47		9	円 形	皿 状		第100図
73	154	146	23	椭 圆 形	洗面器状	第116図110～116	第114図、ビット有
74	60		12	円 形	鍋 状		第100図
75	244	192	83	椭 圆 形	ピーカー状	第116図117～118	第103図、攪乱あり
76	83	70	18	椭 圆 形	鍋 状		第102図
77	130		36	円 形	鍋 状	第120図46～48	第102図
78	107		70	円 形	袋 状	第116図119～126、第121図55	第102図
79	49	38	8	椭 圆 形	皿 状		第102図
80	108	104	28	椭 圆 形	鍋 状	第116図127～129	第102図
81	78	70	16	椭 圆 形	鍋 状		第102図
82	70	60	30	椭 圆 形	鍋 状		第102図
83	98		10	円 形	皿 状		第97図
84	140	22	42	円 形	鍋 状	第116図130～137、第117図138～143	第102図
85	72	56	16	椭 圆 形	洗面器状		第105図
86	93	92	22	不 整 形	皿 状		第105図、ビット有
87	208	132	26	椭 圆 形	鍋 状		第104図、ビット有
88	190	110	18	椭 圆 形	鍋 状	第117図144～147、第120図49	第105図
89	160	99	22	椭 圆 形	皿 状		第105図
90	130		34	円 形	鍋 状		第105図
91[A]	70	54	40	椭 圆 形	皿 状		第105図
91[B]	104	58	58	椭 圆 形	袋 状		第105図
92	100	90	80	椭 圆 形	袋 状		第105図
93	136	84	20	椭 圆 形	鍋 状	第117図148～149	第107図
94	75		20	円 形	洗面器状		第106図
95	80	65	15	椭 圆 形	洗面器状		第106図
96	80	60	28	椭 圆 形	鍋 状		第105図、ビット有
97	110		12	円 形	鍋 状		第106図
98	78		22	円 形	洗面器状		第111図
99	96		46	円 形	鍋 状	第117図150～159	第107図
100	122		22	円 形	洗面器状	第121図53	第107図
101	125	98	34	椭 圆 形	鍋 状		第107図
102	112	68	15	椭 圆 形	皿 状		第106図
103	96		22	円 形	洗面器状	第117図160	第106図
104	93		40	円 形	鍋 状		第106図
105[A]	50		12	円 形	洗面器状	B、第117図161	第106図
105[B]	46		15	円 形	洗面器状		

番号	規 模 (cm)			平面形	断面形	出 土 遺 物	備 考
	長軸	短軸	深さ				
106	78	70	20	椭円形	鍋 状		第106図
107	130	118	8	椭円形	皿 状		第106図、ビット有
108	64	60	20	椭円形	鍋 状		第107図
109	54		16	円 形	鍋 状		第107図
110	102		33	円 形	鍋 状		第107図、ビット有
111	140	82	18	椭円形	洗面器状	第121図54	第107図
112	88	80	18	不整形	鍋 状		第106図
113	108	86	6	椭円形	皿 状		第106図
114	102	96	25	椭円形	鍋 状		第106図
115	68		27	円 形	鍋 状	第121図56・57	第111図、ビット有
116	101		25	円 形	鍋 状		第111図、ビット有
117	66		11	円 形	洗面器状	第117図162・163	第110図
118	50		12	円 形	洗面器状		第110図
119	75		12	円 形	洗面器状		第110図
120	58	52	22	椭円形	鍋 状		第110図
121	112		36	円 形	鍋 状	第118図164～166、第121図60	第108図
122	96		35	円 形	鍋 状	第118図167～170	第108図
123	146		12	円 形	皿 状		第112図
124	100			円 形	洗面器状		第111図
125	140	80	10	不整形	皿 状		第108図
126	82		16	円 形	洗面器状		第108図
127	100		20	円 形	洗面器状		第108図
128	76	70	30	椭円形	鍋 状		第108図
129	102	76	22	椭円形	鍋 状		第109図、ビット有
130	154	100	16	椭円形	洗面器状	第118図171	第108図
131	72		20	円 形	鍋 状	第121図58	第108図
132	105	94	30	椭円形	鍋 状		第109図
133	98	72	25	椭円形	鍋 状	第118図172・173	第109図
134	97	71	17	椭円形	鍋 状		第109図、ビット有
135	63		28	円 形	袋 状	第121図59	第110図
136	A 128 B 100	118	30	椭円形	鍋 状	B、第118図174・175	第110図
137	A 92 B 74		44 18	円 形	鍋 状		第109図
138	82	72	18	椭円形	鍋 状	第118図176・177	第112図、ビット有 (-50cm)
139	72		25	円 形	鍋 状		第112図、ビット有 (-50cm)
140	106	88	26	椭円形	鍋 状		第112図、ビット有

番号	規 模 (cm)			平 面 形	断 面 形	出 土 遺 物	備 考
	長軸	短軸	深さ				
141	86	58	12	椭 圆 形	洗面器状		第113図、ピット有
142	70	58	20	椭 圆 形	鍋 状	第121図61	第113図、ピット有
143	82		30	円 形	鍋 状		第113図
144	72		18	円 形	鍋 状		第112図
145	103		24	円 形	鍋 状	第118図178・179	第111図
146	102		66	円 形	ビーカー状	第118図180～183	第112図
147	60		12	円 形	洗面器状		第113図
148	67		26	円 形	鍋 状		第111図、ピット有
149	102		22	円 形	洗面器状	第118図184～189、第121図62	第109図
150	160		60	円 形	ビーカー状	第118図90～92、第19図93～98	第109図
151	146	123	58	椭 圆 形	鍋 状	第119図199、第121図63	第110図
152	110	90	16	椭 圆 形	洗面器状		第112図
153	106	84	14	椭 圆 形	洗面器状		第109図、ピット有
154	80	70	10	椭 圆 形	皿 状	第119図200	第110図、ピット有
155	128	68	18	椭 圆 形	皿 状	第119図201・202、第121図64	第110図、ピット有
156	107	92	23	不 整 形	鍋 状		第111図、ピット有
157	86	78	20	椭 圆 形	鍋 状		第113図
158	80	58	8	椭 圆 形	洗面器状		第111図
159	160	156	35	椭 圆 形	鍋 状	第119図203～207	第114図
160	140		30	円 形	洗面器状		第113図、ピット有
161	190	164	50	椭 圆 形	鍋 状	第120図50	第114図
162	188	162	16	椭 圆 形	皿 状		第114図
163	117	74	10	椭 圆 形	皿 状	第120図51・52	第113図
164	96		42	円 形	鍋 状		第113図
165	151	135	10	椭 圆 形	皿 状		第113図
166	140	118	42	椭 圆 形	鍋 状		第112図
167	156	140	28	椭 圆 形	鍋 状		
168	68		15	椭 圆 形	鍋 状	第119図208	第114図159号土坑に切られる。

石器：46は若干湾曲し、一部にアスファルトの付着痕がある。削器と考えられる。47は基部が細長い石鎌である。基部の両縁にアスファルト付着痕がみられる。48は扁平な石器で両面には多数擦痕がみられる。

#### 78号土塙出土遺物（第116・121図）

土器：119～121は鉢形土器である。口縁部には2～3条の平行沈線文がめぐり、119・120は途中できれて、連続刻目文が3～4列みられる。120・121は小波状口縁を呈する。122は壺形土器で頸部に2条の隆線がめぐっている。123～125は浅鉢形土器である。口縁部に2条の沈線をめぐらし、間に連続刻目文が施されている。体部に沈線がめぐり、間に細かい連続刻目文が施されている。体部の幅広い磨消し帯には雲形文がみられる。

石器：55は刃部が一部欠損する磨製石斧である。

#### 80号土塙出土遺物（第116図）

土器：127～129は鉢形土器である。小波状口縁をなし、127・128は平行沈線間に末端の咬み合わない半齒状文が施される。129は2条平行沈線文が施される。

#### 84号土塙出土遺物（第116・117図）

土器：130～134は鉢形土器である。134は小波状口縁をなし、口縁部に2条づつ沈線をめぐらしている。その間に末端の咬み合わない半齒状文の退化した文様を施している。他は平行沈線文、雲形文などがみられる。135～134は浅鉢形土器である。137は末端の咬み合う半齒状文が施されている。134は半齒状文が退化し、平行線となり、間に連続刻目文が残っている。140～143は注口上器である。140～142は半齒状文が施されており、141は2段に連続刻目文が施される。143は体部に磨消し帯と雲形文がみられる。

#### 88号土塙出土遺物（第117・120図）

土器：144～147は鉢形土器である。口縁部に2～3条の平行沈線文が施される。

石器：49はくぼみ石である。

#### 93号土塙出土遺物（第117図）

土器：148・149は浅鉢形土器である。口縁に貼り付文を施し、小波状口縁をなしている。

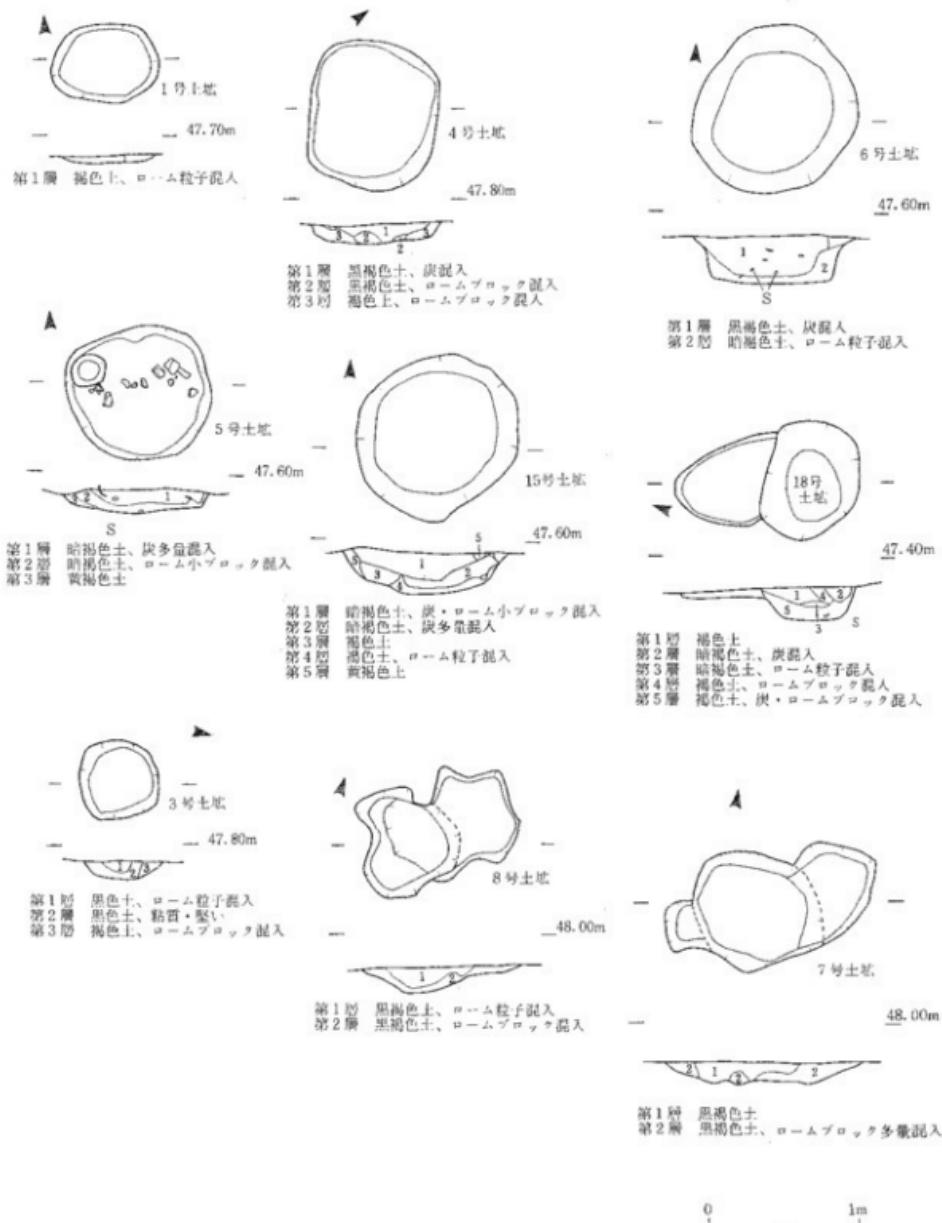
#### 99号土塙出土遺物（第117図）

土器：152は深鉢、150・154は鉢、151は壺、153～158は浅鉢形土器である。151は頸部に2条の隆線がめぐり、上に連続刻目文を施している。隆線に「8」の字状の把手を付けている。153・154は沈線間に平行線化した末端の咬み合わない退化した半齒状文が施されている。157・158は口縁部に連続刻目文が施されている。

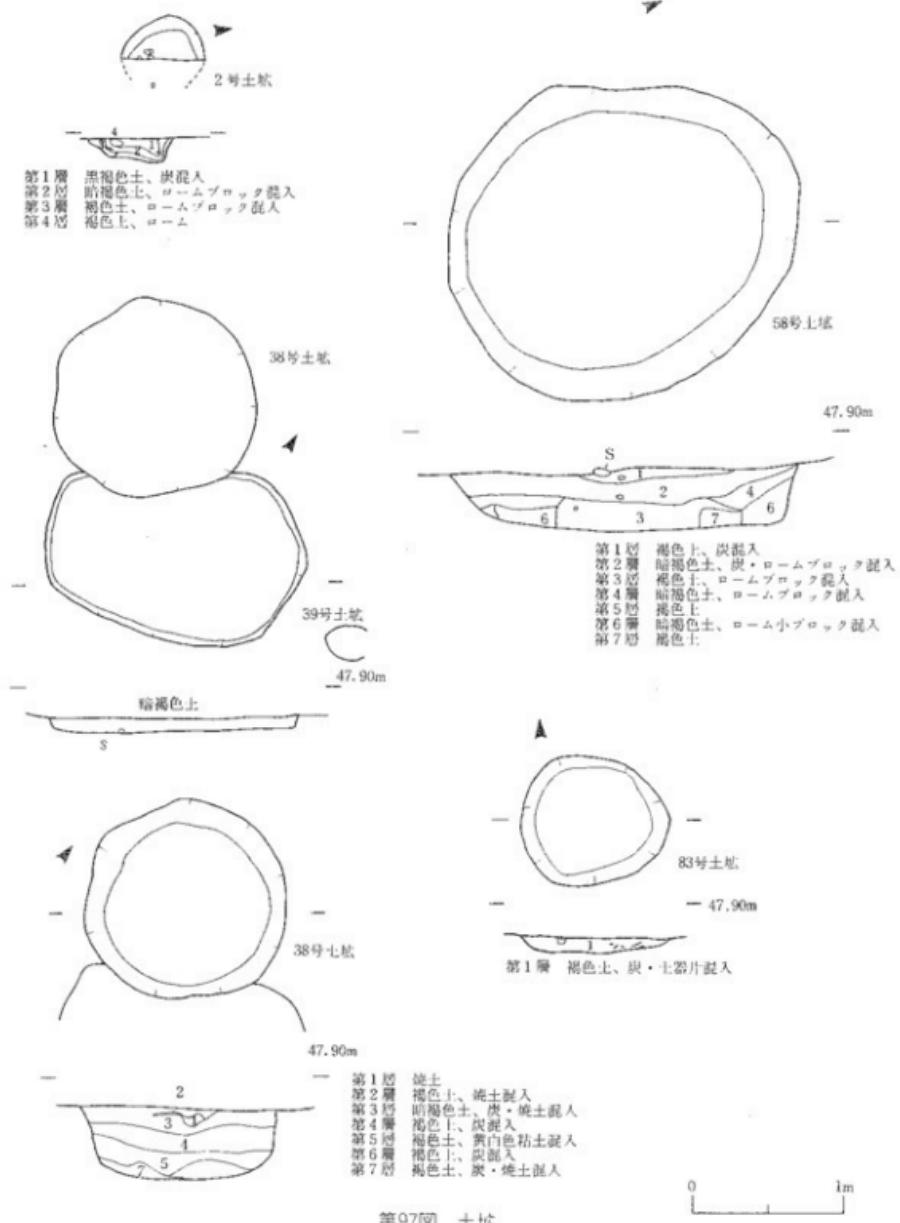
#### 100号土塙出土遺物（第121図）

石器：53は横型の石匙である。ツマミ部両面にアスファルト付着痕跡がある。

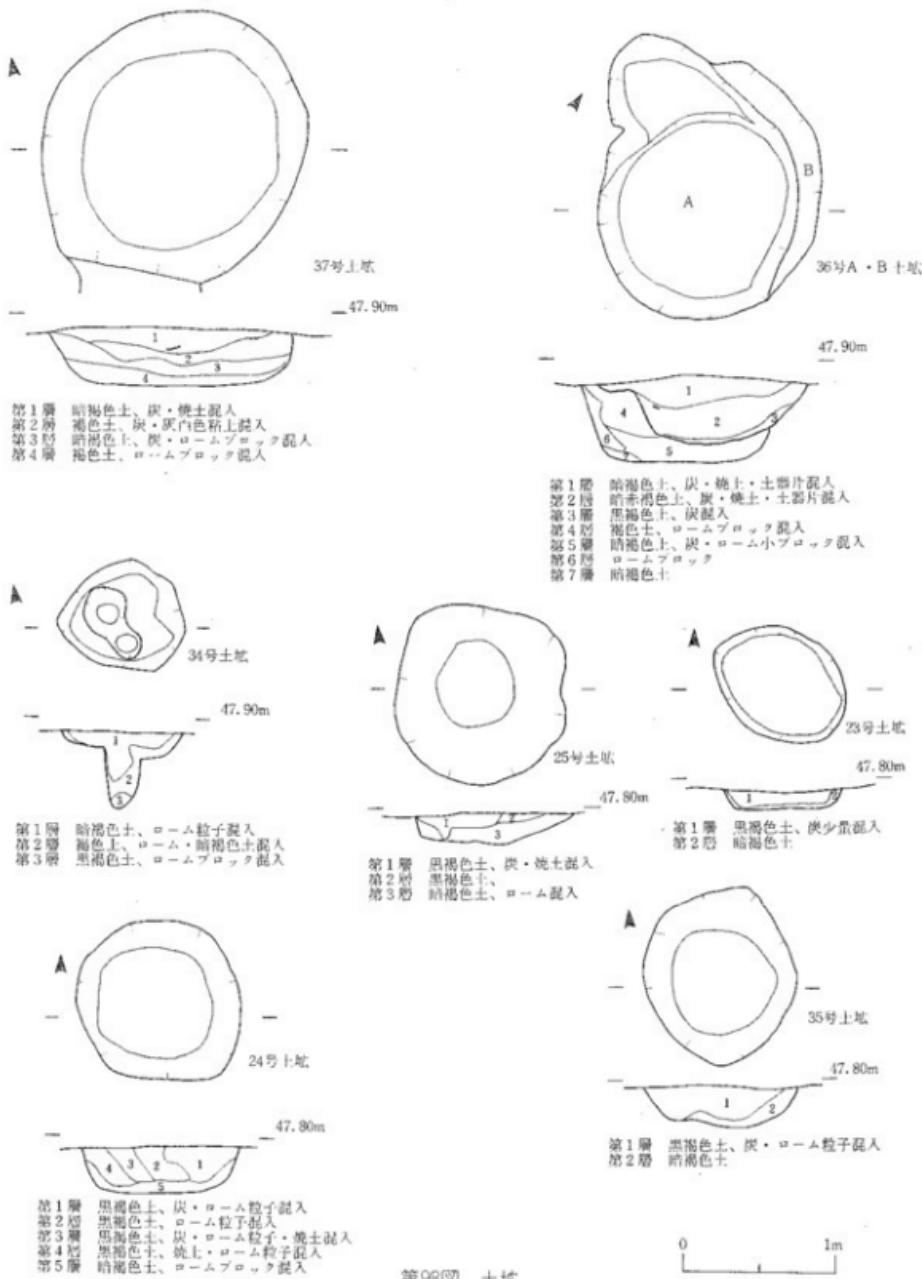
#### 103号土塙出土遺物（第117図）



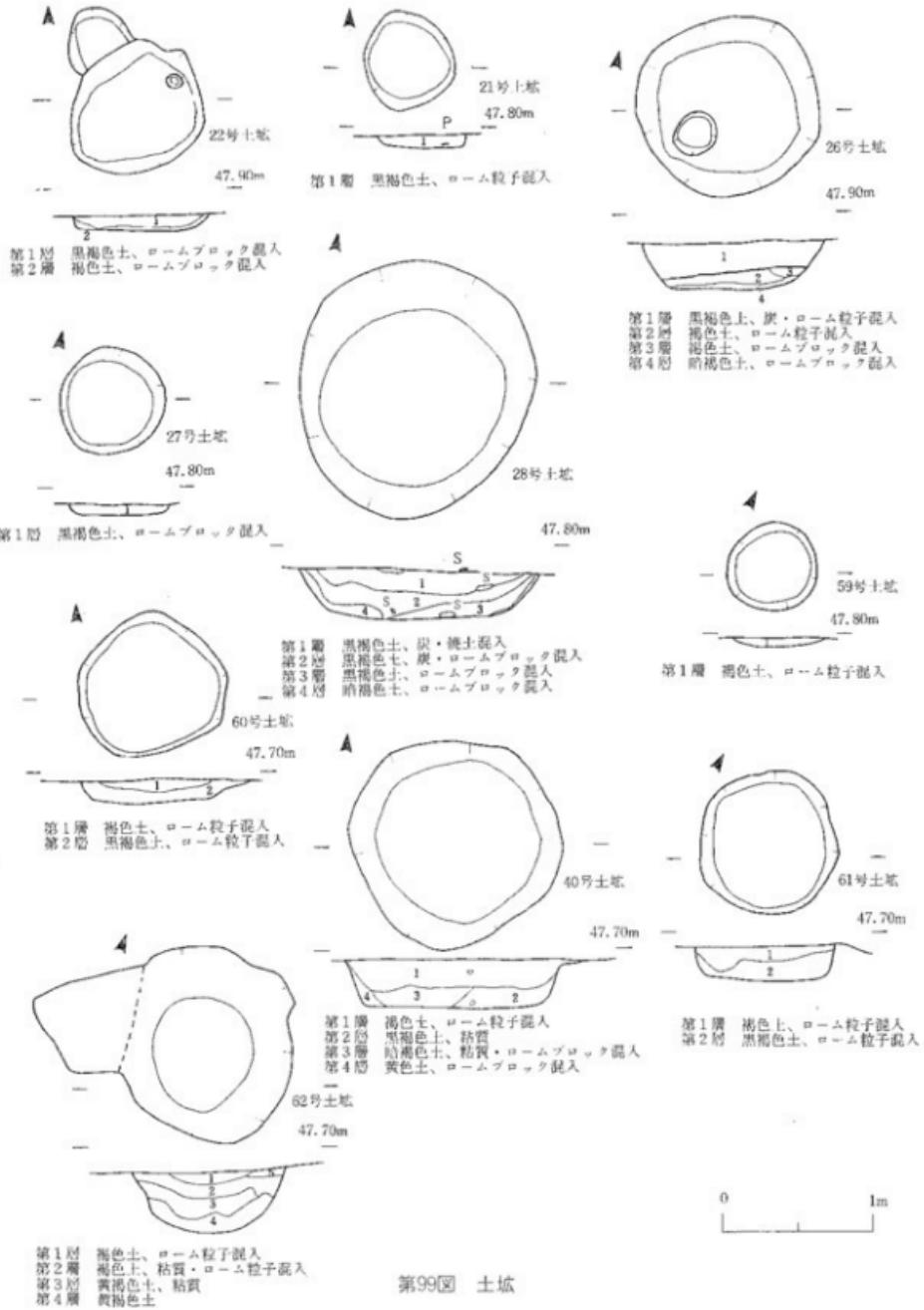
第96図 土壌



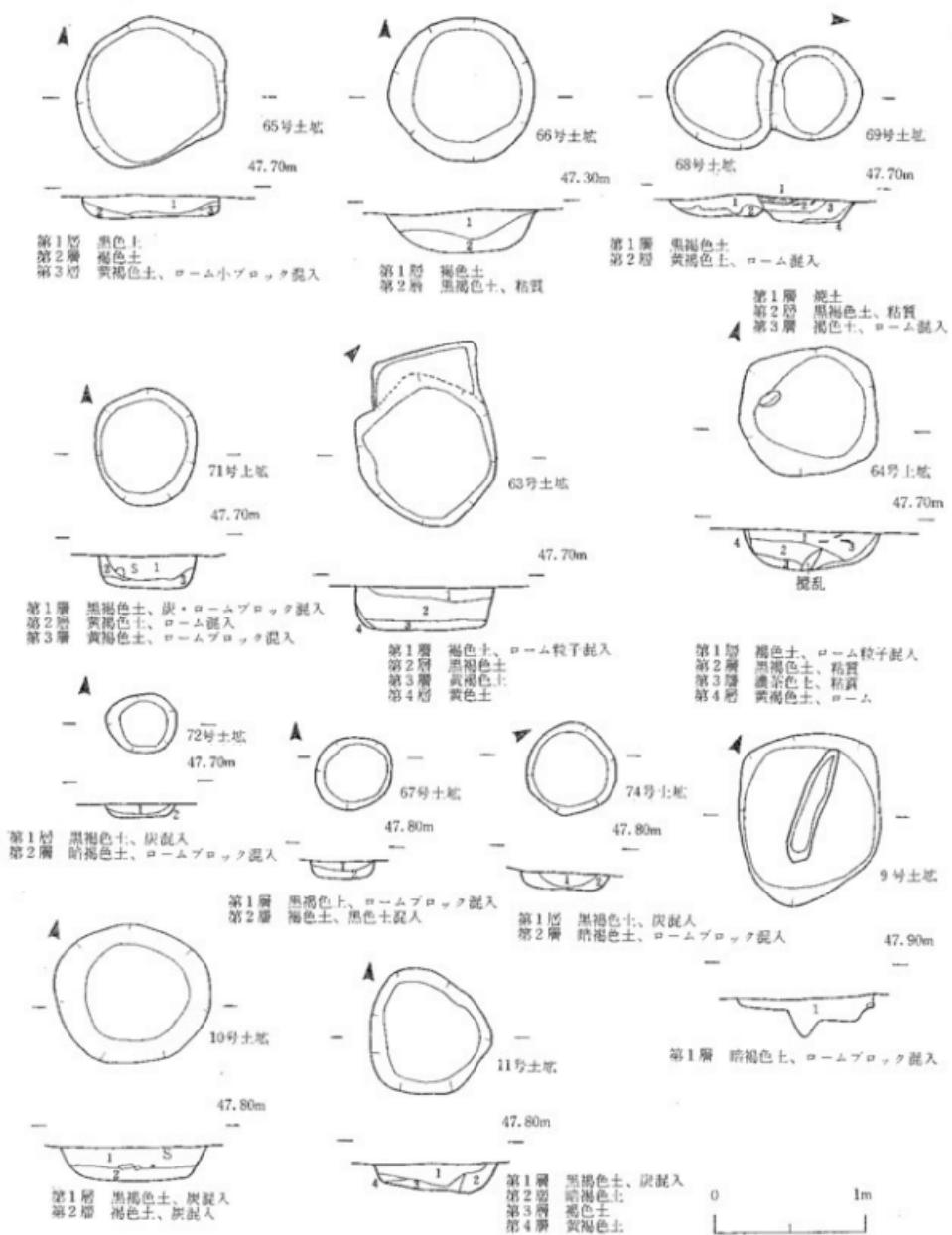
第97図 土塙



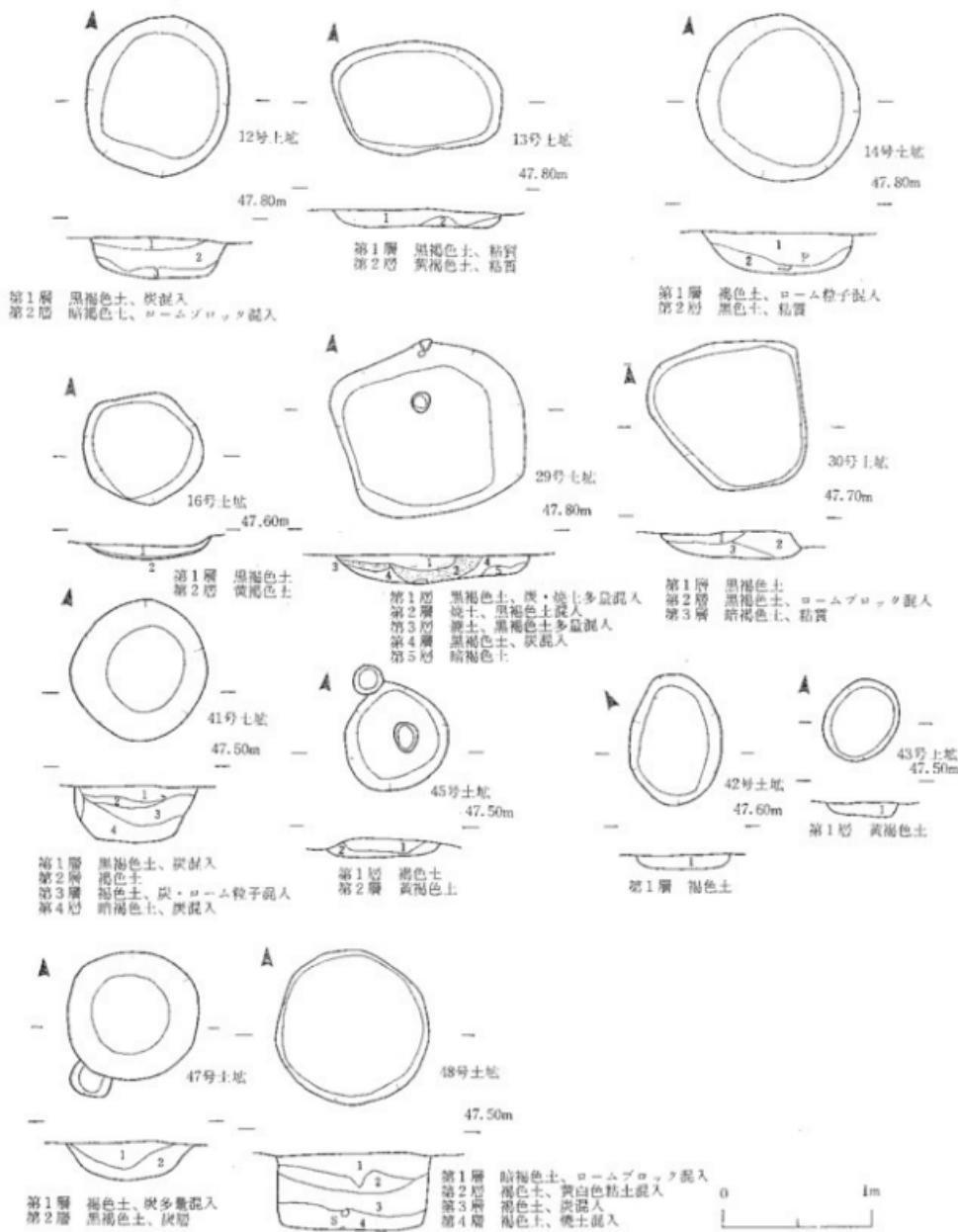
第96図 土壌



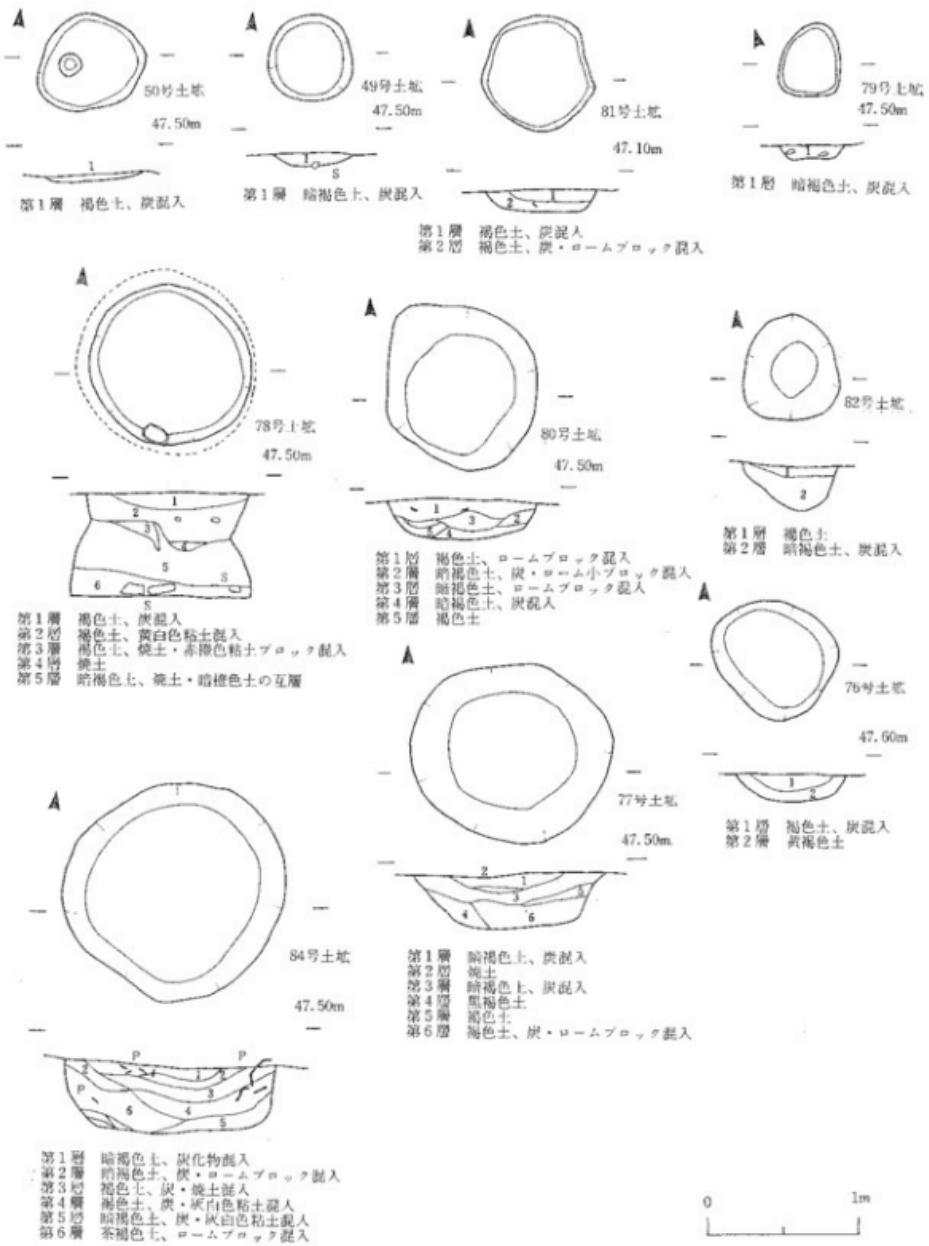
第99図 土塙



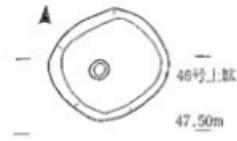
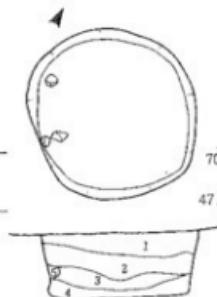
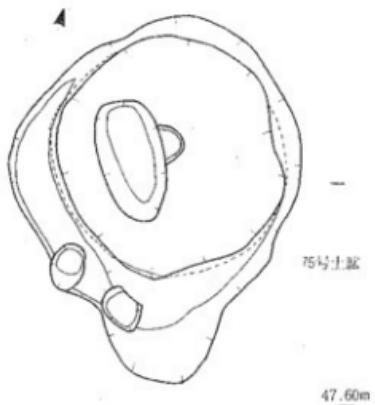
第100図 土壌



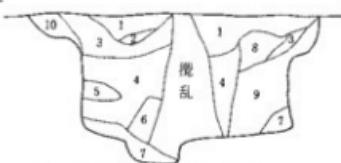
第101図 土壌



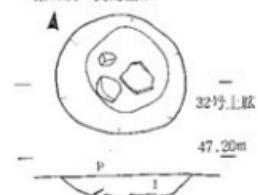
第102図 土塚



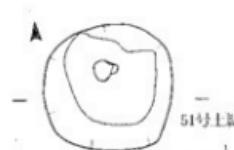
第1層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第2層 褐色土、炭混入  
第3層 暗褐色土、炭・ロームブロック混入  
第4層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第5層 暗黄褐色土



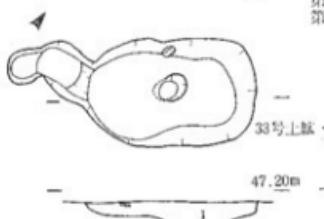
第1層 暗褐色土、黄白色粘土混入  
第2層 暗褐色土、ベンガラ混入  
第3層 褐色土、炭・黃色粘土混入  
第4層 黄褐色土、炭・白色粘土混入  
第5層 ロームブロック  
第6層 暗黄褐色土、ロームブロック混入  
第7層 暗黄褐色土、黄灰白色粘土混入  
第8層 褐色土、黄灰白色粘土混入  
第9層 黄褐色土  
第10層 黄褐色土



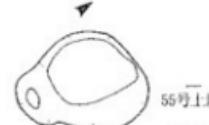
第1層 暗褐色土、炭・ローム粒子混入



第1層 暗褐色土、炭混入  
第2層 暗褐色土、黄褐色土混入  
第3層 暗褐色土、炭・燒土混入  
第4層 暗褐色土、黄褐色土



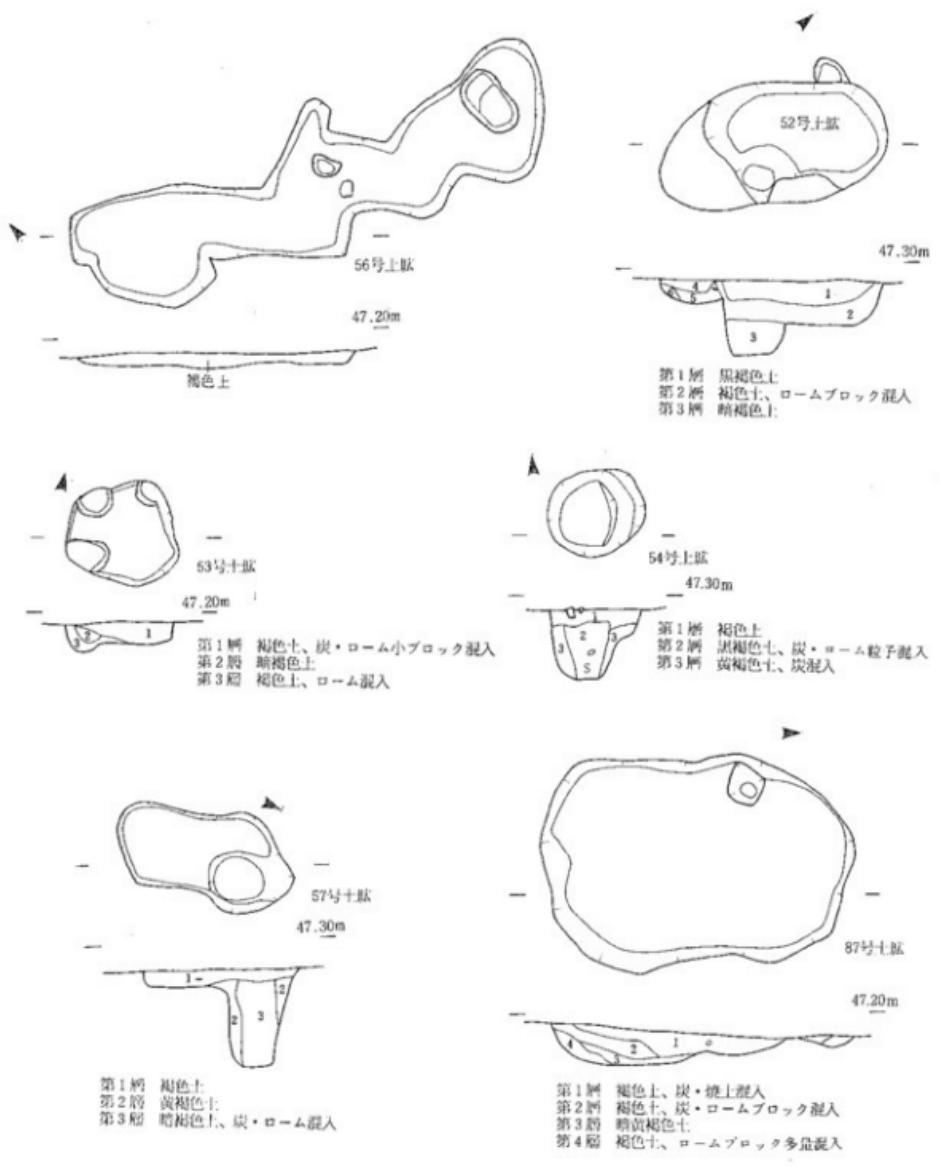
第1層 暗褐色土



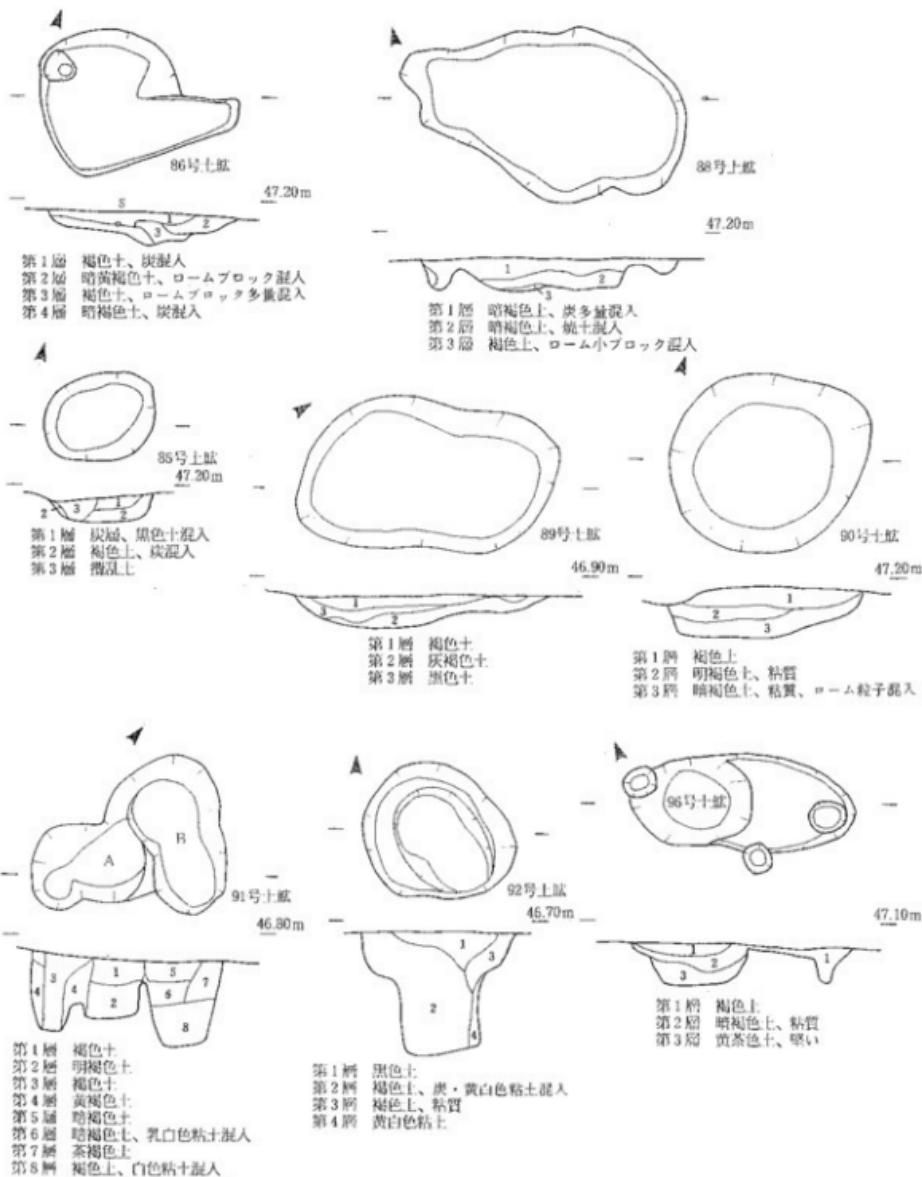
第1層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第2層 暗褐色土、ロームブロック混入  
第3層 暗褐色土  
第4層 黄褐色土  
第5層 黄褐色土



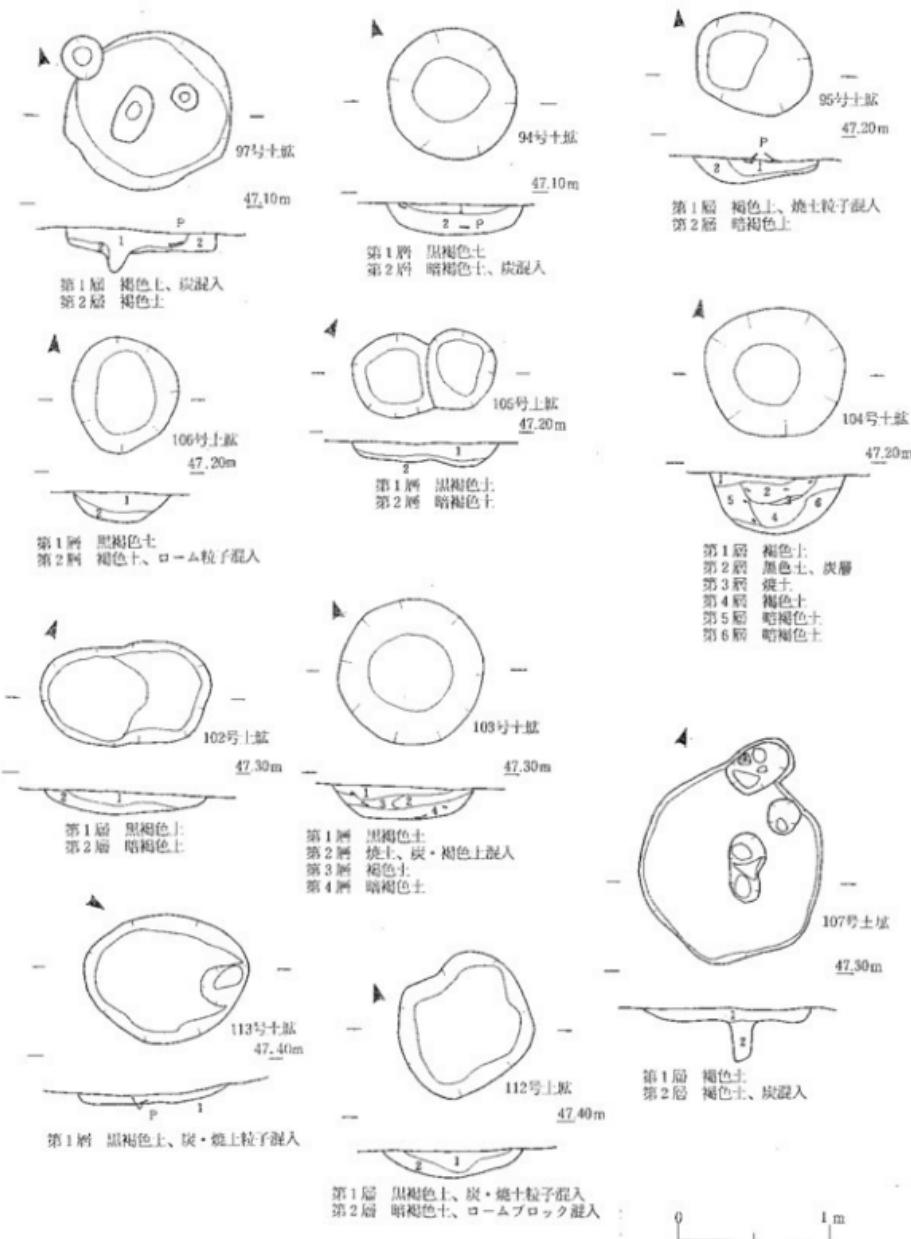
第103図 土壌



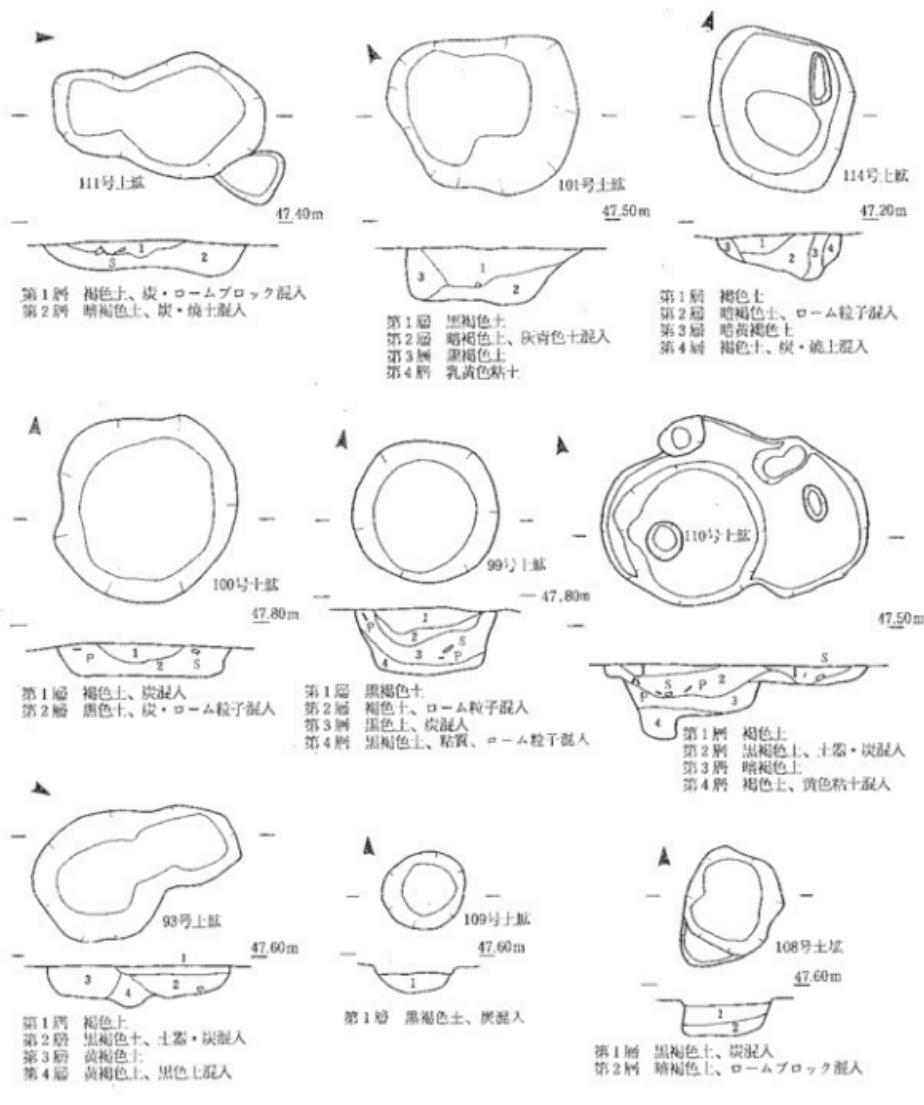
第104図 土壌



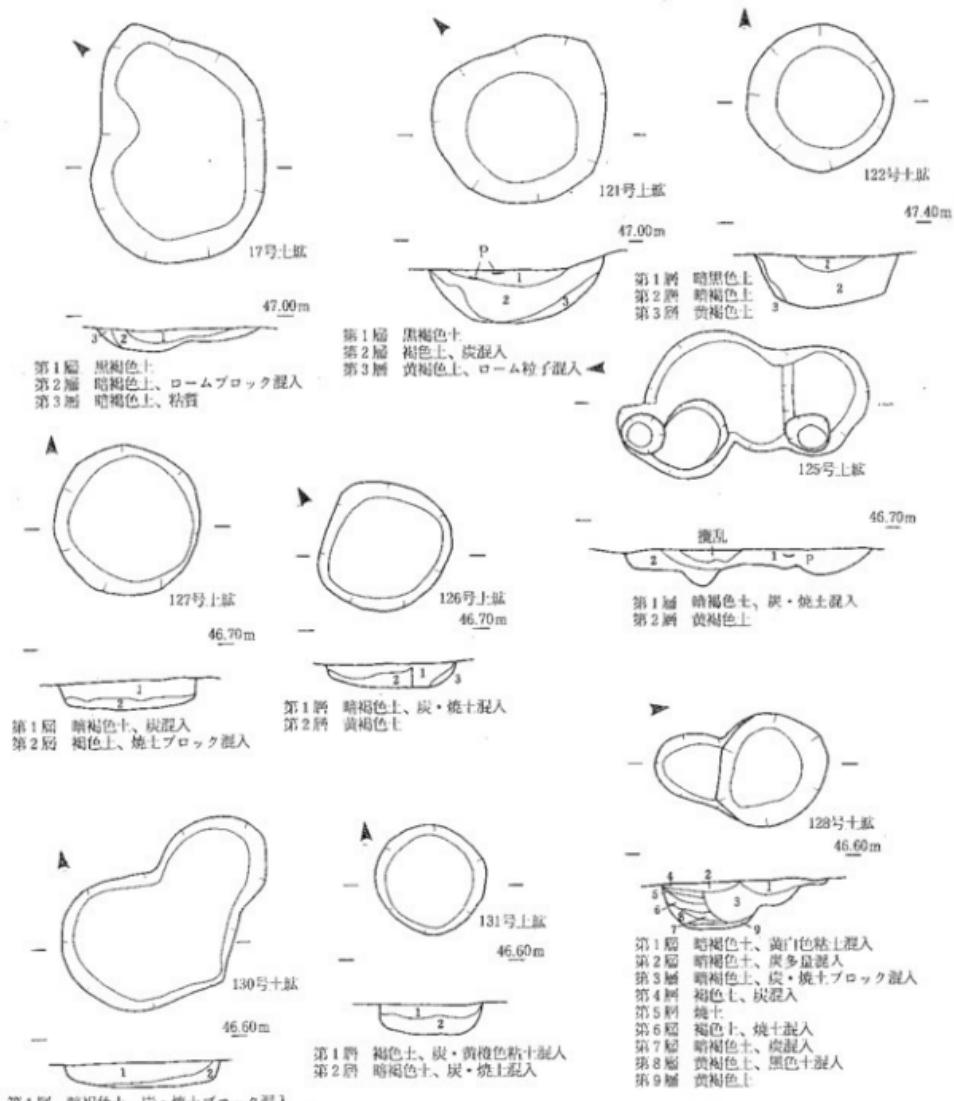
第105図 土塚



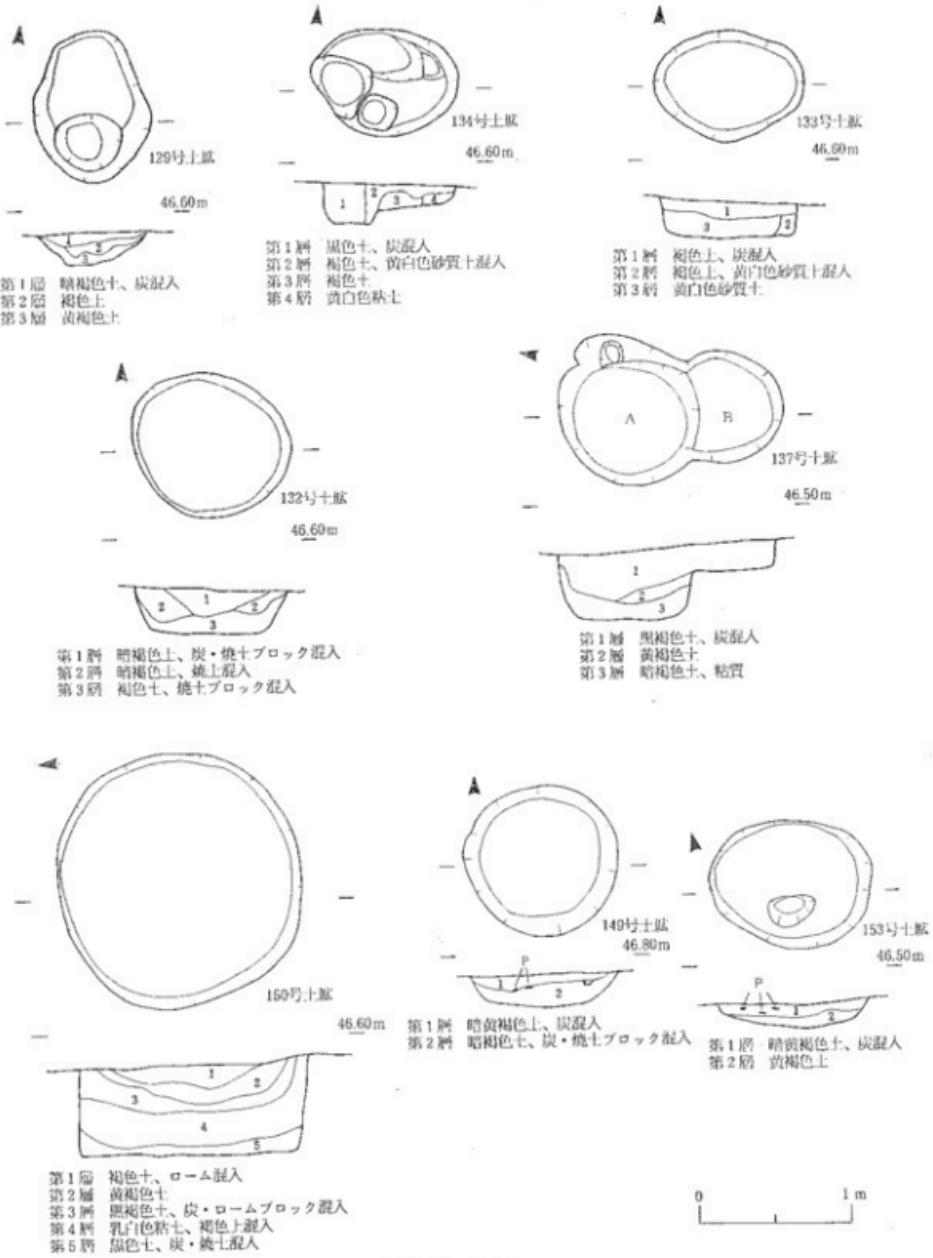
第106図 土塚



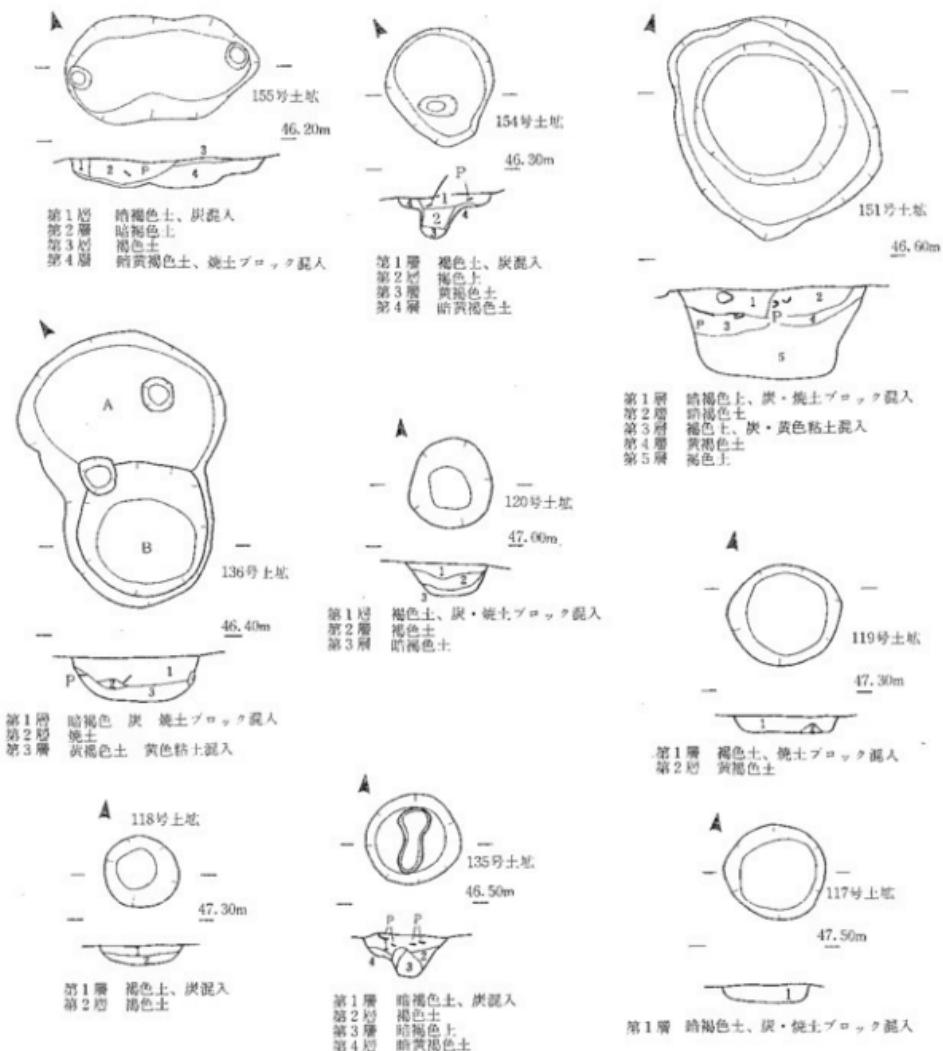
第107図 土塚



第108図 土塚

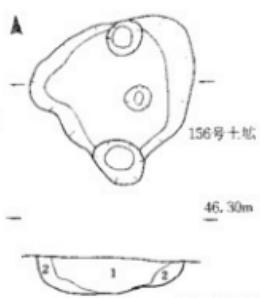


第109図 土壌

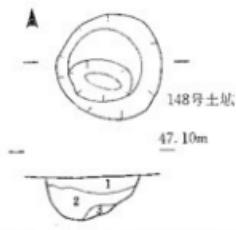


0 1m

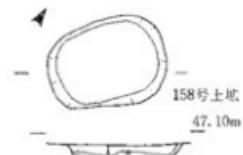
第110図 土塙



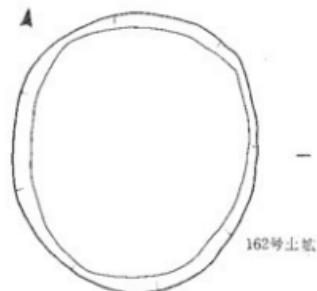
第1層 黒褐色土、炭・焼土粒子多量混入  
第2層 暗褐色土、ロームブロック混入



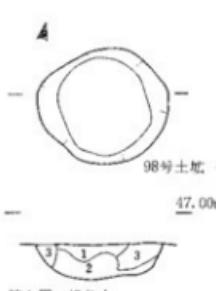
第1層 暗褐色土、炭・焼土粒子混入  
第2層 暗褐色土  
第3層 黄褐色土



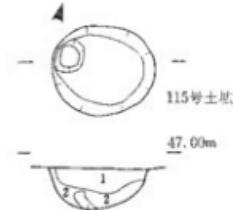
第1層 暗褐色土、炭・ロームブロック混入  
第2層 断面黄褐色土



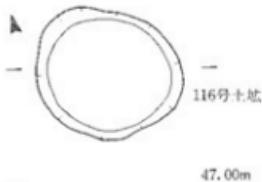
第1層 暗褐色土  
第2層 暗褐色土、ロームブロック混入



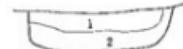
第1層 暗褐色土  
第2層 暗褐色土  
第3層 暗褐色土、ロームブロック混入



第1層 暗褐色土、炭・焼土混入  
第2層 黄褐色土



第1層 黑褐色土、土器片・炭・焼土粒子混入

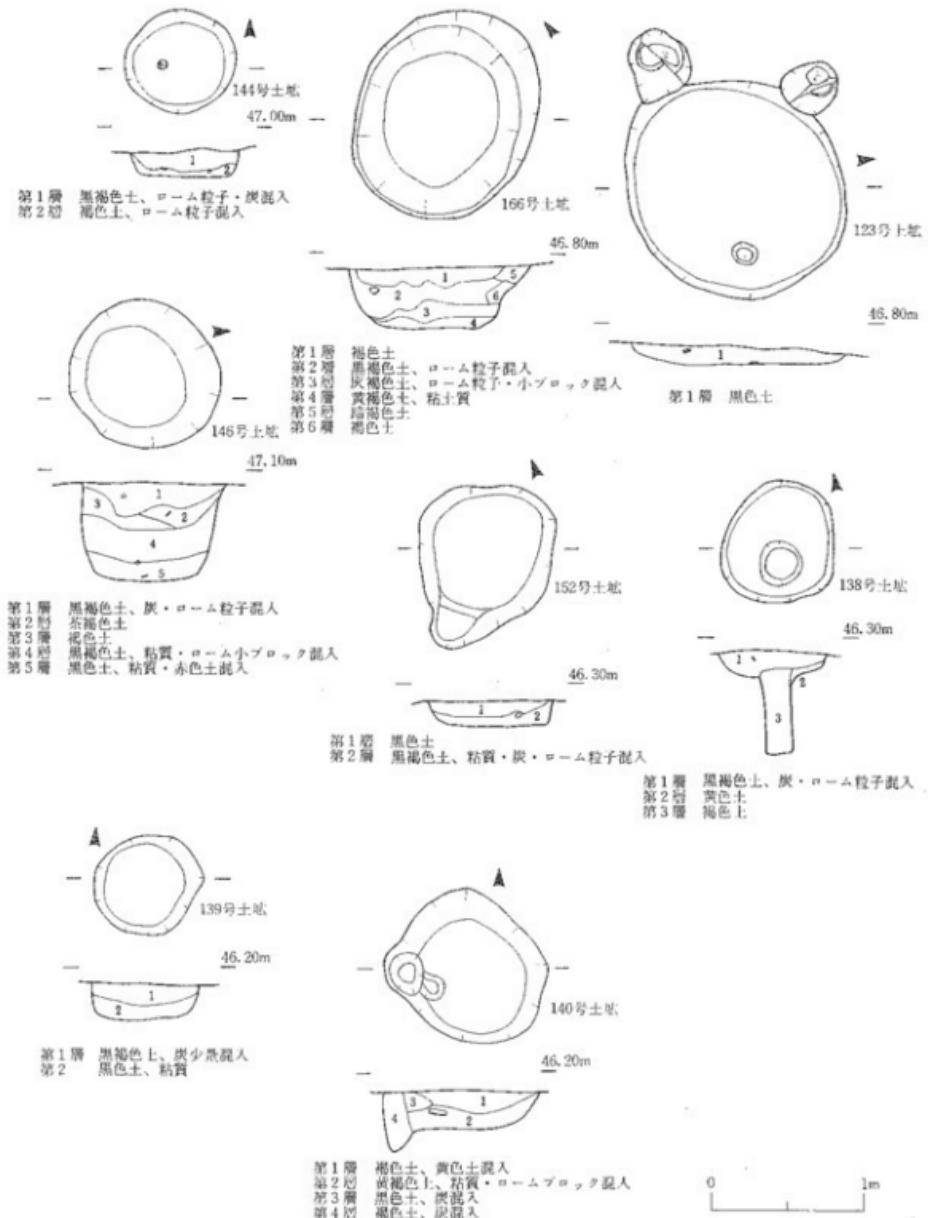


第1層 黑褐色土、炭・ローム粒子混入  
第2層 黄褐色土、ローム粒子混入  
第3層 黑色土

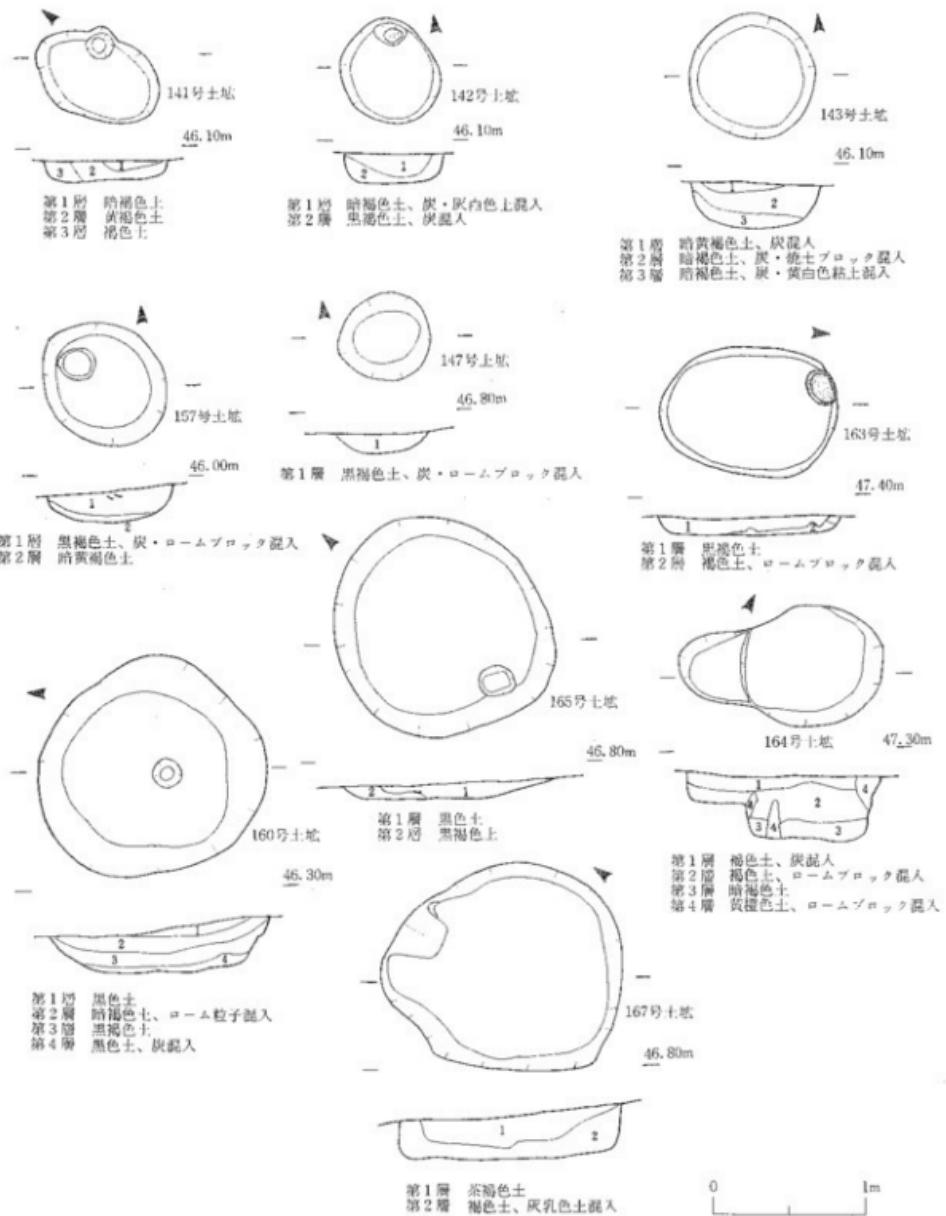


第1層 暗褐色土、燒土ブロック混入  
第2層 暗褐色土、黄灰白色粘土混入

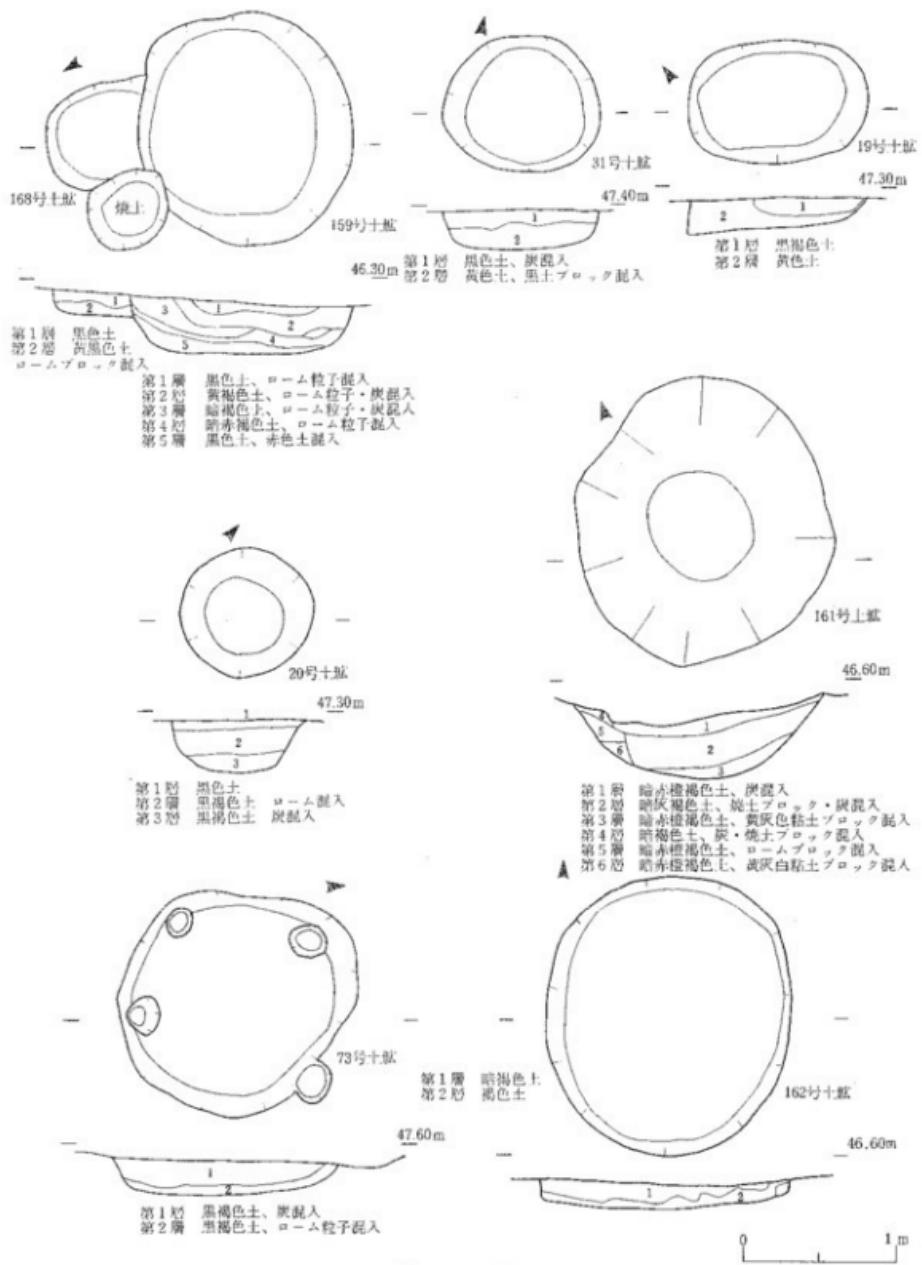
第111図 土坑



第112図 土壠



第113図 土壠



第114図 土壌

土器：160は浅鉢形土器である。沈線文と横方向にのびる大腹骨文が施されている。

#### 105号土塙出土遺物（第117図）

土器：161は鉢形土器である。瘤状の突起を中心に沈線文が施されている。

#### 111号土塙出土遺物（第121図）

石器：54是有茎の石鏃である。

#### 115号土塙出土遺物（第121図）

石器：56は石剣である。両端は欠損している。57は縱型の石匙である。ツマミ部分の両面にアスファルトが付着している。

#### 117号土塙出土遺物（第117図）

土器：162・163は鉢形土器である。区画内に連続刻目文が施されている。

#### 121号土塙出土遺物（第118・121図）

土器：164・166は浅鉢、165は鉢形土器である。沈線を主体に文様を施している。165は工字文風になる。

石器：60は刃部の一部が欠損する磨製石斧である。

#### 122号土塙出土遺物（第118図）

土器：167～169は鉢形土器、170は浅鉢形土器である。167は小波状口縁をなし、二条の平行沈線文がまわる。168・169は平行沈線文をまわし、164は山形口縁をなす。170は沈線間に連続刻目文を施している。

#### 130号土塙出土遺物（第118図）

土器：171は鉢形土器である。小波状口縁をなし、2条の平行沈線文をあらわしている。

#### 131号土塙出土遺物（第121図）

石器：58は扁平な凝灰岩を使用したくぼみ石である。

#### 133号土塙出土遺物（第118図）

土器：172は注口土器、173は浅鉢形土器である。いずれも連続刻目文がみられる。

#### 135号土塙出土遺物（第121図）

石器：59は磨製石斧である。

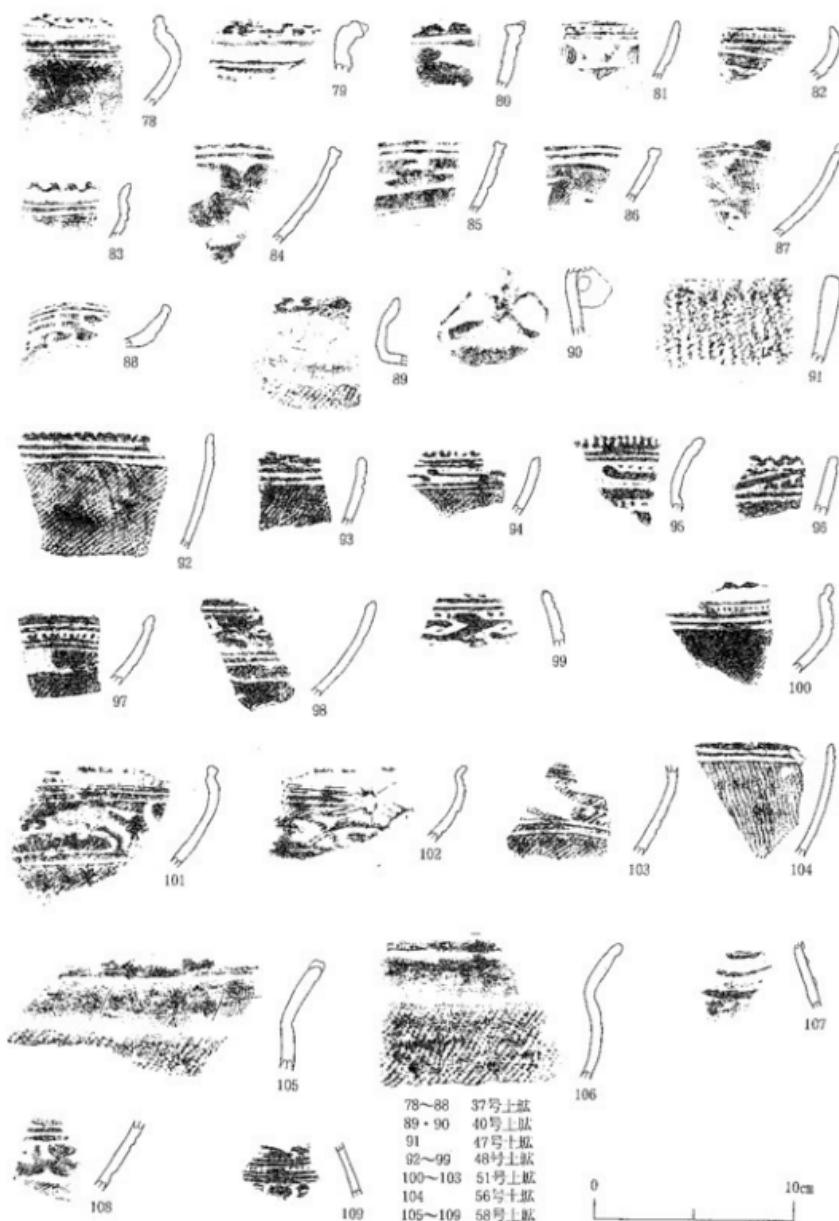
#### 136号土塙出土遺物（第118図）

土器：174は浅鉢形土器、175は注口土器である。174は口縁部に連続刻目文、体部に雲形文が施されている。

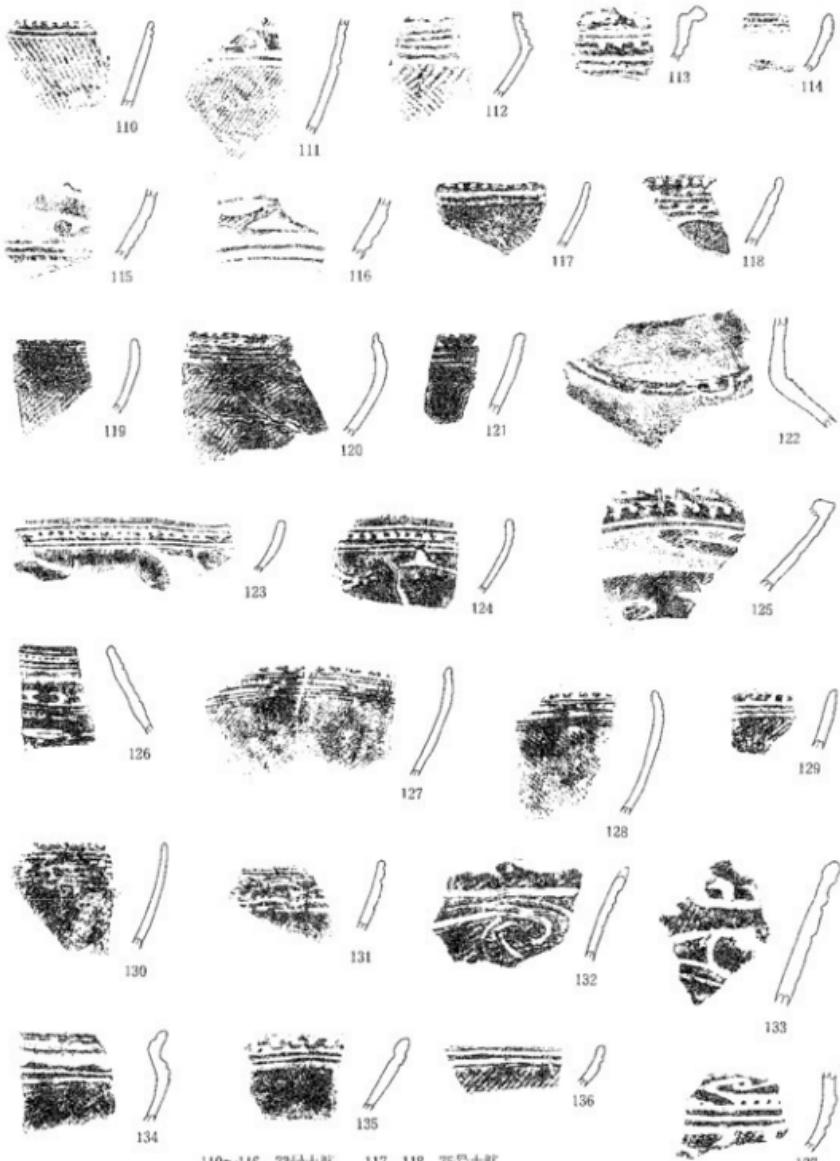
#### 138号土塙出土遺物（第118図）

土器：176・177は浅鉢形土器である。177は口縁に貼り付けによる小波状口縁をなし、3条の平行沈線文がまわる。体部は磨削し手法により「x」字状文などが施されている。

#### 142号土塙出土遺物（第118図）



第115図 遺構内出土土器

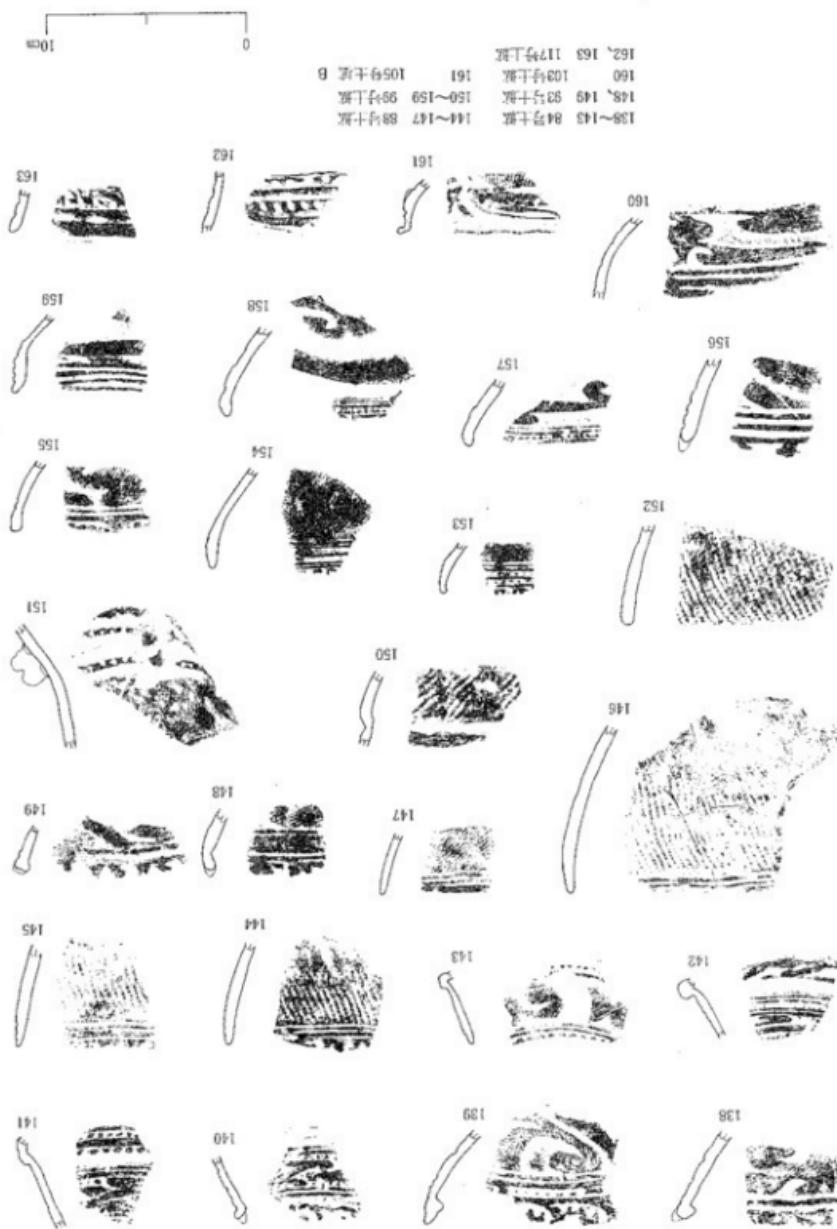


110~116 73号土器  
117、118 75号土器  
119~126 78号土器  
127~129 80号土器  
130~137 84号土器

0 10cm

第116図 造構内出土土器

图117 四 墓葬出土玉器

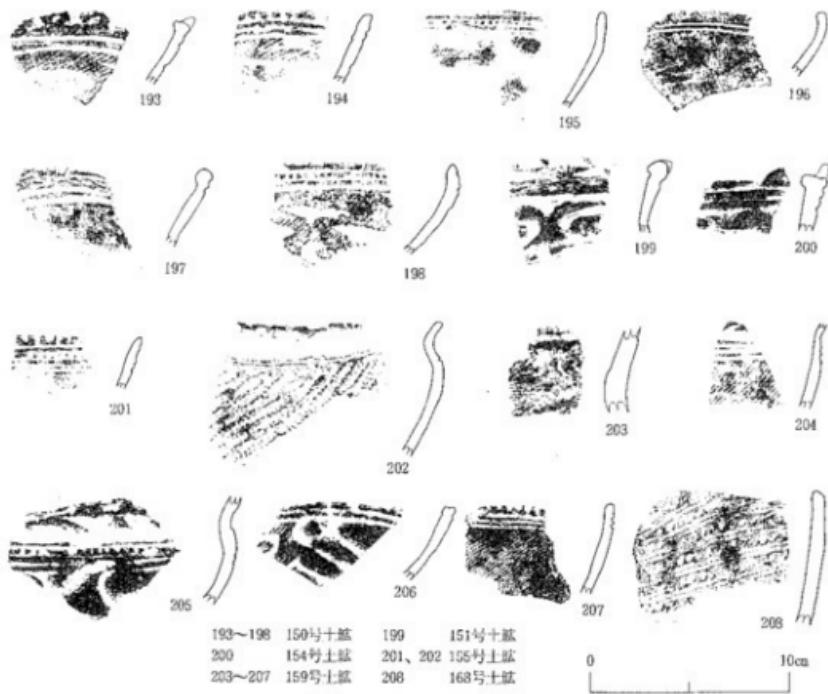




164~166 121号土瓶  
 171 130号上瓶  
 174、175 136号下瓶B  
 178、179 145号下瓶  
 184~189 149号上瓶  
 167~170 122号土瓶  
 172、173 133号下瓶  
 176、177 138号上瓶  
 180~183 146号下瓶  
 190~192 150号上瓶

0 10cm

第118図 遺構内出土土器



第119図 遺構内出土土器

石器：61は刃部が欠損する磨製石斧である。

#### 145号土塙出土遺物（第121図）

土器：178は鉢形土器、179は浅鉢形土器である。178は小波状口縁をなし、2条の平行沈線文がある。174は口縁部に連続刻目文、体部には沈線文がみられる。

#### 146号土塙出土遺物（第118図）

土器：180~182は鉢形土器、183は浅鉢形土器である。口縁部に連続刻目文がみられ、平行沈線文が施される。181は体部に羊歯状文が平行線化した文様がみられる。

#### 149号土塙出土遺物（第118・121図）

土器：184~188は鉢形土器、184は浅鉢形土器である。184を除き、連続刻目文と平行沈線文を主体に文様を施している。

石器：62は有茎の石鏃である。

#### 150号土塙出土遺物（第118・119図）

土器：191・194は鉢形土器、190・192・193・195~198は浅鉢形土器である。浅鉢形土器は、口縁部に平行沈線文、連続刻目文を施し、体部は無文、磨消し縄文により「エ」字状文が施されるのが

主体を占める。

#### 151号土塙出土遺物（第119・121図）

土器：199は浅鉢形土器である。口縁に波状文、体部には磨消し繩文による「エ」字状文が施される。

石器：63は縦型石匙である。

#### 154号土塙出土遺物（第119図）

土器：200は鉢形土器である。口縁部に平行沈線文がまわる。

#### 155号土塙出土遺物（第119・121図）

土器：201・202は鉢形土器である。201は小波状口縁をなし、連続刻目文が施されている。202は口縁が「く」の字状に外反し、無文帯である。

石器：64は両面使用の「くぼみ石」である。

#### 159号土塙出土遺物（第119図）

土器：203～205・206は鉢形土器である。鉢形土器は小波状口縁をなし、平行沈線文がまわる。205は体部に連続刻目文が施されている。

#### 161号土塙出土遺物（第120図）

石器：50は刃部が欠損する磨製石斧である。

#### 163号土塙出土遺物（第120図）

石器：51・52は有茎の石鏃である。

#### 168号土塙出土遺物（第119図）

土器：208は深鉢形土器片である。

### 出土土器

地方遺跡では、遺構内外から多くの土器が出土している。特に遺構外の（6—4～10—E～J）グリッド付近は沢頭になっており、おびただしい量の土器が出土している。整理用コンテナで約600箱ほどである。ここでは、それらの中から復元、実測できた土器、拓本資料として抽出した土器について扱うこととした。土器はすべて繩文時代晩期の土器であり、土器型式から群に、器形から類に分類して述べる。

#### 第1群土器（第136図・第163図881）

大洞B式土器を本群とした。器種には深鉢、注口土器がある。

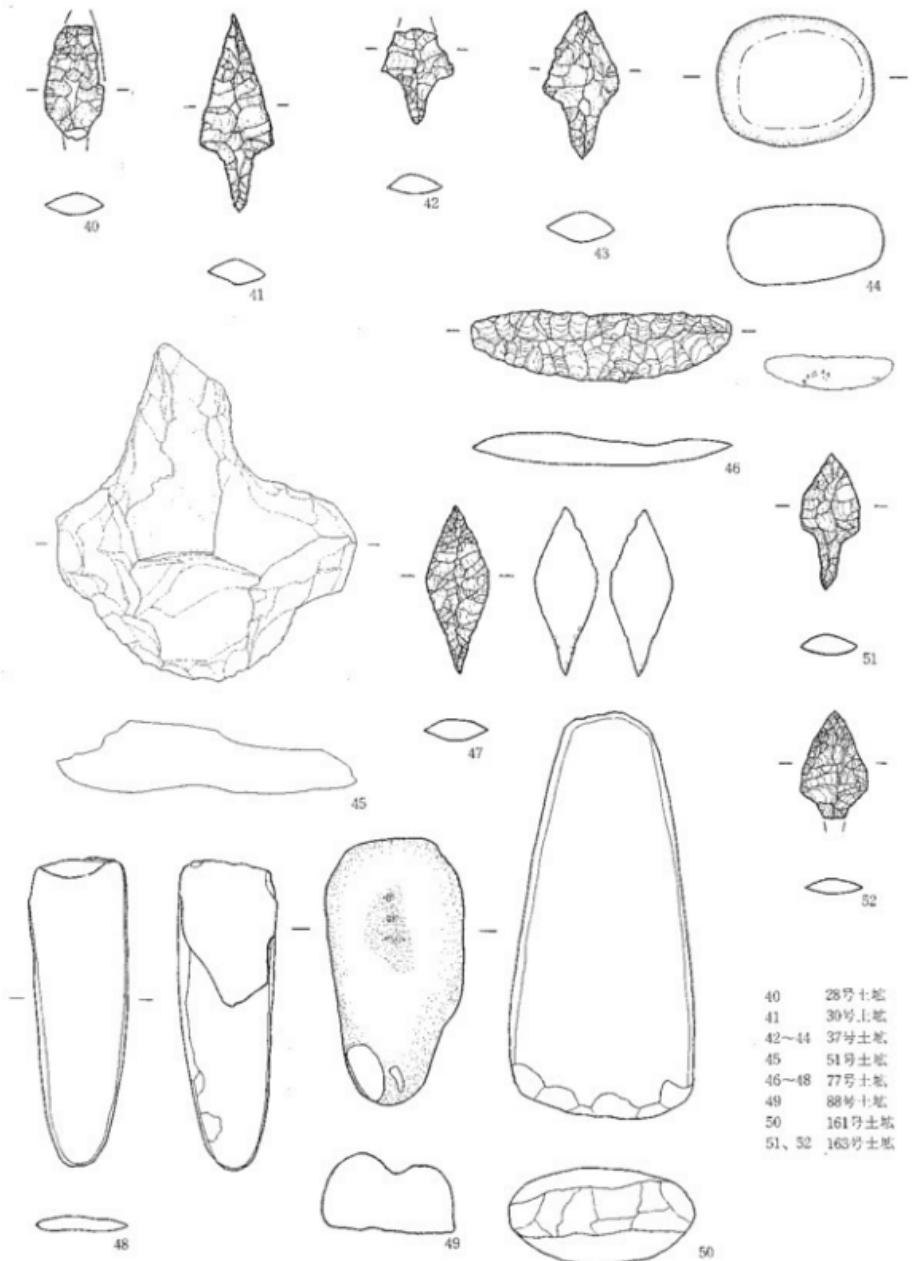
I類土器：深鉢形土器である。その施文様からa～c類に分類できる。

##### a類（365・366・374）

平縁で、頸部に1～2条の沈線がめぐり、口縁部には三叉文が施される。

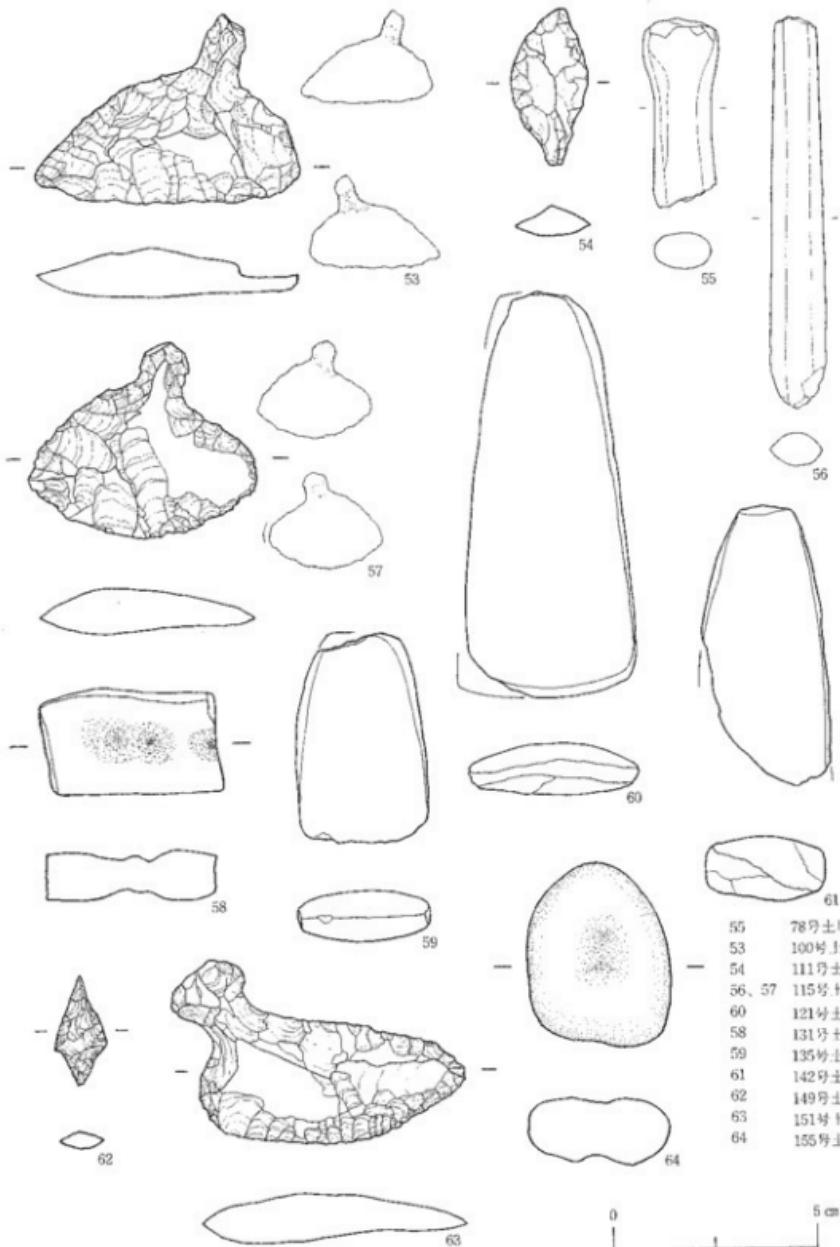
##### b類（367～373）

I a類と同じく平縁であり、口縁頸部に沈線がまわっているが、口縁部の三叉文が沈線となって

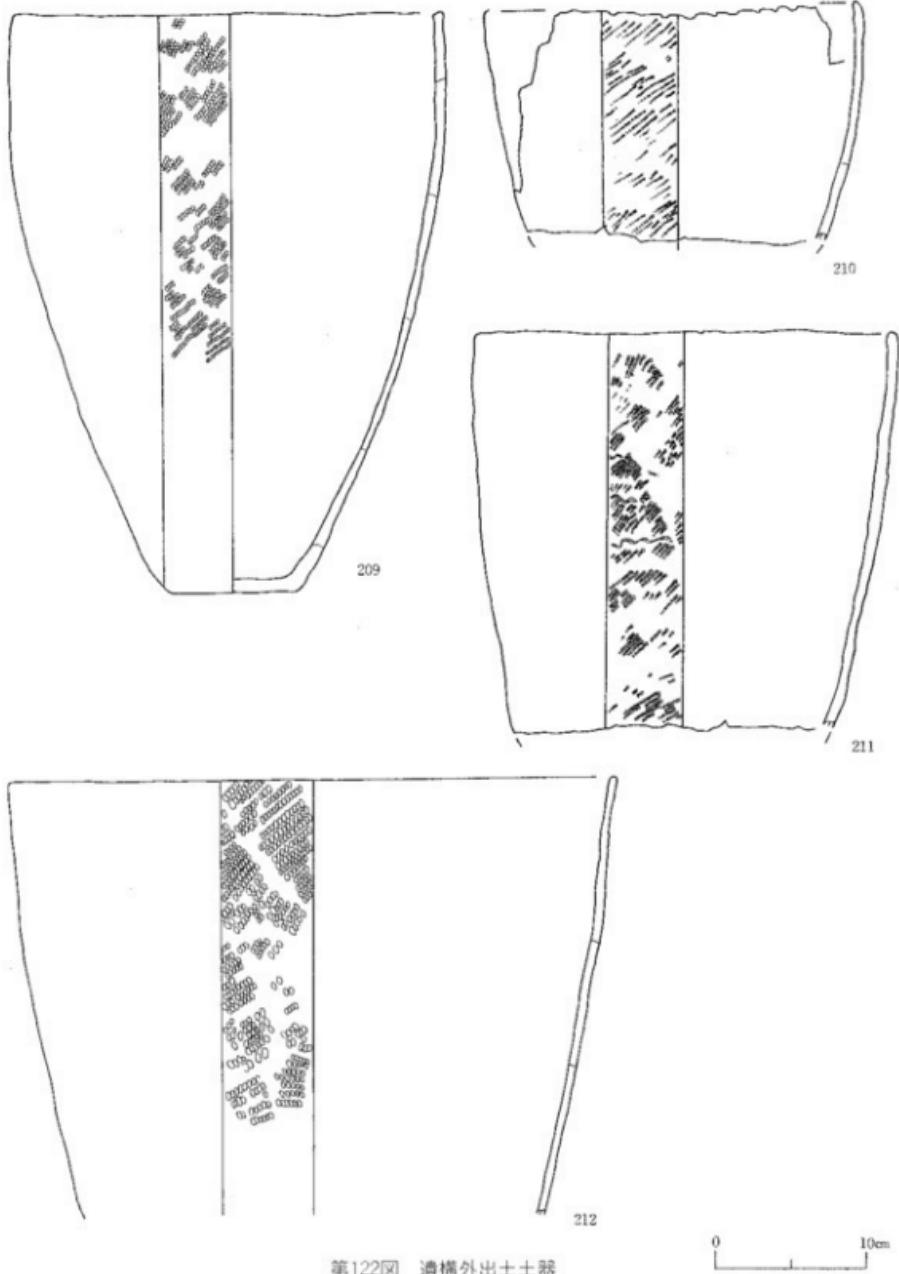


第120図 遺構内出土石器

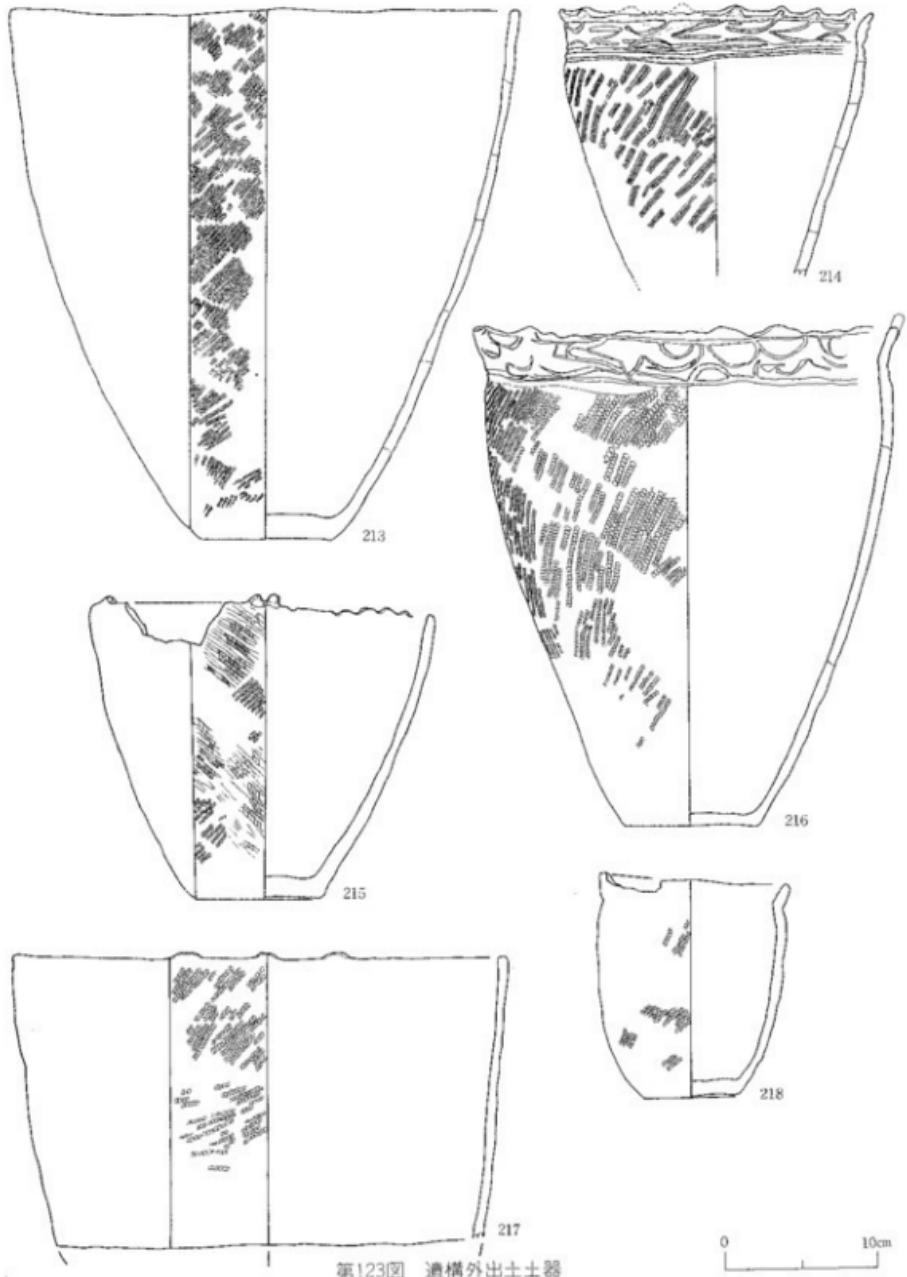
- |        |        |
|--------|--------|
| 40     | 28号土塙  |
| 41     | 30号土塙  |
| 42~44  | 37号土塙  |
| 45     | 51号土塙  |
| 46~48  | 77号土塙  |
| 49     | 88号土塙  |
| 50     | 161号土塙 |
| 51, 52 | 163号土塙 |



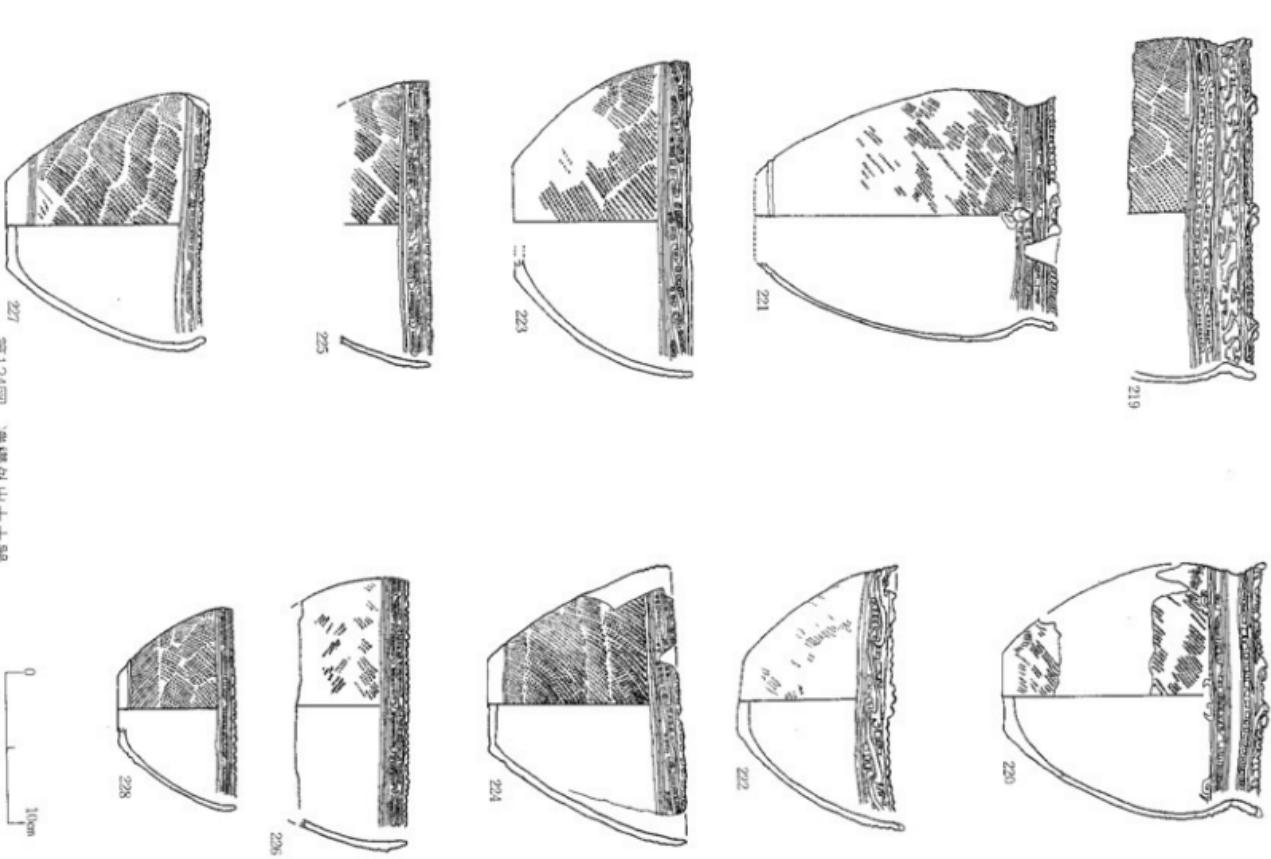
第121図 遺構内出土石器

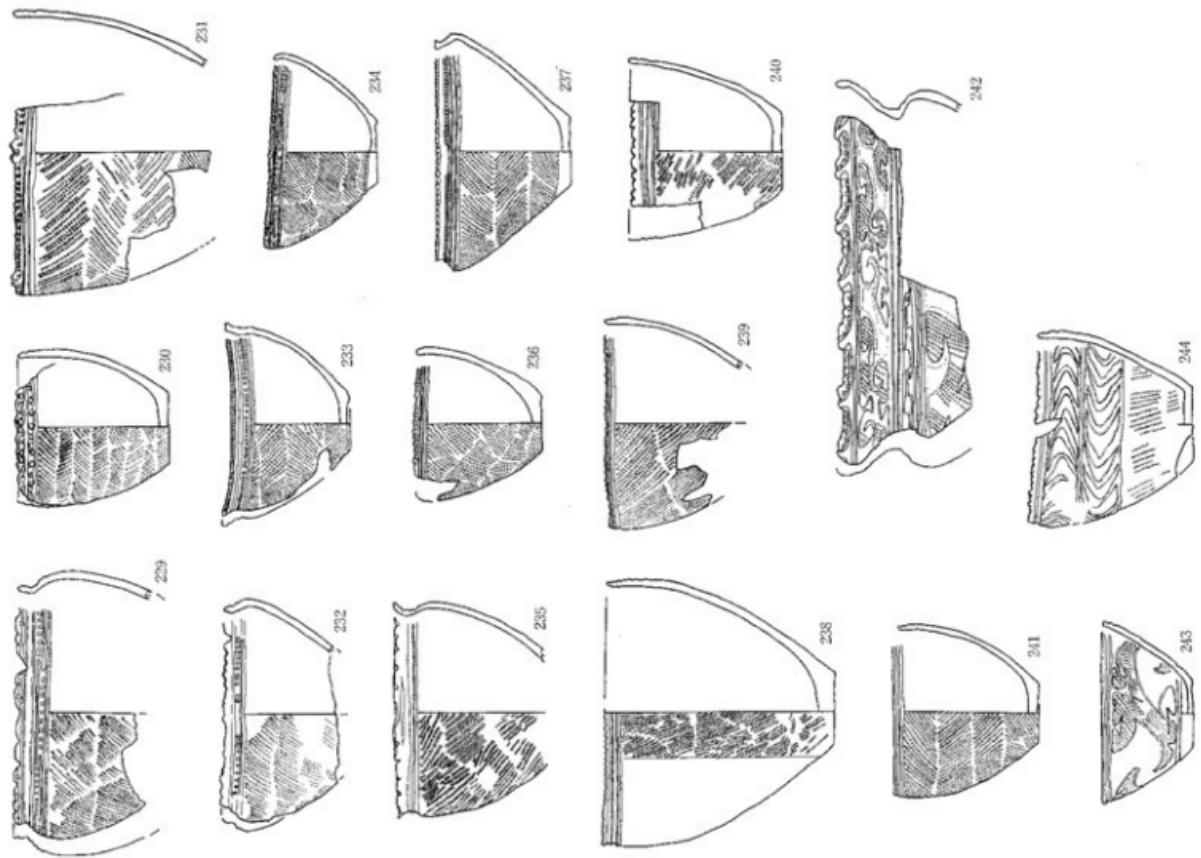


第122図 遺構外出土土器

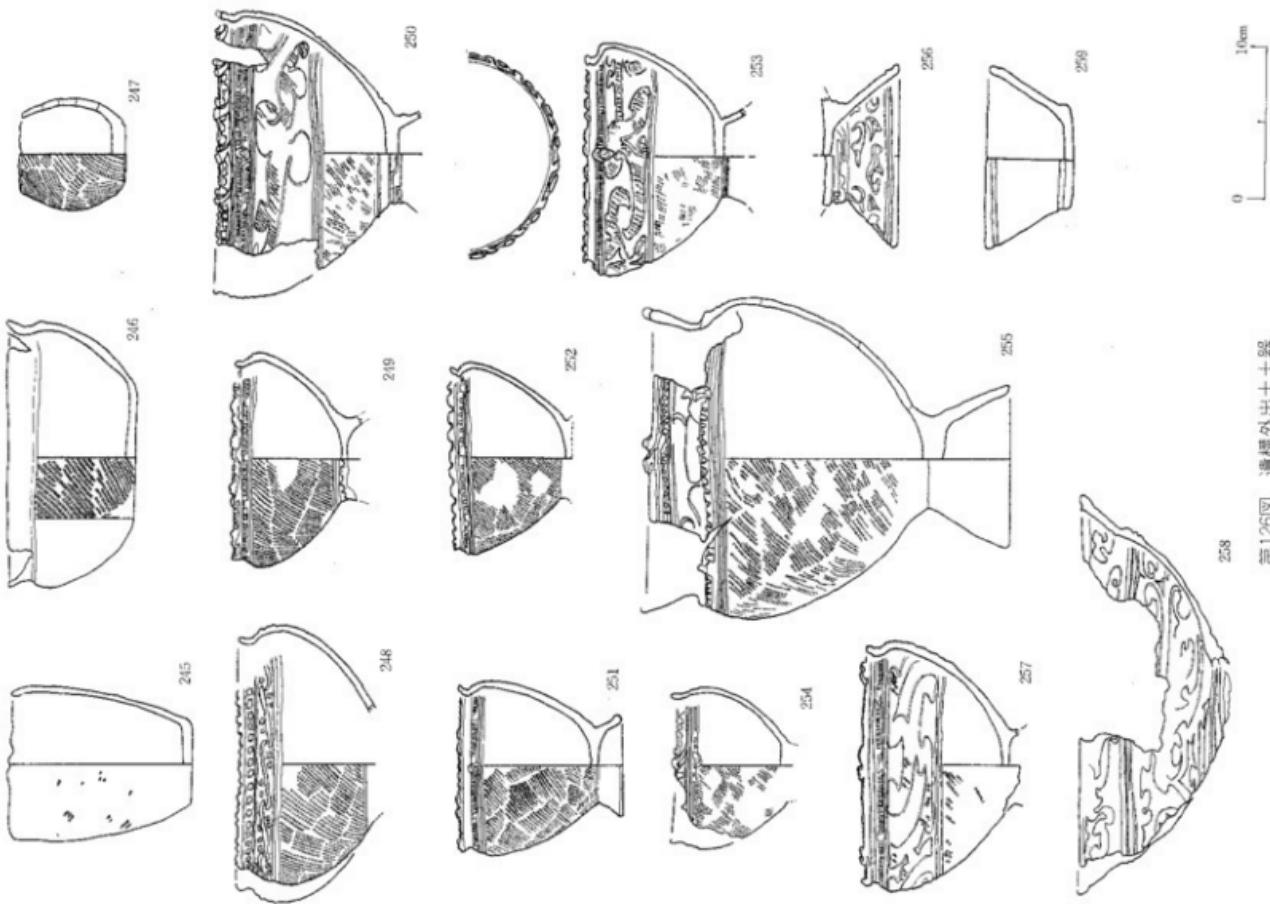


第123図 遺構外出土土器



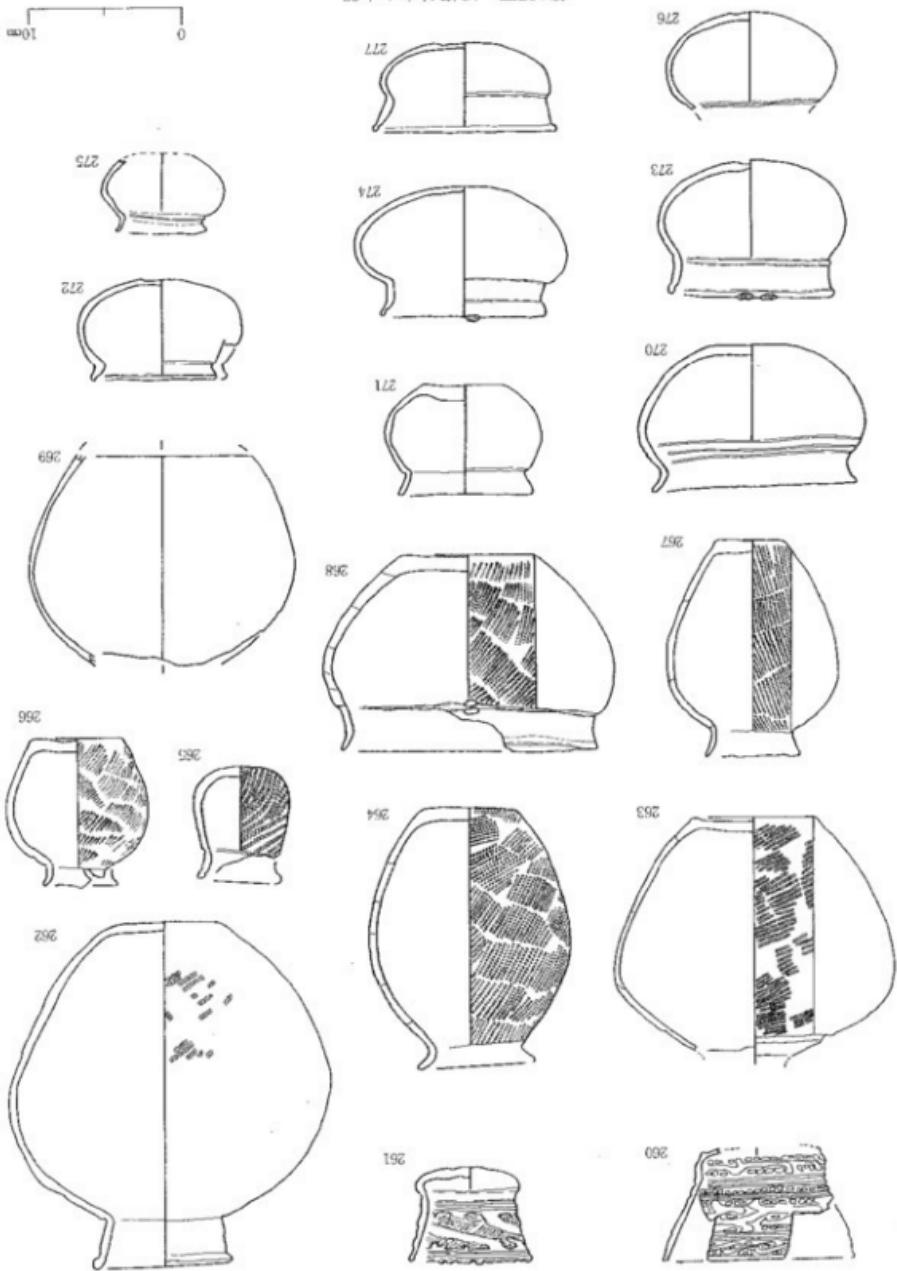


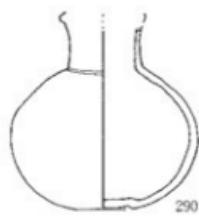
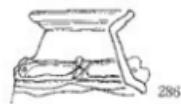
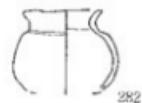
第125图 遗憾外出土器



第126図 遺構外出土土器

第127图 通塘外出土土器





0 10cm

第128図 遺構外出土土器



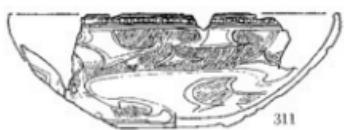
第129図 造構出土土器



309



310



311



312



I



313



I



314



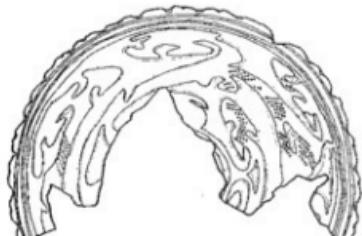
I



315



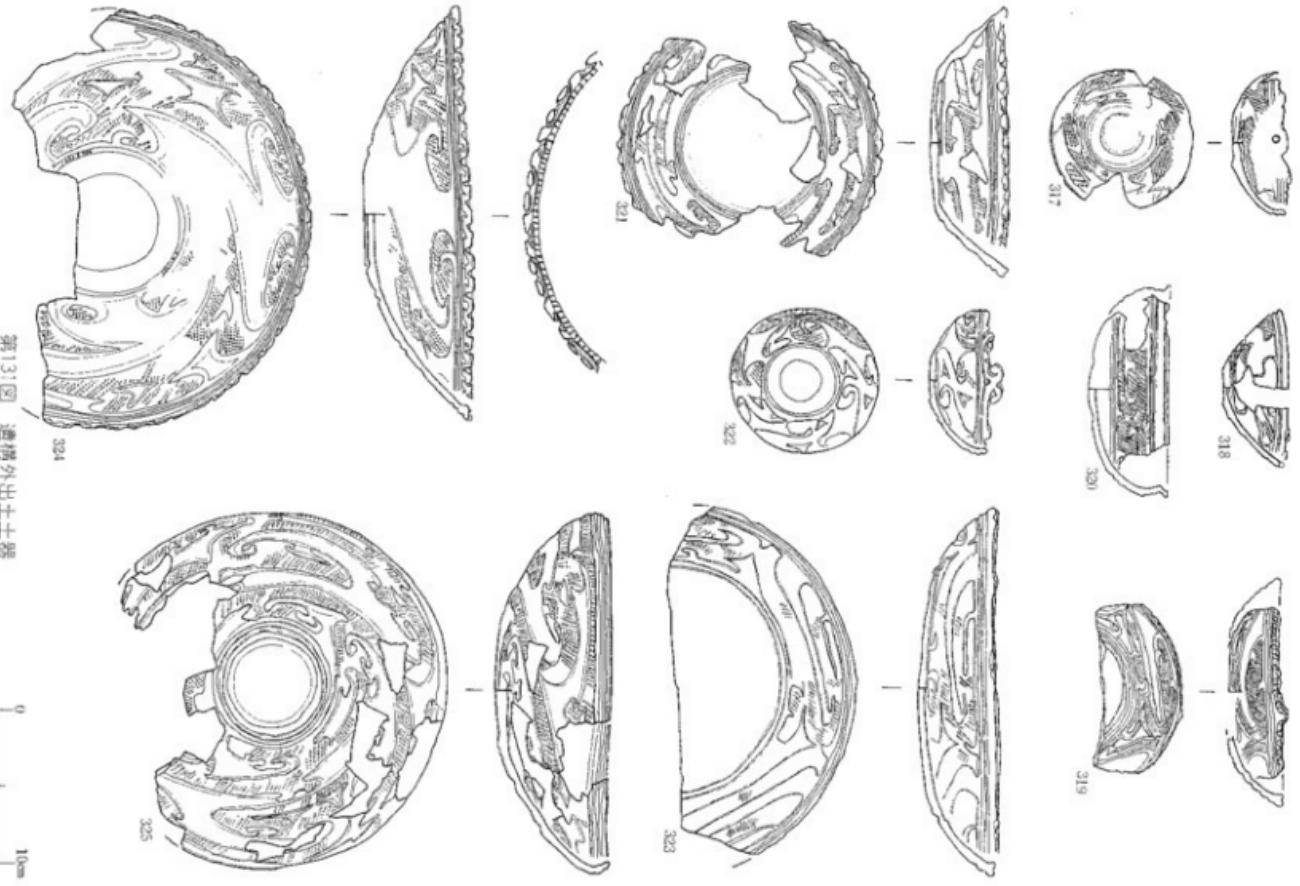
I



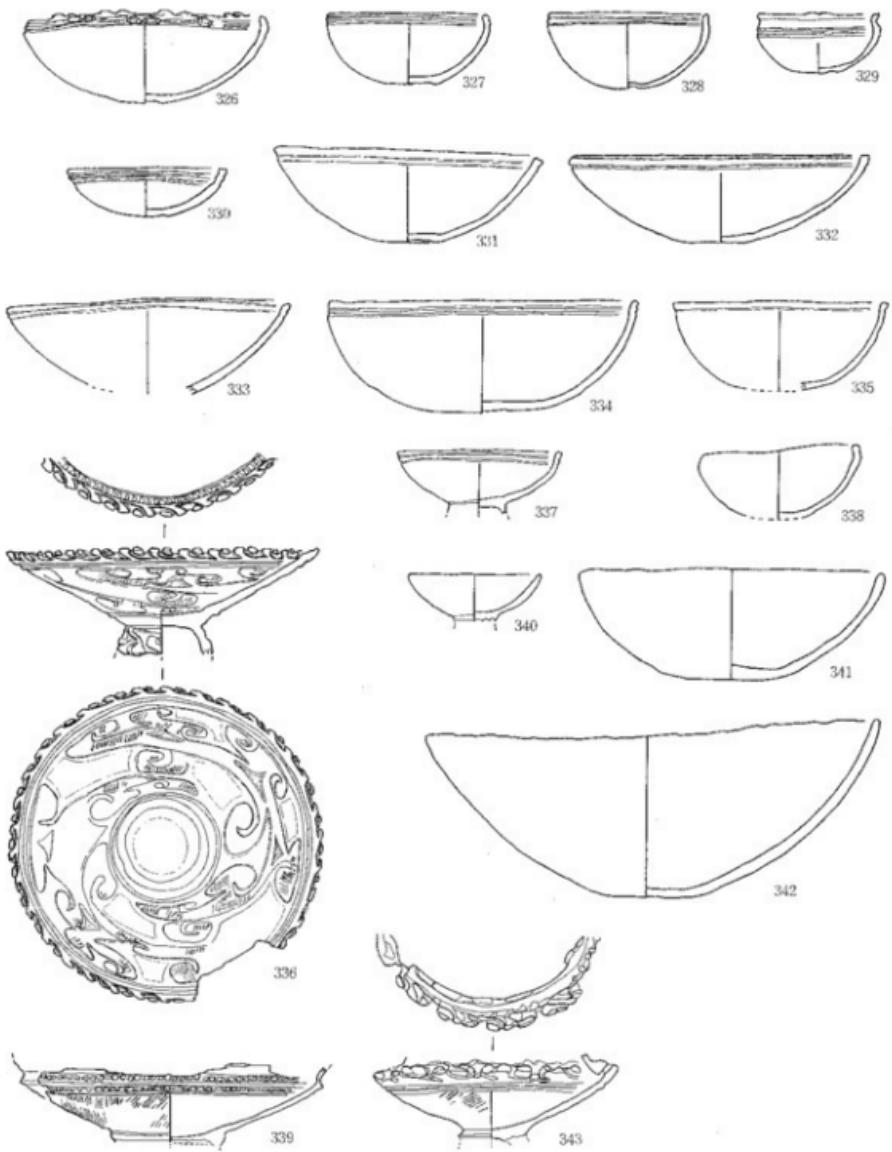
316



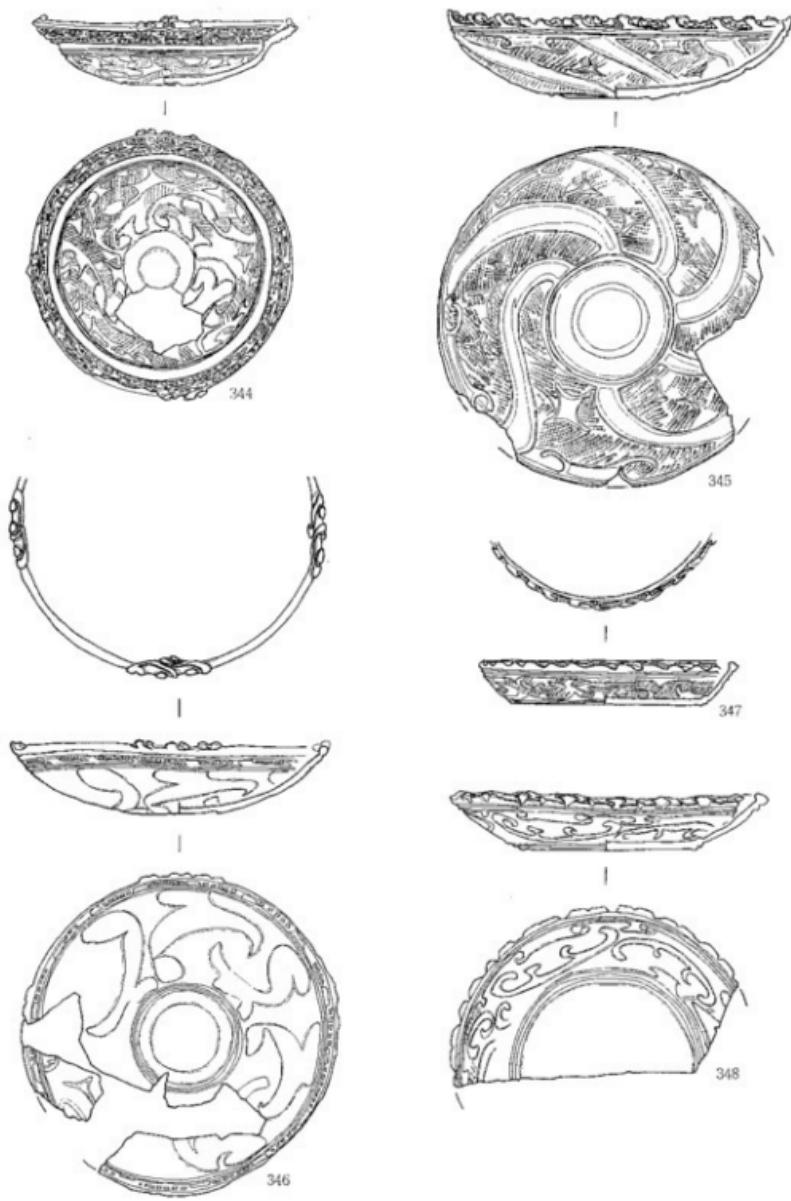
第130図 造横出土土器



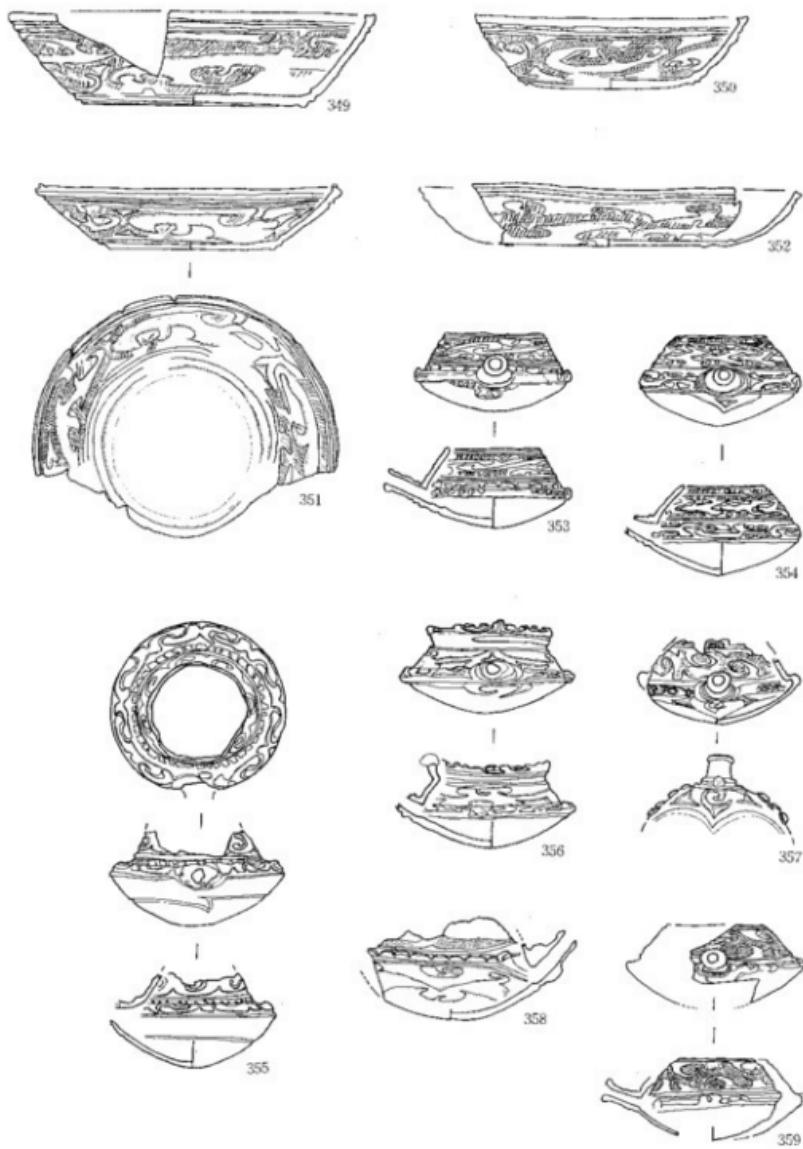
第131圖 遺構外出土器



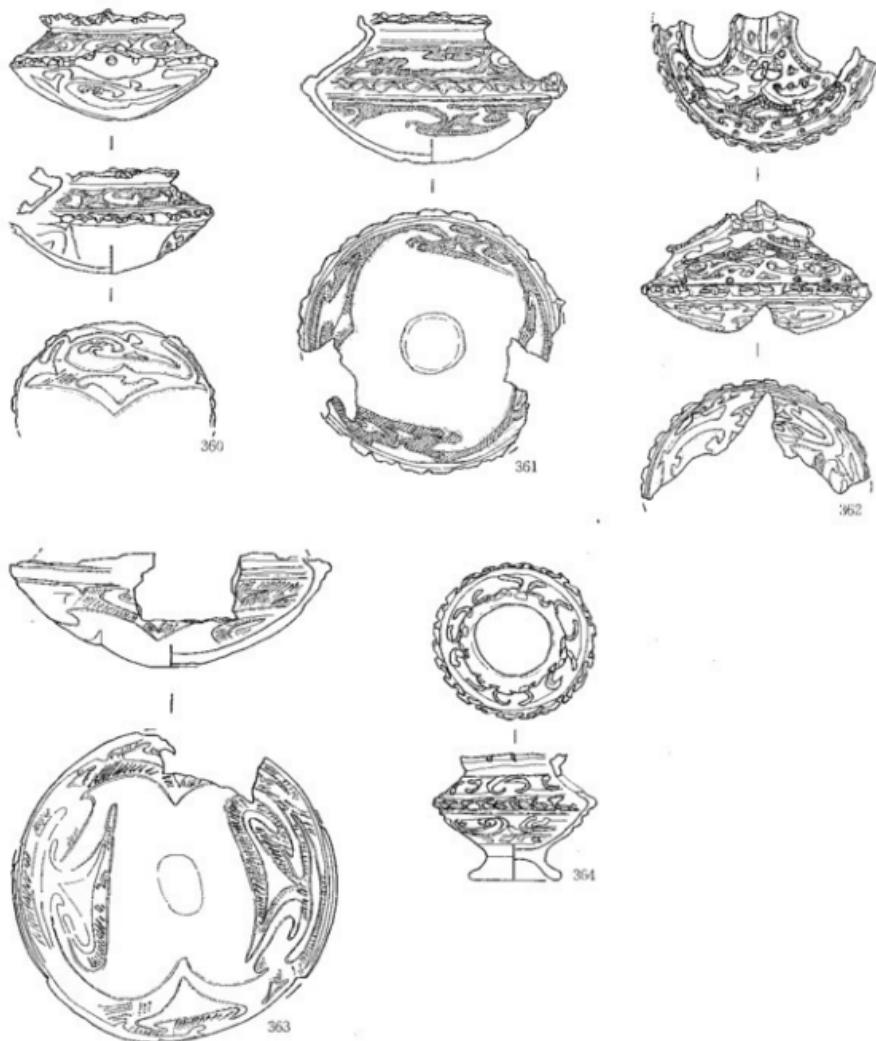
第132図 遺構外出土土器



第133図 遺構出土土器



第134図 遺構外出土土器



0 10cm

第135図 遺構出土土器

のび、入組三叉文を呈する。

c 類 (375~378・380・381)

平行沈線文と、入組沈線文によって文様帯が構成される。375~378などは大洞B—C式の羊歯状文の出現を想起させる。

II類土器：注口土器を本類とした。881は沈線により、三叉文、磨消文を描いている。

**第2群土器** (第124図219~226・第126図248~250・第127図260・第133図344~346・第134図 353~355・第137図382~387・第140図・第141図・第142図・第143図506~512・第152図681~692・第163図882~896・第164図897~903)

大洞B—C式土器を本群とした。器種には、深鉢、鉢、台付鉢、壺、浅鉢、皿、注口土器がある。

I類土器：深鉢形土器を本類とした。その施文様からa～c類に分類できる。

a 類 (382)

頸部に沈線文をめぐらし、口縁部には大きな半歯状文が施される土器である。

b 類 (383~385)

口縁部に2～4条の平行沈線文をめぐらし、沈線間に大きな連続刻目文が一段ないし二段施される土器である。

c 類 (386・387)

口縁部に細い沈線を数条めぐらし、沈線間に平行線化した細い羊歯状文が施されている。

II類土器：鉢形土器を本類とした。施文様からa～e類に分類できる。

a 類 (222~224・446~450・465~481)

口縁部に文様が施される土器群である。沈線間に末端の咬み合う羊歯状文が施される。

b 類 (225・226・483~501)

口縁部に文様が施される土器群である。沈線間に末端の咬み合わない羊歯状文が施される。

c 類 (260・437~443・445・455~459)

2～3段の羊歯状文と連続刻目文が組み合わせる土器群で、文様帯の幅が広くなる。

d 類 (444)

口縁部に入組三叉文が施され、胴部沈線間にc字文渦巻が施されている。

e 類 (460~464・506~510)

口縁部に文様が施される土器群である。羊歯状文が退化して平行線化し、連続刻目文が2～数段にわたって施される。

III類土器：台付鉢形土器を本類とした。その施文方法からa～c類に分類できる。

a 類 (248)

口縁部に文様が施される。末端の咬み合う羊歯状文が施されている。

b 類 (250)

口縁部、体上部に文様が施される。末端の咬み合わない羊歯状文と、体上部に磨消し縄文による「エ」字文が施されている。

c類 (249・251・252)

口縁部に文様が施される。半歯状文が退化し一列になり平行線化し、その間に連続刻目文が施されている。

**IV類土器**：浅鉢形土器を本類とした。その施文方法からa～c類に分類できる。

a類 (681・682・684・685)

口縁部の沈線間に末端の咬み合う羊歯状文が施される。

b類 (683・686・687)

口縁部の沈線間に末端の咬み合う羊歯状文が施され、さらに体部に磨消し縄文による雲形文が施される。

c類 (689～691)

口縁部に末端の咬み合わない羊歯状文が施され、体部に磨消し縄文による雲形文が施されるものである。

**V類土器**：皿形土器を本類とした。その施文方法からa～b類に分類できる。

a類 (344)

口縁部に末端の咬み合う羊歯状文が施される。

b類 (345)

磨消し帶によるクランク状の帶を口縁部から底部に施し、間に三叉文、四叉文が施される。

**VI類土器**：壺形土器を本類とした。その施文方法からa～b類に分類できる。

a類 (856～859)

連続刻目文と沈線によって文様が施されている。

b類 (854・855)

口縁部、肩部にC字状満巻が展開されるものである。

**VII類土器**：注口土器を本類とした。その施文方法からa～d類に分類できる。

a類 (353・892・893・898)

口縁部の沈線間に咬み合う羊歯状文を施し、下部、胴部に連続刻目文を施している。

b類 (354・883・884・886・888・889・900・901)

口縁部に「Z」状、胴部には上下二段の羊歯状文が施される。

c類 (882・885・887・890・891・894・895・896・897)

口縁部の上部に細い咬み合わない羊歯状文中央に太い「Z」状の羊歯状文が施され、間には細かい連続刻目文が配されるものである。

d類 (355)

口縁部に、C字状溝巻文が展開し体下部に連続刻目文、胴部に咬み合う羊齒状文が施される。

**第3群土器**(第123図215・216・217・第124図227・228・第125図230~241・243・第126図246・251~259、第127図261~277、第128図、第129図、第130図、第131図、第132図、第133図347・348、第134図349~352・356~359、第135図、第137図388~395、第138図397~409、第143図511~517、第144図、第145図、第146図、第147図、第148図、第149図、第150図640~642、第152図692~703、第153図、第160図822・823・830・833~840、第164図904~911、第165図)

大洞C:式土器を本群とした。器種には、深鉢、鉢、台付鉢、壺、浅鉢、皿、注口土器がある。

**I類土器**:深鉢形土器を本類とした。施文様からa~e類に分類できる。

**a類** (215・217)

口縁部に突起を有し、単節斜縞文のものである。

**b類** (388~390・393・394・396・397・406~408)

口縁部に平行沈線をめぐらし、下部は地文の単節斜縞文のものや、磨消し縞文による雲形文を施すものなどがある。

**c類** (398・399)

口縁部は磨消し無文帶で、頸部に2~3条の沈線がめぐるものである。

**d類** (395・409)

口縁部に細い沈線によってC字状文を施している。体部には隆線をめぐらし、その下部に平行沈線文・磨消し縞文が施されるものもある。

**e類** (216・400~405)

口縁部に細い平行沈線と連弧文を組み合わせた文様が展開するものである。

**II類土器**:鉢形土器を本類とした。施文様からa~g類に分類できる。

**a類** (227・228・230・232~234・511~517・518~525)

口縁部の平行沈線間に連続刻目文が施され、体部は地文の単節斜縞文のものである。

**b類** (235・237・549~551・552~558・560~566)

頸部は磨消し無文帶で、胴部にめぐらした平行沈線間に連続刻目文が施されるものである。54549~553は縦に2個一対の突起がある。

**c類** (526~534・535~548・567・571・609)

小波状、平縁に縁をなし、口縁に狭い間隔で、2~3条の平行沈線をめぐらすものである。539541のようにわざかに連続刻目文の施されるものもある。体部はすべて地文の単節斜縞文である。

**d類** (568・569・572・573・611)

頸部は磨消し無文帶で胴部に平行沈線文がめぐるものと、572のようにめぐらないものがある。

**e類** (574~597)

口縁部、胴部に連続刻目文をめぐらし、胴部平行沈線区画内や、体部全体に磨消し縞文による雲

形文・大腿骨文・ $x$ 字文などが施されるものである。

**f類 (598~608)**

頸部は磨消し無文帶で平行沈線で区画した下部には磨消し縄文による雲形文・大腿骨文などが施されるものである。

**g類 (612・613~645)**

沈線区画内に磨消し縄文による雲形文・大腿骨文・ $x$ 字文・K字文などが施されるものである。641・643などのように山形口縁をなし、山形の区画文がみられるものもある。

**III類土器：台付鉢形土器を本類とした。施文様からa～d類に分類できる。**

**a類 (249・251・252・254)**

口縁部の沈線間に連続刻目文がめぐる体部は単節斜縄文である。

**b類 (255)**

口縁に小さな山形突起を有し、口縁部、頸部に平行沈線文・連続刻目文をめぐらし、その間に細い沈線によって文様が施される。体部は単節斜縄文である。

**c類 (253・257)**

頸部の沈線間に連続刻目文がめぐり、体部中央にめぐる平行沈線文との間には磨消し縄文による横方向に流れる $x$ 字文が展開する。

**d類 (259)**

胴部・体部下端に平行沈線文がめぐり、器全面に磨消し縄文による雲形文・ $x$ 字文などが展開する。

**IV類土器：浅鉢形土器を本類とした施文様からa～e類に分類できる。**

**a類 (308)**

平縁で口縁部に連続刻目文が施される。体部は地文の単節斜縄文である。

**b類 (299~307・309~313・315・319・692~697・700~719・720~738)**

平縁のものが多いが、小波状口縁をなすものもある。口縁部には数条の平行沈線文がめぐり、沈線間に連続刻目文が施される。大腿骨文・ $x$ 字文などが展開する。

**c類 (314・316・322・323・324・739~744・746~792・805)**

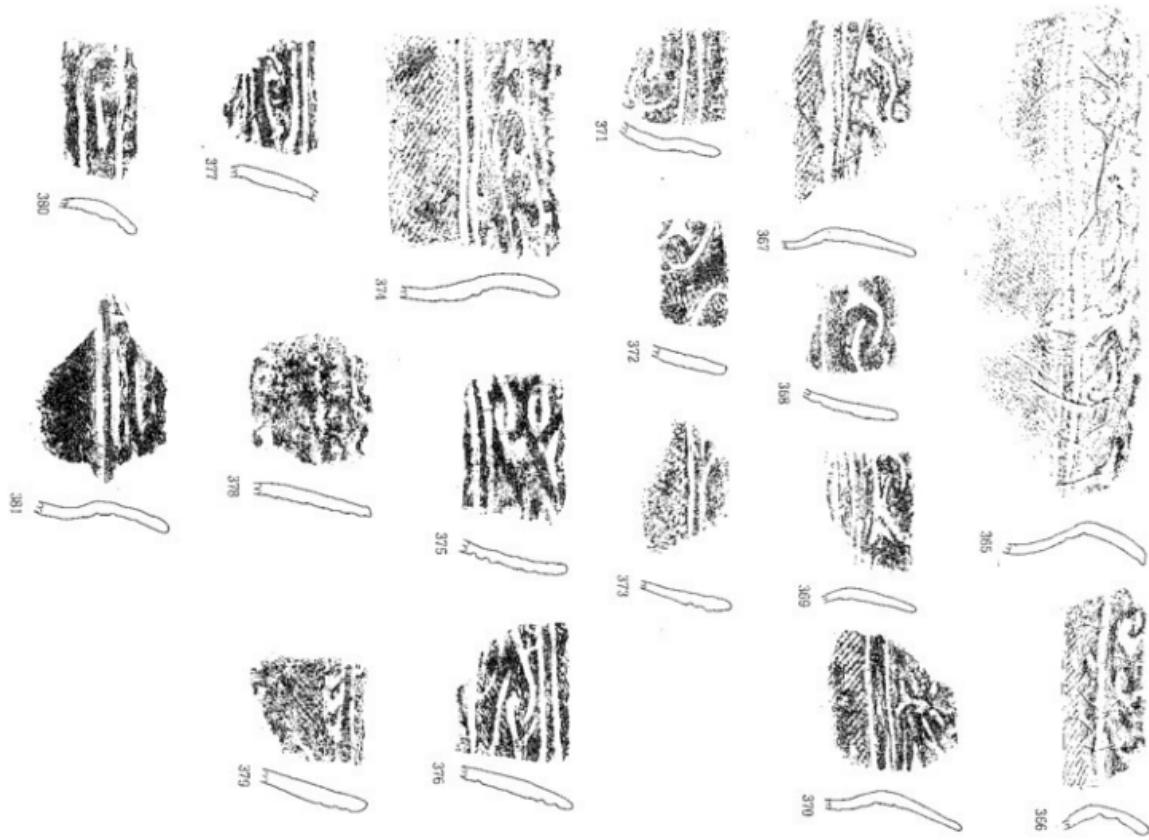
小波状口縁をなす。口縁部には2～3条の平行沈線文がめぐり、体部には磨消し縄文による雲形文・大腿骨文・ $x$ 字文などが展開する。

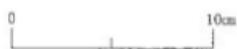
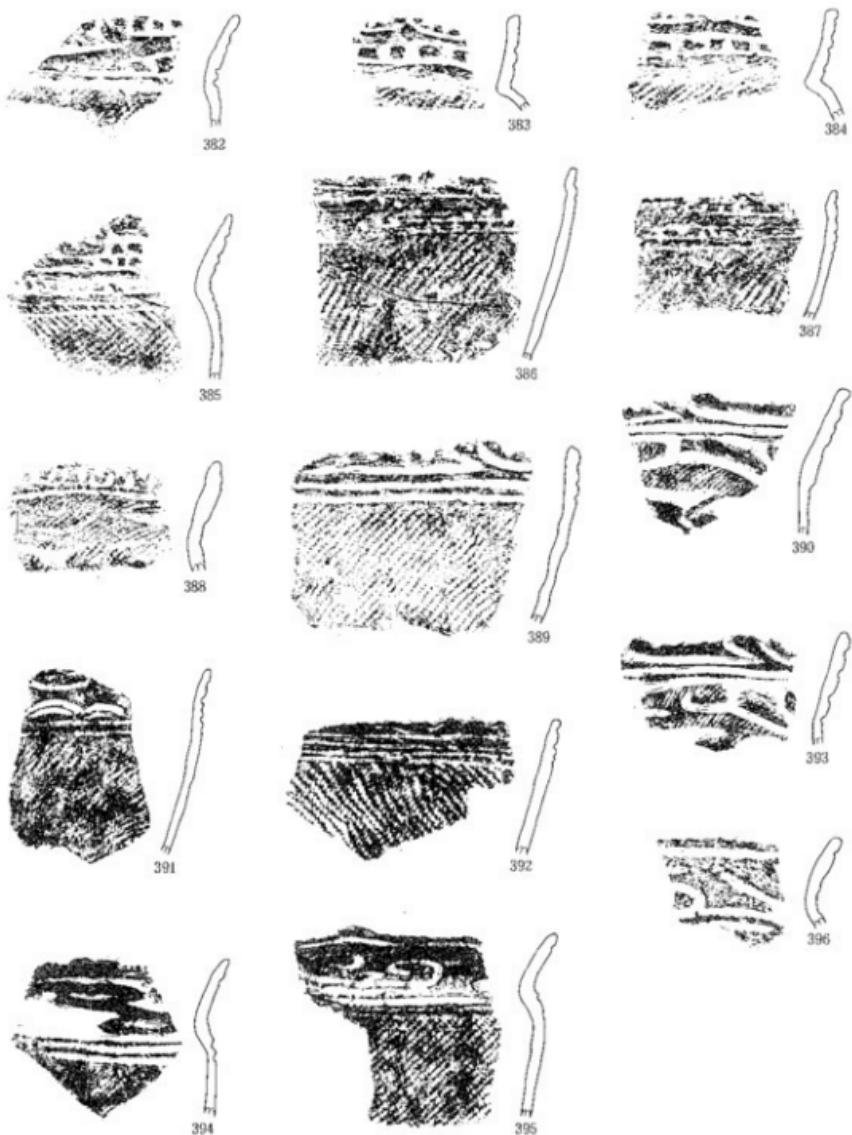
**d類 (317・318・320・793~804・806・807)**

平縁である。口縁部に2～3条の平行沈線文がめぐり、体部には磨消し縄文による雲形文・大腿

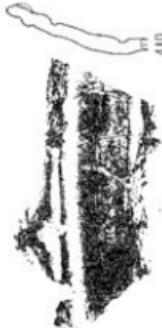
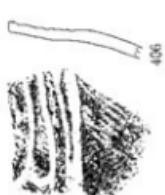
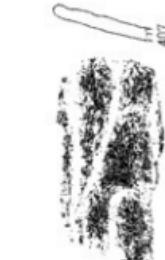
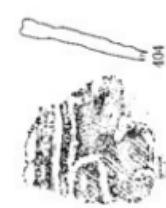
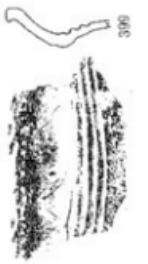
第135图 通模外出土工具

0  
100m



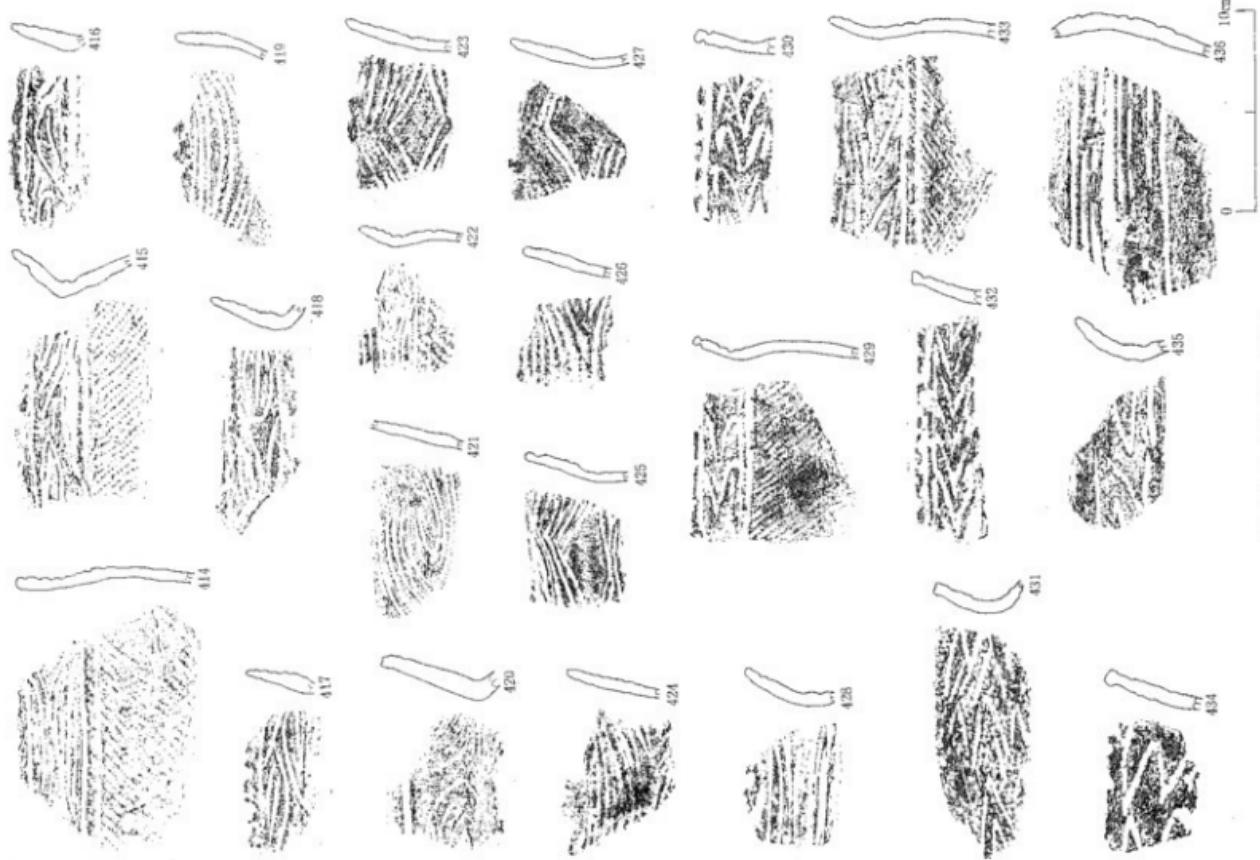


第137図 遺構外出土土器

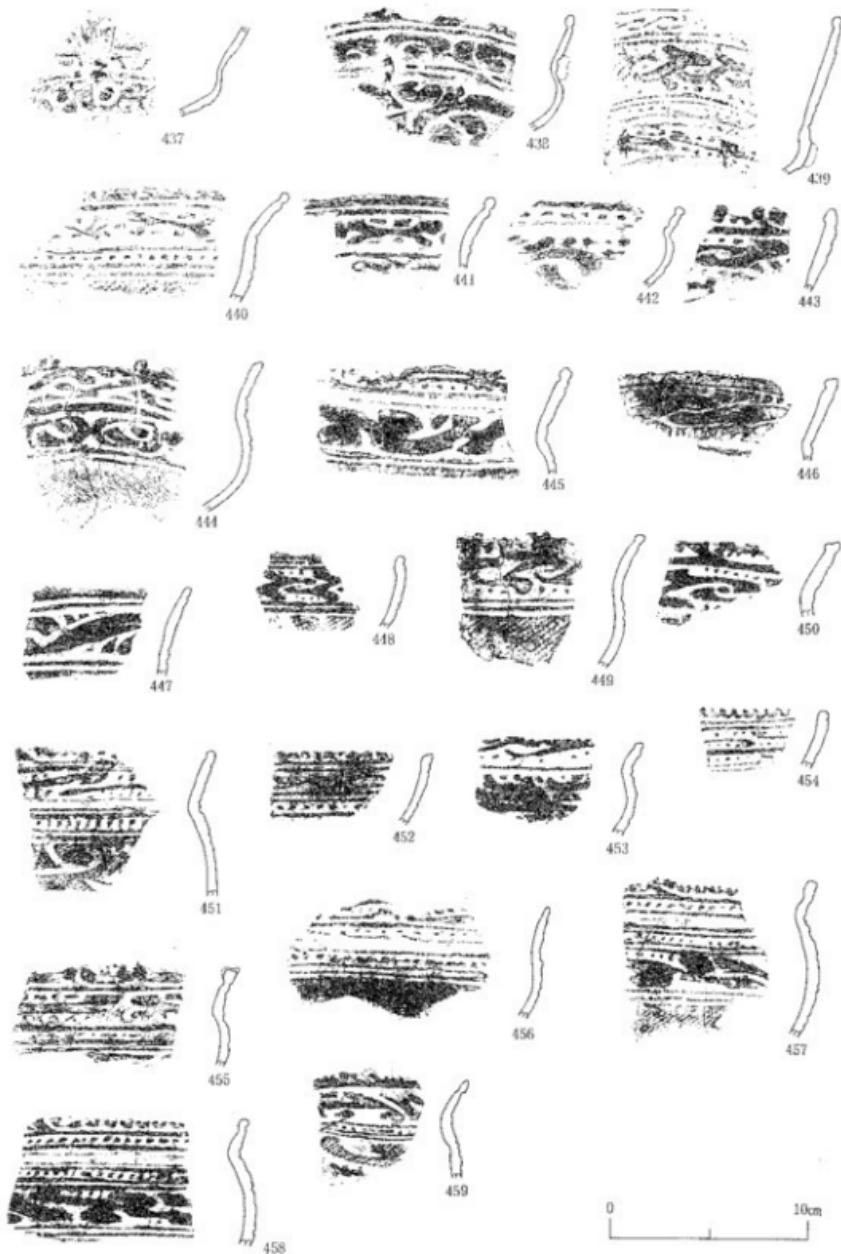


0 10cm

第138圖 遷構外出土土器

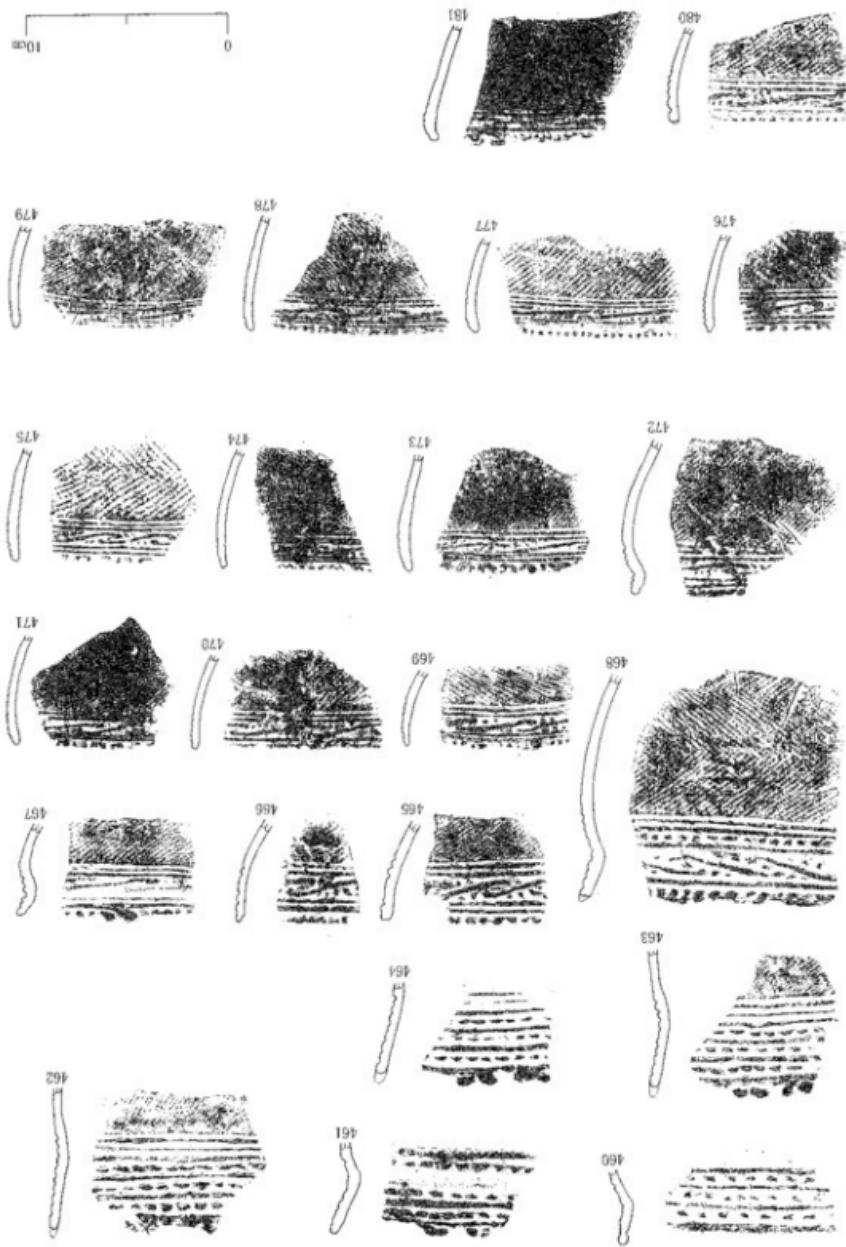


第139圖 遺構外出土土器

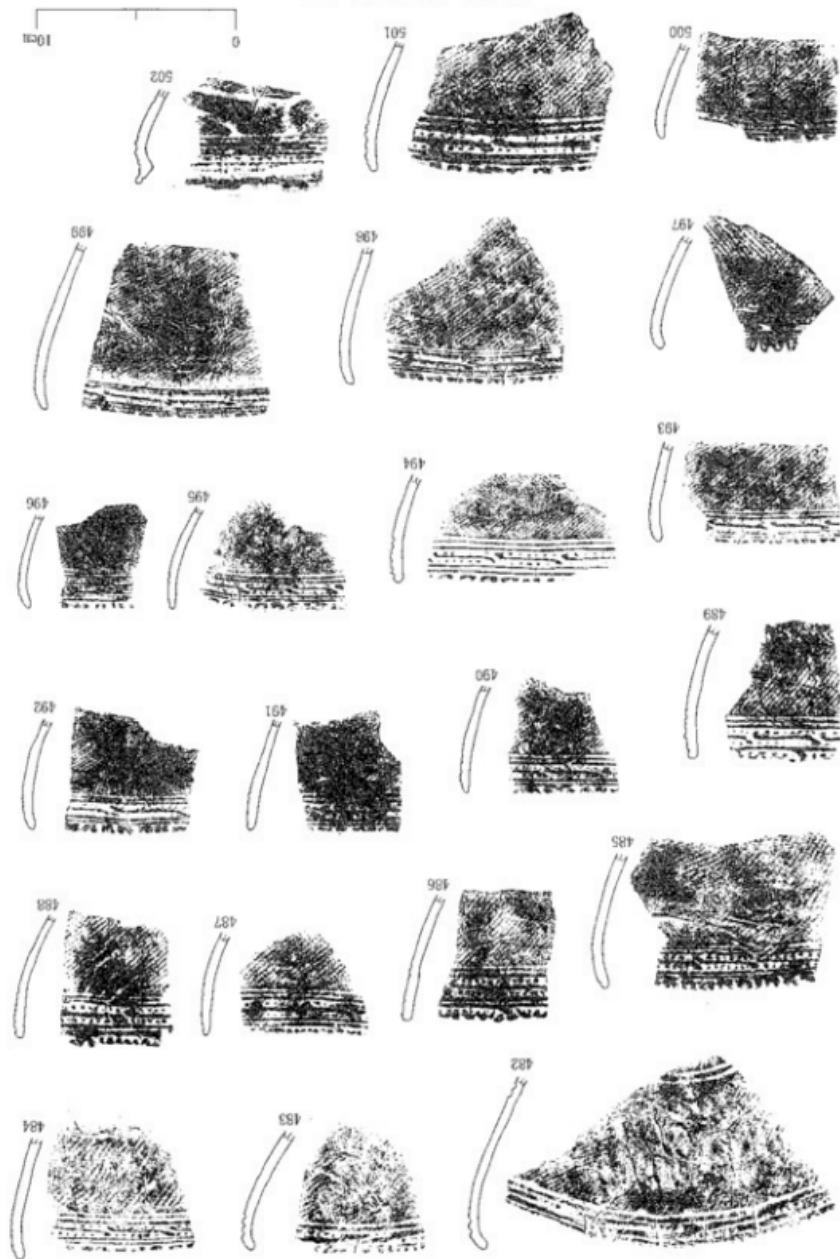


第140図 遺構外出土土器

圖141 圖 索諾特出土土器

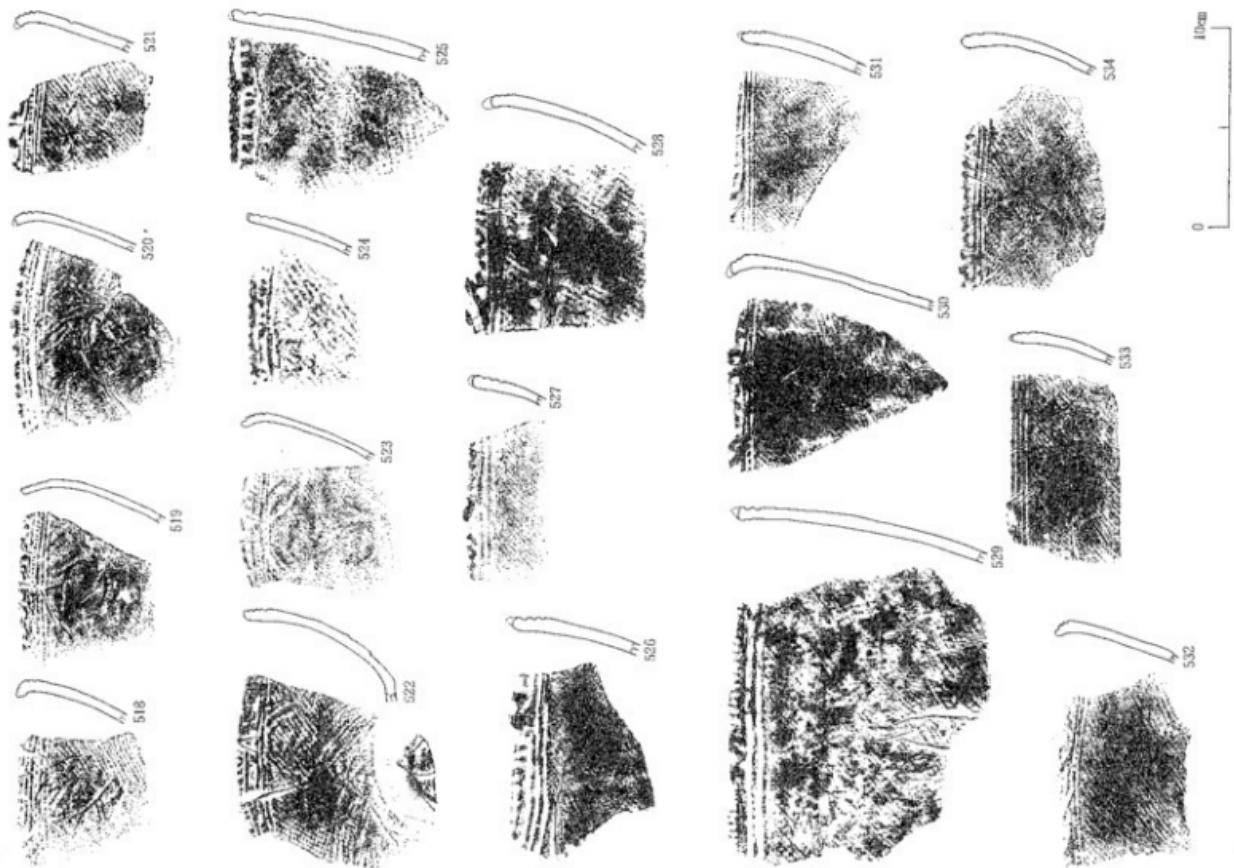


第142图 漢簡外出土玉器

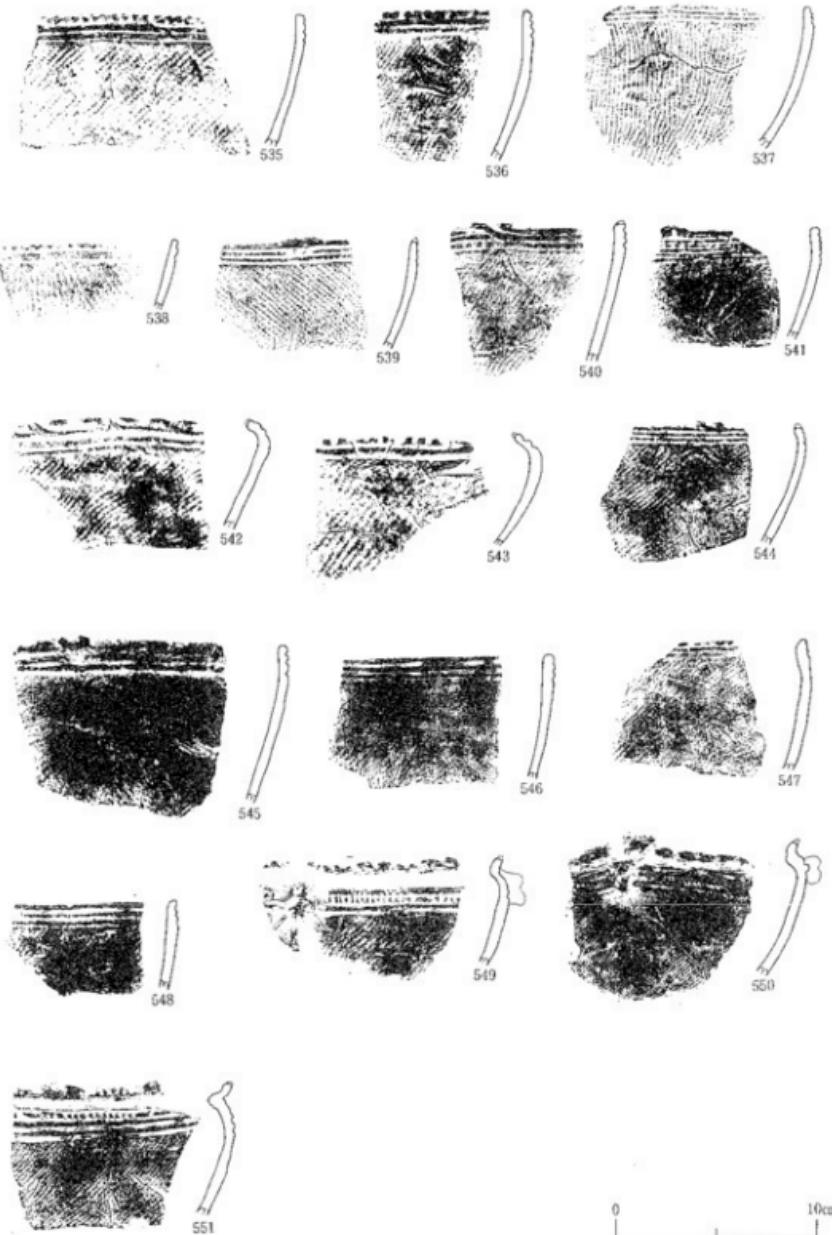




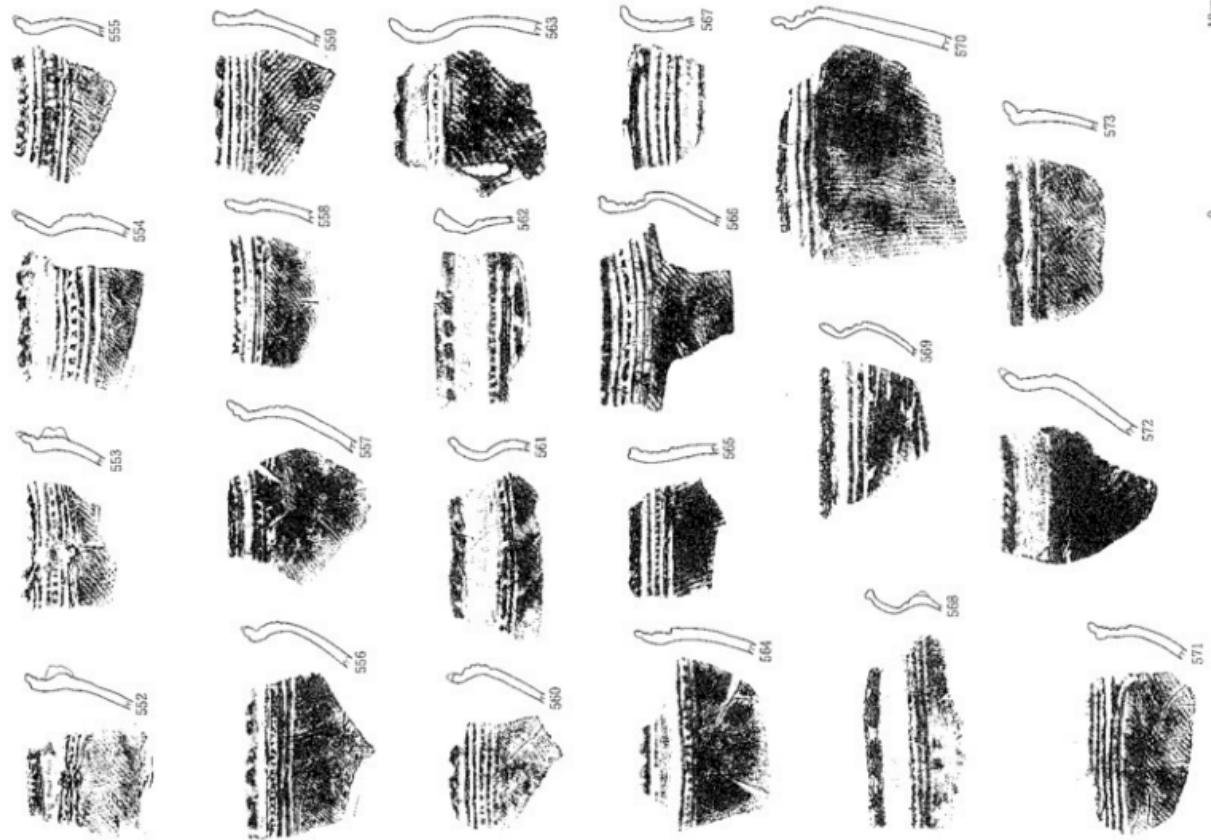
第143図 造船外出土土器



第144図 遺構外出土土器

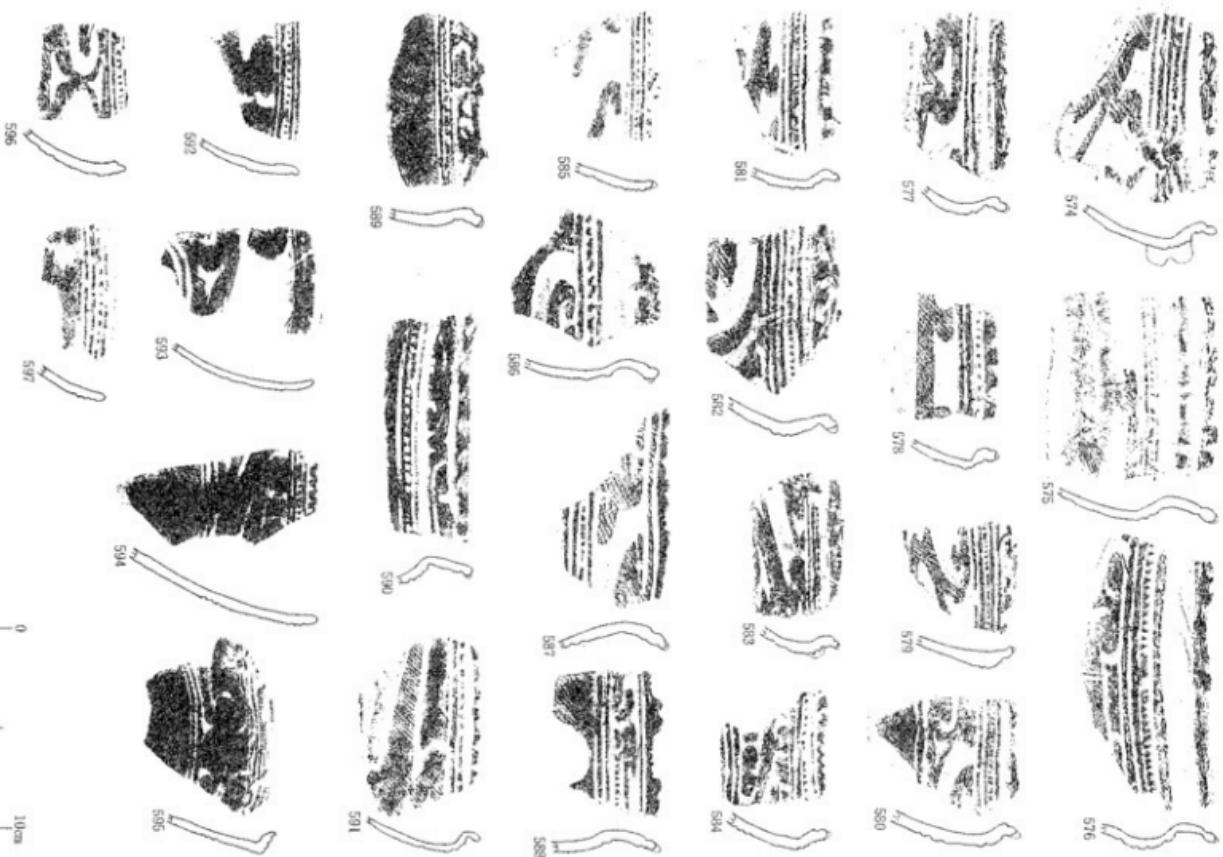


第145図 遺構出土土器



第146図 遺構外出土土器

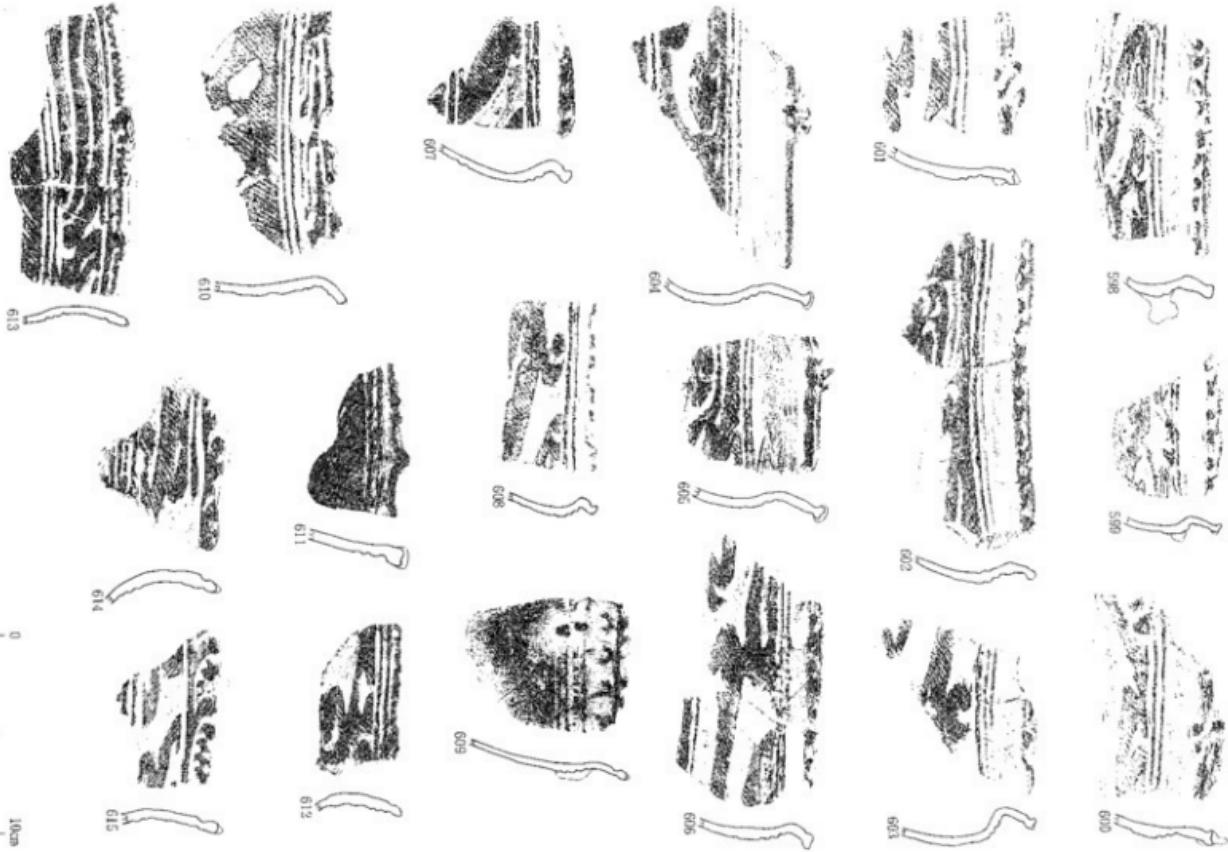
0  
10mm



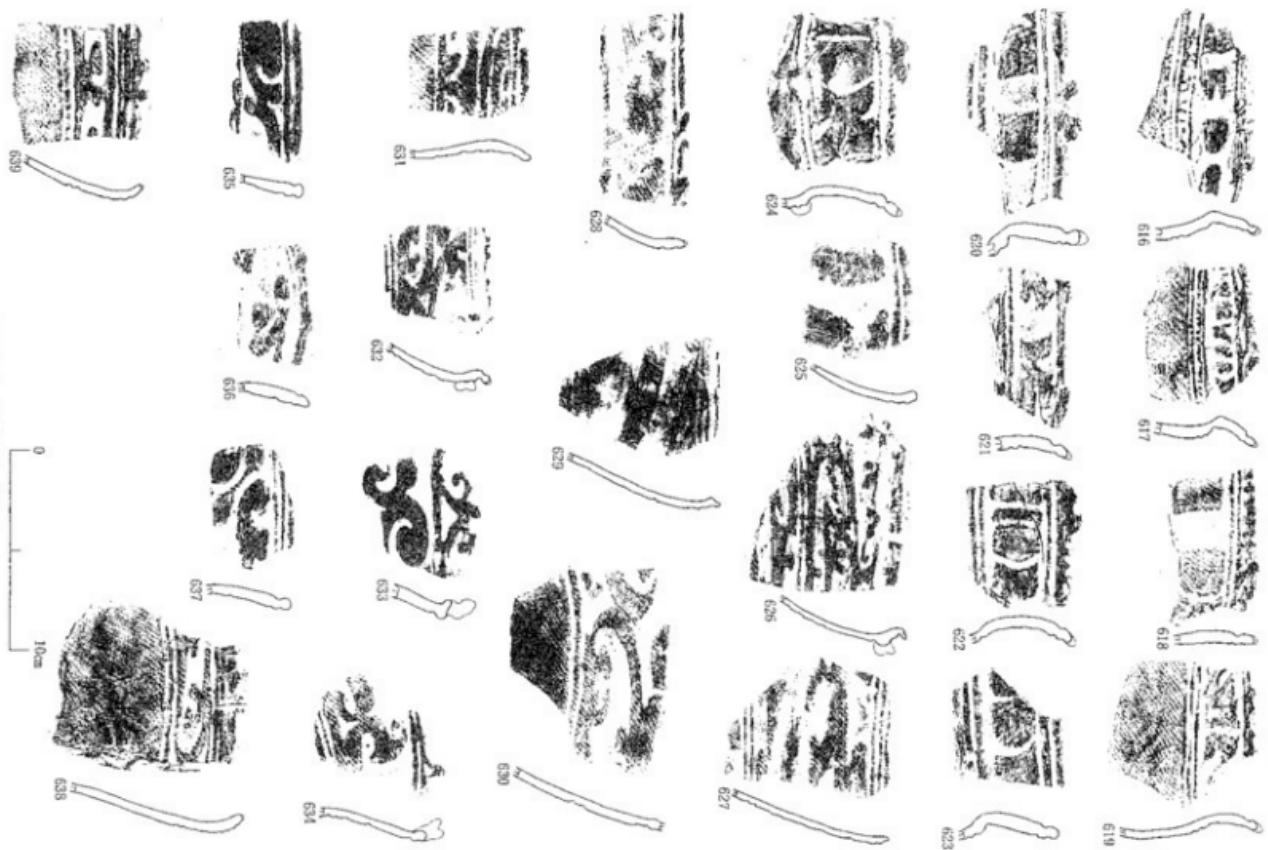
第147圖 遺構外出土土器

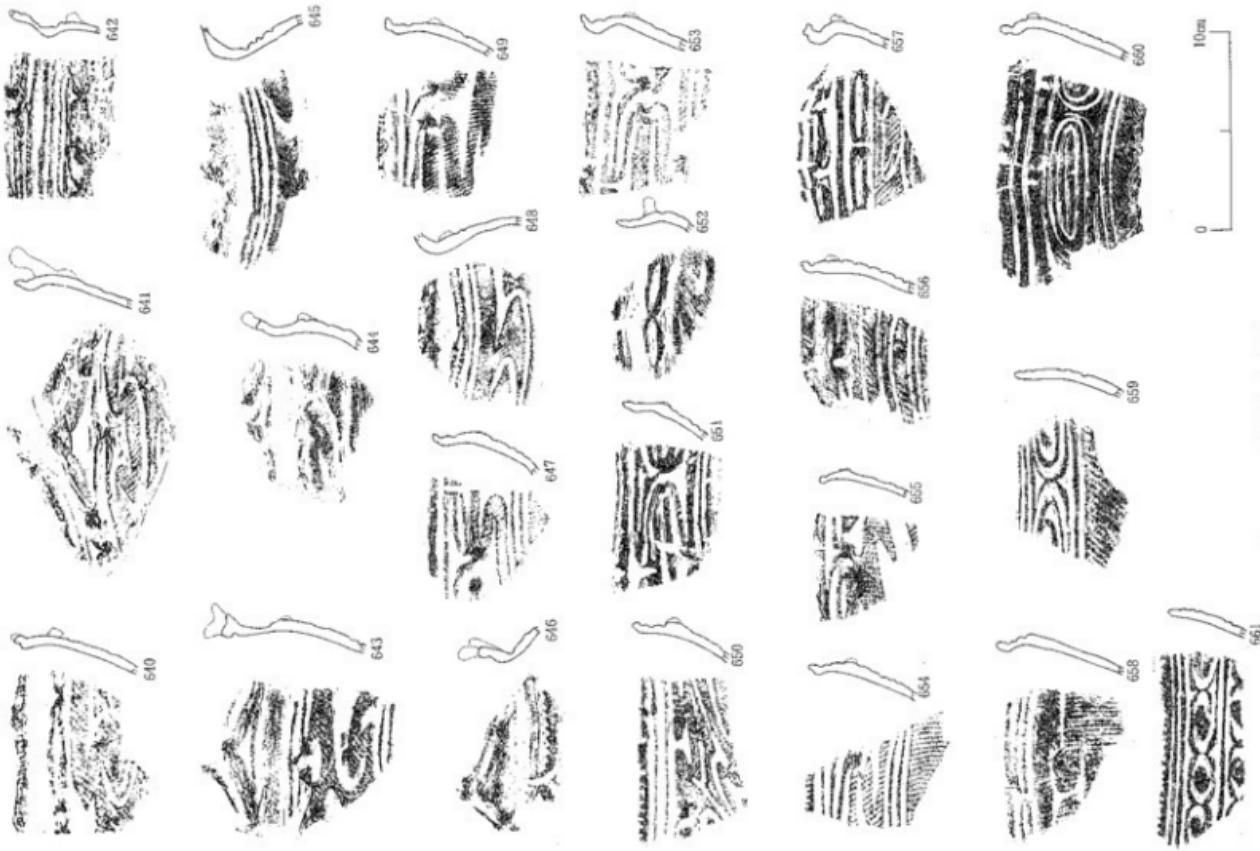
0  
10cm

第143图 通横外出土土器



第149図 遷搞外出土土器





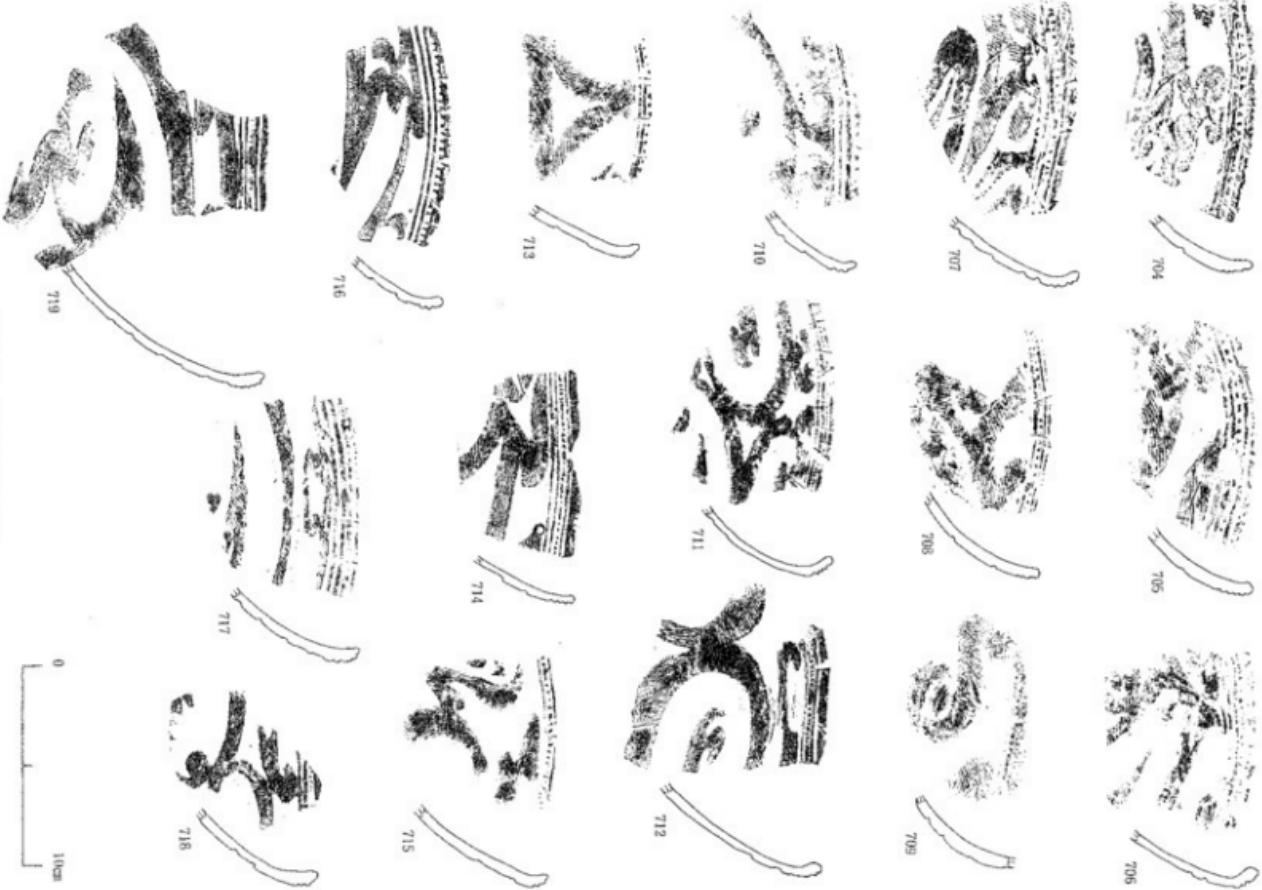
第150図 遺構出土土器



第151図 通構出土土器

第152图 海百合出土器



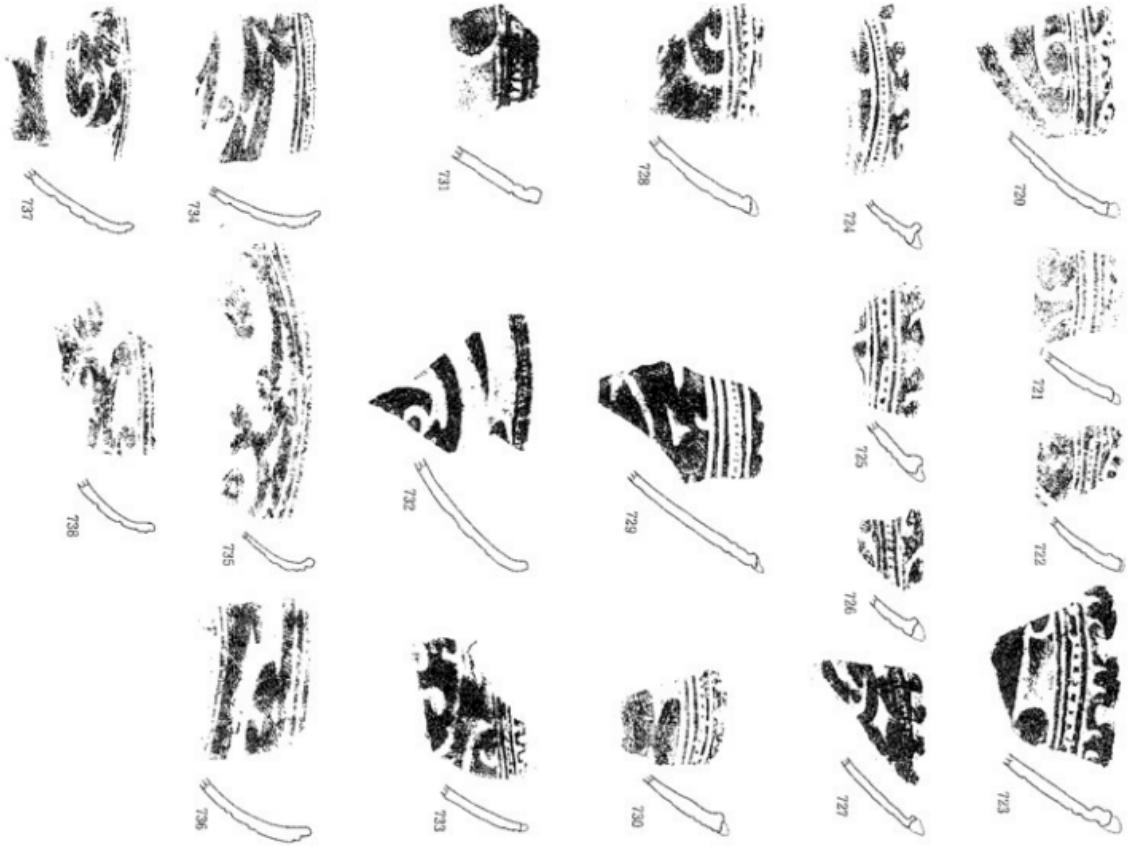


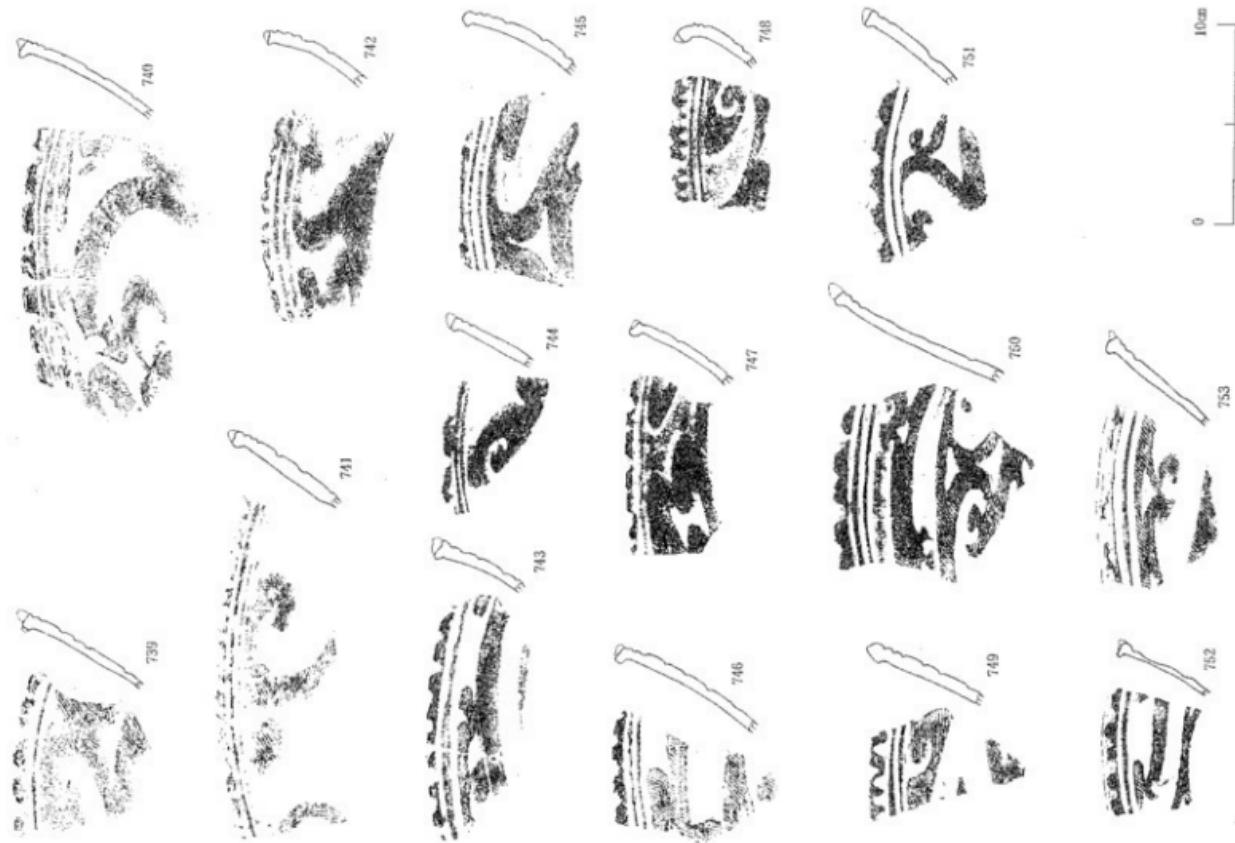
第153圖 遺構外出土土器

第154图 通横出土土器

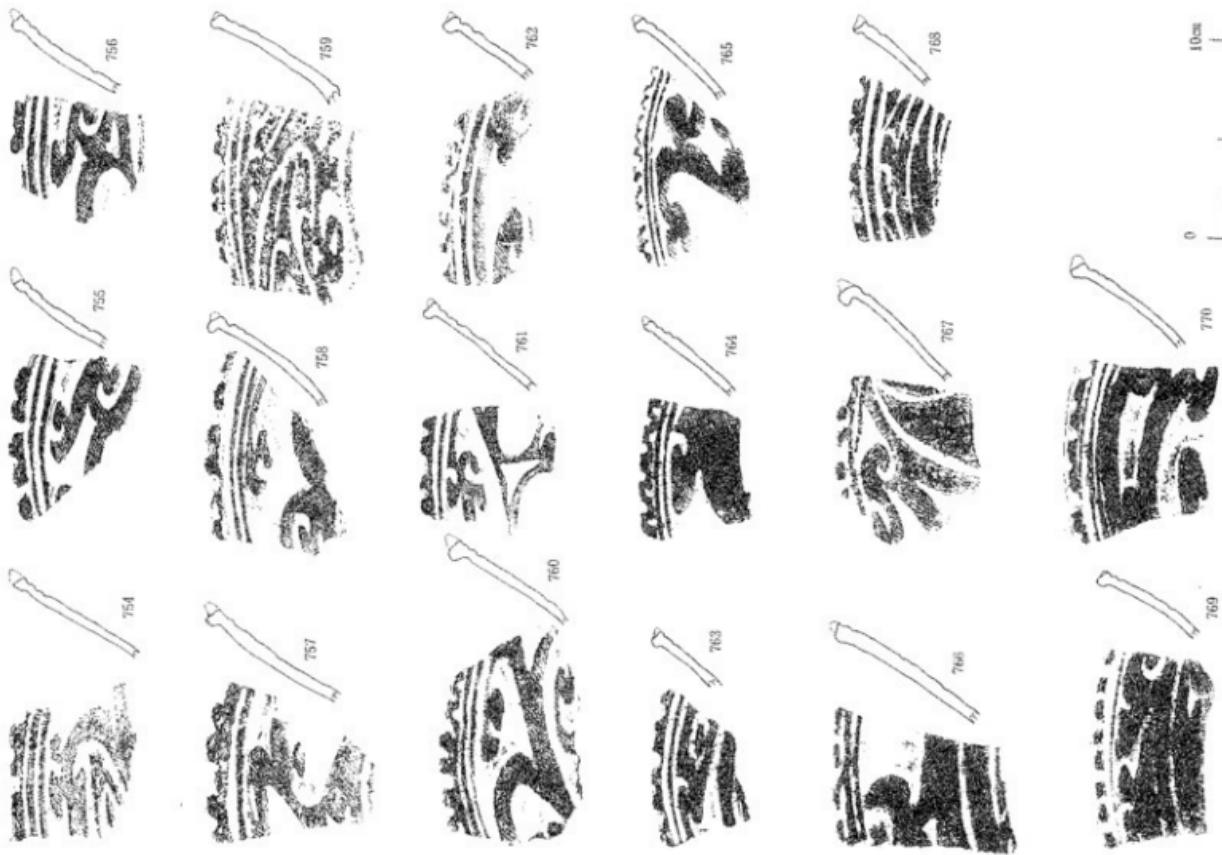
-215-

0  
10cm



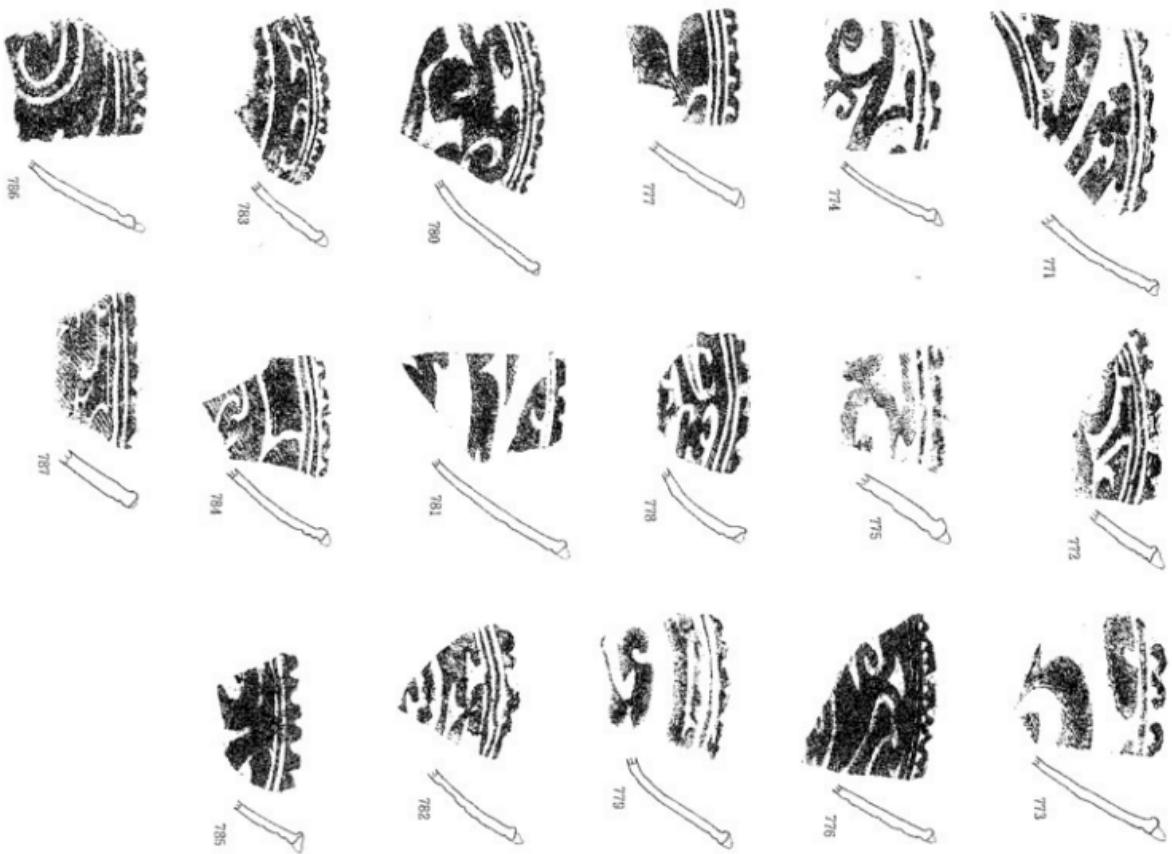


第155図 遺構外出土土器

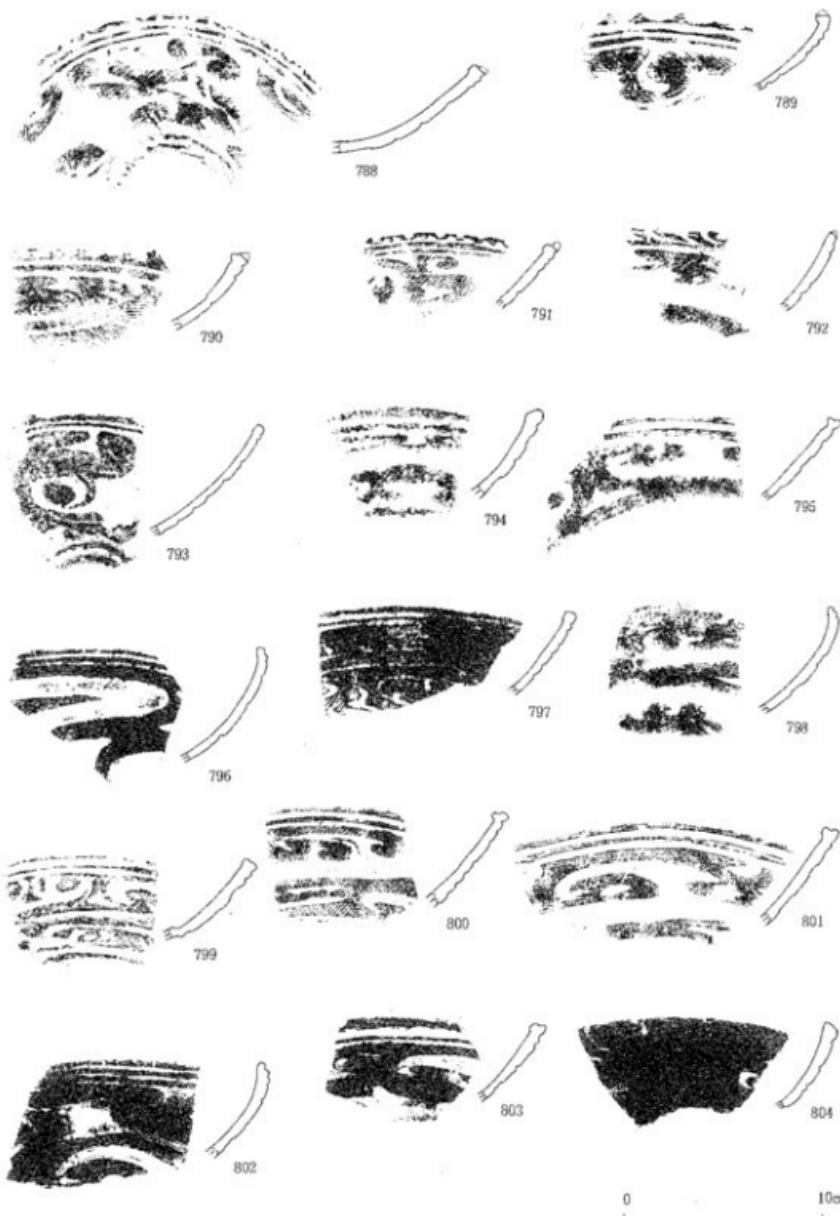


第156図 遺構外出土土器

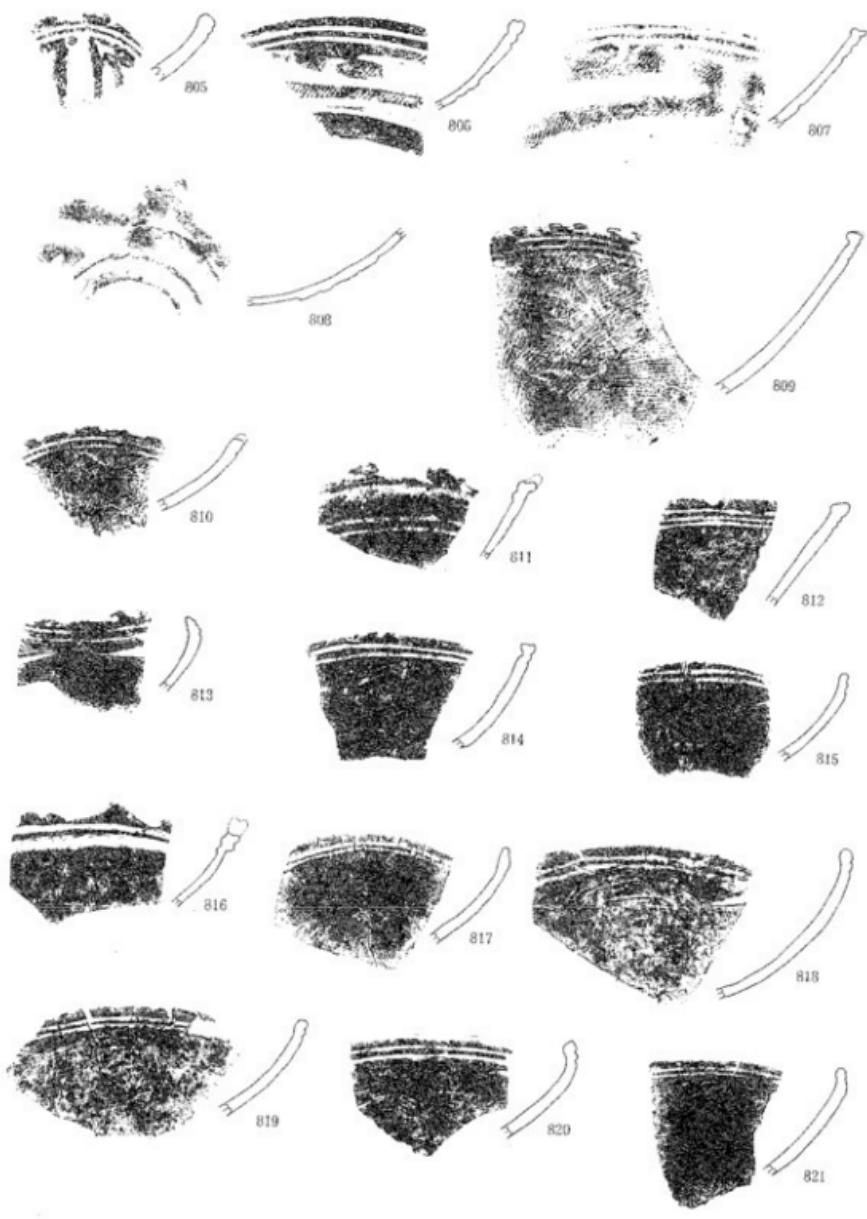
0  
10cm



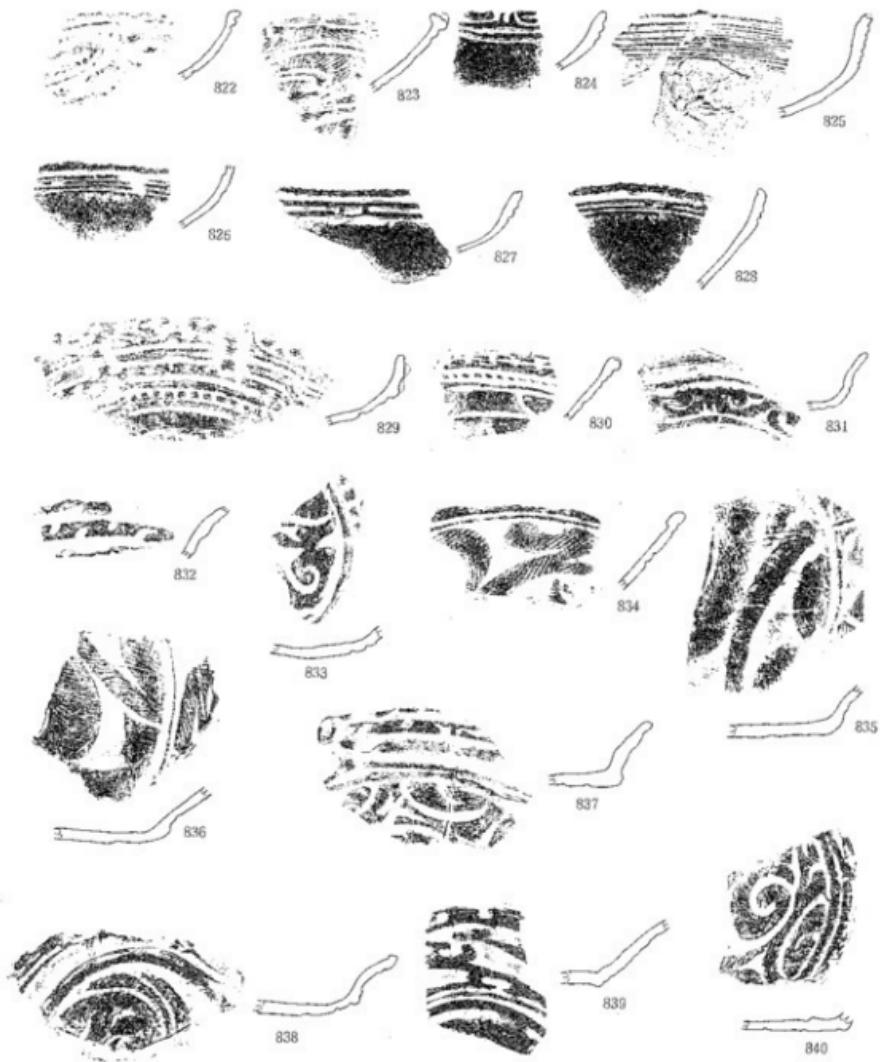
第157圖 遺構外出土土器



第158図 遺構外出土土器

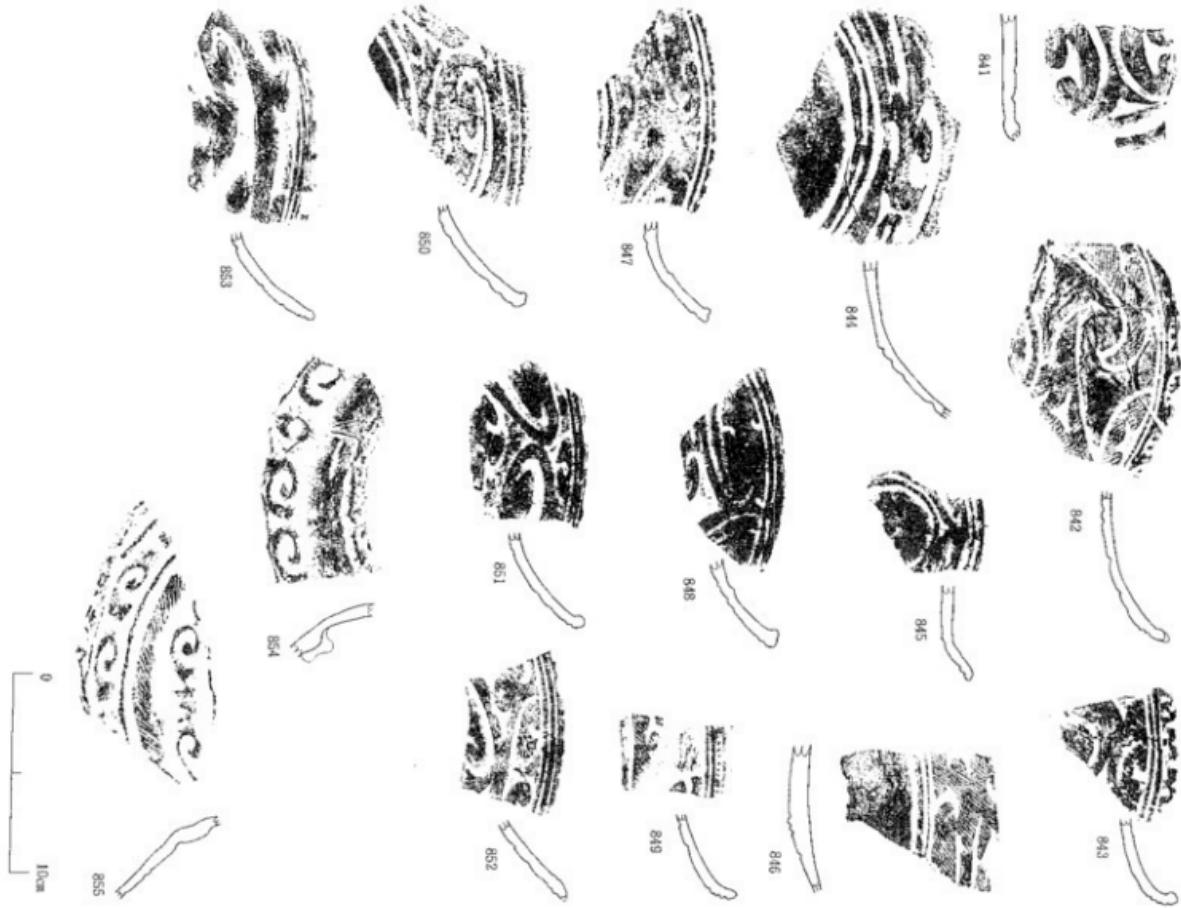


第159図 遺構外出土器

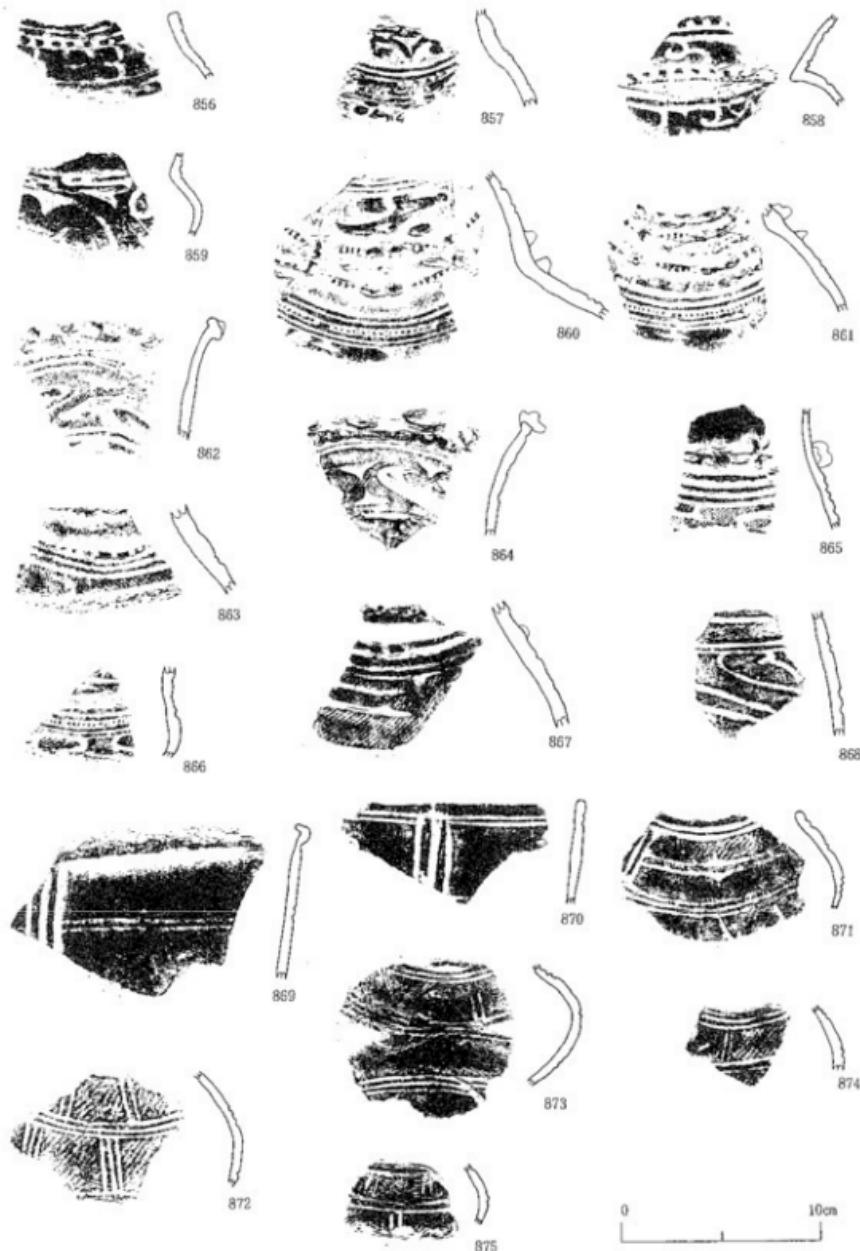


0 10cm

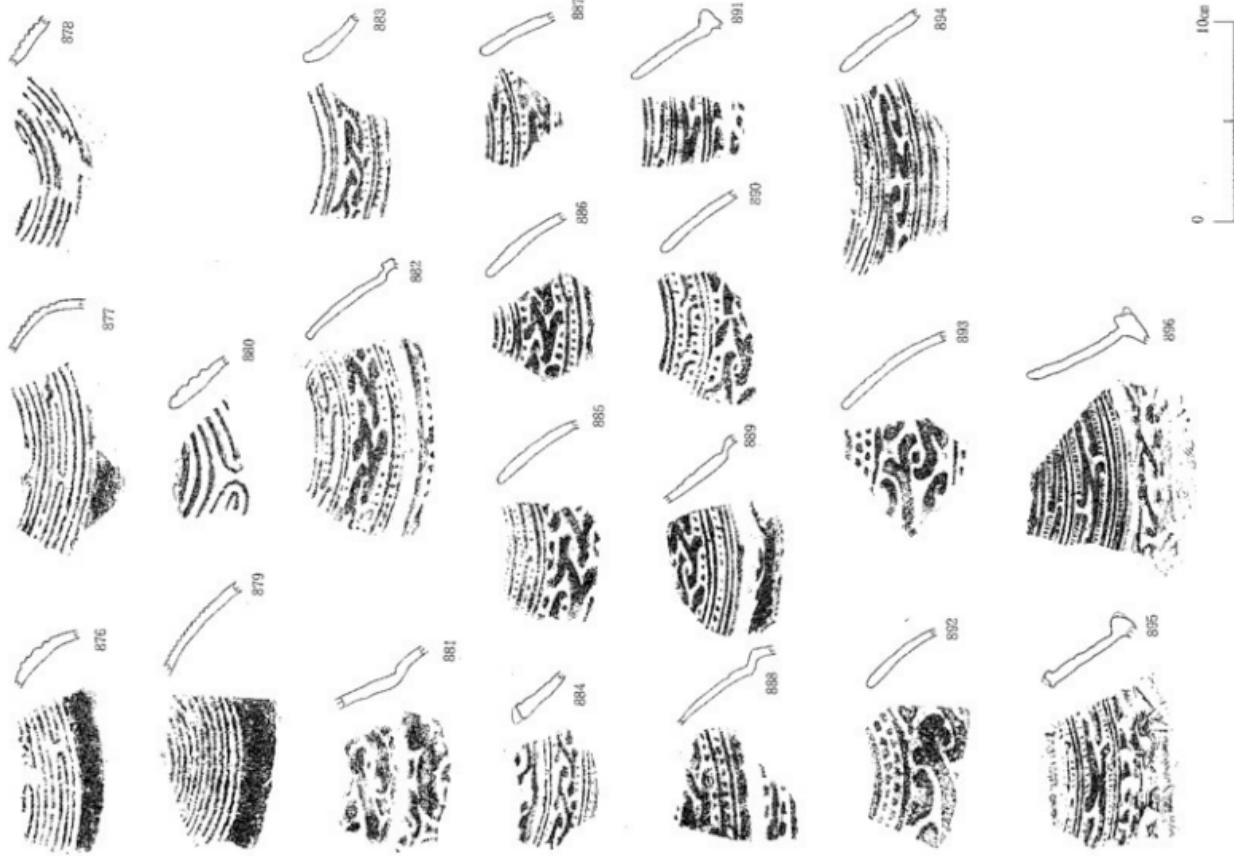
第160図 遺構外出土土器



第161図 潘構外出土土器



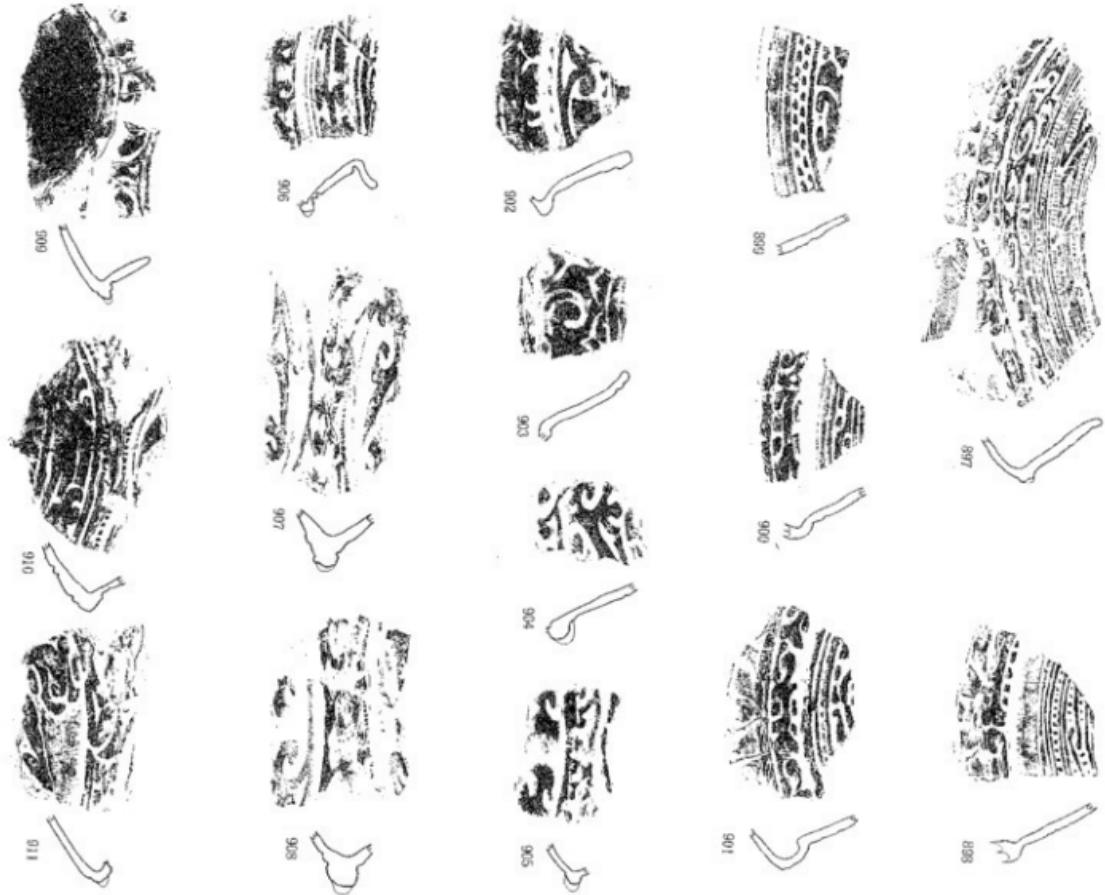
第162図 遺構外出土土器



第163圖 遺構外出土器

第164図 遺構外出土土器

- 225 -





第165圖 遷橋外出土器



骨文・*x*字文などが展開する。

**e類** (326～335・337・338・340～342・809～821)

口縁は平縁が多いが、小波状・山形口縁をなすものもある。口縁部には2～3条の平行沈線文があぐり、体部は無文のものである。

**V類土器**：台付浅鉢形土器を本類とした。施文様からa～c類に分類できる。

**a類** (339)

口縁部に連続刻目文があぐり、体部は地文の単節斜繩文である。

**b類** (336)

小波状口縁をなし、体部には三叉文・磨消し繩文による雲形文・C字文などが展開する。

**c類** (343)

小波状口縁をなし、2条の平行沈線文があぐる。体部は地文の単節斜繩文である。

**VI類土器**：皿形土器を本類とした。施文様からa～c類に分類できる。

**a類** (346・849)

口縁部に退化した羊歯状文が一列に平行線化し、間に連続刻目文が施される。体部全面に磨消し繩文様が展開する。

**b類** (347・348・842・843)

小波状口縁をなし、口縁部に2～3条の平行沈線文があぐる。体部は磨消し繩文により、雲形文・*x*字文・横に長いC字状文などが展開する。

**c類** (349～352・833～841・844～848・850～852)

平縁で口縁部に2～3条の平行沈線文があぐる。体部は磨消し繩文により雲形文・*x*字文などが展開する。833～835・840・841などは文様が底部にまで描かれる。

**VII類土器**：壺形土器を本類とした。

**a類** (262～268)

頸部は無文帶で体部全面に単節斜繩文が施されるものである。

**b類** (860・861・863・864・866)

平行沈線間に連続刻目文が施される。口縁部、体部には磨消し繩文により雲形文・*x*字文などが展開する。

**c類** (293～298・862・865・867・868)

器全面に磨消し繩文による雲形文・C字文・*x*字文などが施されるものである。

**d類** (269～281・290)

頸部に2～3条の沈線文があぐり、口縁部、体部とも無文であり、よく磨かれているものである。

**e類** (286～289・291・292)

頸部・肩部の4ヶ所に縦長の瘤を付し、隆線によって梢円状に4単位に区画される。口縁部、体

部は無文でよく磨かれている。

#### 第4群土器(第125図244・第138図410~436・第150図646~662・666・第162図869~875)

大同C<sub>2</sub>式土器を本群とした。器種には深鉢・鉢・壺形土器がある。

I類土器：深鉢形土器を本類とした。施文様からa~e類に分類できる。

##### a類(414~421)

口縁部に文様帶がある。沈線により、弧線を描くものである。

##### b類(422~427)

口縁部に文様帶がある。沈線により弧線と菱形文が施されるものである。地文は単節斜繩文である。

##### c類(428~435)

口縁部に文様帶がある。平行沈線間に矢羽根状・綾杉状の文様が施される。地文は単節斜繩文である。

##### d類(412・413)

沈線文・連続したC字文が施される。

##### e類(410・411)

山形口縁をなし、口縁直下、頸部に沈線文がめぐり、瘤状の突起が付く。他は無文でよく磨かれている。

II類土器：鉢形土器を本類とした。施文様からa~d類に分類できる。

##### a類(244)

平行沈線で区画した間に沈線により矢羽根状の文様が展開するものである。

##### b類(640・645)

山形口縁をなし、頸部は磨消し無文帶である。体部は磨消し繩文によるx字文・C字文が横に長く展開する。

##### c類(647~658・662)

平縁で口縁に連続刻印文・沈線文が施される。沈線で区画した間には瘤状の突起を有し、メカ半状の区画文・背中合わせのC字文などが施される。

##### d類(659~661)

平縁で平行沈線で区画した間に背中合わせのC字文が連続して展開するものである。

III類土器(869~875)：壺形土器を本類とした。平縁で2~3段の平行沈線文がめぐり、それを連絡するように縦に2~3条の沈線文で区画されるものである。

#### 第5群土器(第151図663~665・667~680・第163図876~880)

大同A式土器を本群とした。器種には鉢形土器・壺形土器がある。

I類土器(663~665・667~680)：鉢形土器を本類とした。口縁部に工字文が展開するものであ

る。668は細長いメガネ状の区画文がみられる。

## II 類土器 (876~880) : 帝形上器を本類とした。肩部に工字文が展開するものである。

### 多孔底土器 (第168図)

2点出土した。77は口縁部がわずかに欠損するが、形状からみてほぼ6cm程の高さのようであり火熱を受け、部分的に赤変し、もろくなっている。78は底部の破片である。77、78とも径7~8mmの穿孔が多数行われている。孔は内側から外側に向って穿たれており、外側に出た粘土は指で押しつぶして整形している。深鉢形上器などとセットで「顔」のような機能を有すると考えられている。

土製品

### ミニチュア土器 (第166、167図50~53)

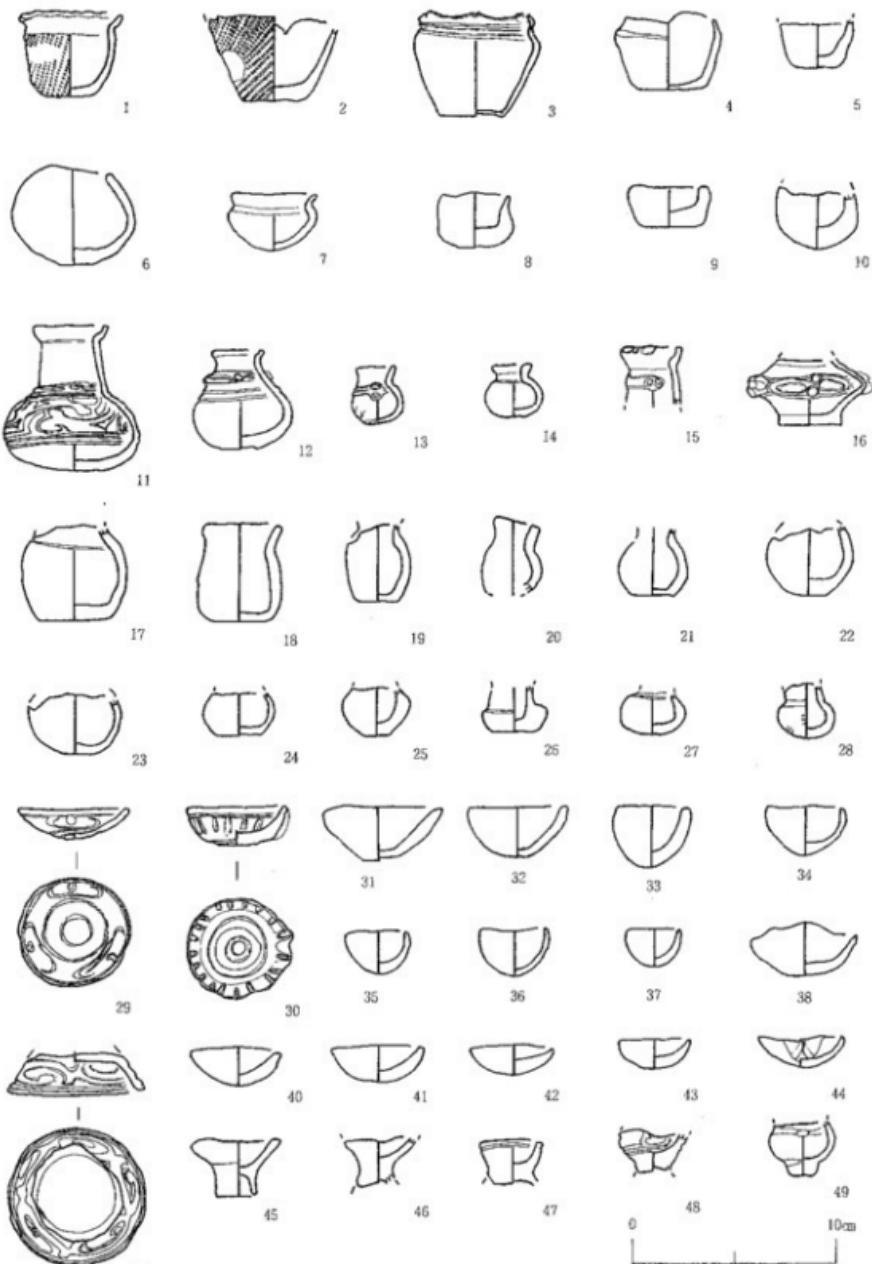
小形で手すくねの土器が大部分である。器種は、鉢、浅鉢、皿、台付皿、壺形土器、注口上器とバラエティーにとんでいる。一般に無文の上器に作りの雑なものが多い。3、11、16、29、30、50~53は文様も施され、作りもていねいである。

### 土偶・土面 (第169図~175図)

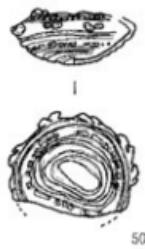
調査区内で出土した土偶総数は、頭部・胴部・腕部等を含めて、164点である。これらは、主に遺物包含物から出土した。

79は左手・左足が欠損している。体部に比べ頭部が異様に大きく作り出されており、抑制によって眼窩および口をくぼませて表現している。後頭部には粘土紐を貼り付けて、巻状に表現している。80~90は遮光器上偶である。中空のもの (82~90) は透し彫りによって頭部の装飾を表現している。また頭部にはベンガラが塗布されている。88の頭部装飾はアスファルトによって接着されている。91・92は板状の土偶で、顔は抽象的に作られている。また胸部は粘土貼付けによって表現している。93~102は頭部の土偶で、沈線および細い粘土紐によって眉・鼻・口等を表現している。94の頬部には沈線によって渦巻状の文様が描かれている。103~105は沈線によって入組文状の文様が施されている板状の土偶であるが、いずれも腐減が激しい。106~113は胸部から胸部にかけての土偶である。110は中空のもので頭部より体部中央にかけては脛消し繩文による縱方向の文様が、さらに肩部および腰部には沈線による渦巻文が施されている。下部には女性性徵がみられる。121~139は肩部から胸部にかけての土偶で、125~139のように簡素な作りのものや、沈線によって渦巻文等が施されるもの、また刺突文を施しているものなどがある。114~120は腰部で連續した刻目文を施して羊歯状文に類似する文様の効果を表すものもみられる。140~149は肩部から手腕部で、半截竹管状工具による刺突文や、細かく浅い刺突文を施すものなどがみられる。152~169は板状の土偶で、頭部・手腕部・脚部などが抽象的に表現されている、胴部には沈線による三叉状の陰刻文や竹管状工具による刺突文等が施されている。頭部の隆線は髪を表現したものであろうか。171~194は脚および足部である。171~173・175~179は中空である。刻み目を入れ指を表現しているものもある。

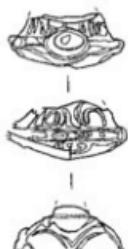
土面：170は上面である。縦11.5cm、厚さ9mmの浅い椀形を呈する。顔の表情は遮光器文様のタイ



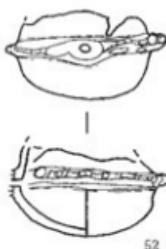
第166図 遺構外出土ミニチュア土器



50



51



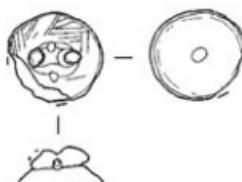
52



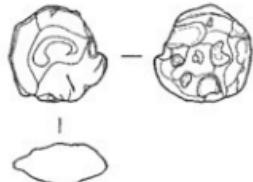
53



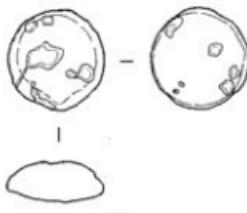
54



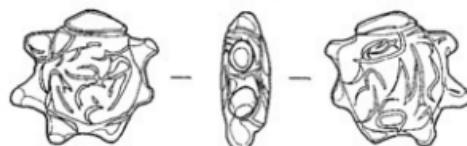
55



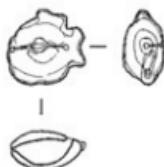
56



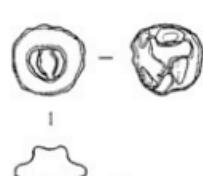
57



58



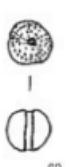
59



60



61



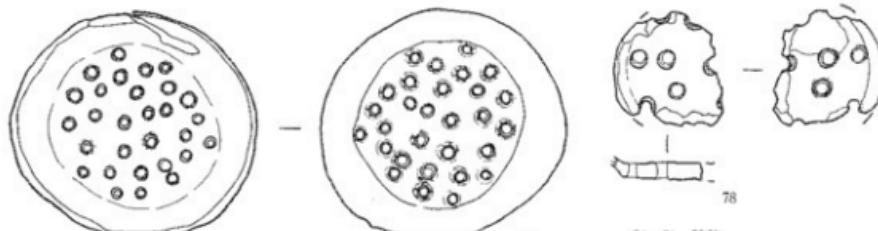
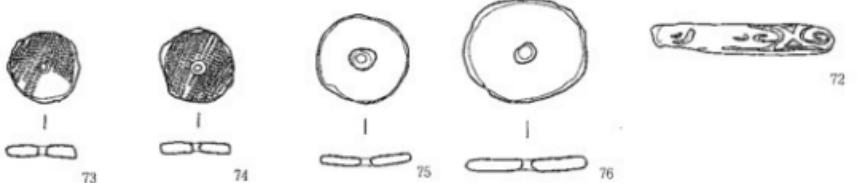
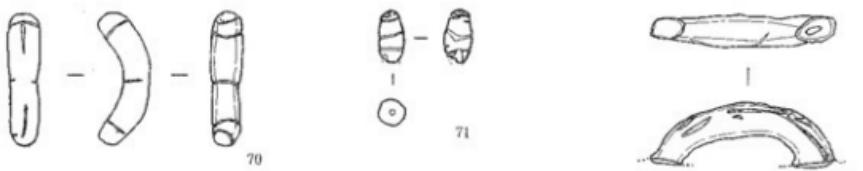
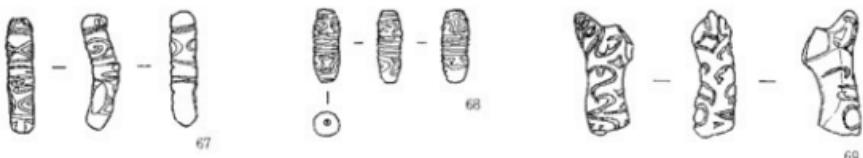
62

63

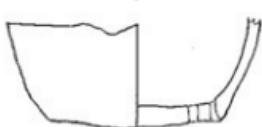
50~53 ミニチュア土器  
54~63 土製品



第167図 遺構外出土土製品



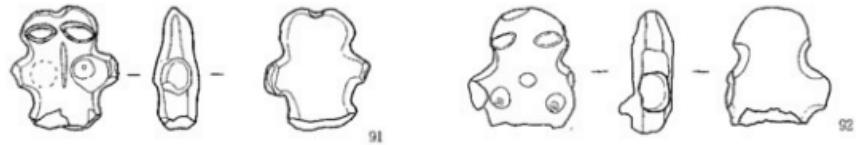
64~71 腕飾  
72 把手  
73~76 有孔凹盤狀土製品  
77、78 多孔底土器



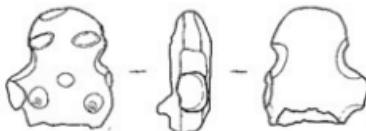
第168図 遺構外出土土製品



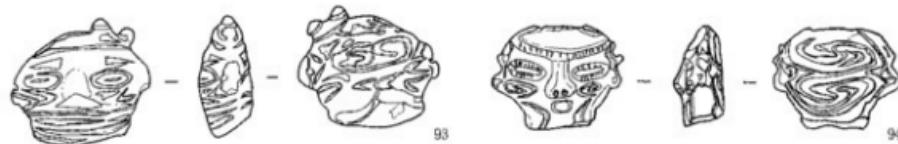
第169図 遺構外出土土製品



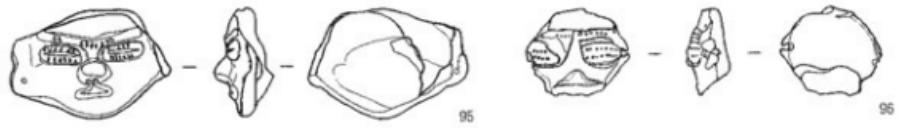
91



92



93



95



97

98



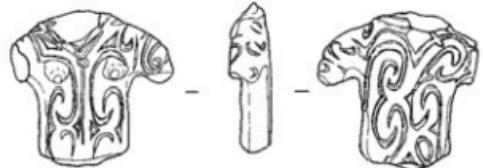
100

101

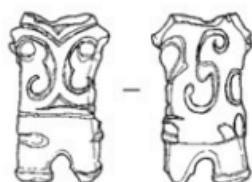
102



103



104



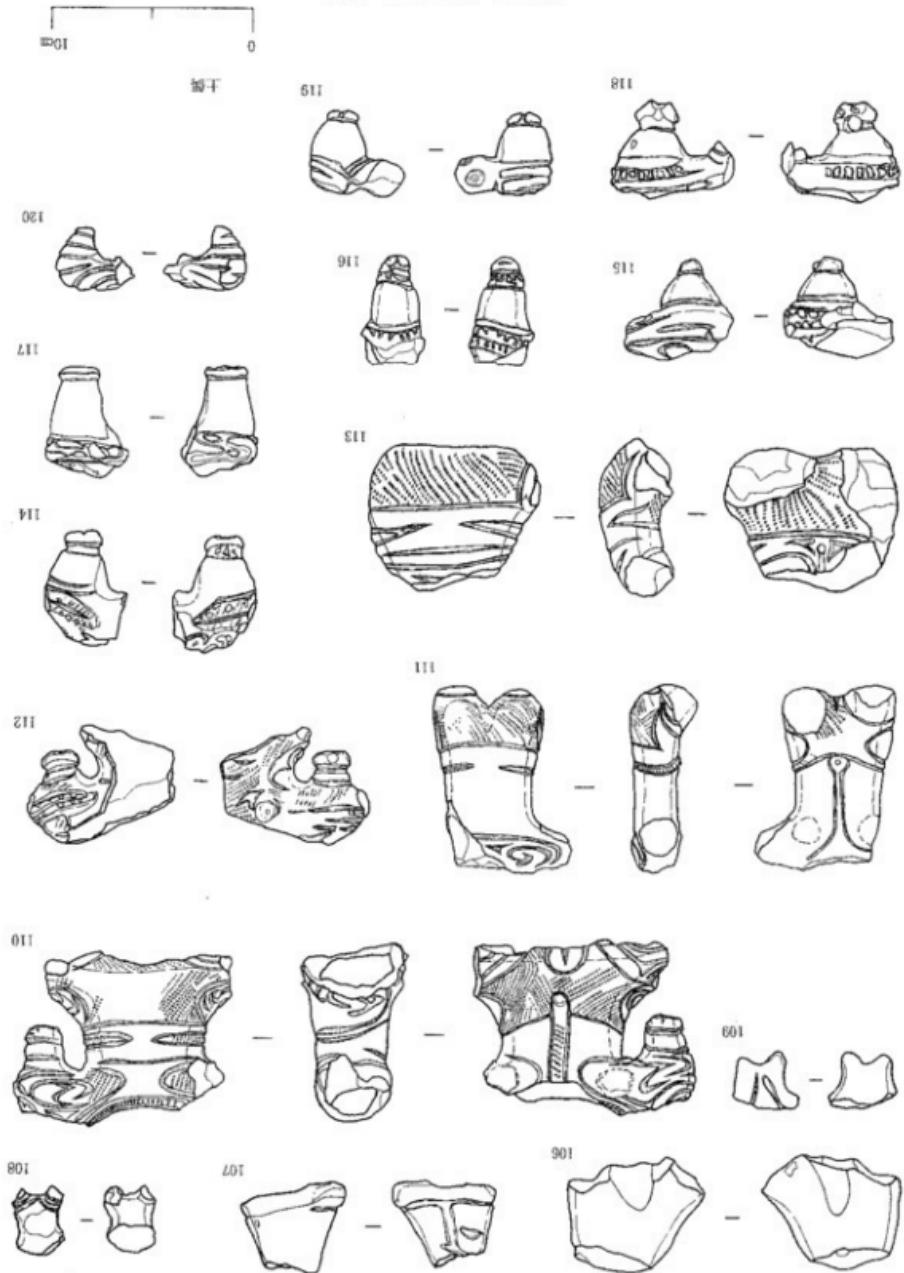
105

土偶



第170図 造構外出土土製品

圖171 圖 遺物外出土土器

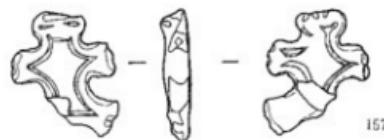




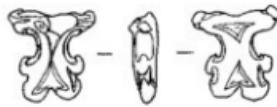
第172図 遺構出土土製品

第173图 遗物出土于器皿

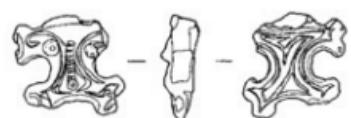




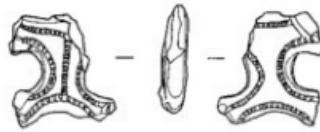
157



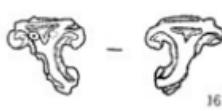
158



159



160



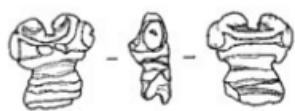
161



162



163



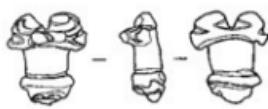
164



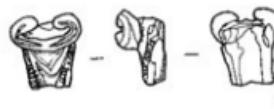
165



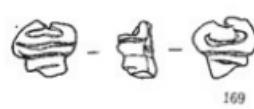
166



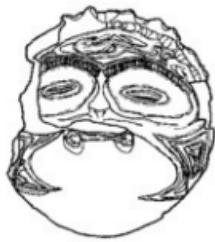
167



168



169



170

157~169 土偶  
170 上面

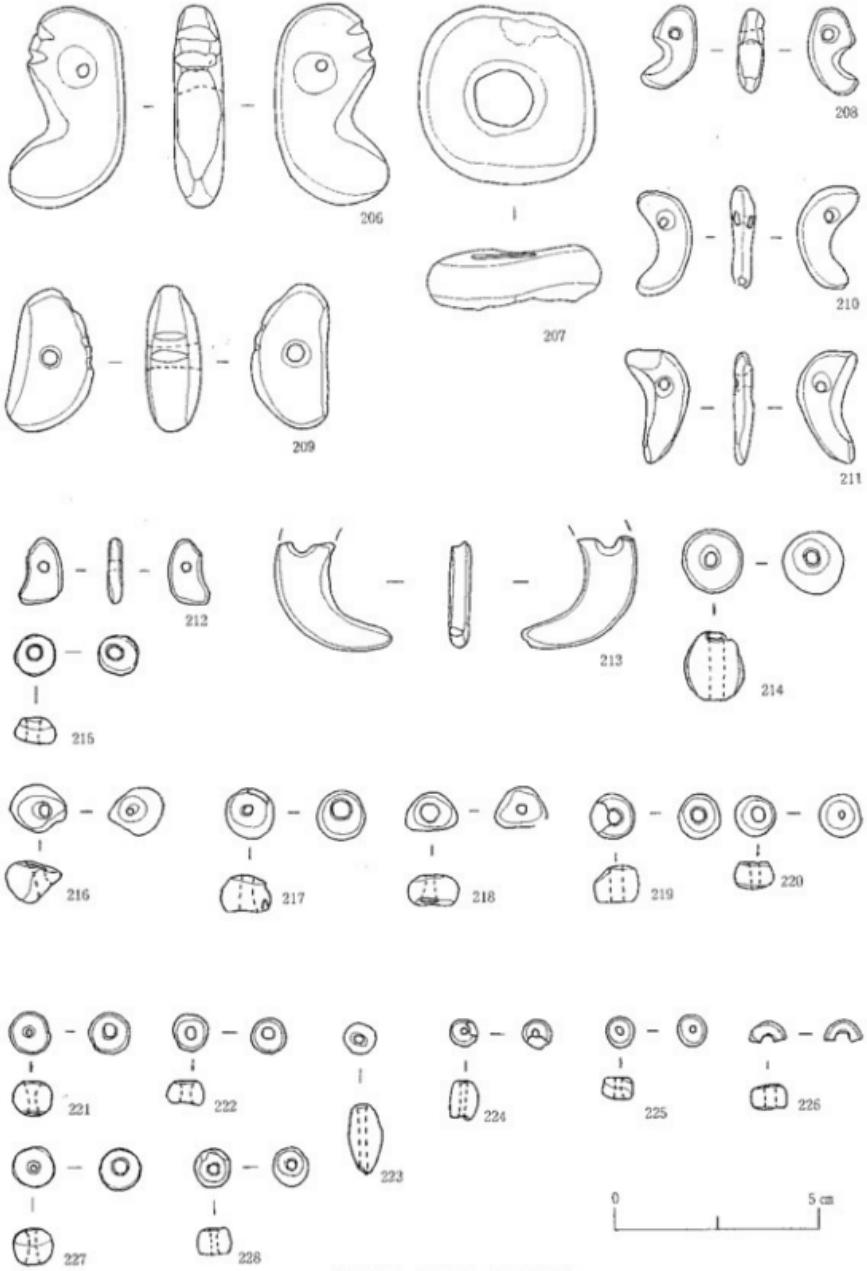
第174図 遺構外出土土製品



土器



第175図 遺構外出土土製品



第176図 遺構外出土石製品

ブに属するものと考えられる。頭部には細い粘土組貼り付けにより波状の文様を作り出している。頸部には沈線による文様が描かれている。眼窓のまわりは、粘土組貼り付けによる隆帯に刺突文様によって眉を表現している。目と口は横一文字に閉じており、口の両端には細かい刺突文が施されている。また頬から下顎にかけては、沈線による三叉状の文様が施されている。

#### スタンプ状土製品（第167図）

55は径5cmを計る。上部にツマミ状の突起を有し穿孔がある。上面に細いヘラ状工具による文様が施されている。60は径3.6cmを計る。

#### 土笛（第167図）

54は径4cmを計る中空の球状の土製品である。中央に小さな穴、やや横にそれよりは少し大きな穴が穿たれています。空洞内には鳴子と思われる小さな土の塊まりが入っている。

#### 腕輪状土製品（第168図）

8点程度出土している。共通している点はゆるく弧状を呈し、両端に1～2余の沈線による溝が切れたり、中心部に穿孔されたりすることである。沈線により文様が描かれている。両端の溝や、穿孔部に「ひも」を通して腕輪にしたと考えられる。

#### 有孔円盤状土製品（第168図）

土器片を丸く打ち欠いて中央部に穿孔した土製品である。紡錘車としての機能が考えられる。

#### 耳飾り（第177図）

2種類ある。径1.3cm前後で中央部に穿孔、全面にベンガラが塗布される鼓状を呈するもの（235～238）や最大幅2～2.5cmで側面からみると「キノコ」状を呈するものがある。（234・240）

#### 不明土製品（第167・177図）

形・機能の不明なものを一括して不明土製品とした。56・57は粘土を盤状に手でまるめたものである。58は正面からみると亀形に見え、首・手足がついている。背の部分に沈線による文様がみられる。59は魚状に見え、中は空洞で側面に小穴が穿孔されている。土笛とも考えられる。62は小さな刺突が全面に施されている。

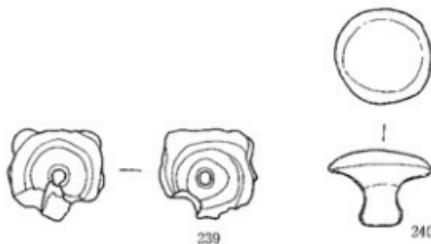
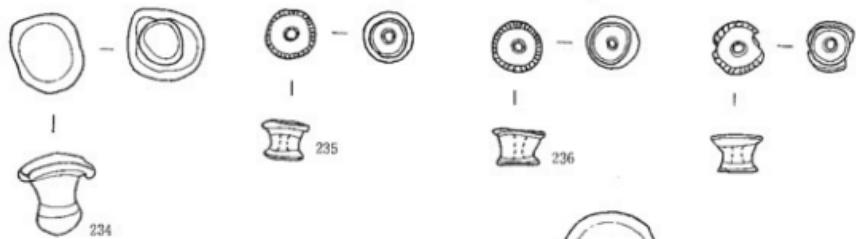
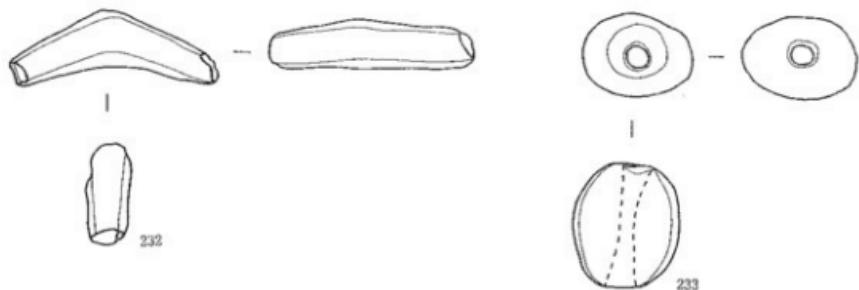
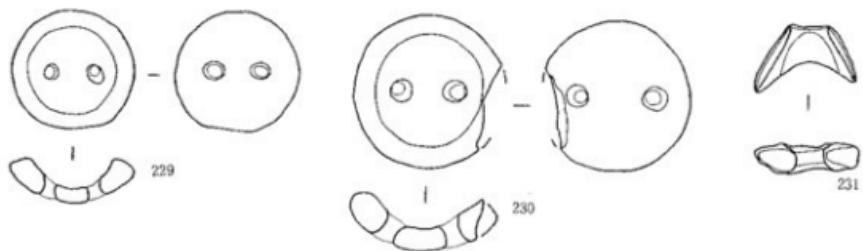
#### 石製品（第176・177図）

遺構外出土の石製品は大部分が遺物の包含層から出土した。

勾玉：7点出土している。最大の206は長さ5.1cmを計る。2条刻みを施し、両面から穿孔している。212は最小で、長さ1.8cmである。

小玉：15点出土している。径8cm～1.6cmまでバラエティーがある。最も集中するのは径1cm前後である。223・224は管玉状を呈している。

ボタン状石製品：2点出土している。224は径3.1cm、230は径3.9cmを計る。きれいに磨かれており、2個並列に穴が穿たれている。



第177図 遺構外出土石製品・土製品

不明石製品：231・232は山形を呈する石製品である。233は橢円形を呈する緑色凝灰岩の中心部に両面から穿孔を施している。

#### 遺構外出土石器

調査区内から出土したフレイクを除く石器は、総数2,349点を数え、そのうち最も多いのが石鎌と石匙で以下、磨製石斧、石錐、石槍、石剣、くぼみ石等である。

#### 石鎌（第178・179図）

総数1,047点を数え、出土石器中約45%を占める。形態的にはI類無茎鎌、II類有茎鎌、III類尖基鎌に分けられ、II類が全体の93%を占める。

##### I類

A：基部に抉入があるので、抉入が浅いもの。

B：基部に抉入があり、曲線的なもの。

C：基部に抉入があり、抉入が深いもの。

D：基部が直線的なもの。

##### II類

A：基部が直線的なもの。

B：基部が突出するもの。

C：基部が丸味をおびているもの。

##### III類

形態的には石錐に類似しているが、断面形が石錐とは異なり橢円形を呈している。

分類	I A	I B	I C	I D	II A	II B	II C	III
アスファルト付箇	2	8				1	55	6
点 敷	11	40	5	12	4	1	149	28
総 点 数	13	48	5	12	4	2	204	34

#### 石錐（第179・180図）

石錐は179点出土している。形態的には次のように分類される。

I類：つまみ部と棒状の錐部からなり、錐部が比較的長いもの。

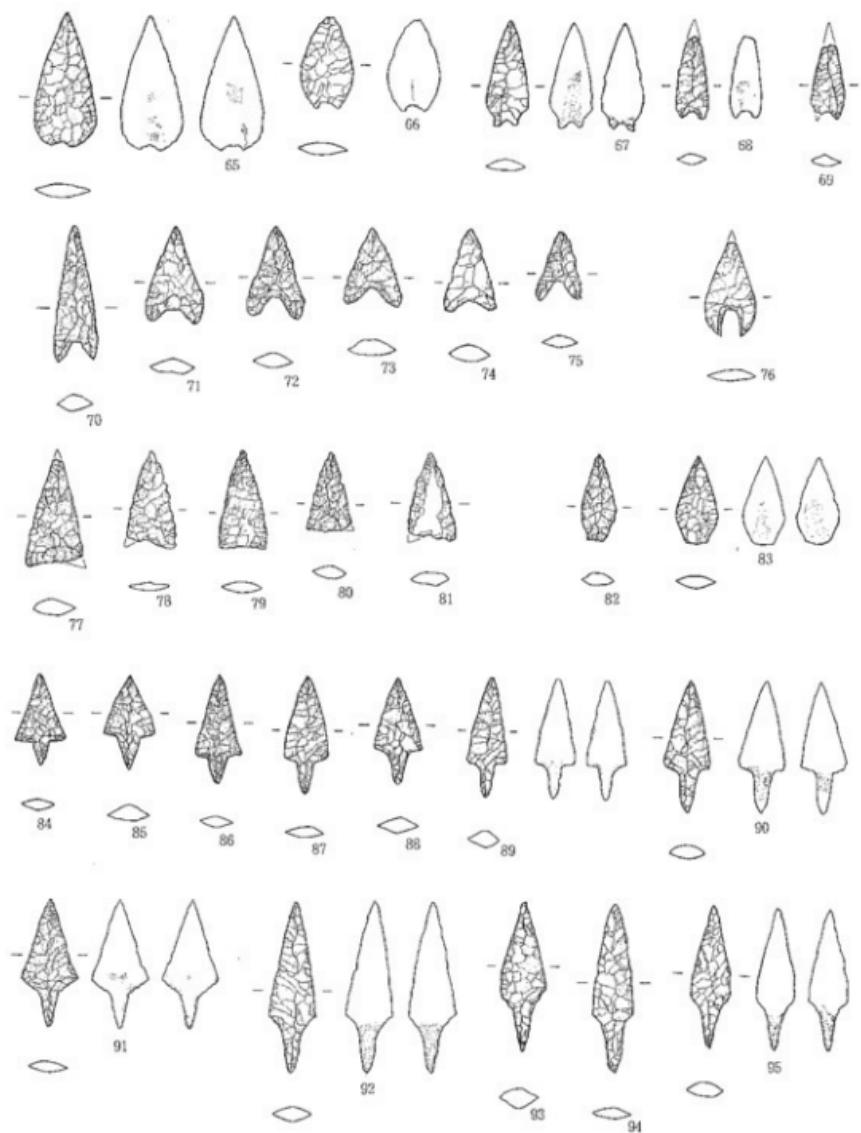
II類：つまみ部と短い錐部からなるもの。

III A類：細身の棒状からなるもの。

III B類：棒状のもので中央部に突起を有しているもの。

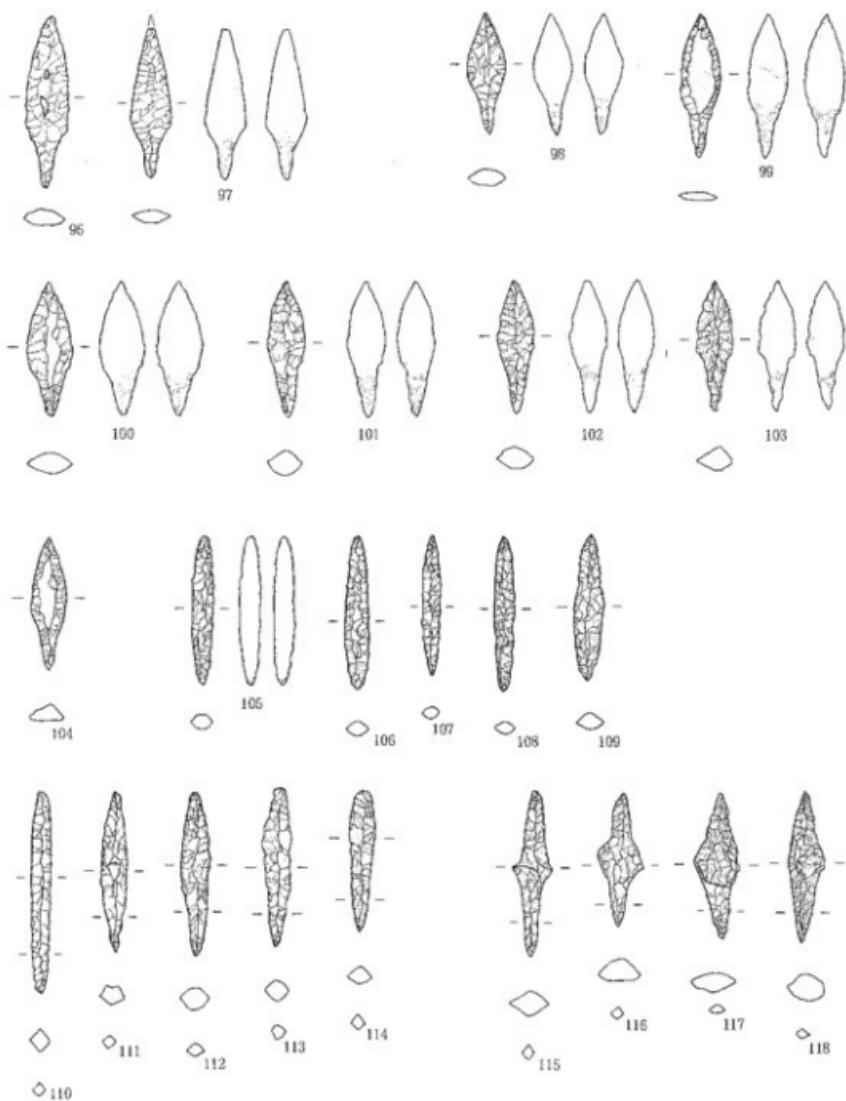
#### 石匙（第180～183図）

石匙は322点出土しており、そのうち横型が206点で64%を占めている。形態的にはI類：縦型石



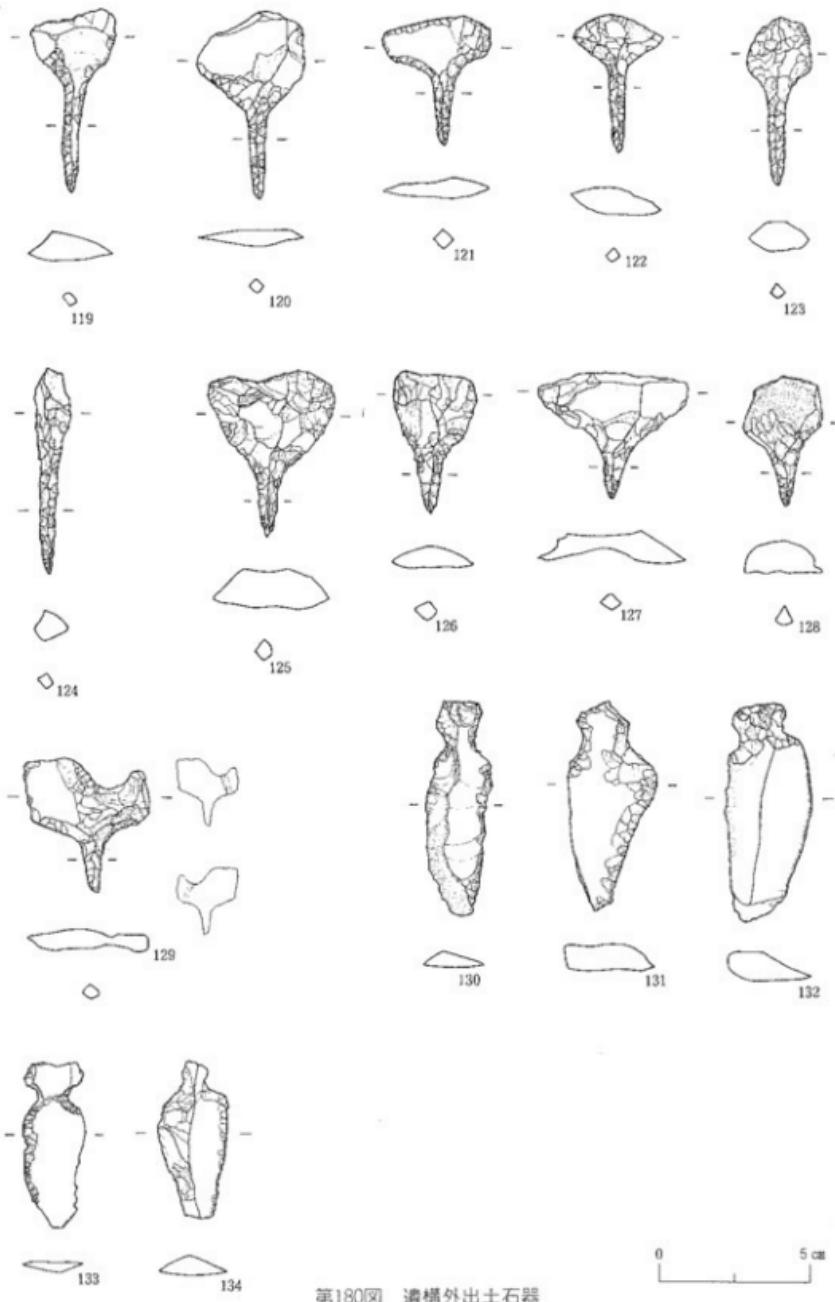
第178回 遺構外出土石器





0 5 cm

第179図 遺構外出土石器



第180図 遺構出土石器

アスファルト付着 点数	I 5	II 98	III A 39	III B 33
総点数	103	39	33	4

分類模式図								
分類	I A	I B <sub>1</sub>	I B <sub>2</sub>	I C	I D	II B	II C	III
アスファルト付着 点数	2	17	1	14	93	96	37	7
総点数	5	17	1	17	116	493	330	68

匙、II類：横型石匙、III類：I・II類の中間型態のもの、に分類され、刃部の構成により細分される。

I A類：背面と主要剝離面に、第1次剝離面を残し、刃部の片方だけに調整を施すもの

I B<sub>1</sub>類：刃部が2線辺からなるもの

I B<sub>2</sub>類：刃部の一端が鋭く尖がるもの

I C類：刃部が3線辺からなるもの

I D類：上記以外のもの

II B類：刃部が2線辺からなるもの

II C類：刃部が3線辺からなるもの

#### 石槍（第184図）

石槍は131点出土した。形態的には基部に茎を作り出しているものと、木葉形を呈するものの2つに分類される。

I類（178～180）

基部に茎を作り出しているもので13点出土している。

II類（181～185）：木葉形を呈するもので118点出土している。

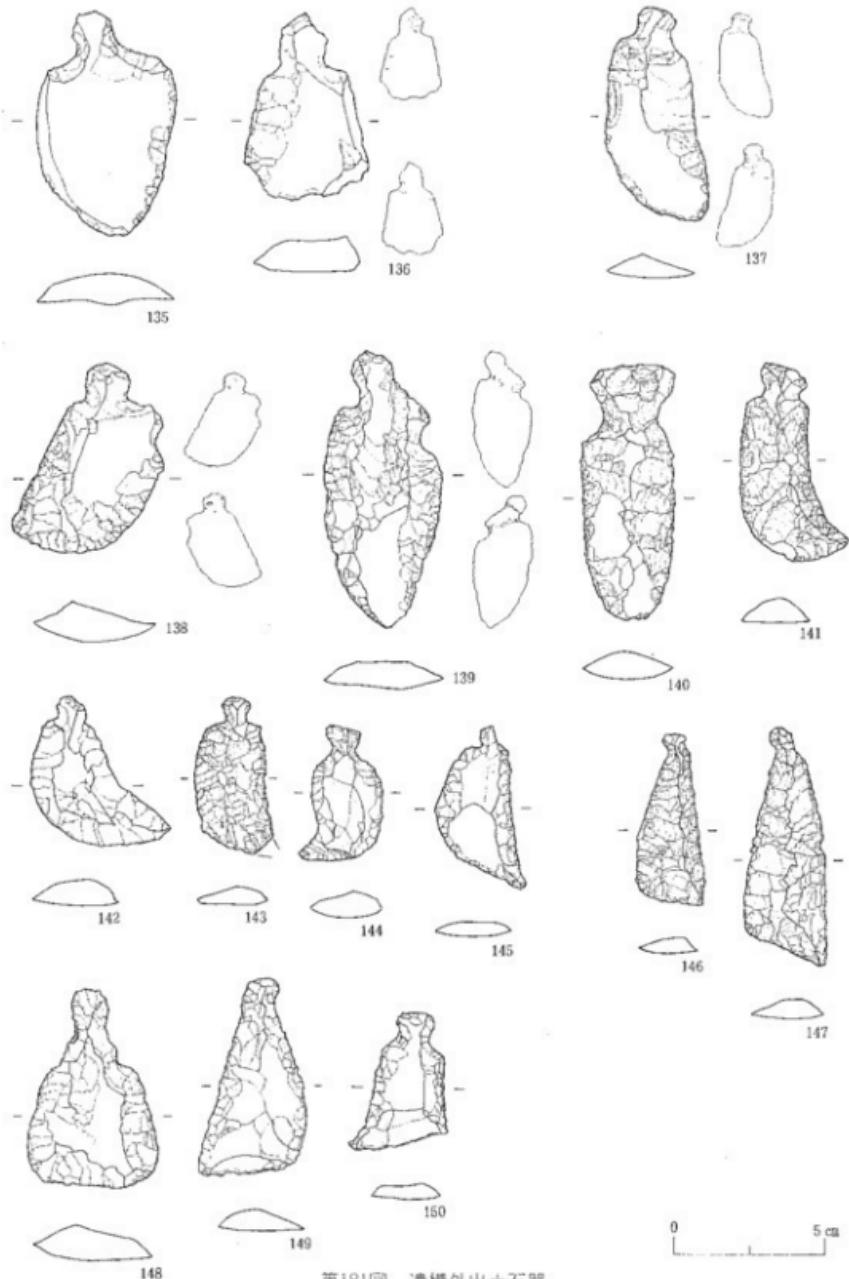
#### 撥形状石器（第184図）

平面形が撥形を呈し、一端に刃部を作り出している石器で、小形のものを含めて18点出土している。小形撥形状石器は大きさが1.5～2.0cmのもので4点出土している。

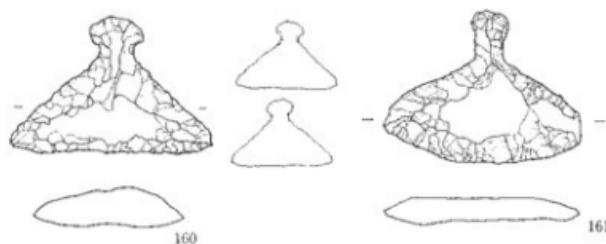
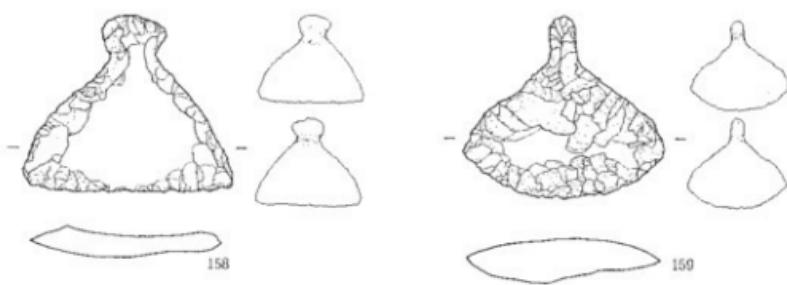
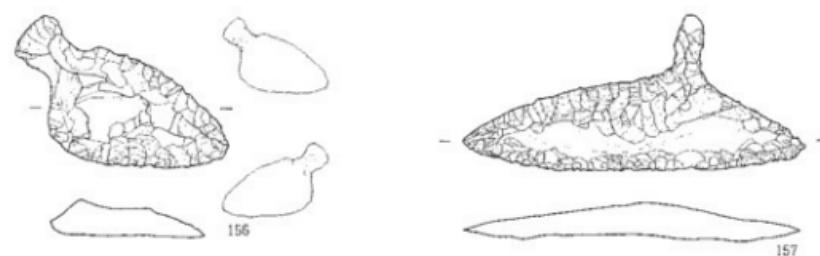
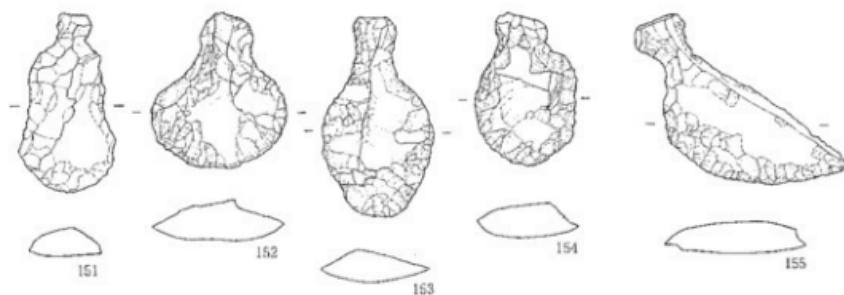
#### ヘラ状石器（第185図）

平面形が撥形あるいは短冊形を呈し、一端に刃部をつくりだす石器である。15点出土している。

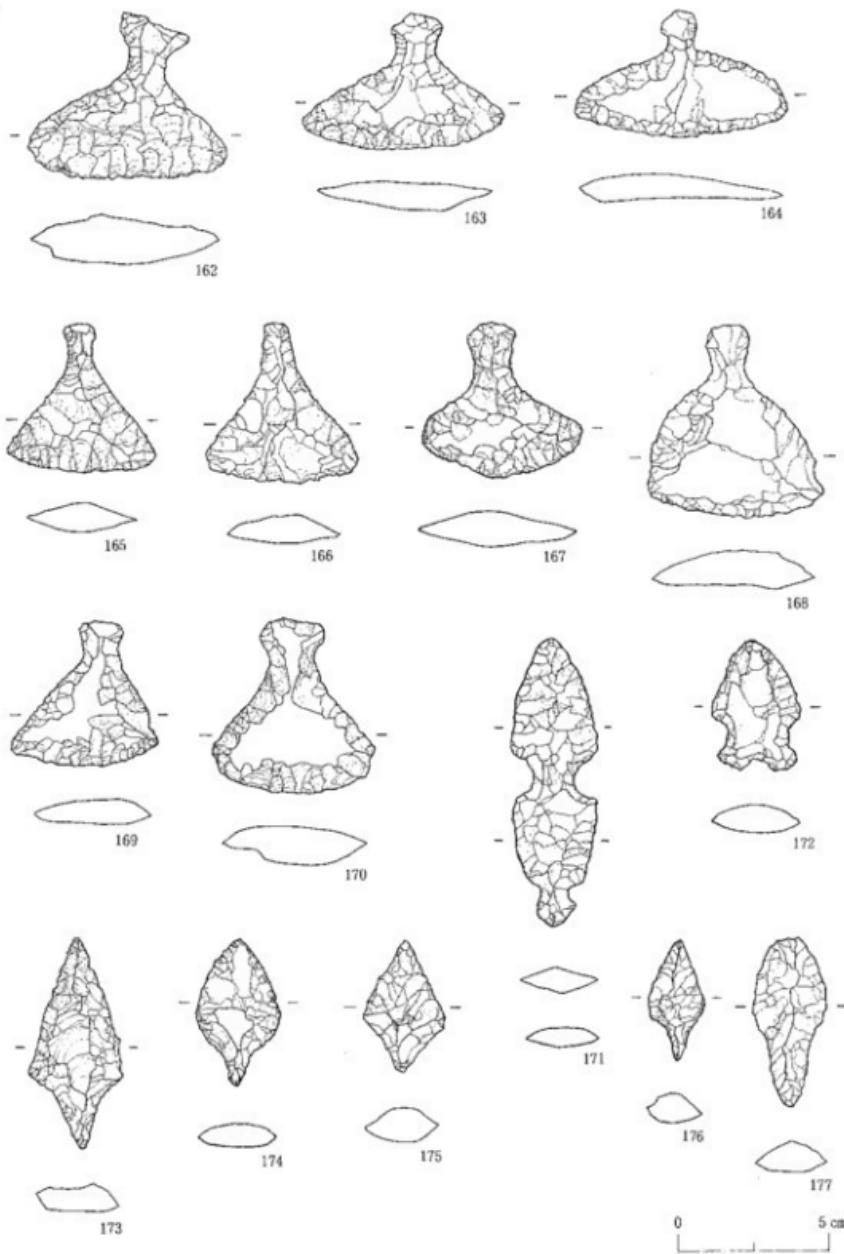
#### 搔器・削器（第185図）



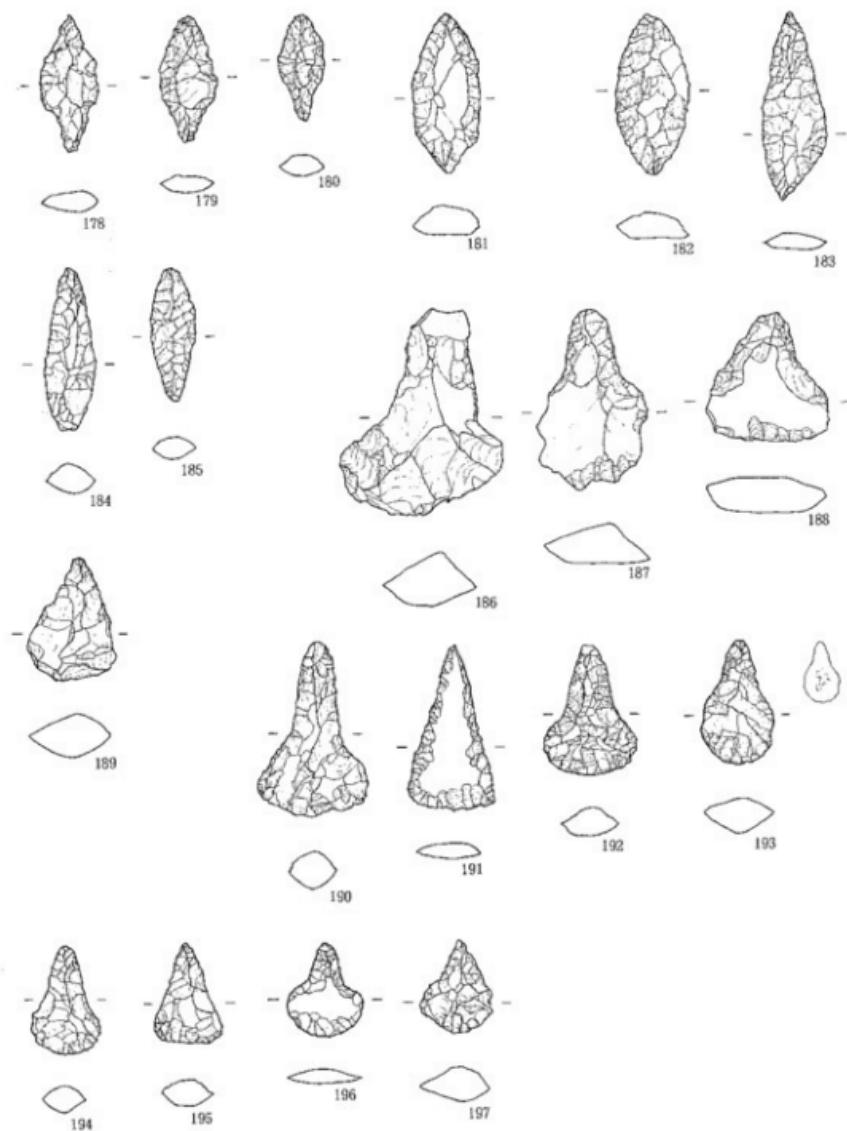
第181図 遺構外出土石器



第182図 遺構外出土石器

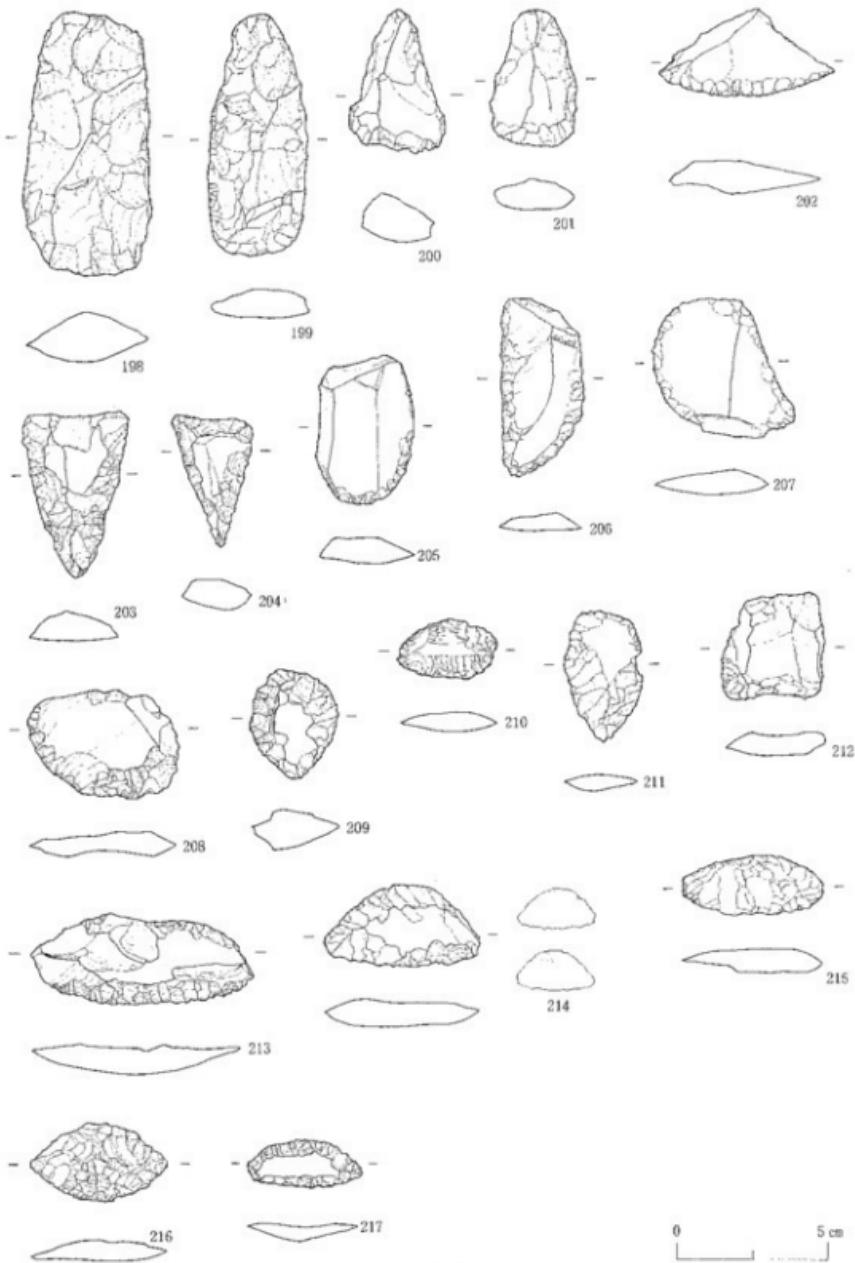


第183図 造構外出土石器

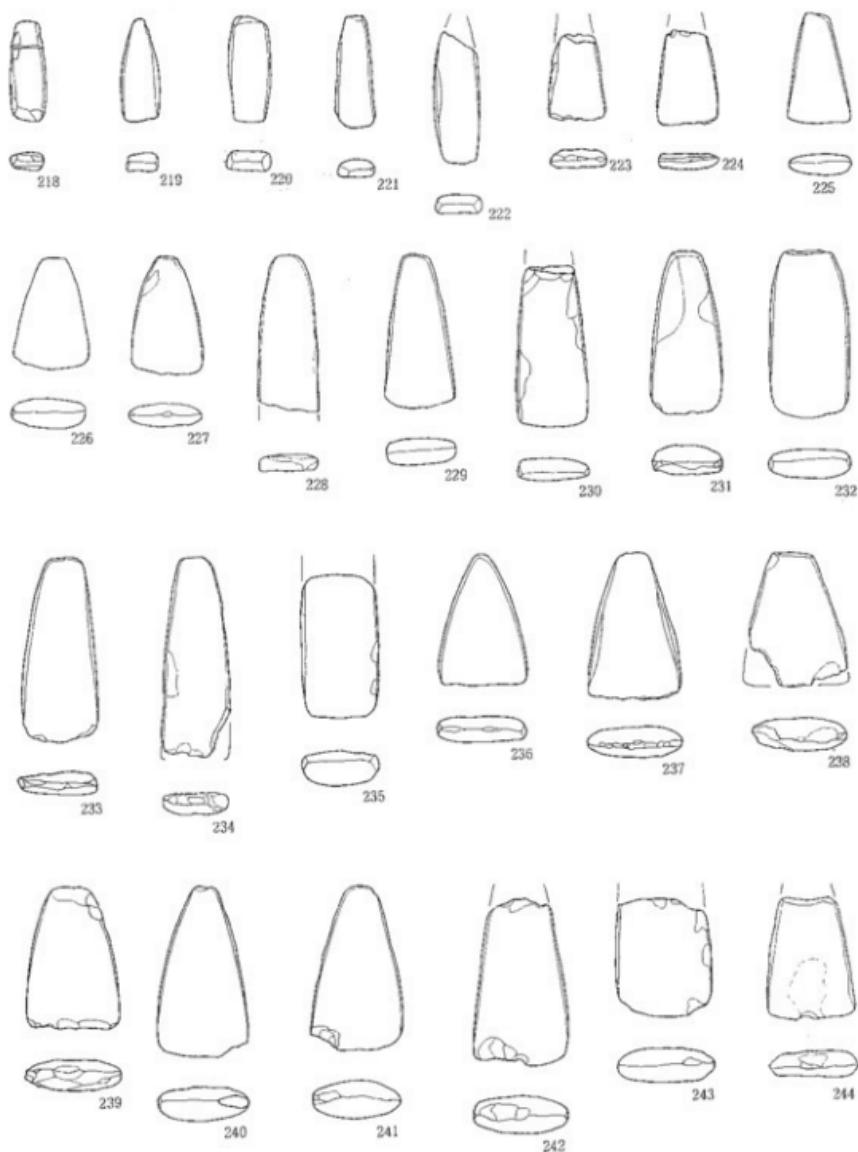


0 5 cm

第184図 遺構外出土石器

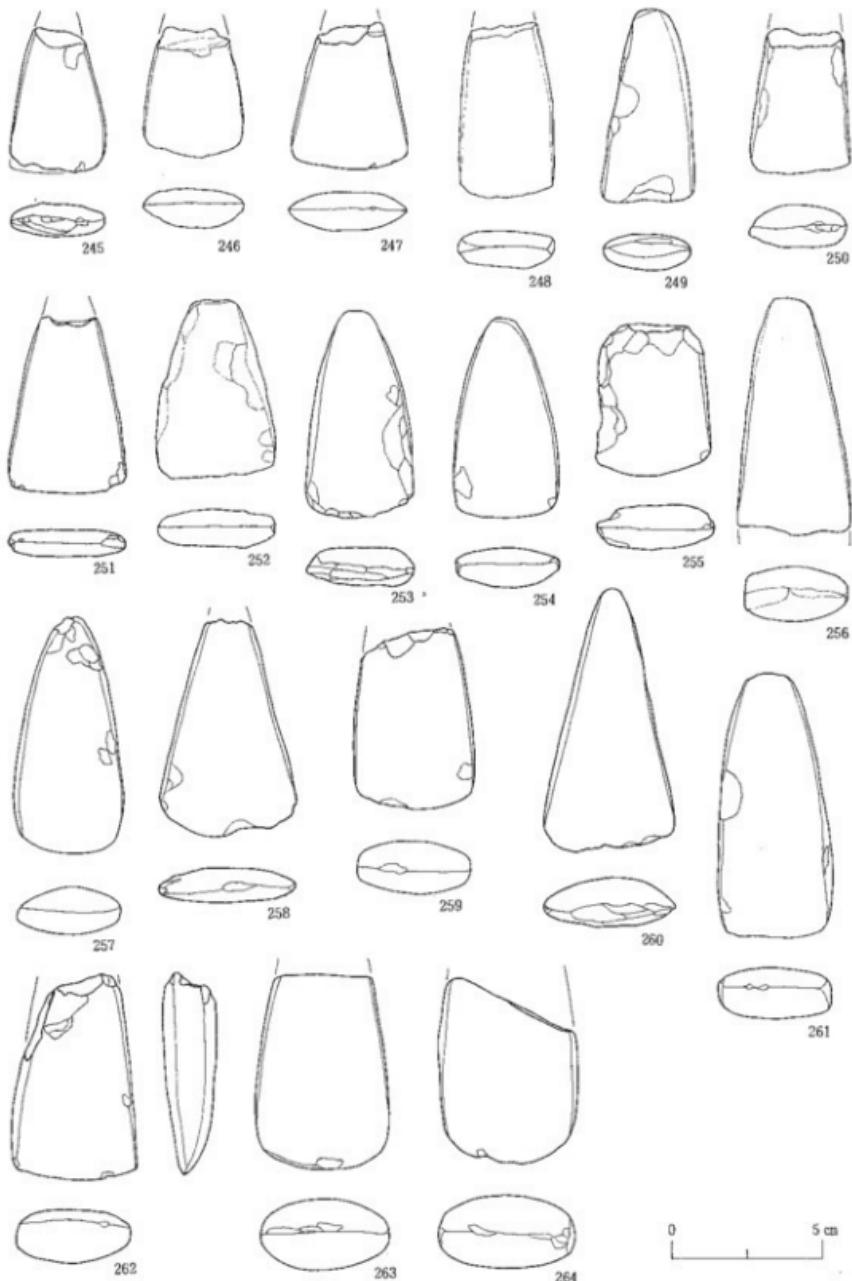


第185圖 通橋外出土石器



0 5 cm

第186図 遺構外出土石器



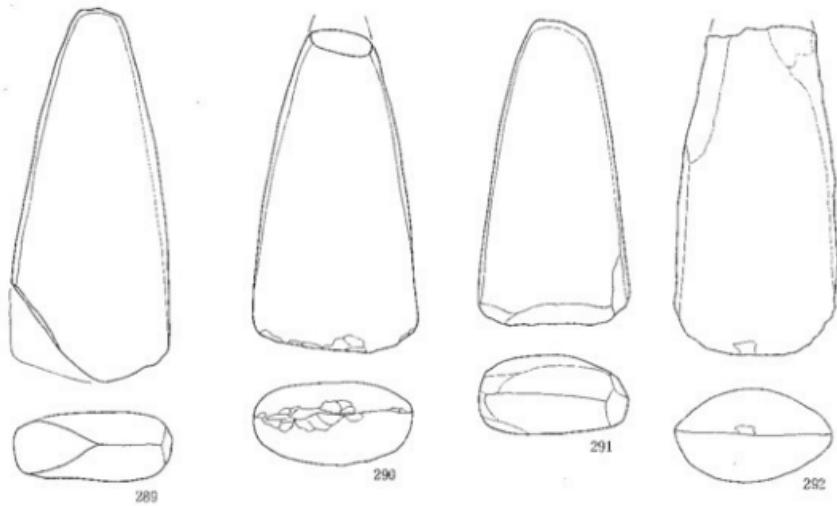
第187図 遺構外出土石器



第188図 遺構外出土石器



第189図 遺構外出土石器



289

290

291

292

293

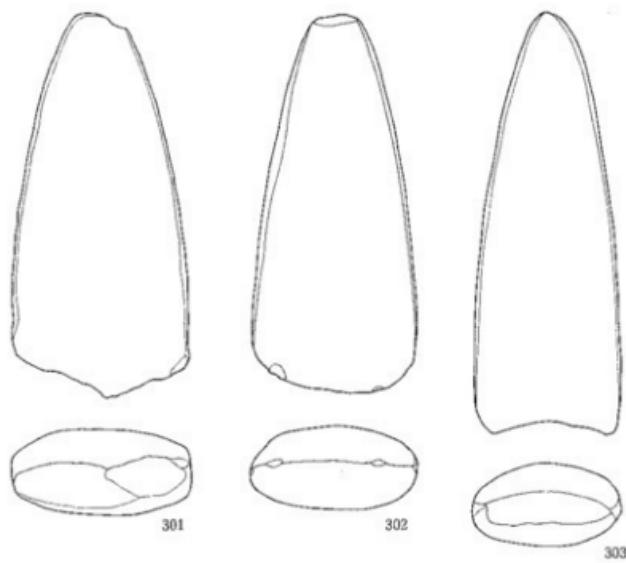
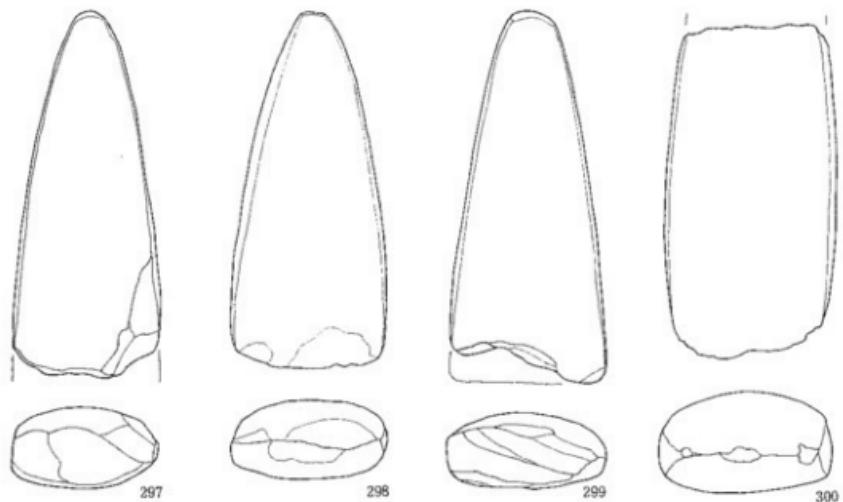
294

295

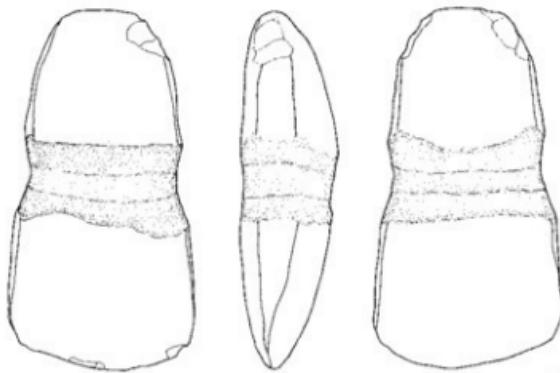
296



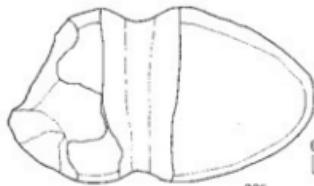
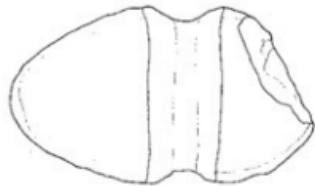
第190図 造構外出土石器



第191図 道横出土石器



304

0  
5 cm

第192図 造構外出土石器

搔器・搔器状石器および削器・削器状石器は63点出土している。

#### 鋸齒縁石器（第185図）

半月状をなすもので、両面加工である。上半にアスファルトが付着しているものもある。9点出土している。

#### 磨製石斧（第186～191図）

長さ3cm前後から5cm前後の小形磨製石斧44点、長さ8cm前後から15cm前後のものが172点、総数21点出土している。大部分が両刃であり、片刃のものはわずかしかしない。

#### 打製石斧（第193図）

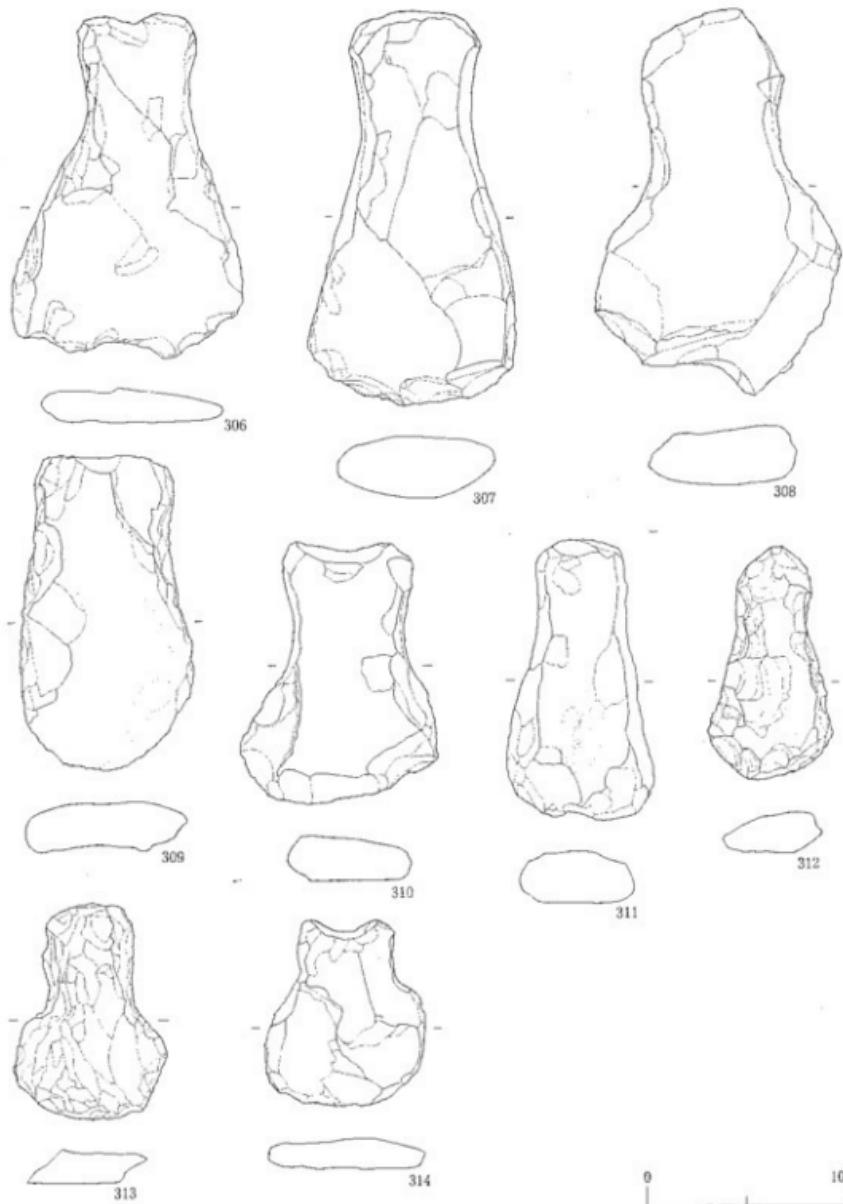
打製石斧は16点出土している。橢形および短冊形を呈している。

#### 独钻石（第192図）

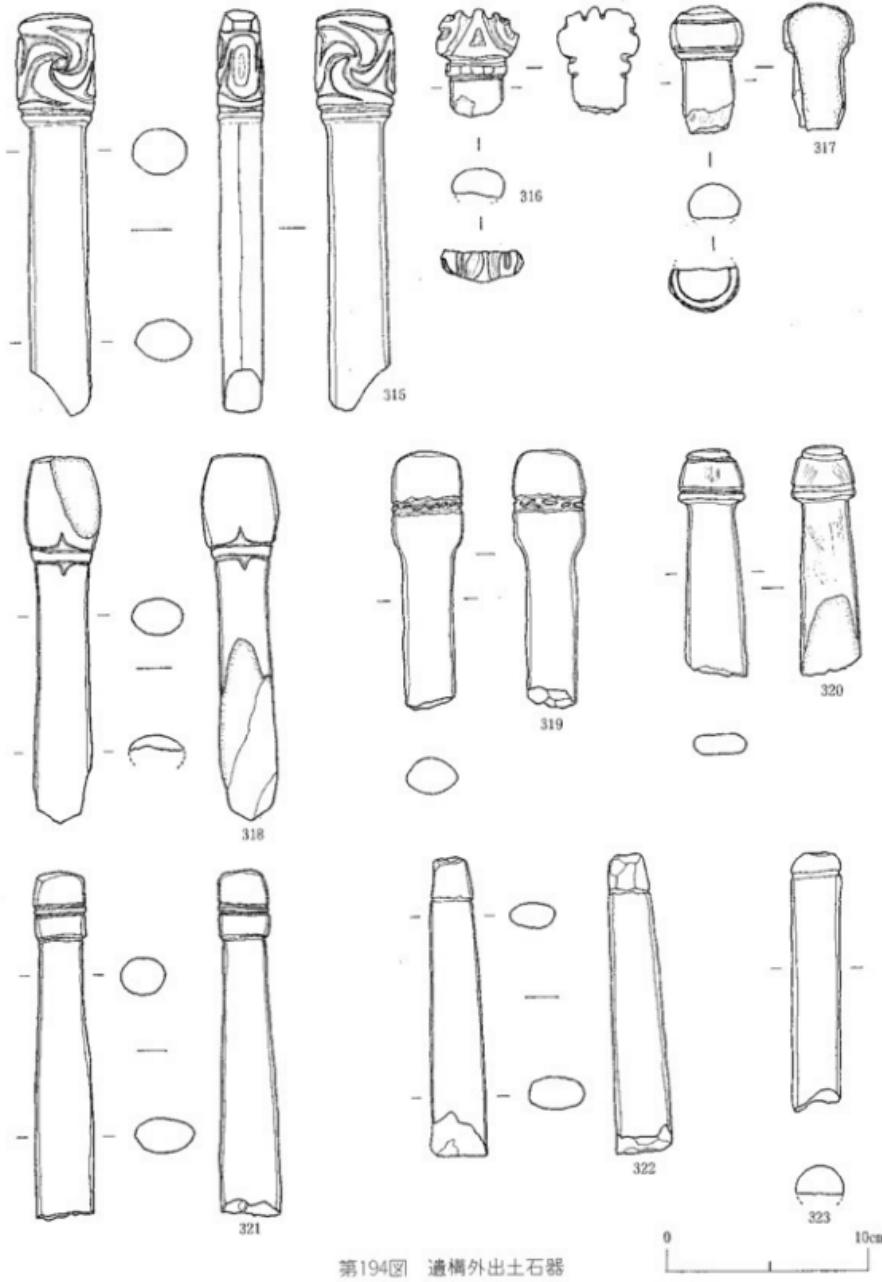
1点出土している。破損品である。重量480g

#### 石劍（第194～197図）

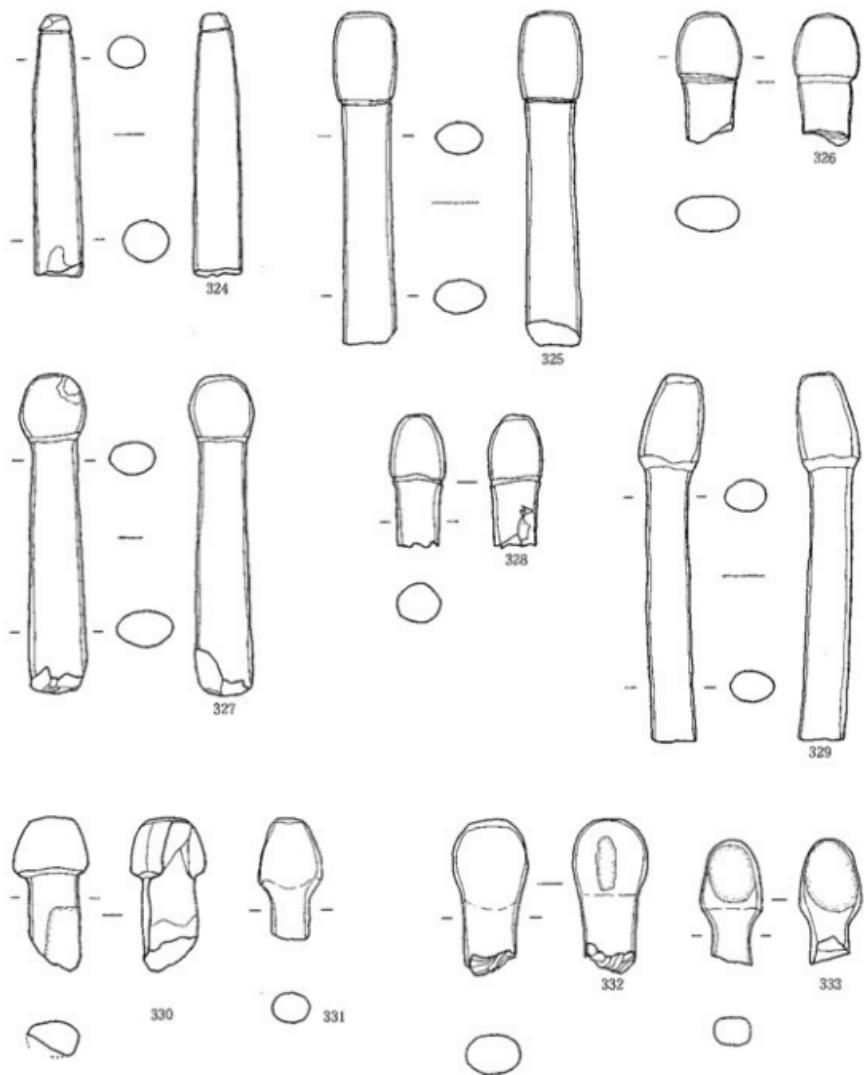
石劍は189点出土しているが、完形品はない。把部を有するものの中には、刻線（沈線）によっ



第193図 遺構外出土石器

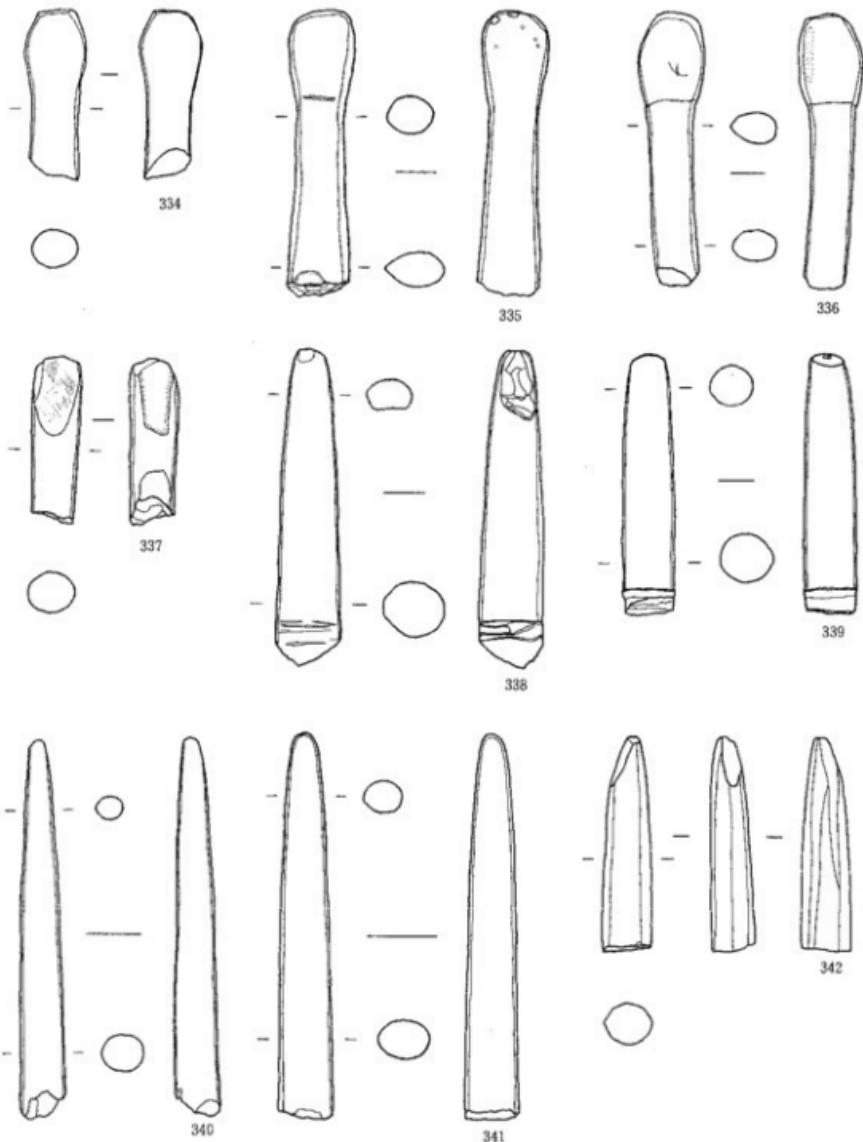


第194図 遺構外出土石器



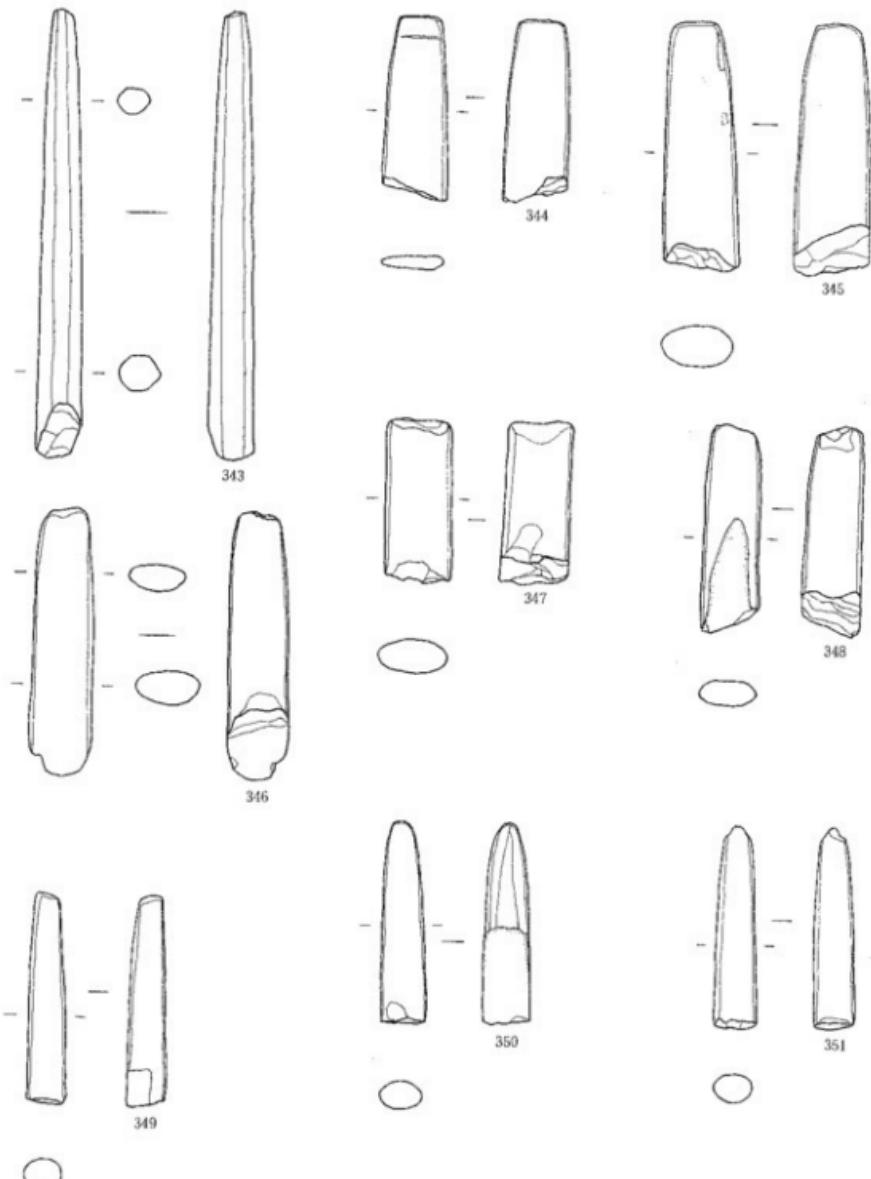
第195図 通横出土石器



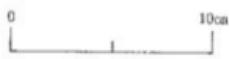


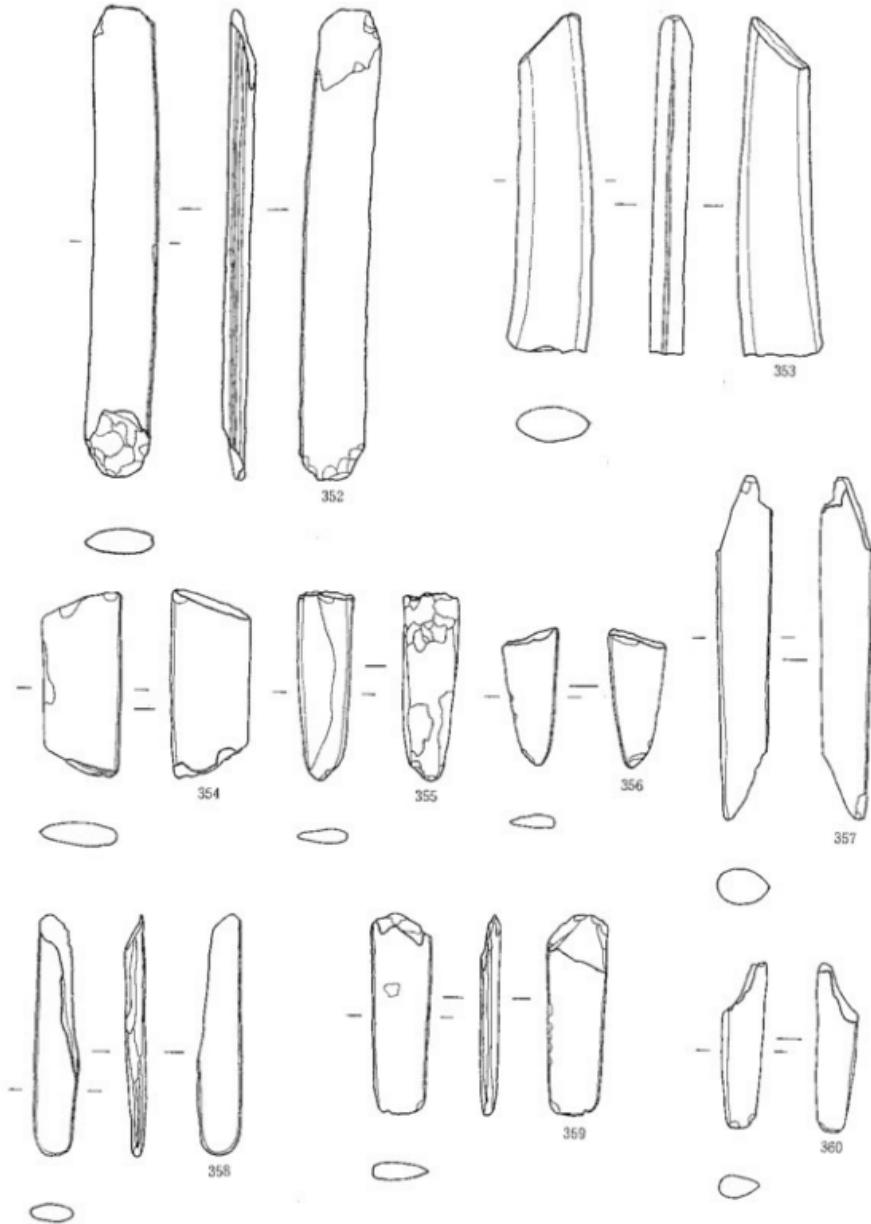
第196図 遺構外出土石器





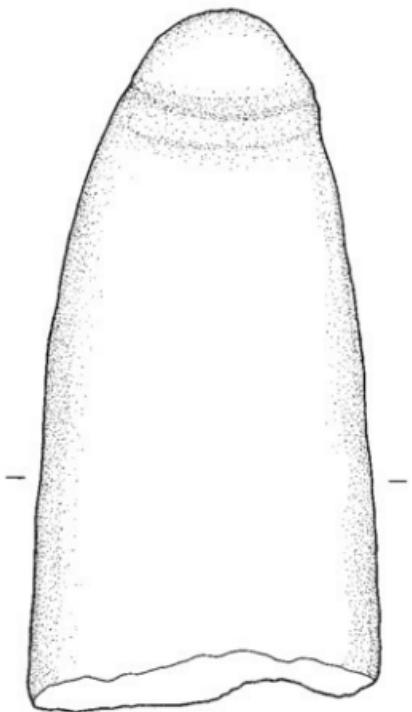
第197図 遺構外出土石器



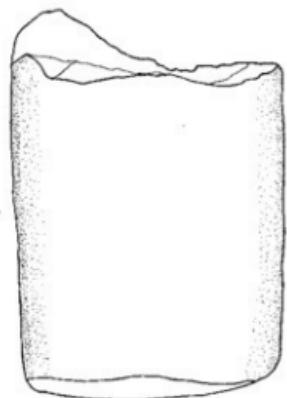


第198図 遺構外出土石器

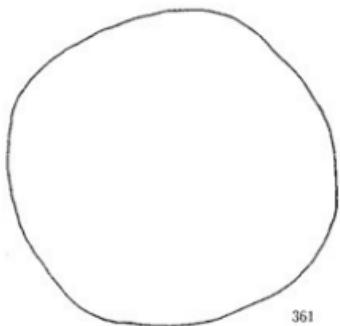
0 10cm



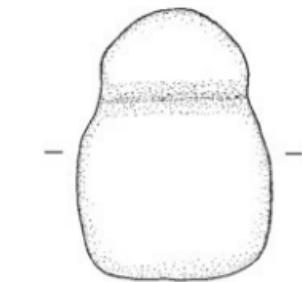
361



362



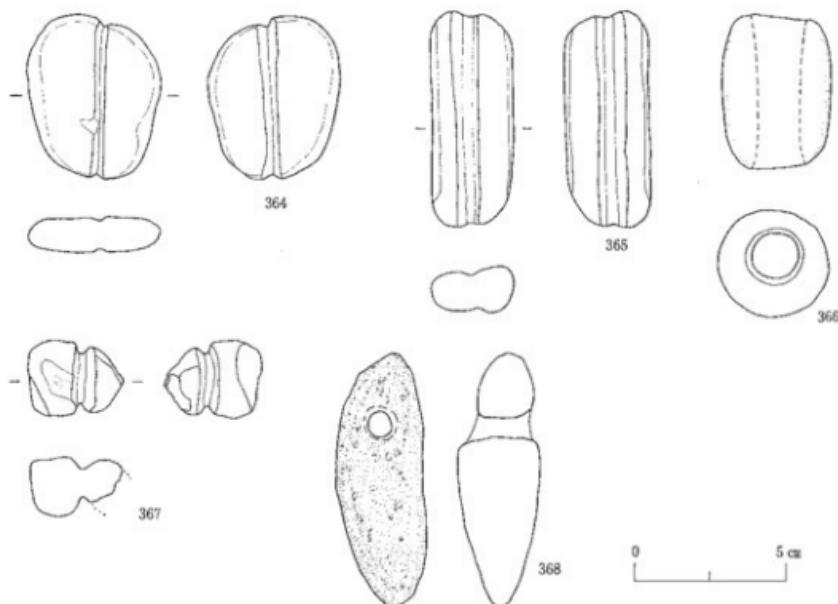
361



363



第199図 遺構外出土石器



第200図 遺構外出土石器

て文様を作り出しているものがある。

#### 石刀（第198図）

1側縁が刃部をなし、断面が検形を呈する。いずれも破損品で21点出土している。

#### 石棒（第199図）

全長35cm以上、重量12kgをこえる大形のものを含め3点出土しているが、いずれも破損品である。

#### 石錘（第200図）

有溝石錘・管状石錘、合わせて4点出土している。

#### 浮子状石器（第200図）

錆石を加工して、一方に孔を穿っている。重量12g

#### くぼみ石（第201～203図）

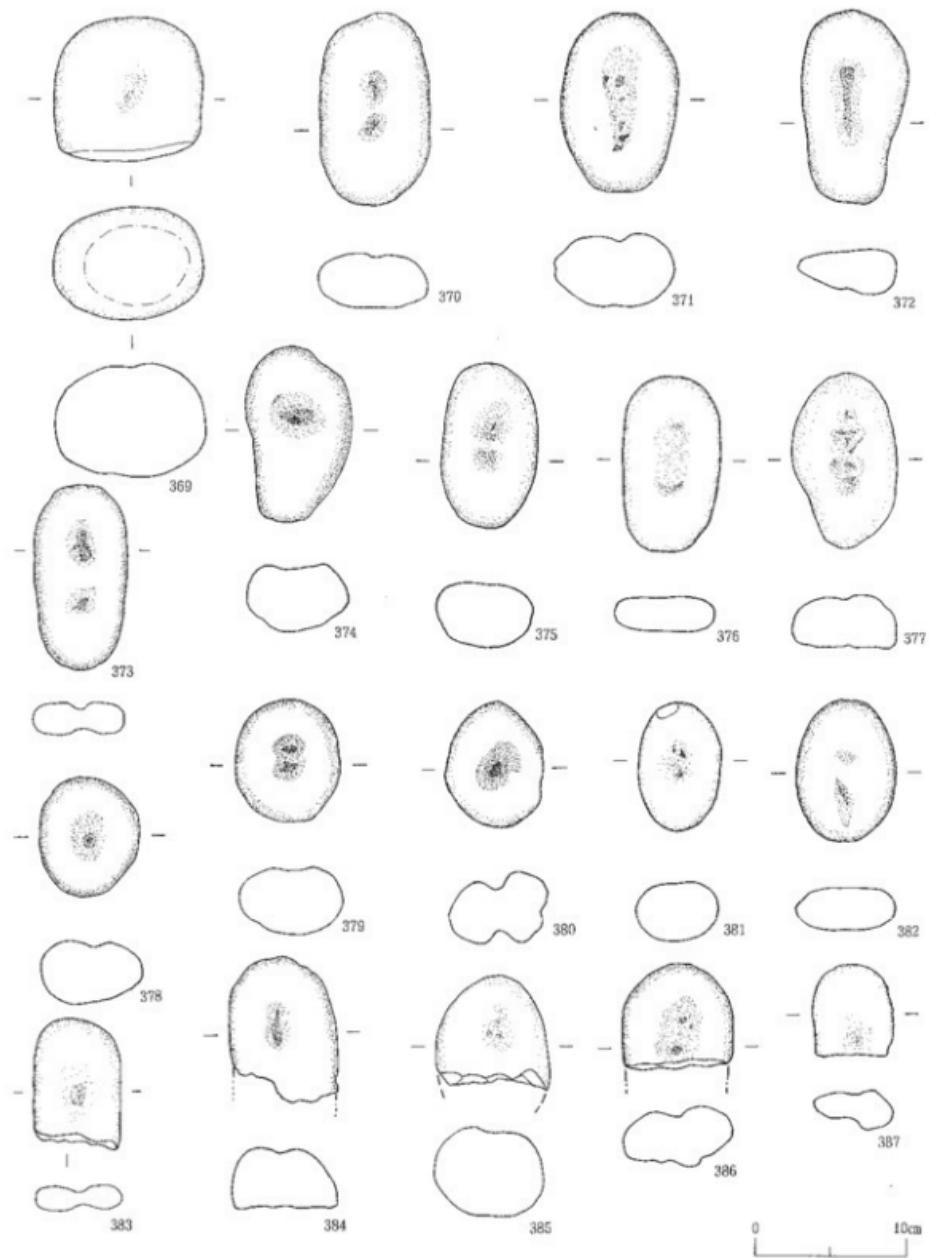
完形品、破損品あわせて49点出土している。くぼみ部が数ヶ所、片面のものがある。

#### 磨石（第204・205図）

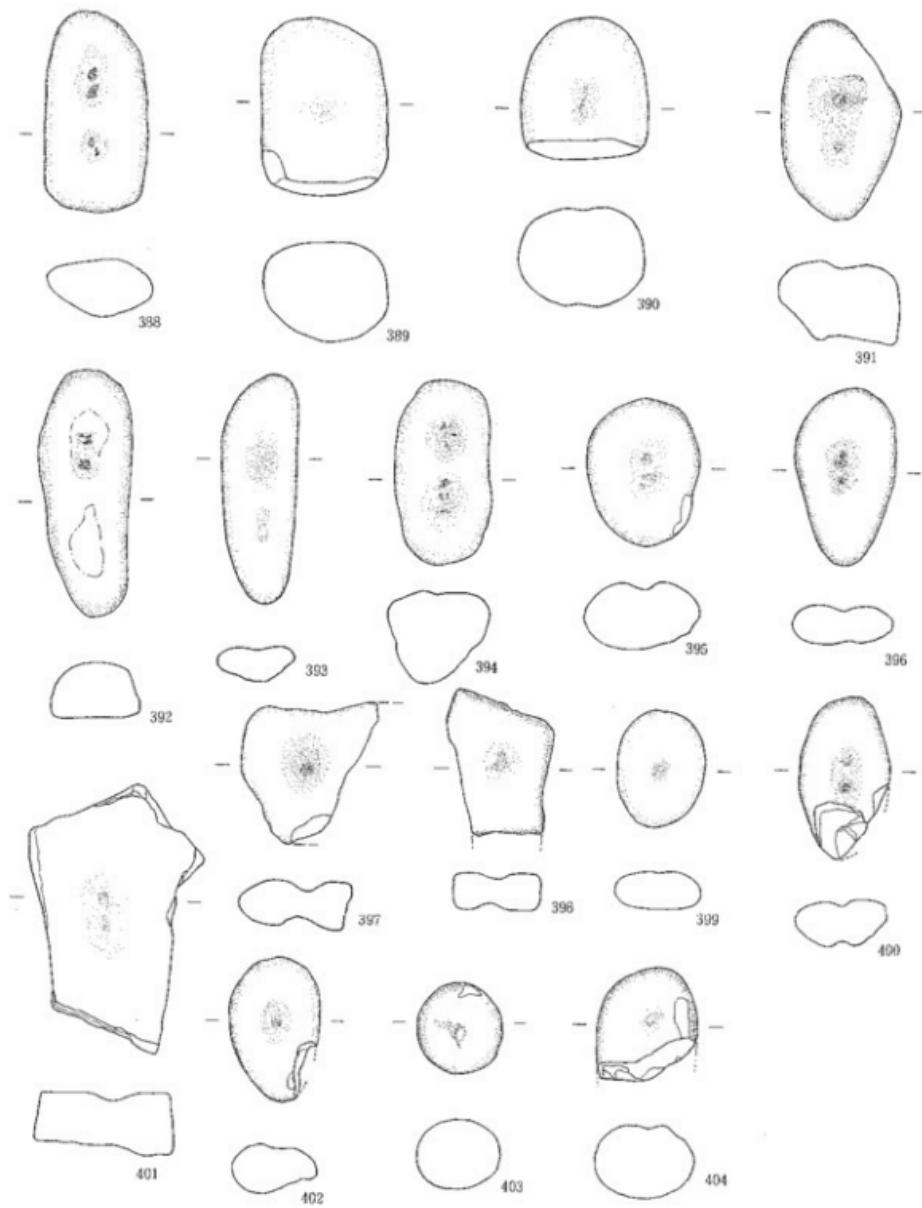
23点出土している。磨面および側面の一部分にベンガラの付着しているものもみられる。

#### 石皿（第207・208図）

すべて破損品で、13点出土している。中央部がくぼみ、良く磨れている。中央部に二次的使用に

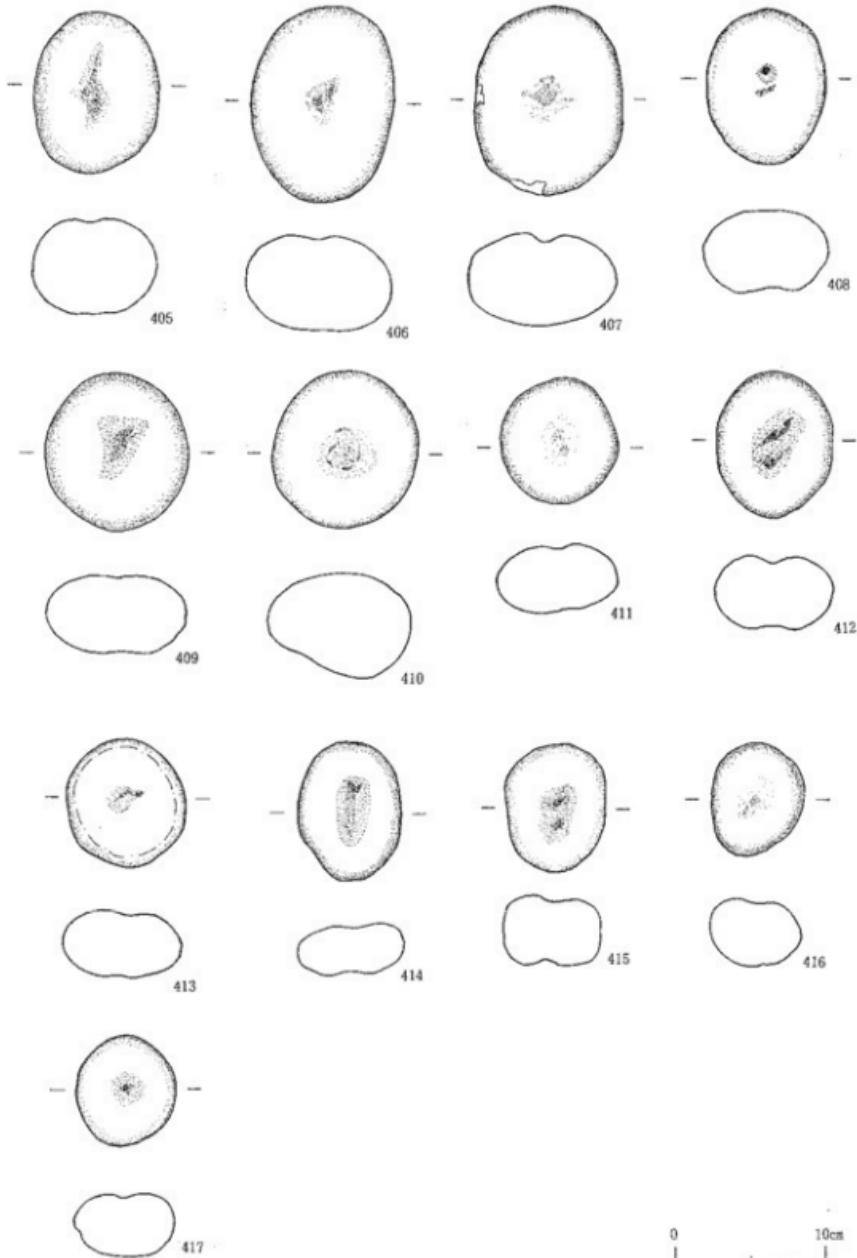


第201図 遺構出土石器

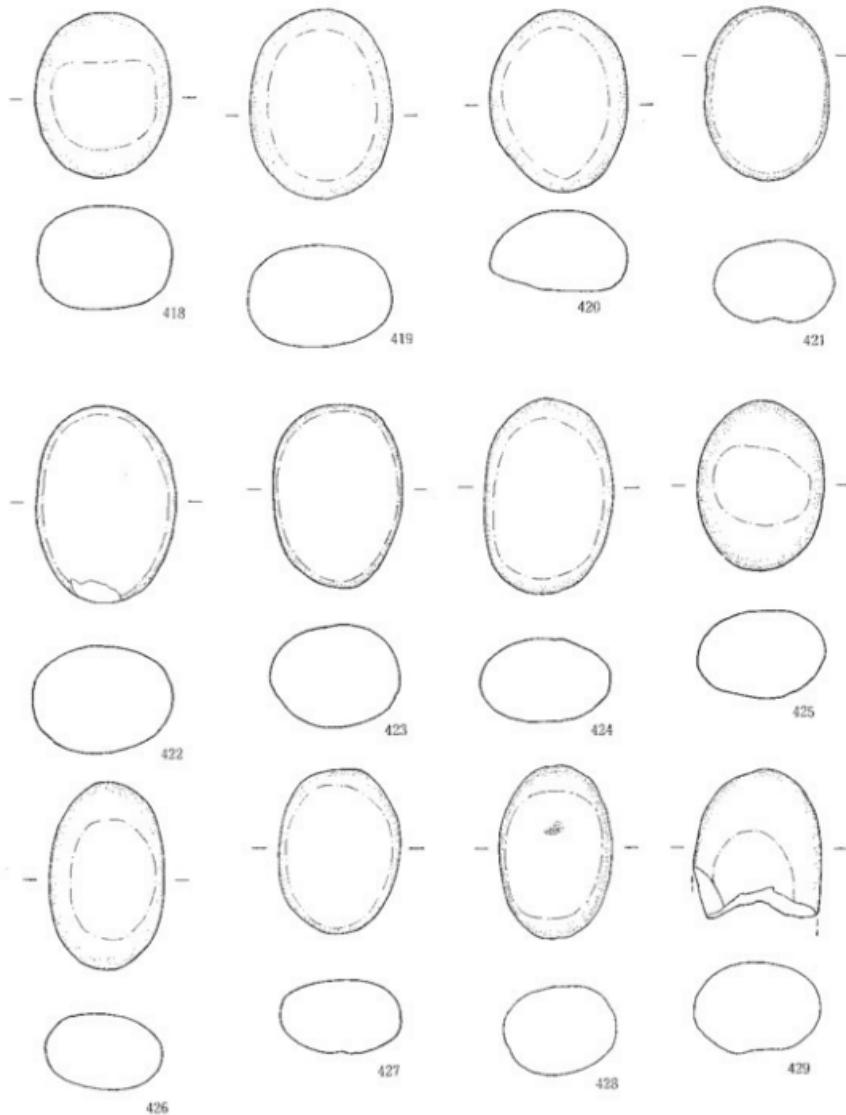


第202図 遺構外出土石器

0 10cm

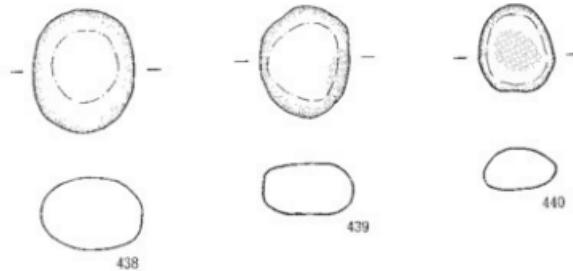
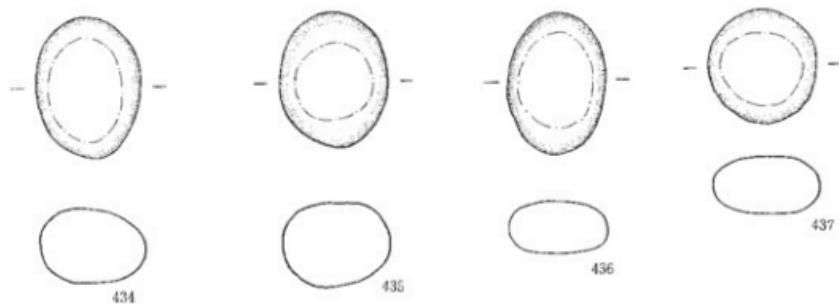
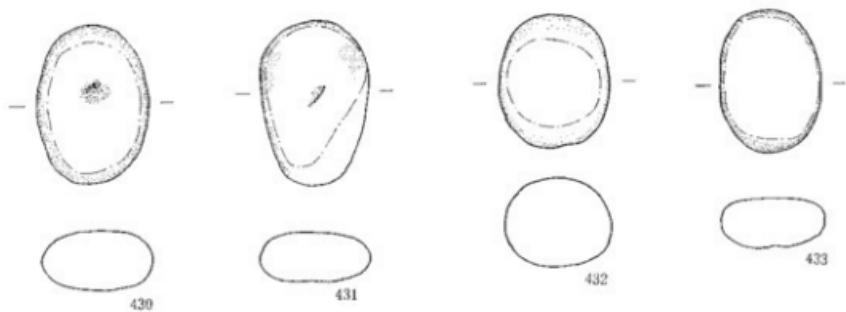


第203図 遺構外出土石器



0 10cm

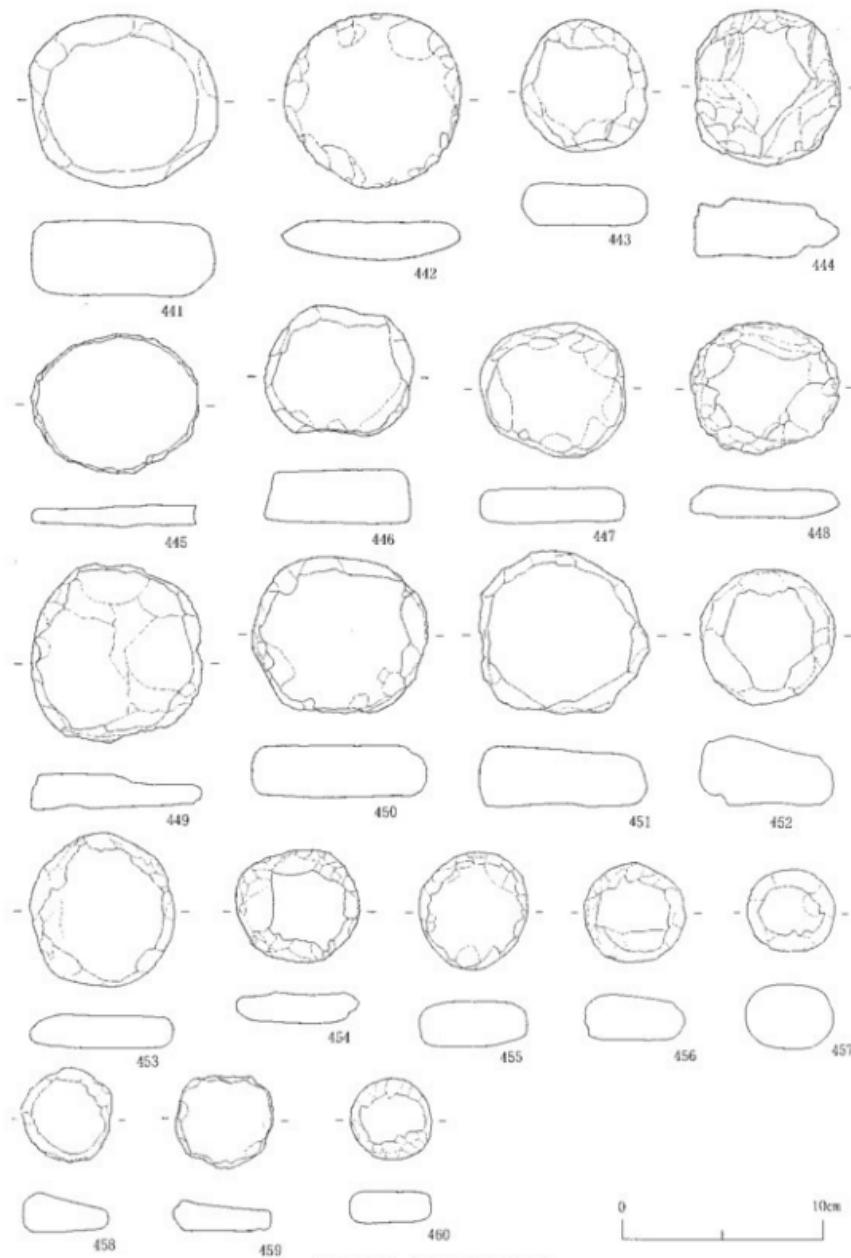
第204図 遺構外出土石器



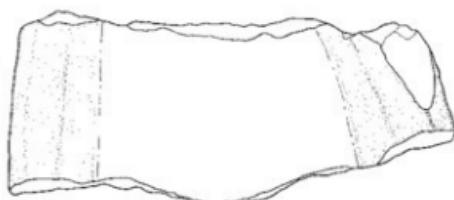
372 ベンガラ

0 10cm

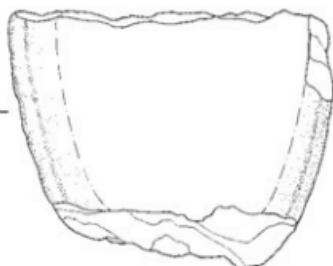
第205図 遺構外出土石器



第206図 遺構外出土石器



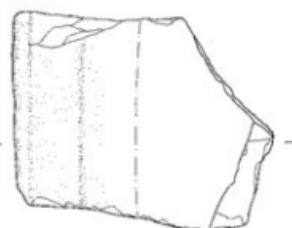
461



462



463



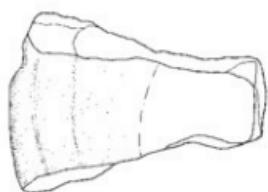
464



465



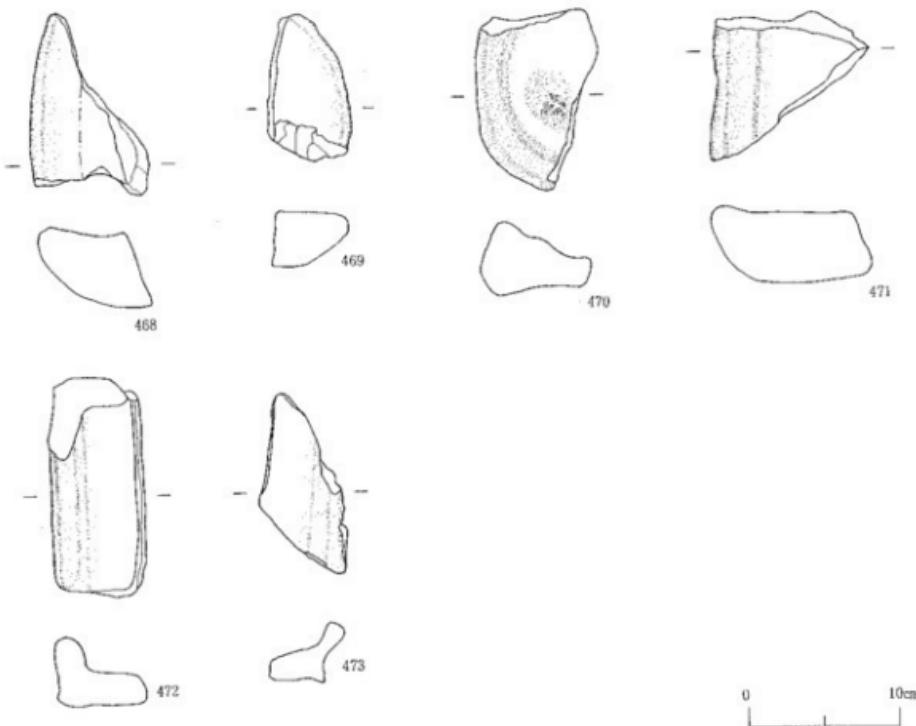
466



467



第207図 遺構外出土石器



第208図 遺構外出土石器

よって煤状炭化物が付着しているものもある。

**円盤状石製品（第206[4]**

偏平な石を両面から荒く打ち欠いて円形に加工したもので、20点出土している。直径は4～8cmである。

## まとめ

### 一縄文時代中期一

#### 住居跡について

本遺跡では西から入り込んだ沢の南側台地の東端部に15軒の竪穴住居跡を検出したが、その大半は晩期の土塙墓によって壁、床面等がこわされている。住居跡は橢円形プランを呈するもの（1号・4号・5号・6号・7号・8号・9号・15号住居跡）が主体で、円形を呈するもの（2号・3号・13号住居跡）もある。10号・11号・12号・14号住居跡については晩期の土塙墓、削平によってこわされており不明である。15号住居跡を除いて住居内にかが検出された。炉は石囲い炉（5号住居跡）と複式かの形態の炉がある。複式炉は次の4タイプに分類される。

- ①石圓土器埋設部十石組掘り込み部十掘り込み部（1号・2号住居跡）
- ②石圓土器埋設部十掘り込み部（8号・13号住居跡）
- ③石圓土器埋設部十石組部（14号住居跡Ⅱ期炉）
- ④土器埋設部十掘り込み部（3号・4号・6号・7号・9号・10号・11号・12号・13号）

1号・2号・3号・4号・14号住居跡ではそれぞれ炉の作り替えが認められる。1号・2号住居跡では新旧二期認められた。1号住居跡ではⅡ期めのかをⅠ期の炉よりも拡張（埋設上器の位置を外側へ、掘り込み部を南側へ替えている）している。2号住居跡でもⅡ期めの炉をⅠ期の炉よりも拡張（埋設土器の位置を東側へ、掘り込み部も東側へ替えている）している。1号・2号住居跡ともⅡ期炉の拡張に伴い住居を一回り大きく拡張したものと考えられる。3号住居跡では新旧三期の作り替えが認められた。いずれもかの形態は同様のもので、Ⅰ期一中央やや北寄り、Ⅱ期一南側、Ⅲ期一埋設土器を北西に移行、と位置を変えている。4号住居跡では新旧二期認められた。Ⅰ・Ⅱ期ともかの形態は同じで、中央東側に位置していた旧炉の廃棄後、貼り床が施され新炉を南側に構築している。14号住居跡では新旧関係については不明であるが、形態を異にする二期めのかが認められた。Ⅰ期一北東部に位置し、埋設土器と焼土が認められた。Ⅱ期一中央部に位置し、石囲い土器埋設部と石組部が認められた。本遺跡での住居跡の炉の作り替えは、少數例ではあるがこれまで台地上計画地域内の調査で確認されている炉の変遷、すなわち複式炉→石囲い炉、複式炉→石圓土器埋設炉、複式炉→土器埋設炉、土器埋設炉→石囲い炉という関係は把握できなかった。  
註1)

炉埋設土器は1号・2号・3号・6号・7号・8号・10号・13号・14号住居跡で認められ、4号・5号・9号・11号・12号・15号住居跡では、晩期の土塙墓によってこわされたり、抜き取り等があり不明である。炉埋設土器および床面出土の上器を竪穴住居跡の時期決定の決め手とするならば、1号・2号・3号・6号・7号・8号・10号・13号・14号住居跡は大本10式期に位置づけられる。

#### 出土土器について

本遺跡から出土した縄文時代中期の土器は数量にして整理用コンテナ5箱ほどである。ここでは

I群土器、II群土器について考えてみたい。

I群土器は沈線区画の磨消し帯、あるいは隆線と磨消し帯による曲線的な文様をなす土器で「J」、逆「C」字状などが展開される。大木10式期に位置づけられる。

II群土器1類は撚糸文による網目文様が展開することから十腰内I式期に比定できるものである。<sup>(註2)</sup>

2類は柳状工具による平行沈線で流水文を展開している土器で、地方遺跡の南西方向約1.7kmに位置する坂ノ上遺跡A地区<sup>(註3)</sup>でも同様の土器が出土している。関東地方における堀之内I式期併行の土器<sup>(註4)</sup>と考えられる。

### 一晩期一

#### 遺構について

地方遺跡の晩期の遺構は堅穴住居跡、掘立柱建物跡、土塙墓、土塙がある。中でも土塙墓は総数559基と圧倒的に多い。ここでは主に土塙墓について概観し、さらに塙墓との関連から堅穴住居跡、掘立柱建物跡についても若干触れてみたい。

本遺跡で発見された土塙墓は大きく東地区と西地区に分れる。分布する地区をみると遺跡の北側から南側に入ってくる3本の沢が立地に影響を与えていたと思われる。土塙墓はI群からIV群まで分けることが可能である。I・II群は遺跡の西側に位置し、北側から入る大きな沢の西側平垣地に造られている。I群は北東、II群は南東にのび橢円形を形成する。I・II群の間には空間地盤がみられる。III・IV群は東側に位置する。もともとは北側から南側に深く沢が入っており、沢の東側緩斜面から平垣地にかけてIII群、さらに東側にIV群が造られている。III群は最も密集して土塙墓が発見され、その分布状態をみると円形を呈する。さらに細かくみるとところどころに空間領域がみられ、複雑に重複しているが20~50基位の単位でまとまりがいくつかあるように思われ便宜状A~Mまでの小群に分類してみた。

土塙墓の形態についてみるとI~VI群とも共通している。プランは椭円形515基、隅丸長方形14基、不明26基で、橢円形を呈するものが圧倒的に多い。規模は長軸が50~194cm、短軸30~110cm、確認面からの深さ5~63cmの中に入り、平均値を求める長軸119.5cm、短軸67.8cm、深さ27.3cmである。長軸方向はN20°W~N20°E-27基(北)、N20°W~N60°W-203基(北西)、N20°E~N60°E-86基(北東)、N60°W~N110°W-176基(西)、N60°E~N110°E-47基(東)であり、北西、西に長軸方向をもつものが非常に多いことがわかる。土塙墓内にベンガラが認められるものがある。I・II群99基中19基、III群440基中95基にみられ、位置は土塙墓内の中央~西・北西部にあるものが多い。玉類、耳飾り、腕輪などの副葬品が出土する土塙墓はI群-3基、II群-4基、III群-51基程認められる。また、ベンガラと副葬品が共にみられるものはI群-2基、II群-2基、III群-13基ある。埋葬頭位については、ベンガラが頭部、胸部などにふりまかれたものであれば、西、北西、北頭位が多いことが考えられる。ただ人骨の出土がなく明確には不明である。<sup>(註5)</sup>



縄文時代晩期の土塙墓・竪穴住居跡、掘立柱建物跡

I・III群に竪穴住居跡が1軒ずつ土塙墓に隣接して検出されている。他に晩期の住居跡は発見されておらず、集落とは考えがたい。2号住居跡は床面が赤黒く3層にわたって焼面を形成している。これらは土塙墓と密接な関係にある施設と思われる。またI群に隣接して5棟の1間×1間の掘立柱建物跡がありこれも土塙墓との関連で考えられるかも知れない。

#### 土器について

地方遺跡晩期の出土遺物には土器、石器、土製品、石製品などがある。土器は土塙墓Ⅲ群の西側にある沢頭から集中して出土しており、沢は土器の捨場的な場所としての使用が考えられる。出土量は整理用コンテナで約600箱を数える。大洞B、B-C、C<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>、A式の各型式が出土しているが、表1のように資料として抽出した土器についてみると大洞B、C<sub>2</sub>、A式の出土量が非常に少なく、大洞B-C、C<sub>1</sub>式が圧倒的に多い。中でも大洞C<sub>2</sub>式は約3700片を数え最も多い。次に出土土器の器種をみると深鉢、鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器などがある。器種別の出現率を出土量の多い大洞B-C、C<sub>1</sub>式土器についてみると大洞B-C式では、鉢40.7%、浅鉢41.5%、壺5.5%、注口土器9.4%でこの4器種で90%以上を占める。大洞C<sub>1</sub>式では、鉢47.1%、浅鉢42.2%、壺2.5%、注口土器が4%で大洞B-C式同様4器種で90%以上を占める。中でも鉢、浅鉢の出現率が大洞B-C、C<sub>1</sub>式では全体の40%以上であり、圧倒的にこの2器種が多いことがわかる。

大洞B-C、C<sub>1</sub>土器の鉢、浅鉢の口縁部文様帶に変化が認められる。第Ⅲ群土器Ⅱ類a～c類のようにいわゆる半齒状文からE、F類の半齒状文が簡素化され退化し、平行線となりその上下に連續刻印文が施されるものへと変化がみられる。大洞C<sub>1</sub>式土器では第Ⅲ群Ⅱ類土器a～c類、Ⅳ類土

器a、b類の平行沈線文と連続刻目文が施されるものと、II類d～f類、IV類c～e類のように口縁部が無文、あるいは1～2条の平行沈線文が施されるものがある。このような変化が認められることは大洞B-C、C<sub>1</sub>式土器編年を進める上で良好な資料になるものと思われる。

以上遺構と出土土器について事実関係に基づいて簡単にまとめてみた。地方遺跡は大洞B-C、C<sub>1</sub>式期を中心とした墓地跡である。晩期の葬制については不明な部分が多く、本遺跡が提供する資料をさらに細かく検討してみたい。

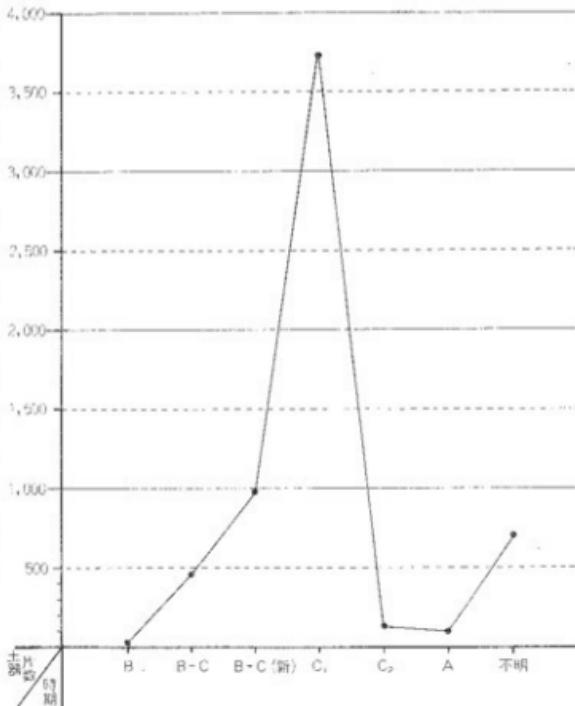


表1 地方遺跡における大洞式土器型式別出土表

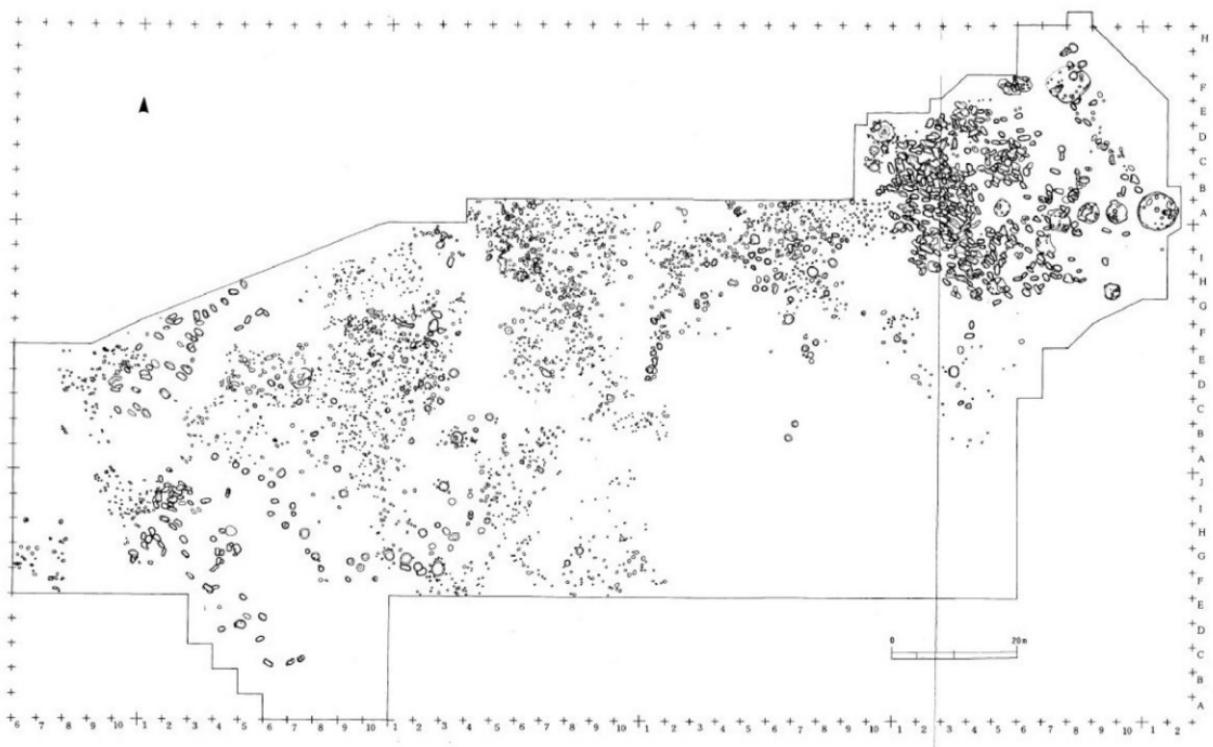
註1. 「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書」地蔵田B遺跡、台A遺跡、湯ノ沢I遺跡、湯ノ沢F遺跡 1986年3月 秋田市教育委員会

註2. 萩原 励「下腰内I式上器の編年の細分」 1979年11月 北奥古代文化第11号

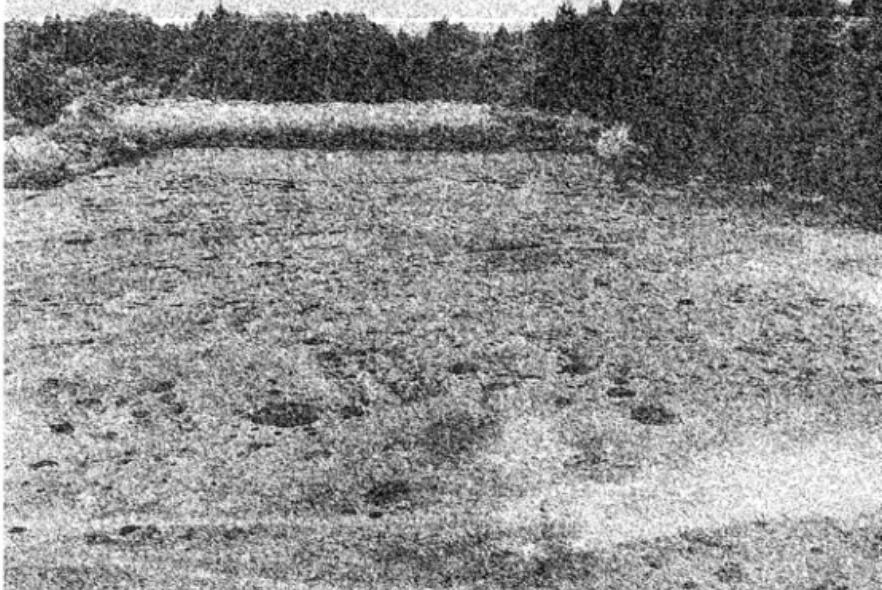
註3. 「小阿地下堤遺跡発掘調査報告書」 1976年3月 秋田市教育委員会

註4. 野口 義磨編「縄文土器大成一後期」 1981年 講談社

註5. 市毛 熊「赤色の呪術」 1984年11月 季刊考古学第9号



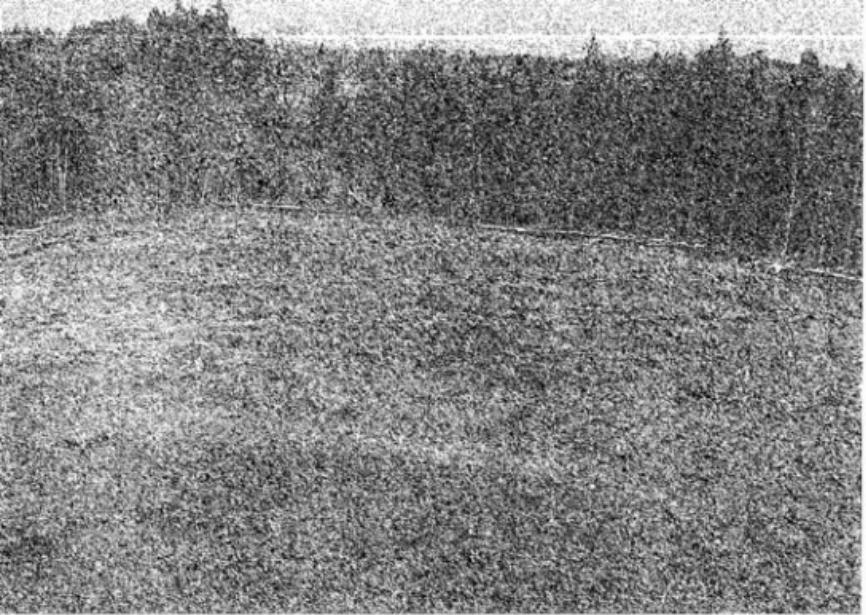
第209回 通構配図



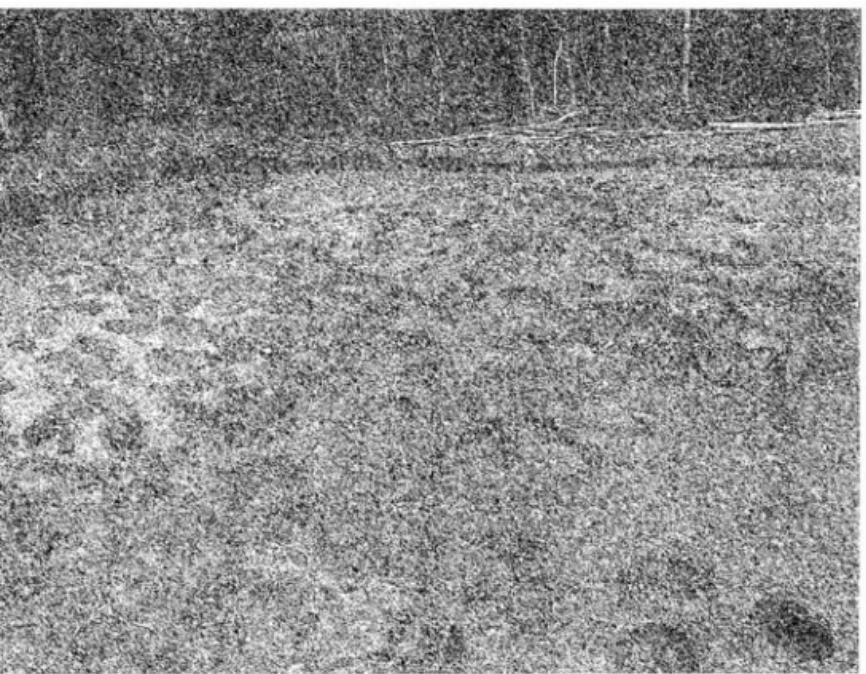
西側遠景



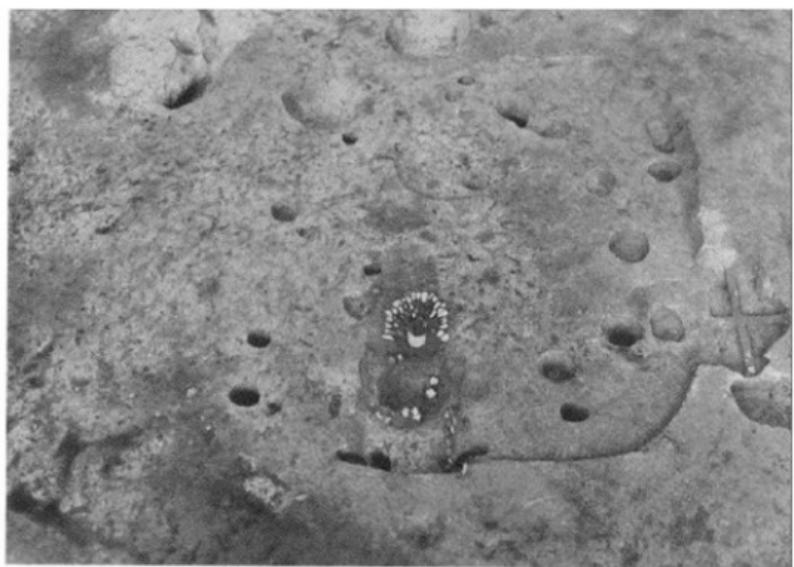
西側近景



東側遠景



東側近景



1号住居跡（南西→）



2号住居跡（南→）

図版 3

縄文時代中期